

大藏省所管

- 第一款 大藏本省 金千五百六拾八圓
 - 第一項 俸給及諸給 金九百拾貳圓
 - 第二項 廳費 金五百貳拾圓
 - 第六項 旅費 金百參拾六圓
 - 第十三款 內國稅徵收費 金貳拾參萬千八拾圓
 - 第一項 俸給及諸給 金拾四萬五百八拾圓
 - 第二項 廳費 金貳萬貳千五百參圓
 - 第五項 旅費 金五萬貳千六百五拾壹圓
 - 第六項 雜給及雜費 金壹萬五千參百四拾六圓
- 大藏省所管合計金貳拾參萬貳千六百四拾八圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治四十年年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日(官報三月三十日)

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
 大藏大臣 松田正久
 内務大臣 原 敬

豫算

第一條 明治四十年年度歳入歳出追加額ヲ各四百參拾七萬千五百拾壹圓ト定ム其款項ノ金額ハ別册

甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 明治四十年年度歳出豫算追加中別册乙號所掲ノ費途ハ年度未支出殘額ヲ翌明治四十一年度ニ繰越使用スルコトヲ得

(別册)

甲號

歳入臨時部

第十一款 前年度繰入金

金四百參拾七萬千五百拾壹圓

第一項 前年度繰入金

金四百參拾七萬千五百拾壹圓

歳出臨時部

第十四款 災害費

金四百參拾七萬千五百拾壹圓

第一項 東京府災害土木費補助

金拾八萬九千圓

第二項 京都府災害土木費補助

金五拾六萬參千圓

第三項 神奈川縣災害土木費補助

金貳拾八萬貳千圓

第四項 埼玉縣災害土木費補助

金參拾七萬四千圓

第五項 群馬縣災害土木費補助

金參拾貳萬圓

第六項 宮城縣災害土木費補助

金貳萬四千圓

第七項 茨城縣災害土木費補助

金拾參萬貳千圓

第八項 山梨縣災害土木費補助

金貳百四拾六萬參千圓

第九項 府縣風水害諸費

金貳萬四千五百拾壹圓

(別冊)

乙號

第一

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第一項

東京府災害土木費補助

第二

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第二項

京都府災害土木費補助

第三

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第三項

神奈川縣災害土木費補助

第四

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第四項

埼玉縣災害土木費補助

第五

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第五項

群馬縣災害土木費補助

第六

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第六項

宮城縣災害土木費補助

第七

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第七項

茨城縣災害土木費補助

第八

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第八項

山梨縣災害土木費補助

第九

歲出臨時部內務省所管第十四款災害費第九項

府縣風水害諸費

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治四十年年度特別會計歲入歲出豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日(官報三月三十日)

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久
文部大臣 男爵牧野伸顯

特別會計豫算

明治四十年度文部省所管東京帝國大學歲入歲出追加額及其款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ル

（別冊）

文部省所管

東京帝國大學

歲入

經常部

第一款 東京帝國大學收入

第三款 諸收入

歲出

臨時部

第二款 臨時圖書費

第一項 臨時圖書費

金壹萬七百六拾六圓

金壹萬七百六拾六圓

金壹萬七百六拾六圓

金壹萬七百六拾六圓

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治四十一年度歲入歲出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日（官報 三月三十日）

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

農商務大臣 松岡康毅

海軍大臣 男爵齋藤 實

豫算

第一條 明治四十一年度歲入歲出追加額ヲ各參百五拾五萬六千九拾六圓ト定ム其款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 明治四十一年度歲出豫算追加中別冊乙號所掲ノ費途ハ年度未支出殘額ヲ翌明治四十二年度ニ繰越使用スルコトヲ得

大藏大臣 松田正久
內務大臣 原 敬
遞信大臣 子爵堀田正養

（別冊）

甲號

歲入臨時部

第十三款 前年度繰入金

第一項 前年度繰入金

歲出經常部

農商務省所管

第一款 農商務本省

第八項 萬國度量衡會費分擔金

第十四項 萬國農事協會費分擔金

歲出臨時部

內務省所管

金參百五拾五萬六千九拾六圓

金參百五拾五萬六千九拾六圓

金壹萬參百六拾五圓

金千七拾七圓

金九千貳百八拾八圓

第十六款 癩豫防準備事業費補助	金壹萬四千九百八拾參圓
第一項 癩豫防準備事業費補助	金壹萬四千九百八拾參圓
第十七款 災害費	金參萬八千貳拾壹圓
第一項 府縣風水害諸費	金貳萬四千九百七拾五圓
第二項 北海道廳浦河支廳燒失品調辦費	金五千五百九拾圓
第三項 北海道廳浦河支廳官舎火災復舊費	金七千五百五拾六圓
第十八款 山梨縣罹災者北海道移住費補助	金八萬圓
第一項 山梨縣罹災者北海道移住費補助	金八萬圓
內務省所管合計金拾參萬參千四百圓	
大藏省所管	
第十六款 國庫豫備金	金百九拾六萬圓
第二項 韓國派遣部隊豫備費	金百九拾六萬圓
第十七款 貸付金	金百參拾五萬圓
第一項 山梨縣災害復舊費貸付金	金百參拾五萬圓
大藏省所管合計金參百參拾壹萬圓	
海軍省所管	
第一款 營繕費	金壹萬貳千七百參拾壹圓
第六項 橫須賀鎮守府管内建造物火災復舊費	金壹萬貳千七百參拾壹圓
遞信省所管	
第二款 電信電話營繕費	金八萬九千八百九拾六圓
第一項 電信電話營繕費	金八萬九千八百九拾六圓

歲出臨時部合計金參百五拾四萬五千七百參拾壹圓
 歲出總計金參百五拾五萬六千九拾六圓

(別冊)

乙號

歲出臨時部內務省所管第十七款災害費第一項
 府縣風水害諸費

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治四十一年度歲入歲出總豫算追加ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日(官報三月三十日)

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望
 農商務大臣 松岡康毅
 大藏大臣 松田正久
 內務大臣 原 敬

豫算

明治四十一年度歲入歲出追加額ヲ各五萬五百八拾八圓ト定ム其款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ
 據ルヘシ

(別冊)

歲入臨時部

第十三款 前年度繰入金

第一項 前年度繰入金

歲出經常部

內務省所管

第八款 府縣

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第五項 旅費

第六項 雜給及雜費

農商務省所管

第一款 農商務本省

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第六項 旅費

第七項 雜給及雜費

第五款 農事試驗場

第一項 俸給及諸給

第二項 廳費

第三項 修繕費

第六項 旅費

金五萬五百八拾八圓

金五萬五百八拾八圓

金壹萬七千九百七拾四圓

金壹萬六百拾七圓

金千六百八圓

金五千四百五拾七圓

金貳百九拾貳圓

金六千四百七拾參圓

金參千七百拾貳圓

金六百參拾圓

金千八百圓

金參百參拾壹圓

金壹萬貳千四百拾壹圓

金參千九百六拾圓

金五百貳拾四圓

金參百圓

金五百圓

第八項 事業費

農商務省所管合計金壹萬八千六百拾四圓

歲出經常部合計金參萬六千五百八拾八圓

歲出臨時部

農商務省所管

第四款 營繕費

第二項 新營費

歲出總計金五萬五百八拾八圓

金壹萬四千圓

金壹萬四千圓

金六千八百五拾七圓

法令全書

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月二十五日(官報二月二十六日)

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
韓國トノ新協約實施ニ伴ヒ同國ノ歲計不足ヲ補填スルカ爲メ總額千九百六拾八萬貳千六百貳拾參圓ヲ限リ左ノ年割及條件ニ依リ立替金ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

- 金百七拾六萬九千五百參圓 明治四十年度
- 金五百貳拾五萬九千五百八拾圓 明治四十一年度
- 金參百六拾五萬參千五百四拾圓 明治四十二年度
- 金參百萬圓 明治四十三年度
- 金參百萬圓 明治四十四年度
- 金參百萬圓 明治四十五年度

明治四十一年二月 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

計金千九百六拾八萬貳千六百貳拾參圓

- 一 兩國政府ノ協議ニ依リ年割額ヲ變更スルコトアルヘシ
- 一 立替金ニハ利子ヲ付セス又償還ハ兩國政府ノ協議ニ依ルモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十三日(官報 三月十四日)

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 陸軍大臣 子爵寺內正毅
- 農商務大臣 松岡康毅
- 海軍大臣 男爵齋藤實
- 大藏大臣 松田正久
- 内務大臣 原敬
- 逓信大臣 男爵野田
- 文部大臣 男爵野田
- 外務大臣 伯爵林董

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第一

外務本省及在外公館ニ於ケル備外國人諸給年額四萬六千八百七拾五圓ヲ限リ各相當ノ年限ヲ定メ外國人ノ備入レ若クハ備繼キノ契約ヲ結フコトヲ得

第二

在外公館ニ於ケル家屋ノ借料年額參拾壹萬參千四百八拾七圓ヲ限リ各相當ノ年限ヲ定メ借入レ若クハ借繼キノ契約ヲ結フコトヲ得

第三

青森市水道費補助トシテ明治四十一年度及同四十二年度ニ於テ毎年度六萬圓ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第四

福岡縣若松町水道費補助トシテ明治四十一年度及同四十二年度ニ於テ毎年度五萬圓同四十三年度ニ於テ五萬六千圓ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第五

木曾川橋梁架設費補助トシテ明治四十一年度及同四十二年度ニ於テ毎年度貳萬八千圓ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第六

在韓國居留民子弟教育ノ目的ヲ以テ設立若クハ設立セントスル學校ニ對スル補助金ノ年額ヲ參萬圓以內ニ改メ其範圍內ニ於テ更ニ毎校五箇年度以內繼續補助ノ契約ヲ結フコトヲ得

第七

明治四十一年度ニ於テ臺灣總督府特別會計ニ屬スル事業費ノ財源ニ充ツルカ爲左ノ條件ニ依リ金額百七拾六萬六千圓ヲ限リ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

一 利子 一箇年百分ノ七以內

一 借入期限 借入ノ日ヨリ六箇年以內

第八

陸軍軍事費ニ屬スル糧秣費百四拾萬圓馬匹費貳萬六千八百圓輸送費拾參萬貳千圓憲兵費ニ屬スル糧秣費壹萬圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第九

海軍軍事費ニ屬スル糧食費五萬圓被服費七萬五千圓造兵及修理費拾萬圓造船及修理費參拾萬圓艦營費八拾萬圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第十

海軍大學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ備入レ明治四十一年四月一日ヨリ滿三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十一

海軍兵學校ニ於テ備外國人教師三名滿期ニ付更ニ備入レ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

一 二名ハ各明治四十一年四月一日ヨリ滿三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額貳百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年四月一日ヨリ滿三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額百圓ヲ支給ス

第十二

海軍機關學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ備入レ明治四十一年四月一日ヨリ滿三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額貳百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十三

海軍軍醫學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ備入レ明治四十一年四月一日ヨリ滿三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額百貳拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十四

小林區署廳舎及官舎ノ用ニ供スル土地建物ハ借料年額五萬七千貳百拾圓以內造林事業ニ要スル苗圃敷地及建物並斫伐作業ニ要スル土場及建物ハ借料年額貳萬千八百拾貳圓以內國有林野經營事業ニ要スル苗圃及林道敷地等ハ借料年額六千五百圓以內ヲ限リ明治四十一年度以降五箇年ヲ超エサ

ル期間ニ於テ借入又ハ借繼ノ契約ヲ結フコトヲ得

第十五

遞信事業費ニ於テ電信電話線保守工事及電信電話事業ニ要スル物品購入費トシテ六拾萬圓ヲ限リ
明治四十一年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第十六

濠洲線航海補助トシテ左ノ條件ニ依リ明治四十一年度ヨリ同四十五年度迄五箇年度間毎年四拾貳
萬五千七百八拾貳圓以內ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

一濠洲線ハ總噸數三千五百噸以上最速力一時間十六海里以上ノ船舶三艘ヲ備フルコト

一濠洲線ハ毎月一回以上一年期間十二航海以上トス

一濠洲線ニ使用スヘキ船舶ハ當該契約者ノ專屬ニシテ船舶十五年未滿ノ鐵製又ハ鋼製汽船ニ限
ルコト

一政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ航路内ニ於テ寄港地ヲ増加シ又ハ之カ變更ヲ命スルコトアル
ヘキコト

一旅客貨物ノ運賃ハ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルコト

一政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シテ旅客貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトアルヘキ
コト

一本航路ニ使用スル船舶ニ依リ遞送スル郵便物ハ無賃タルヘキコト

一政府ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ本航路ニ使用スル船舶ヲ買收シ又ハ公用ノ爲ニ使用
スルヲ得ルコト

政府ハ契約者ノ費用ヲ以テ各船舶ニ航海修業生二名以內ヲ乘組マシメ政府ノ定ムル手當ヲ支
給セシムルコト

政府ハ非常事變ノ際ニ於テ本航路ノ船舶並船員ヲ使用スルヲ得ルコト但此場合ニハ相當ノ使
用料ヲ支給スルコト

一補助金ハ命令書ノ定ムル所ニ從ヒ支給スルコト但航海回數ヲ減シタルトキ又ハ命令書ニ規定
シタル各地ニ航行セス隨テ航海里數ヲ減縮シタルトキハ命令書ノ定ムル所ニ從ヒ補助金ヲ減
スルコト

一事故ノ爲メ若クハ政府ノ認可ヲ受ケ本航路ニ使用スルノ目的ヲ以テ合格船ヲ取得スル爲メ前
記ノ資格ニ該當セサル代船ヲ使用スルトキハ命令書ノ定ムル所ニ從ヒ補助金ノ支給額ヲ減少
スル場合アルコト

一本航路ニ對シ支給スル補助金ノ約一割ニ相當スル保證金ヲ徵收スルコト

一正當ノ事由ナクシテ航海度數ヲ缺キタルトキ、相當ノ船舶ヲ使用セサルトキ、契約期限中ニ
船舶ノ修繕若クハ補充ヲ爲ササルトキ、航海時間ヲ遅延シタルトキ、起點終點ノ兩港ニ於ケル
發着日時ヲ變更シタルトキ、郵便物揚卸ノ契約ニ違背シ若クハ寄港地ヲ省キタルトキ、其他命
令書ノ規定ニ違背シタルトキハ一日若クハ十二時間未滿又ハ一回毎ニ所爲ノ輕重ニ依リ相當
ノ金額ヲ徵收スルコト

一政府ノ認可ヲ得シテ契約者義務ヲ他人ニ移轉シ若クハ船舶ヲ賣讓シ又ハ一年期間ニ於テ命
令書ニ規定スル回數ノ航海ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除シ補助金ノ交付ヲ廢止シ當該年期間
既ニ執行シタル航海ニ對スル補助金ヲ還納セシメ且保證金ヲ沒收スルコト

一前數項ニ於テ一年期間ト稱スルハ其年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ル一週年間ヲ謂
フ

第十七

沖繩縣先島及各離島航海費補助トシテ左ノ條件ニ依リ明治四十一年度ヨリ同四十三年度マテ三箇

年度間毎年先島航海費補助九千圓以内各離島航海費補助五千四百圓以内ヲ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 沖繩縣先島線ハ汽船一艘ヲ以テ宮古島、八重山島へ毎月一回以上一年期間十二回以上與那國島へ一年期間一回以上航海ヲ爲シ其他便宜ノ諸島へ臨時寄港ヲ命スルコトアルヘキコト
- 一 沖繩縣各離島線ハ汽船一艘ヲ以テ久米島、本部、名護へ二箇月三回以上一年期間十八回以上慶良間島、粟國島、渡名喜島、伊平屋島、伊江島へ毎月一回以上一年期間十二回以上島島へ一年期間二回以上航海ヲ爲スコト
- 一 政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ各航路内ニ於テ寄港地ヲ増加シ又ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘキコト
- 一 旅客貨物ノ運賃ハ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルコト
- 一 政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シテ旅客貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトアルヘキコト
- 一 政府ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ各航路ニ使用スル船舶ヲ買收シ又ハ公用ノ爲ニ使用スルヲ得ルコト
- 一 補助金ハ命令書ノ定ムル所ニ從ヒ各航路ニ對シ支給スルコト但航海回数ヲ減シタルトキ又ハ命令書ニ規定シタル各地ニ航行セス隨テ航海里數ヲ減縮シタルトキハ命令書ノ定ムル所ニ從ヒ補助金ヲ減スルコト
- 一 政府ハ航海回数ヲ減シタル場合ニ必要ト認ムルトキハ同月又ハ翌月ニ之ヲ償ハシムルコトアルヘキコト但此場合ニハ前項但書ノ規定ヲ適用セサルコト
- 一 航路毎ニ之ニ對シ支給スル補助金ノ約一割ニ相當スル保證金ヲ徵收スルコト
- 一 正當ノ事由ナクシテ航海度數ヲ缺キタルトキ、相當ノ船舶ヲ使用セサルトキ、契約期限中ニ船舶ノ修繕若クハ補充ヲ爲ササルトキ、航海期間ヲ遲延シタルトキ、起點終點ノ兩港ニ於ケル發着日時ヲ變更シタルトキ、寄港地ヲ省キタルトキ其他命令書ノ規定ニ違背シタルトキハ一日若クハ十二時間未滿又ハ一回毎ニ所爲ノ輕重ニ依リ相當ノ金額ヲ徵收スルコト
- 一 政府ノ認可ヲ得シテ契約者義務ヲ他人ニ移轉シ又ハ一年期間ニ於テ命令書ニ規定スル回数ノ航海ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除シ補助金ノ交付ヲ廢止シ當該年期間既ニ執行シタル航海ニ對スル補助金ヲ還納セシメ且保證金ヲ沒收スルコト
- 一 前數項ニ於テ一年期間ト稱スルハ其年四月一日ニ起リ翌年三月三十一日ニ終ル一週年間ヲ謂フ

第十八

北海道航路補助ニ關スル條件中左ノ通り變更ス

- 第一項第二號中「小樽天鹽線及函館瀨棚線ハ各航路毎ニ」ヲ「小樽天鹽線ハ」ニ改ム
- 第一項第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 - 函館瀨棚線ハ總噸數百八十噸以上最速力一時間八海里以上ノ船舶一艘ヲ備フルコト但止ムヲ得サル場合ニ於テハ總噸數百二十噸以上最速力一時間七海里以上ノ船舶ヲ使用スルコトアルヘキコト
- 第二項第七號ヲ左ノ通改ム
 - 函館瀨棚線ハ四月ヨリ十月マテ毎月五回以上十一月ヨリ翌年三月マテ毎月三回以上一年期間五十回以上航海ヲナスコト

第十九

臺灣總督府特別會計ニ於テ專賣局作場費五萬圓專賣品補償及購買費九拾五萬圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第二十

臺灣官設鐵道用品資金特別會計ニ於テ臺灣官設鐵道用品費參拾萬圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第二十一

印刷局ニ於テ外國人技師一名ヲ新ニ備入レ明治四十一年六月以降四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額千八百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第二十二

專賣局特別會計ニ於テ事業費八拾六萬八千參百四拾圓收納賠償及購買費六拾七萬貳千八百貳拾七圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第二十三

東京砲兵工廠特別會計ニ於テ建造物其他補修費拾五萬圓作場費六拾五萬圓材料素品購買費百五拾萬圓大阪砲兵工廠特別會計ニ於テ建造物其他補修費貳拾萬圓作場費五拾萬圓材料素品購買費貳百萬圓千住製絨所特別會計ニ於テ材料素品購買費貳百萬圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第二十四

海軍工廠資金特別會計ニ於テ材料物品費五百五拾萬圓ヲ限リ明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第二十五

海軍工廠資金特別會計ニ於テ明治四十二年度以降五箇年間毎年度造船造兵材料費八拾萬圓ヲ限リ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第二十六

東京帝國大學ニ於テ備外國人教師四名滿期ニ付更ニ備繼キ又ハ代員ヲ備入レ尙備外國人教師六名ニ對シ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

一 一名ハ明治四十一年八月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ備入レ俸給月額六百貳拾五圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年八月一日ヨリ同四十四年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ備繼キ俸給月額六百七拾五圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年八月一日ヨリ同四十四年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ備繼キ俸給月額五百五拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年八月一日ヨリ同四十四年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ備繼キ俸給月額五百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

以上ノ四名ニハ各家具ヲ備ヘサル家屋一字ヲ貸付ス若シ政府ノ都合ニヨリ家屋ヲ貸付セサルトキハ宿料補助トシテ月額七拾圓ヲ支給ス

一 六名ニ對シテハ明治四十一年四月一日ヨリ宿料(現在契約月)月額各參拾圓ヲ増額ス

第二十七

東北帝國大學農科大學ニ於テ外國人教師一名新ニ備入レ明治四十一年八月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額貳百五拾圓宿料月額四拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第二十八

東京高等師範學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ備繼キ明治四十一年四月一日ヨリ同四十四年三月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額四百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

明治四十二年三月 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

第二十九

廣島高等師範學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ備繼キ明治四十一年八月一日ヨリ同四十四年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百五拾圓宿料月額參拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費六百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十

東京高等商業學校ニ於テ備外國人教師三名囑託外國人教師一名滿期ニ付更ニ備繼キ及囑託シ又ハ代員ヲ備入レ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

一 一名ハ明治四十一年四月一日ヨリ同四十四年三月三十一日マテノ期限ヲ以テ備繼キ俸給月額六百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年四月一日ヨリ同四十四年三月三十一日マテノ期限ヲ以テ備繼キ俸給月額參百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年四月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ備入レ俸給月額參百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給ス

一 一名ハ明治四十一年八月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ囑託シ手當年額貳千五百圓ヲ支給ス

第三十一

神戸高等商業學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ備繼キ明治四十一年十一月二十七日ヨリ同四十四年十一月二十六日マテノ期限ヲ以テ俸給月額四百五拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十二

第二高等學校ニ於テ備外國人教師二名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入レ明治四十一年九月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ各俸給月額參百圓宿料月額參拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十三

第六高等學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入レ明治四十一年九月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額參拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十四

第七高等學校造士館ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入レ明治四十一年四月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓宿料月額參拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十五

東京高等工業學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入レ明治四十二年四月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額四百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十六

東京外國語學校ニ於テ外國人教師四名新ニ備入レ又備外國人教師一名ニ對シ左ノ契約ヲ結フコトヲ得
一 一名ハ明治四十一年四月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ備入レ俸給月額百五拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費貳百五拾圓ヲ支給ス
一 二名ハ各明治四十一年四月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ備入レ俸給月額百五拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費參百圓ヲ支給ス

一 二名ハ明治四十一年四月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ備入レ俸給月額百五拾圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費百六拾圓ヲ支給ス

一 一名ニ對シテハ明治四十一年四月一日ヨリ俸給(現在契約月額)月額五拾圓ヲ増給ス

第三十七

東京音樂學校ニ於テ備外國人教師一名滿期ニ付更ニ代員ヲ備入レ明治四十一年九月一日以後四箇年間に於テ三箇年間ノ期限ヲ以テ俸給月額六百圓ヲ支給シ且解備ノ際歸國旅費九百七拾五圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第三十八

製鐵所特別會計ニ於テ事業費百萬圓材料素品費貳百萬圓ヲ限り明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第三十九

帝國鐵道用品資金特別會計ニ於テ用品及工作費貳千萬圓ヲ限り明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

第四十

韓國鐵道用品資金特別會計ニ於テ用品及工作費百萬圓ヲ限り明治四十二年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ明治四十一年度ニ於テ結フコトヲ得

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月二十六日(官報八月二十七日)

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
東洋拓殖株式會社ニ於テ發行スル社債貳千萬圓ヲ限り政府ニ於テ其元利仕拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年十月十五日(官報十月十六日)

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

日本興業銀行ニ對シ左ノ條件ニ依リ其債券元利ノ仕拂ヲ保證スルノ契約ヲ結フコトヲ得

- 一 韓國公益事業ノ爲メ日本興業銀行ニ於テ韓國政府ヘノ貸付ヲナスカ爲メ政府ノ認可ヲ受ケ外國ニ於テ債券ヲ發行スル場合ニ政府ハ其債券ノ元利仕拂ニ付キ保證ヲナスコト
- 二 政府カ保證ヲナスヘキ債券ノ高ハ貳千萬圓ヲ限度トスルコト

明治四十一年十月 豫算外國庫ノ預備トナルヘキ契約

初金一〇〇一四〇〇は、初金三〇〇〇頁の後一七〇〇頁に徴せしむ

法令全書

勅令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十年勅令第二百五十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年一月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
逓信大臣 山縣伊三郎
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第一號(官報一月九日)

明治四十年勅令第二百五十二號中「陸海軍將校又ハ同相當官」ヲ「陸海軍將校、同相當官又ハ學習院高等官」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十二號(明治四十年七月三日官報)抄録
陸海軍將校又ハ同相當官ヨリ帝國大學、文部省直轄諸學校又ハ商船學校ノ高等官ニ任用セラルル者及任用セラレタル者ノ官等ニ付テハ高等文官轉任ノ例ヲ準用ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年一月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

勅令第二號(官報一月十一日)

關東都督府官制中左ノ通改正ス

第十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

都督官房ニ祕書課、文書課及外事課ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ都督之ヲ定ム

同條第二項中及祕書官專任一人及第四項ヲ削ル

第二十一條中「民政長官」ノ次ニ左ノ如ク加フ

外事總長 一人 勅任又ハ奏任

警視總長 一人 勅任又ハ奏任

同條中「民政署長」ノ次ニ左ノ如ク加フ

祕書官 專任一人 奏任

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

事務官ハ南滿洲ニ駐在スル領事官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

第二十二條ノ二 外事總長ハ都督官房外事課長ト爲リ都督ノ命ヲ承ケ渉外事務ヲ掌理ス

第二十二條ノ三 警視總長ハ民政部警務課長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

領事官ニシテ事務官ヲ兼ヌル者ハ上官ノ命ヲ承ケ鐵道線路ノ警察事務ヲ掌理ス

第三十條ノ二 祕書官ハ都督ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第九十六號關東都督府官制(明治三十九年八月一日官報抄録)

第十五條第二項及第四項

都督官房ニ副官一人及祕書官專任一人ヲ置キ機密ニ關スル事務ヲ掌ラシム

祕書官ハ奏任トス

朕關東都督府職員官等給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年一月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

勅令第三號(官報一月十一日)

關東都督府職員官等給與令中左ノ通改正ス

第一條中「勅任判官」ヲ「外事總長、警視總長又ハ判官ニシテ勅任官タル者」ニ改ム

高等文官官等表中二等乃至四等ノ欄「民政長官」ノ次ニ「外事總長及警視總長」ヲ加フ
高等文官俸給表中一級乃至四級ノ欄「參事官」ノ前ニ「外事總長及警視總長」ヲ加フ
高等文官官等相當俸給表中「參事官」ノ前ニ「外事總長及警視總長」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第九十九號關東都督府職員官等給與令(明治三十九年八月一日官報)抄録
第二條 關東都督ノ年俸ハ六千圓、民政長官ノ年俸ハ三千五百圓又ハ四千圓、勅任判官ノ年俸ハ三千圓又ハ三千五百圓トス
其ノ他ノ高等文官ノ俸給ハ別表高等文官俸給表ニ依ル

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東都督府職員特別任用令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年一月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

勅令第四號(官報一月十一日)

關東都督府職員特別任用令中左ノ通改正ス

第一條第一項中「關東都督府事務官」ヲ「關東都督府外事總長及關東都督府事務官」ニ改ム
同條第二項中「任用シタル」ノ次ニ「外事總長又ハ」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百號關東都督府職員特別任用令(明治三十九年八月一日官報)抄録
第一條 關東都督府事務官ニシテ涉外事務ニ從事スル者ハ文官高等試驗委員ノ監督ヲ經テ左ニ掲クル者ノ中ヨリ之ヲ任用
スルコトヲ得
一 外交官、領事官又ハ貿易事務官ノ職ニ在ル者
二 外交官又ハ領事官タルノ資格ヲ有スル者
前項ニ依リ任用シタル事務官ニシテ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省高等官ニ轉任シ又ハ轉任セムトスル場合ニ於
テハ關東都督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ在南滿洲帝國領事館附警察官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年一月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

勅令第五號(官報一月十二日)

在南滿洲帝國領事館附警察官ハ關東都督府警察官ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得

附則

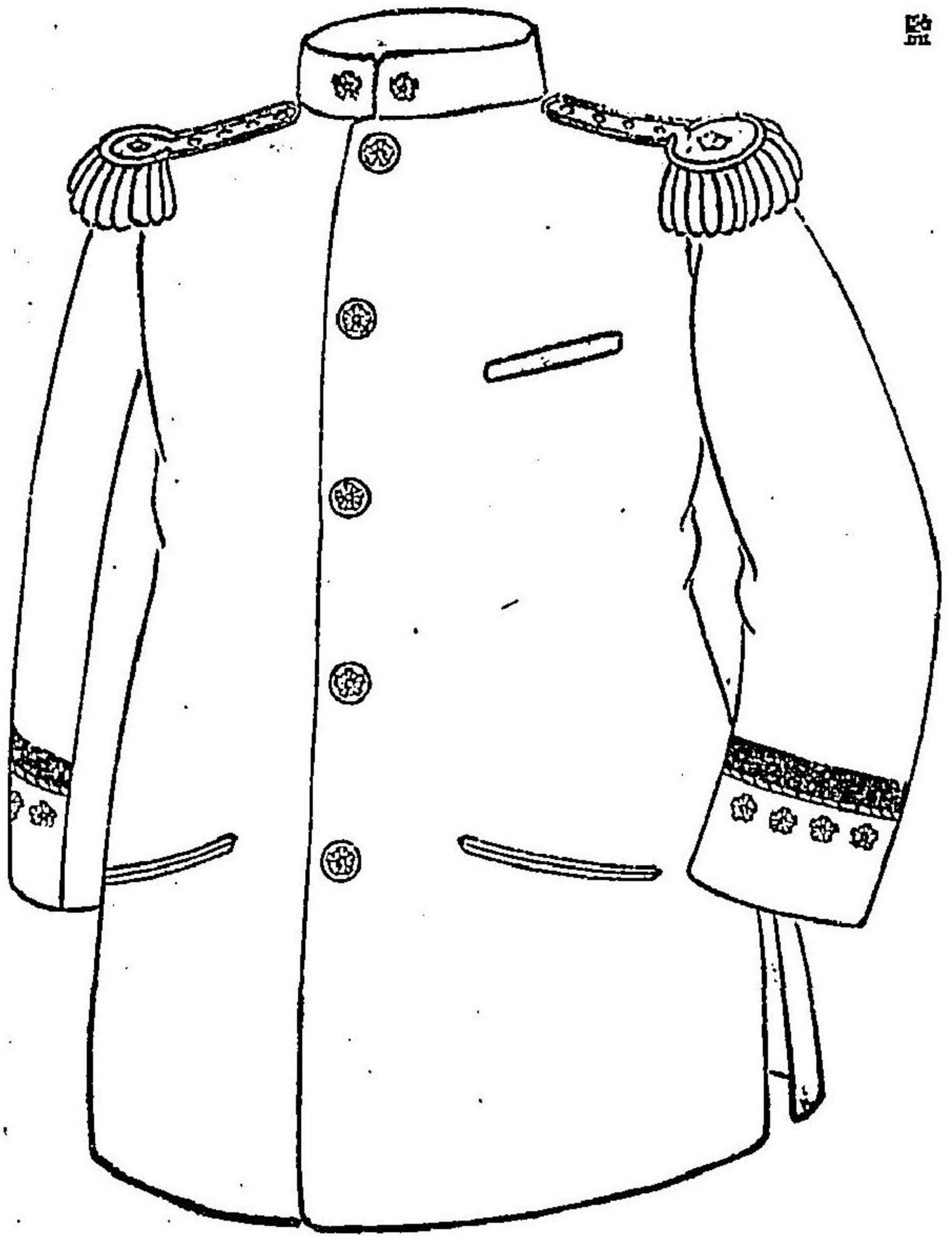
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

袴	衣							
	地質	製式	領章	鈕釦	肩章			
					正	略	略	略
長襦袢止 五寸五分 各一箇ノ物入ヲ附ス	普通長袴 附二各一箇ノ物入ヲ附ス	流蘇又ハ黒羅紗但シ	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ七箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス
同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上

短袴	正				地質	製式
	徽章	製式	地質	製式		
長襦袢止 五寸五分 各一箇ノ物入ヲ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	略日章ヲ附シタルノ五箇ヲ前部ニ附ス	流蘇又ハ黒羅紗	長襦袢止 五寸五分 各一箇ノ物入ヲ附ス
同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上

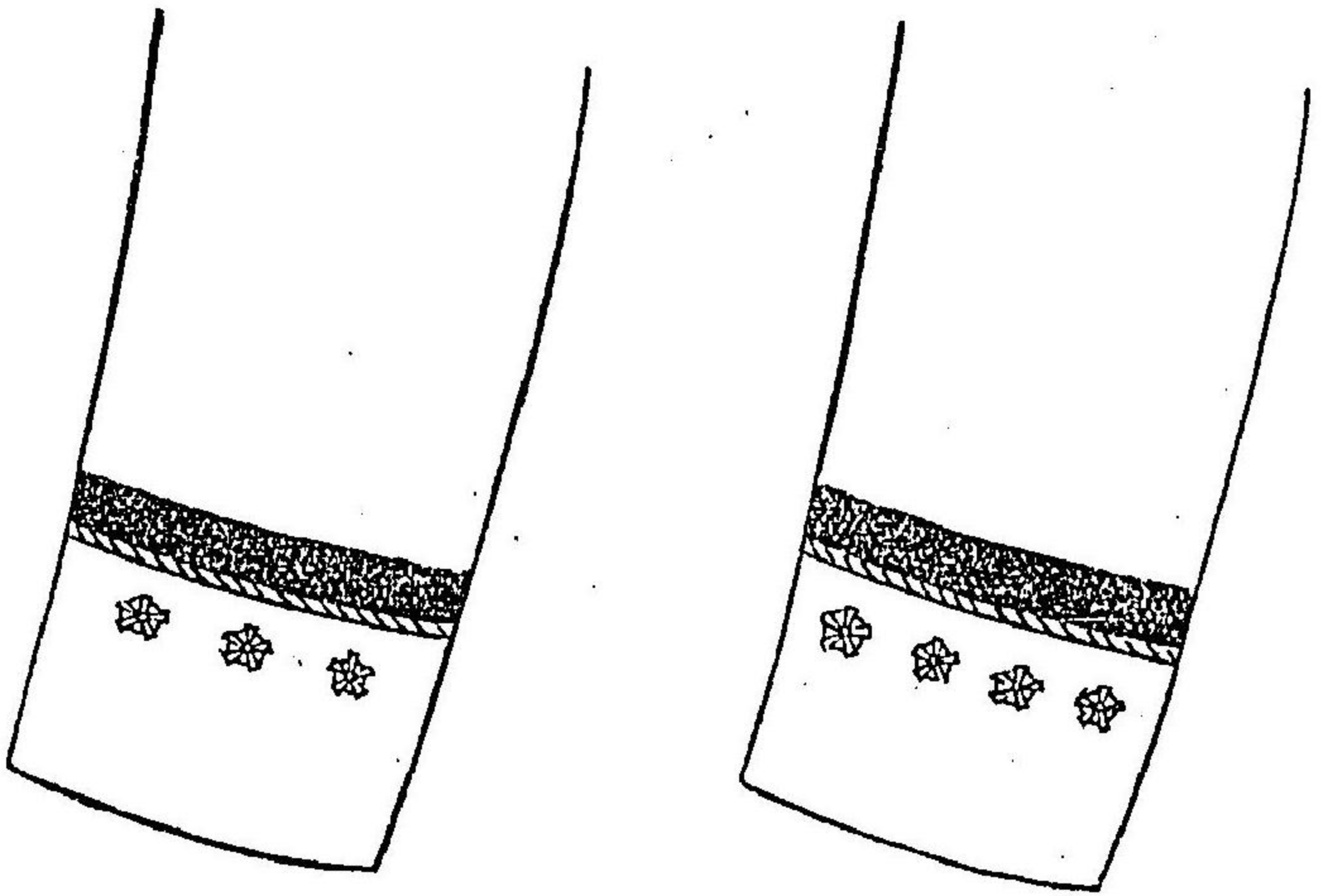
明治四十一年二月勅令 第七號

正裝
警視總監



袖章
警視總監

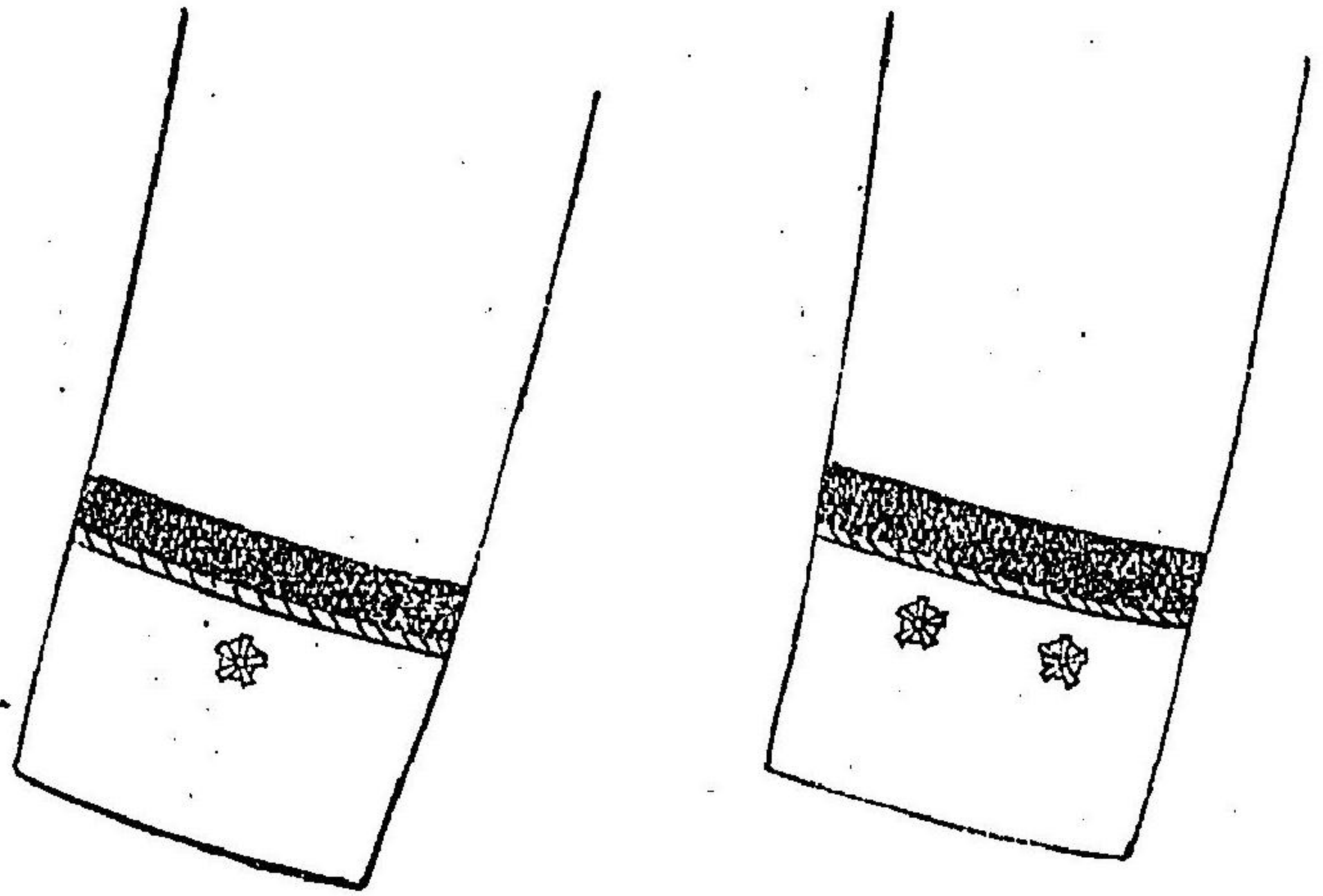
警視廳官房主事、各部長、巡視官
タル警視、廳府縣警務長
樺太廳第一部二團スル警視



明治四十一年二月勅令 第七號

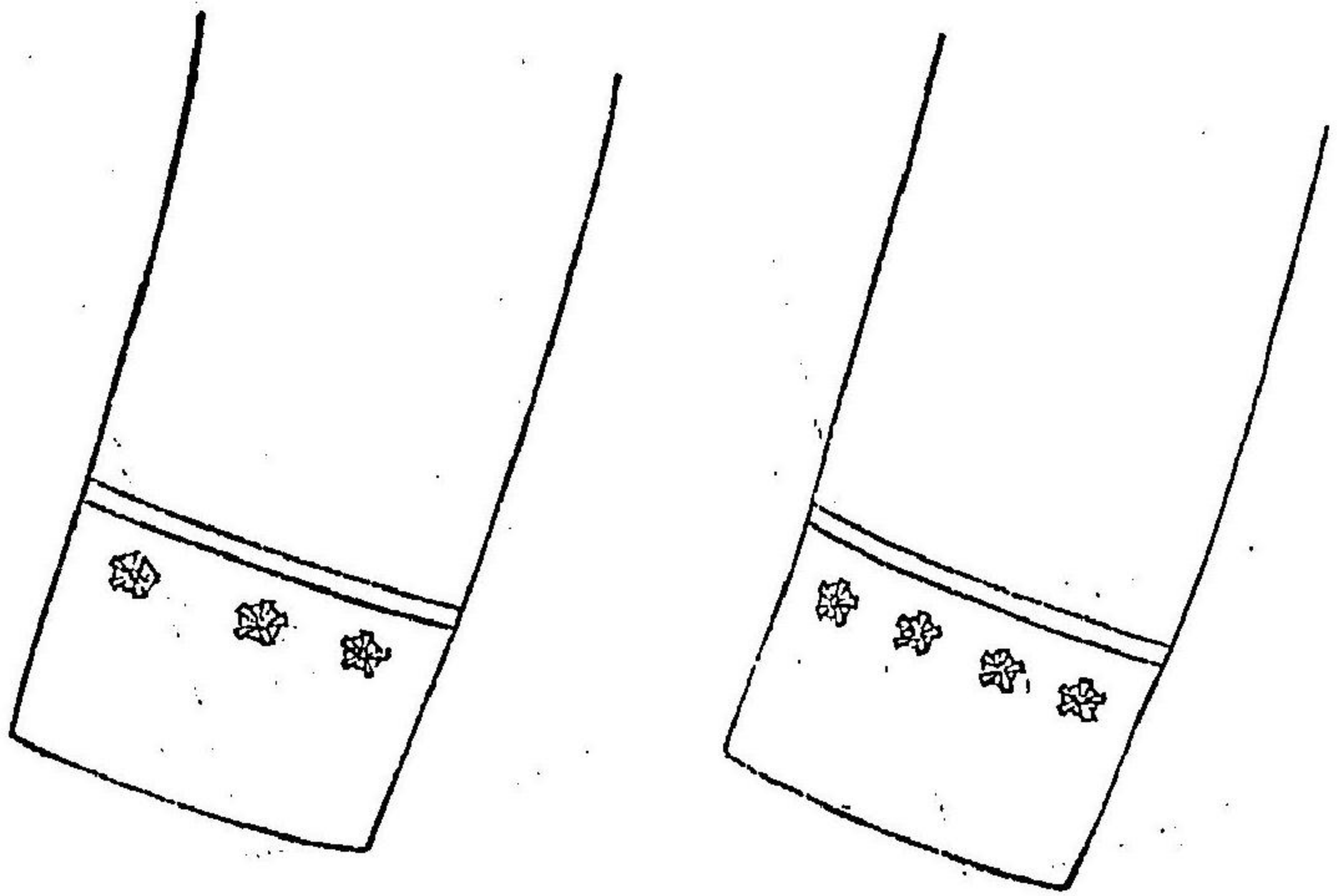
府縣警察部及北海道廳第四部
ニ屬スル警視
警察署長タル警視

警 部
消 防 士
消 防 機 關 士



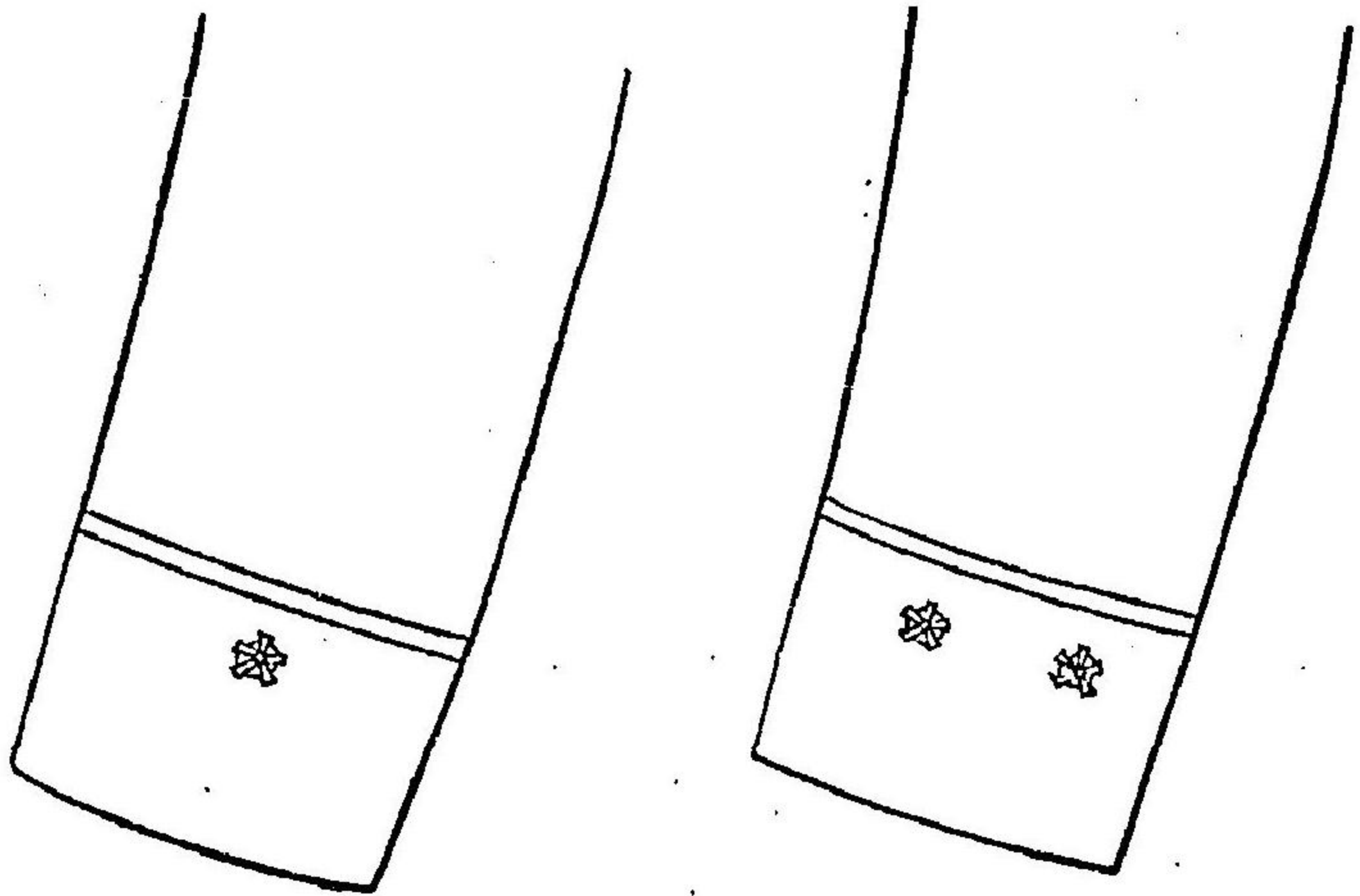
同 夏衣
警視總監

警視廳官房主事、各部長、巡視官
タル警視、廳府縣警務長
樺太廳第一、二屬スル警視

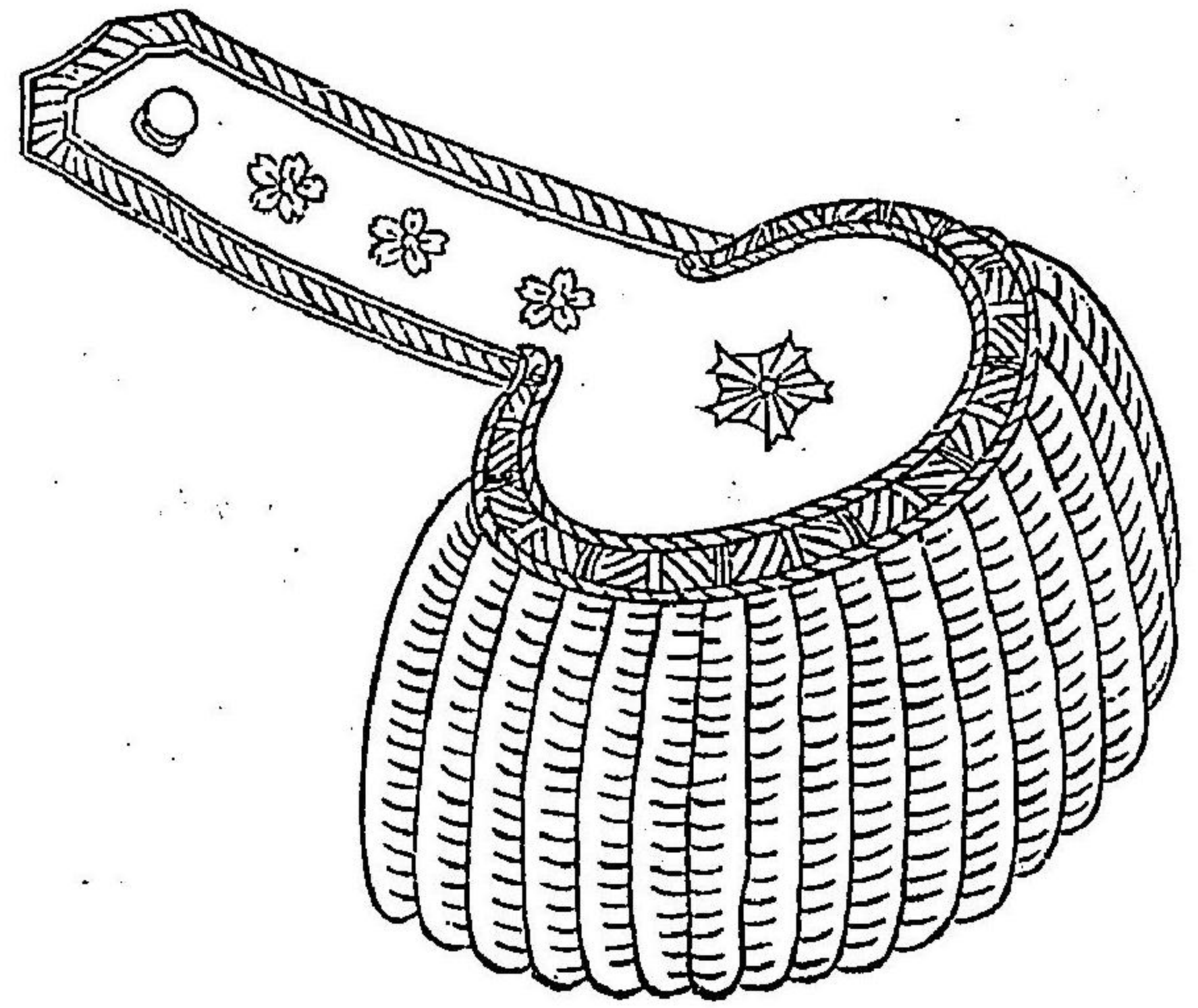


府縣警察部及北海道廳第四部
ニ屬スル警視
警察署長タル警視

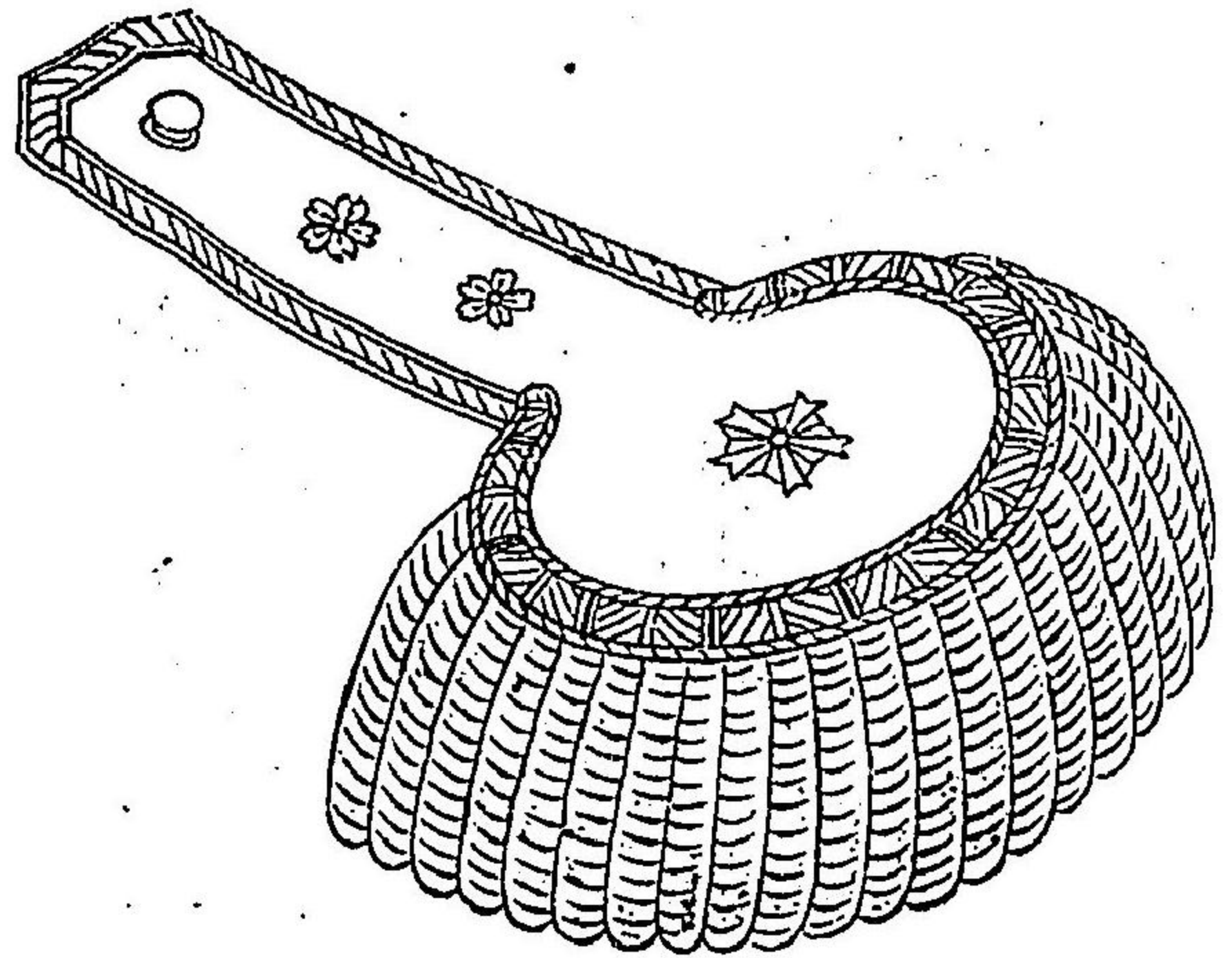
警 部
防 士
機 士
關 部



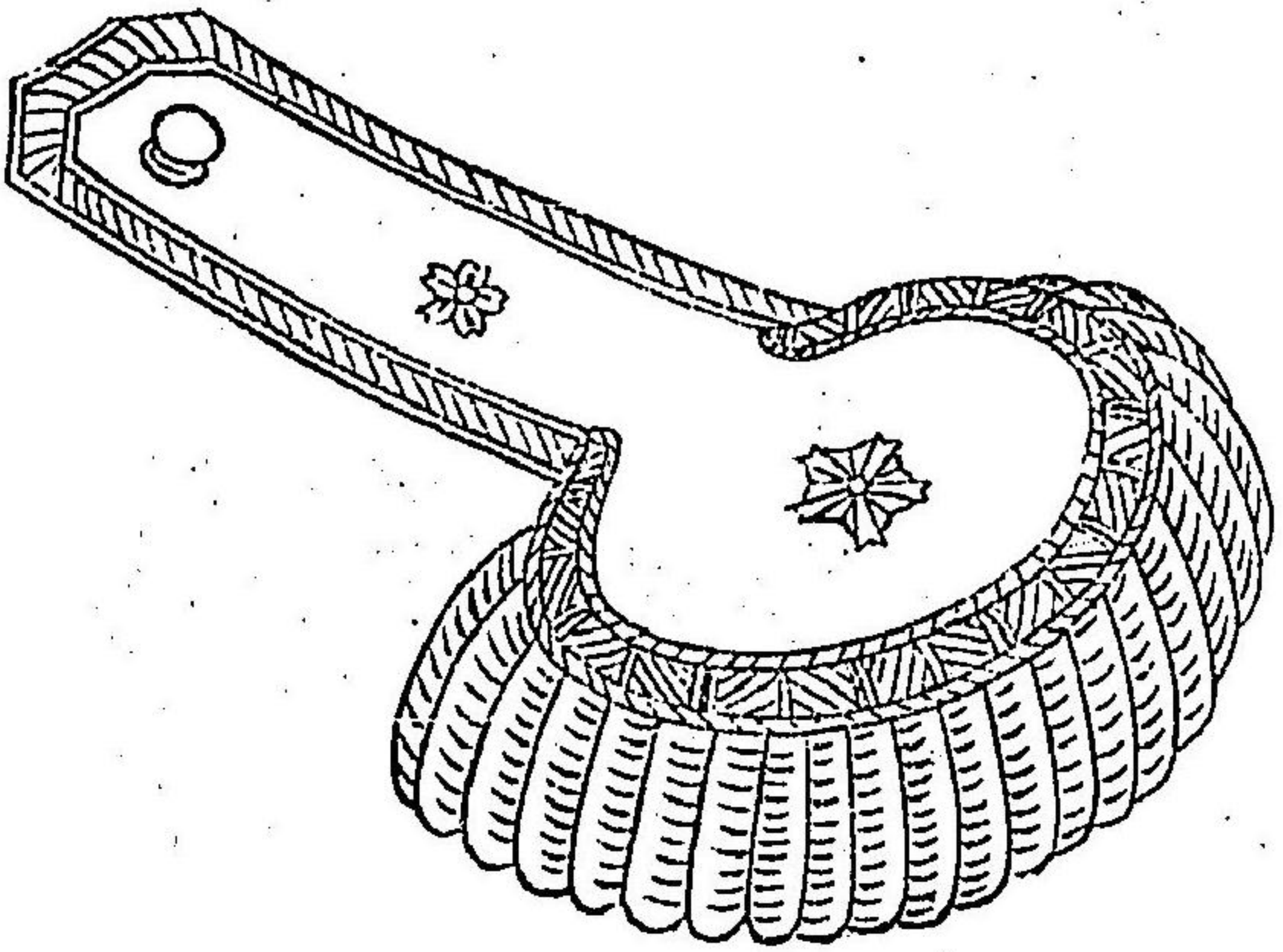
正 月 章
警 視 總 監



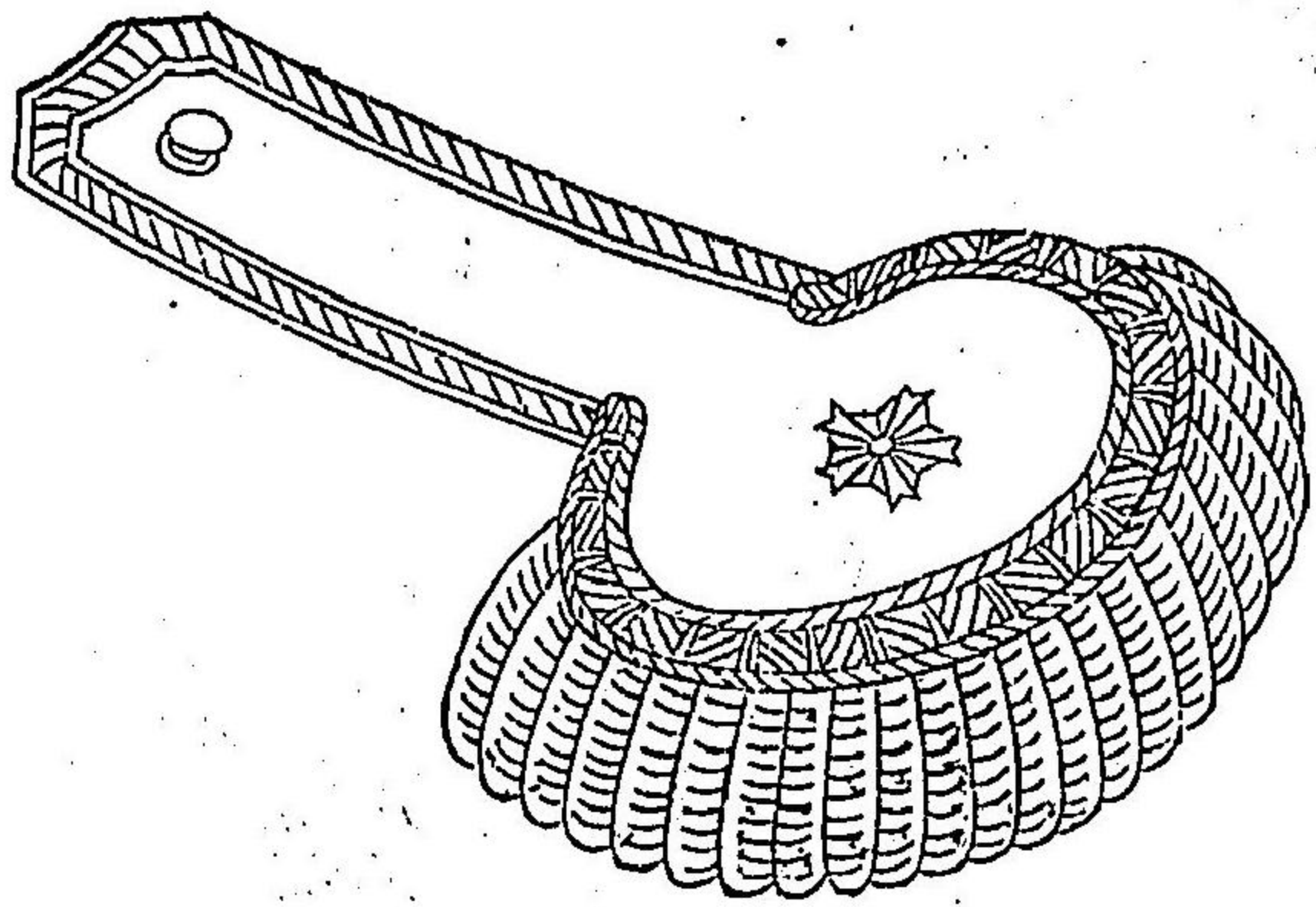
警視廳官房主事、各部長、巡視官
タル警視、廳府縣警務長
樺太廳第一部ニ屬スル警視



府縣警察部及北海道廳第四部
ニ關スル警視
警察署長タル警視

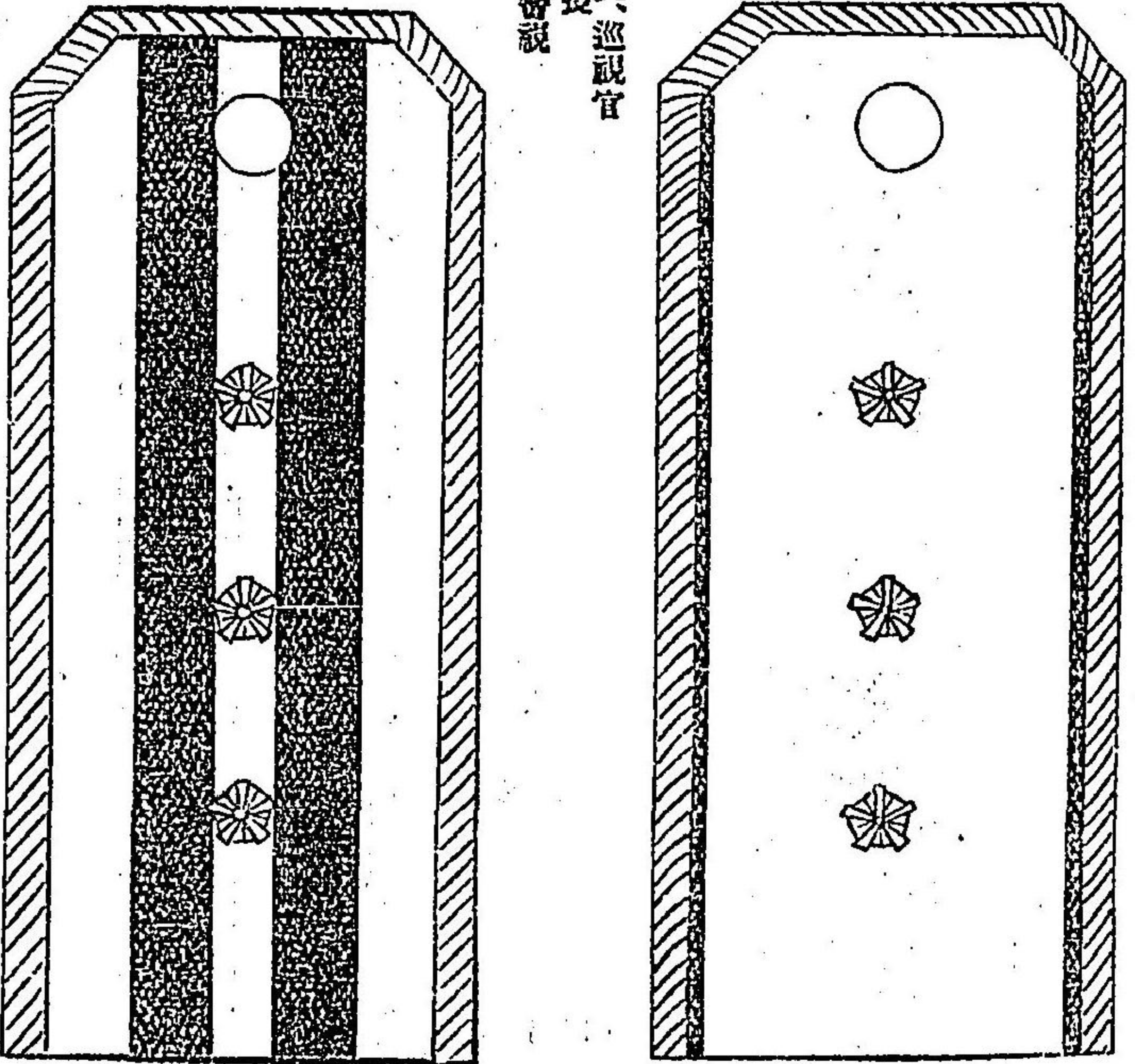


警 防 部
消 防 士
消 防 機 關 士



警 視 部 長

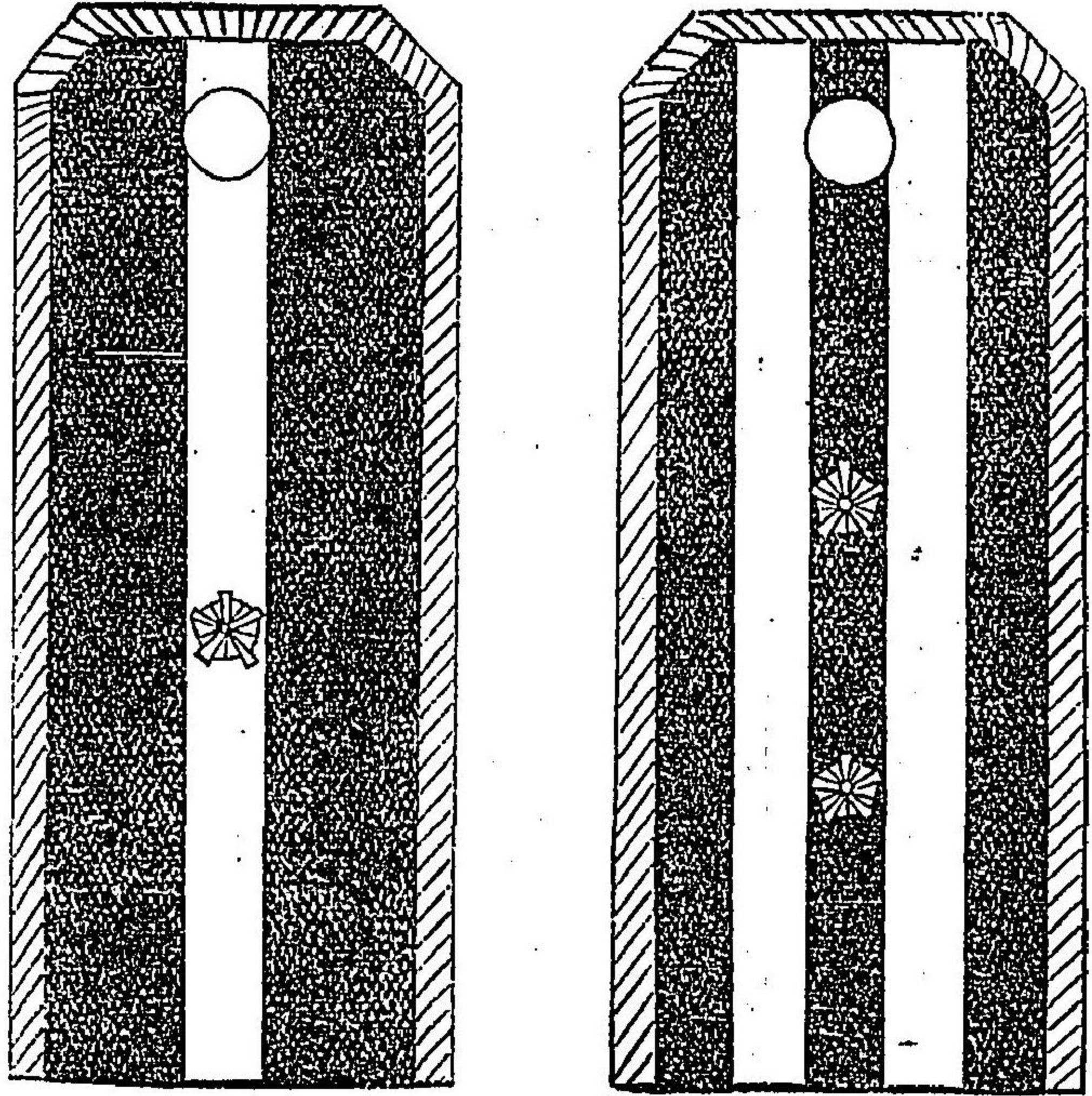
警視官房主任、各部長、巡視官
タル警視、府縣警察署長
律太廳第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



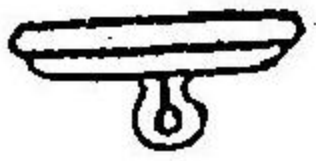
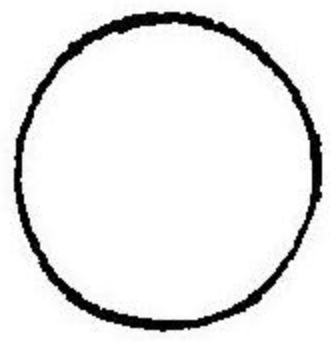
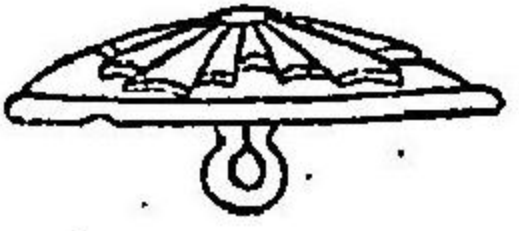
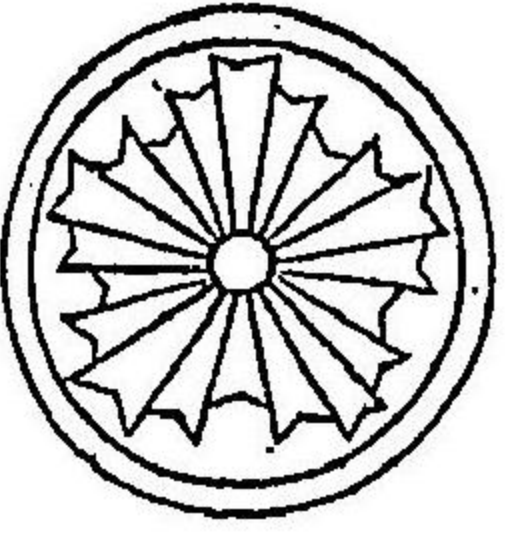
明治四十一年二月 勅令 第七號

府縣警察部及北海道廳第四部
ニ因スル警視
警察署長タル警視

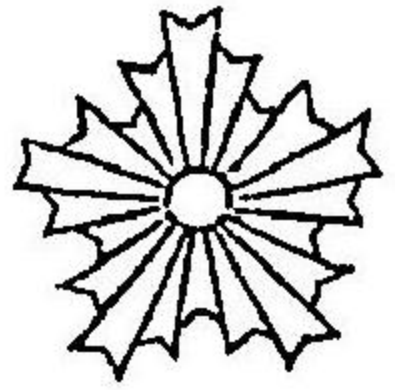
警部
消防士
消防士



鈕
鈕



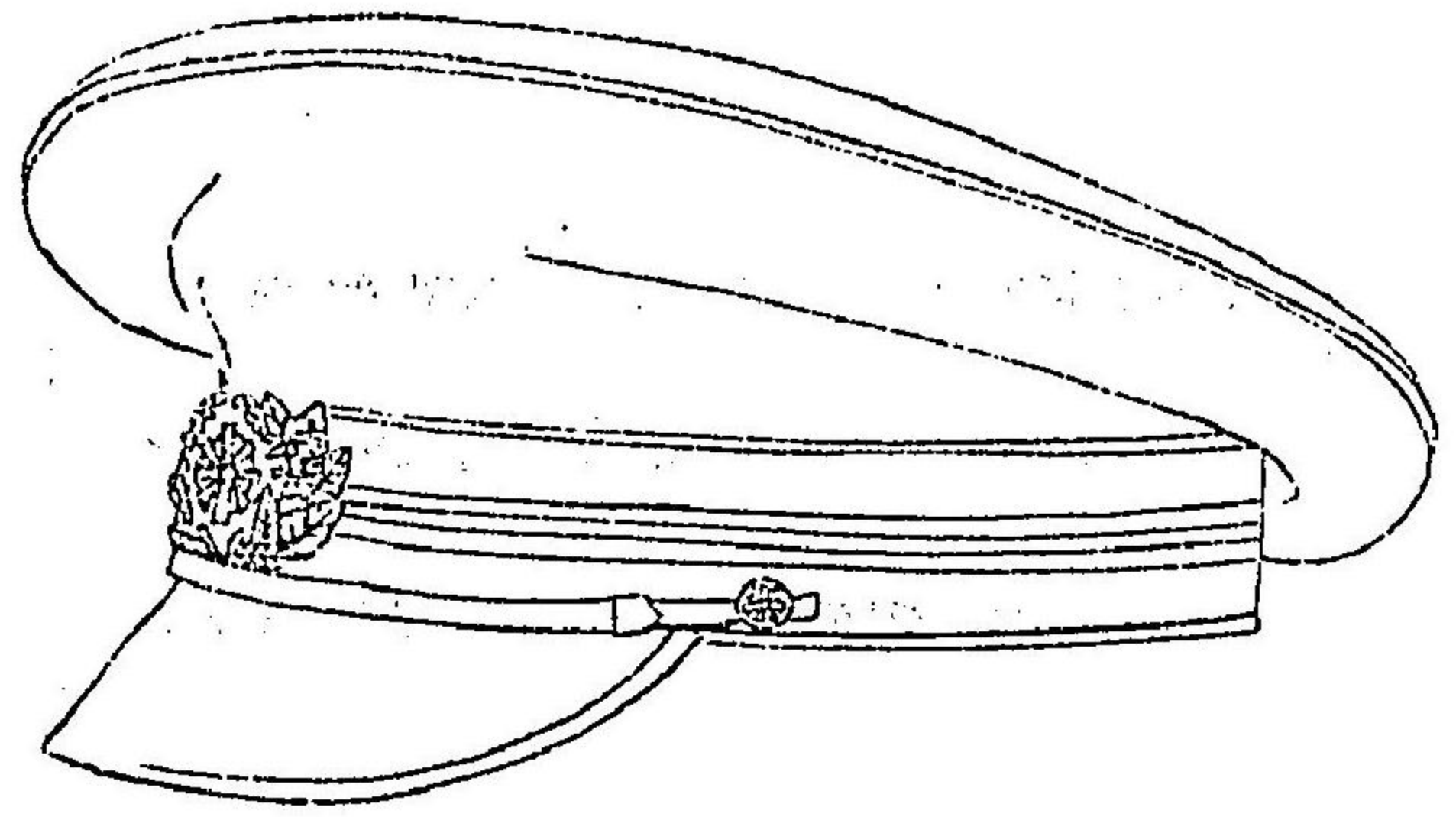
時
日
章



明治四十一年二月 勅令 第七號

明治四十一年二月勅令 第七號

正
帽
總
監

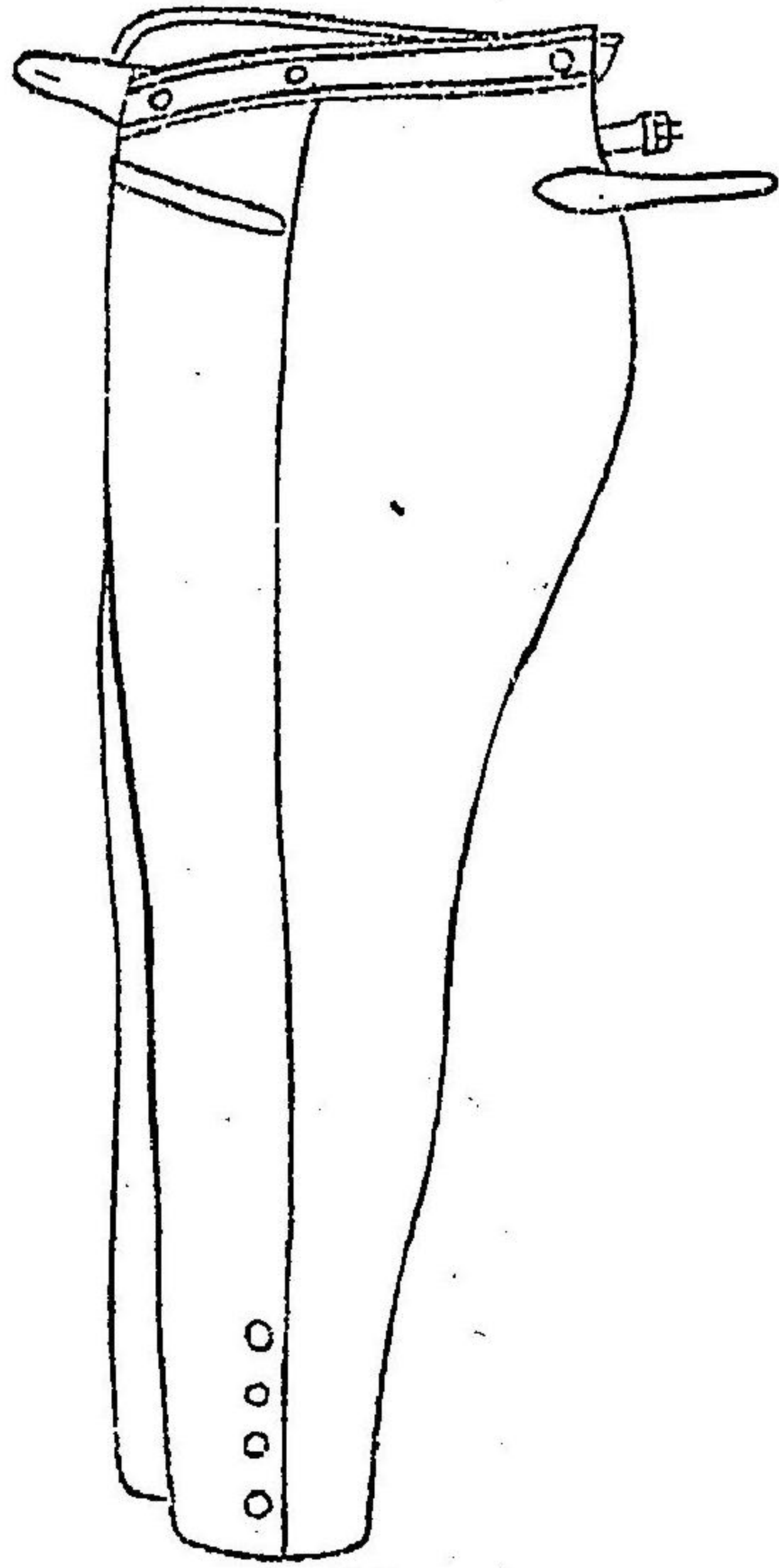


正
帽
徽
章



三

短
袴



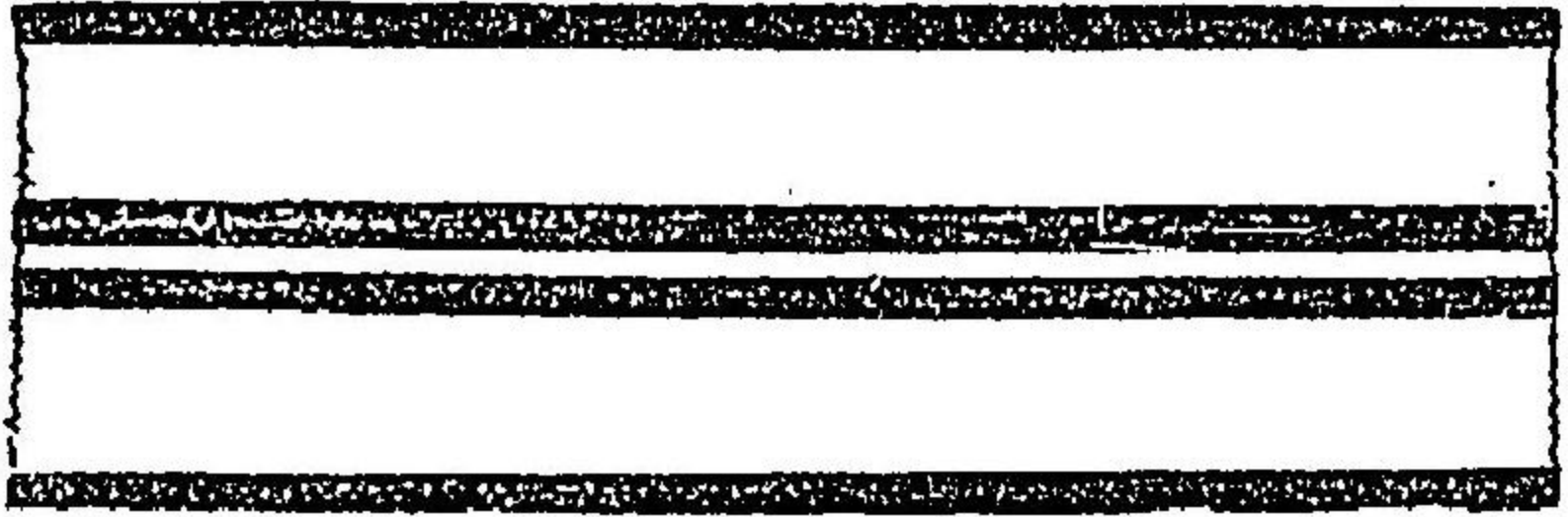
袴



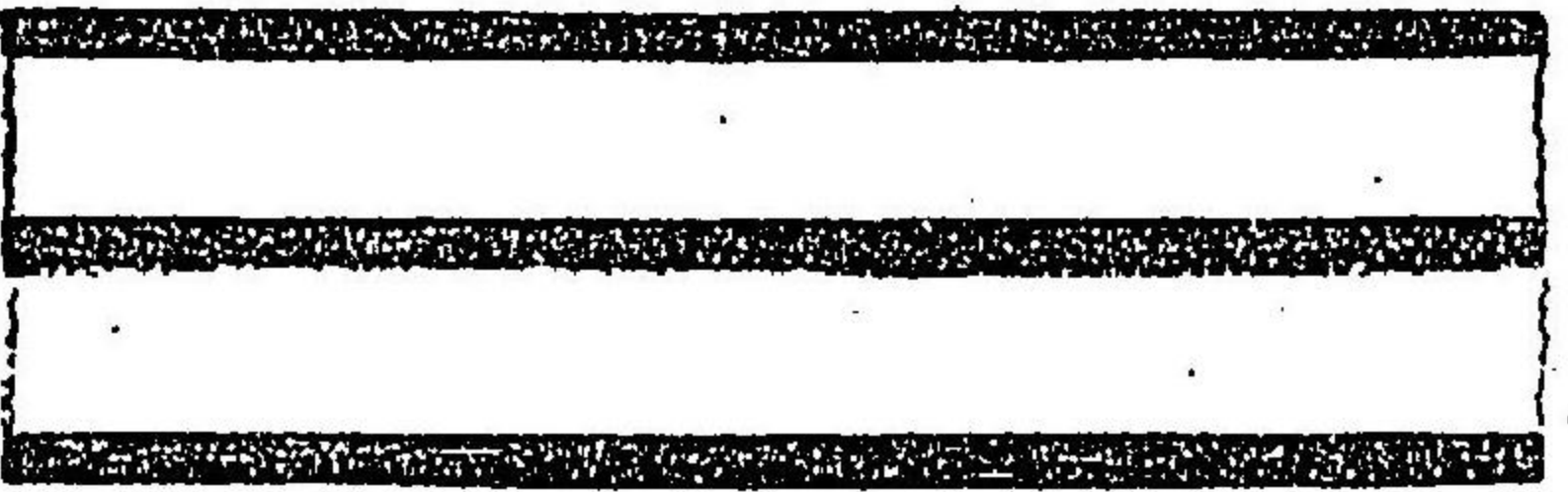
明治四十一年二月勅令 第七號

三

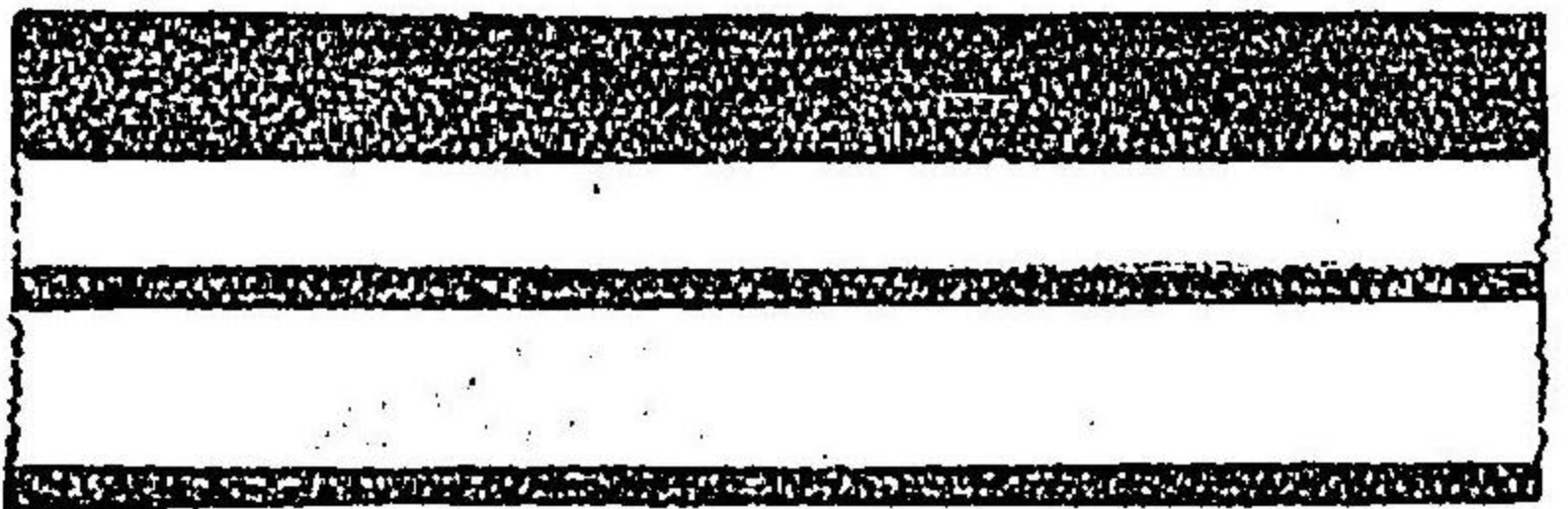
警視總監



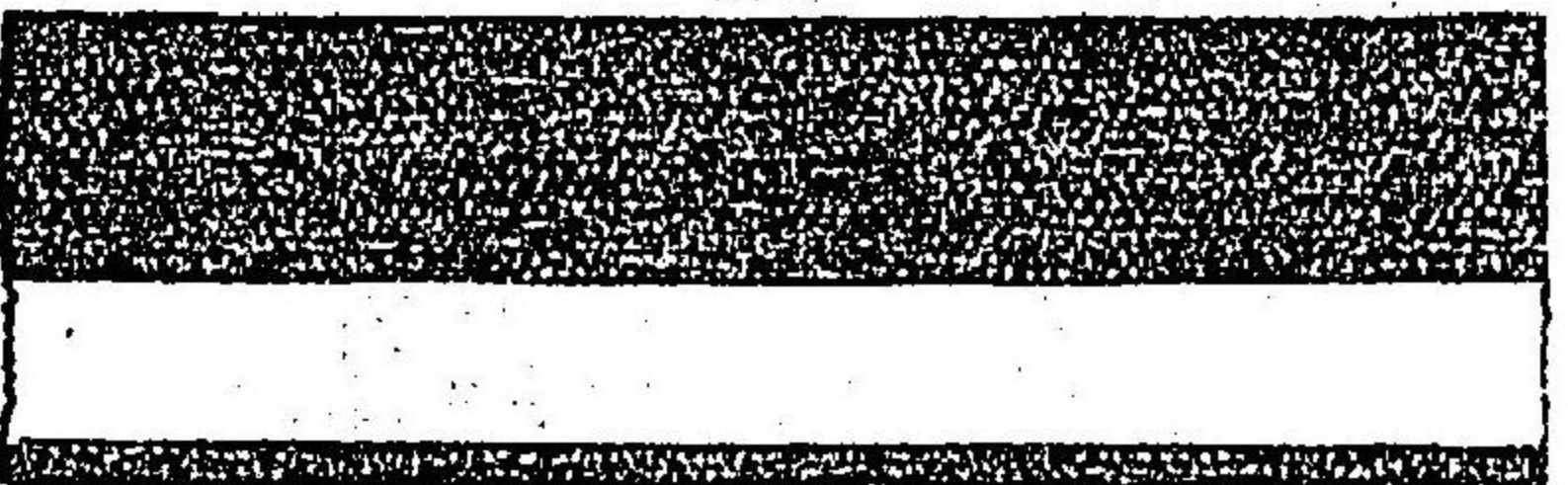
警視廳官房主任、各部長、巡視官タル警視廳府警長、
樺太廳第一部ニ屬スル警視



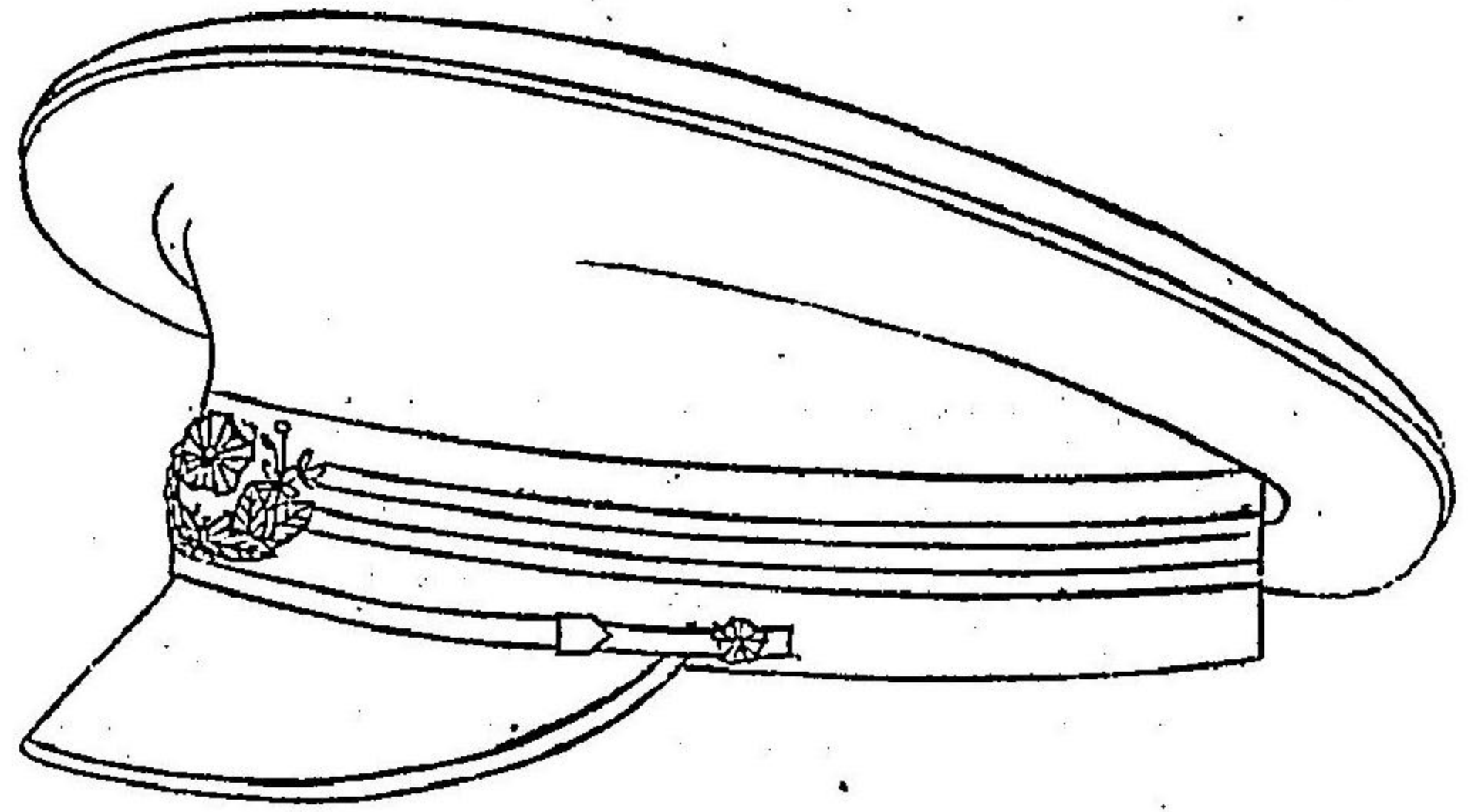
府縣警察部及北海道廳
第四部ニ屬スル警視
警察署長タル警視



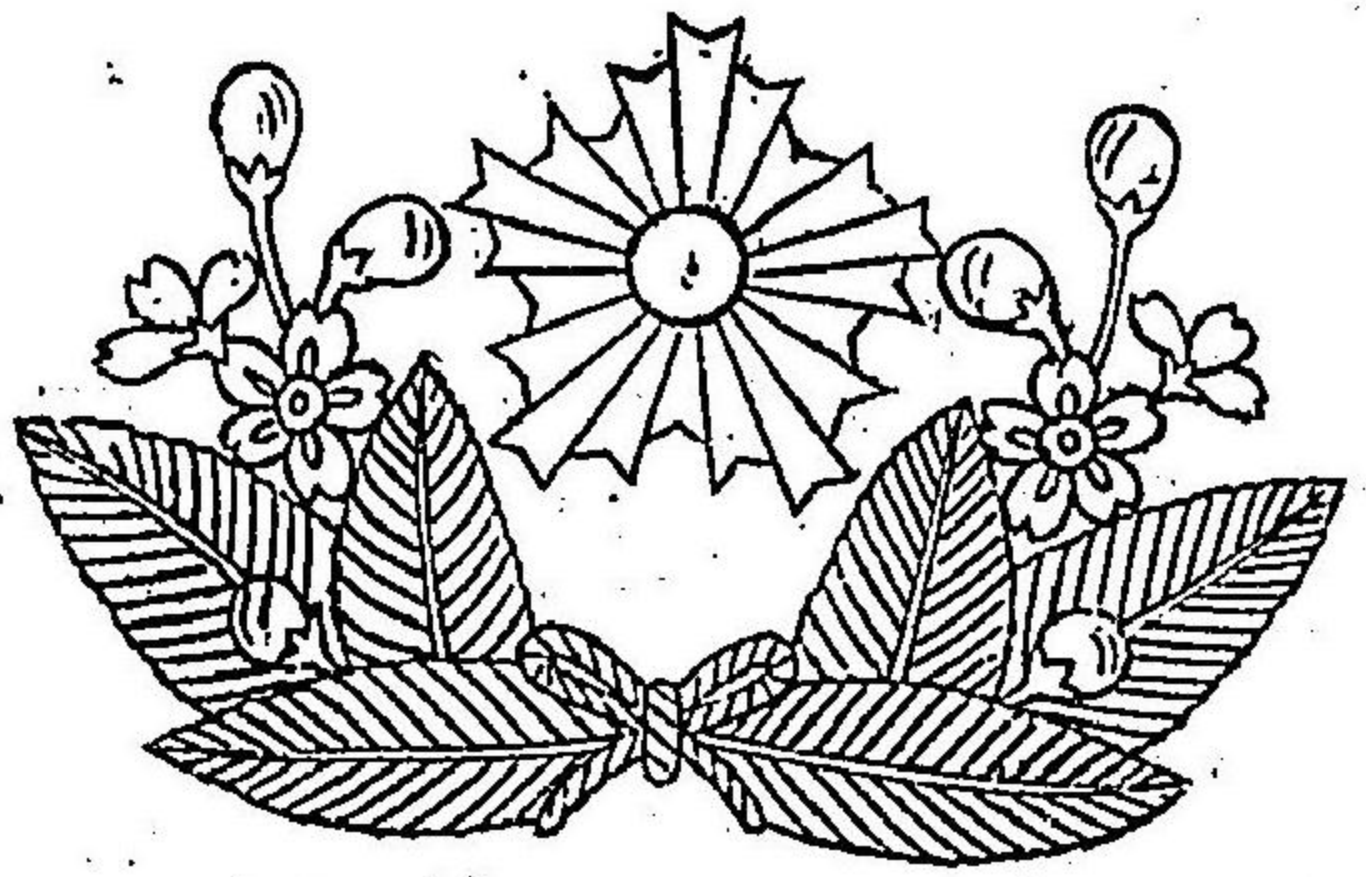
消防
防
關
士士部



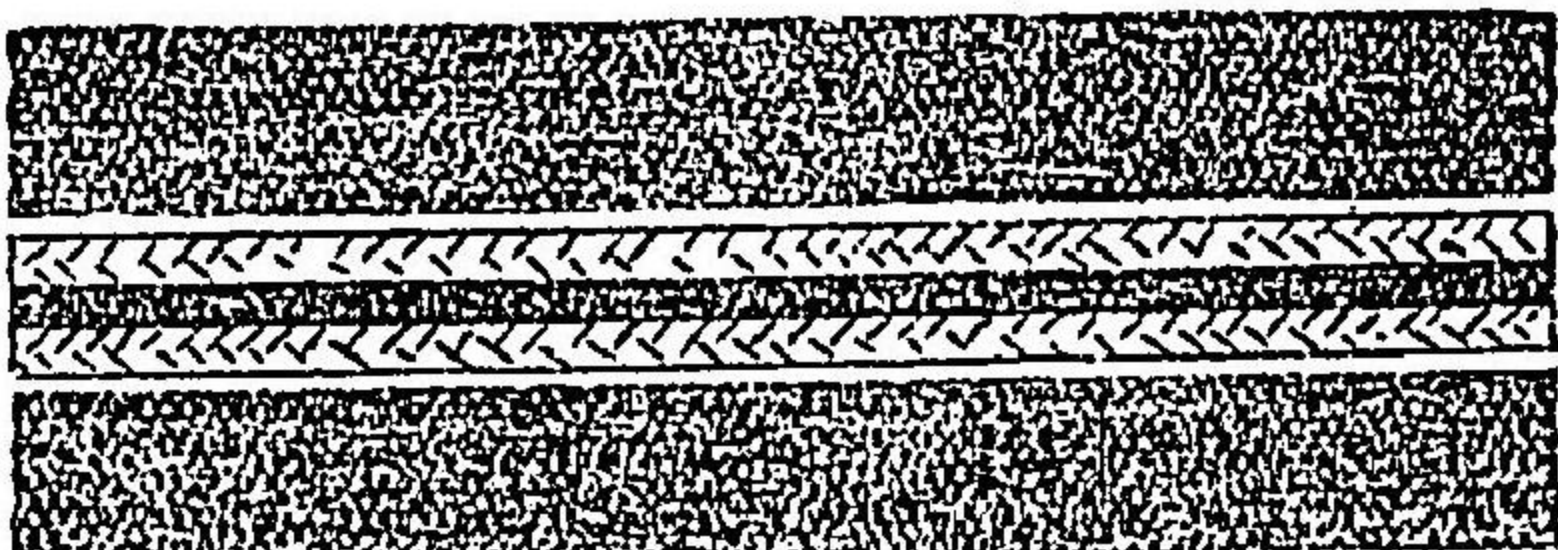
略帽



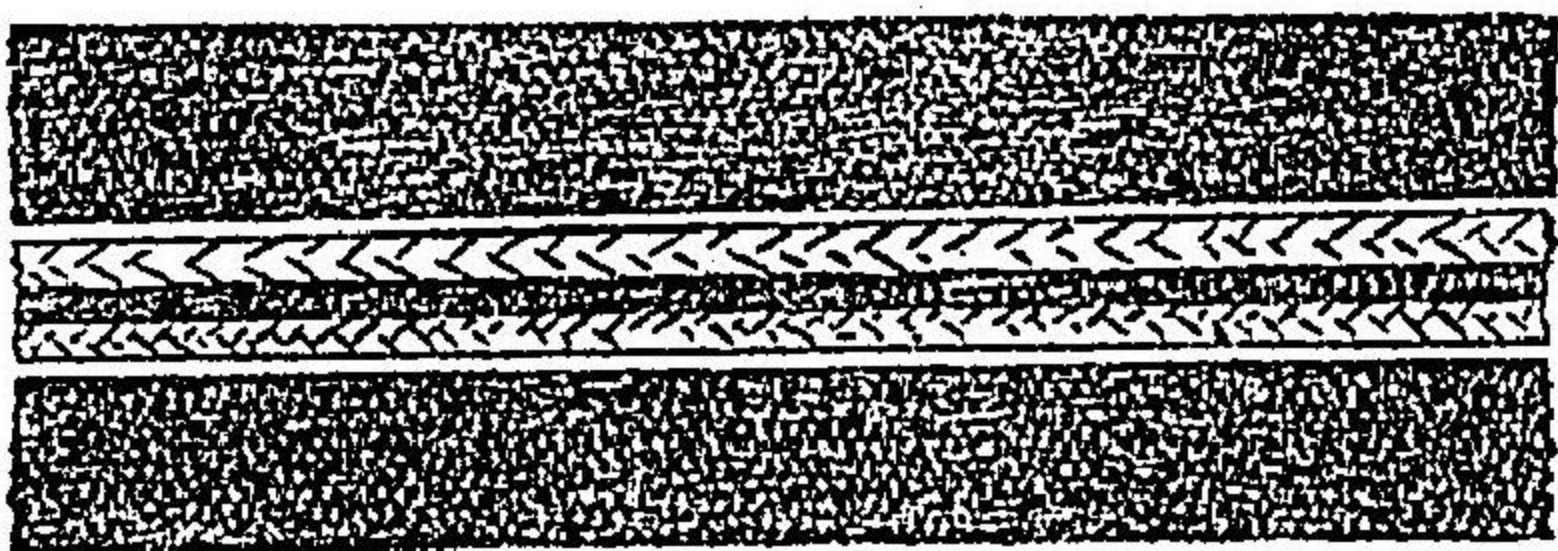
略帽徽章



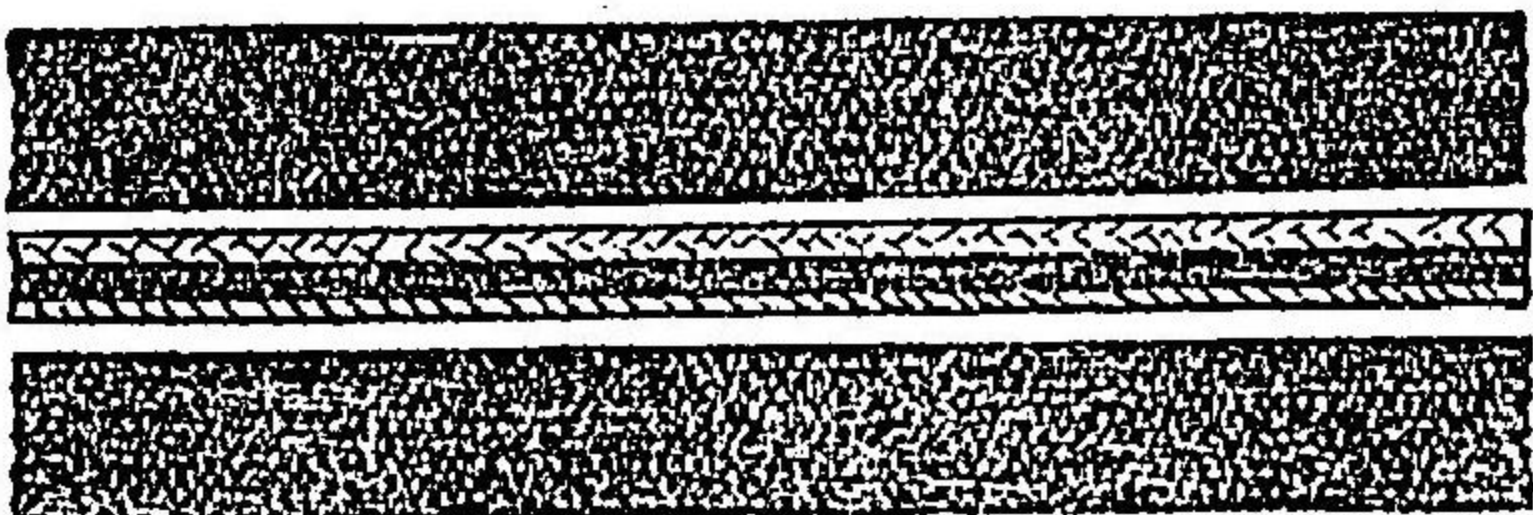
警視總監



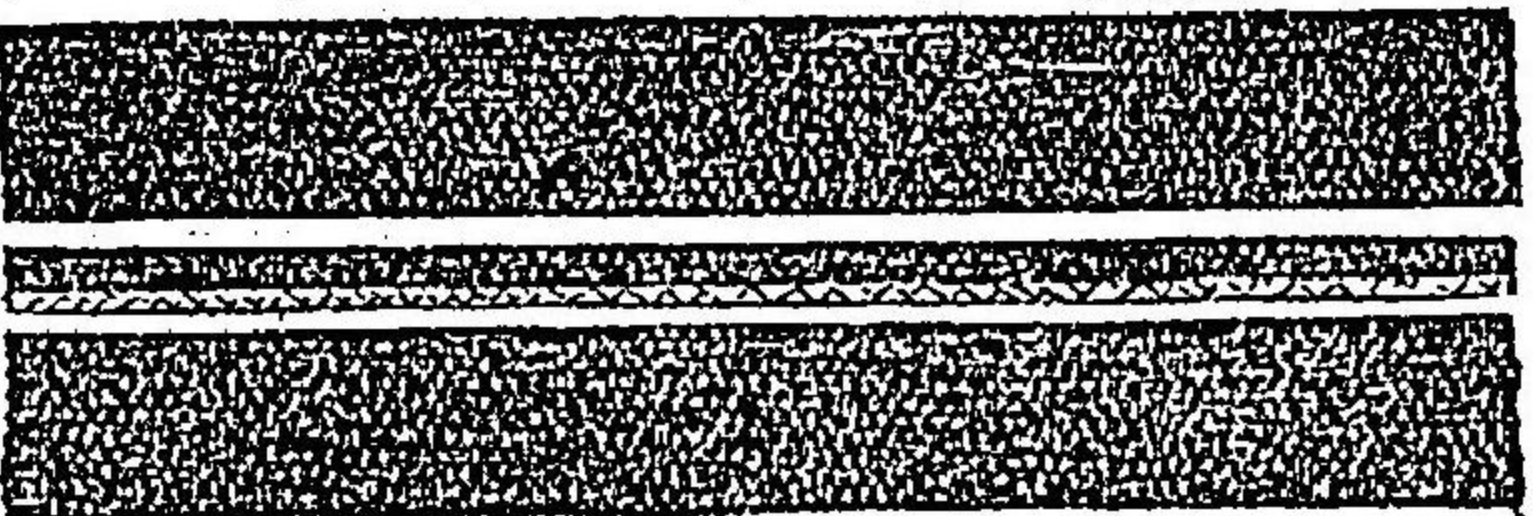
警視廳官房主任、各部長、巡視官
タル警視廳府廳警務長
樺太廳第一部二團スル警視



府縣警察部及北海道廳
第四部二團スル警視
警察署長タル警視

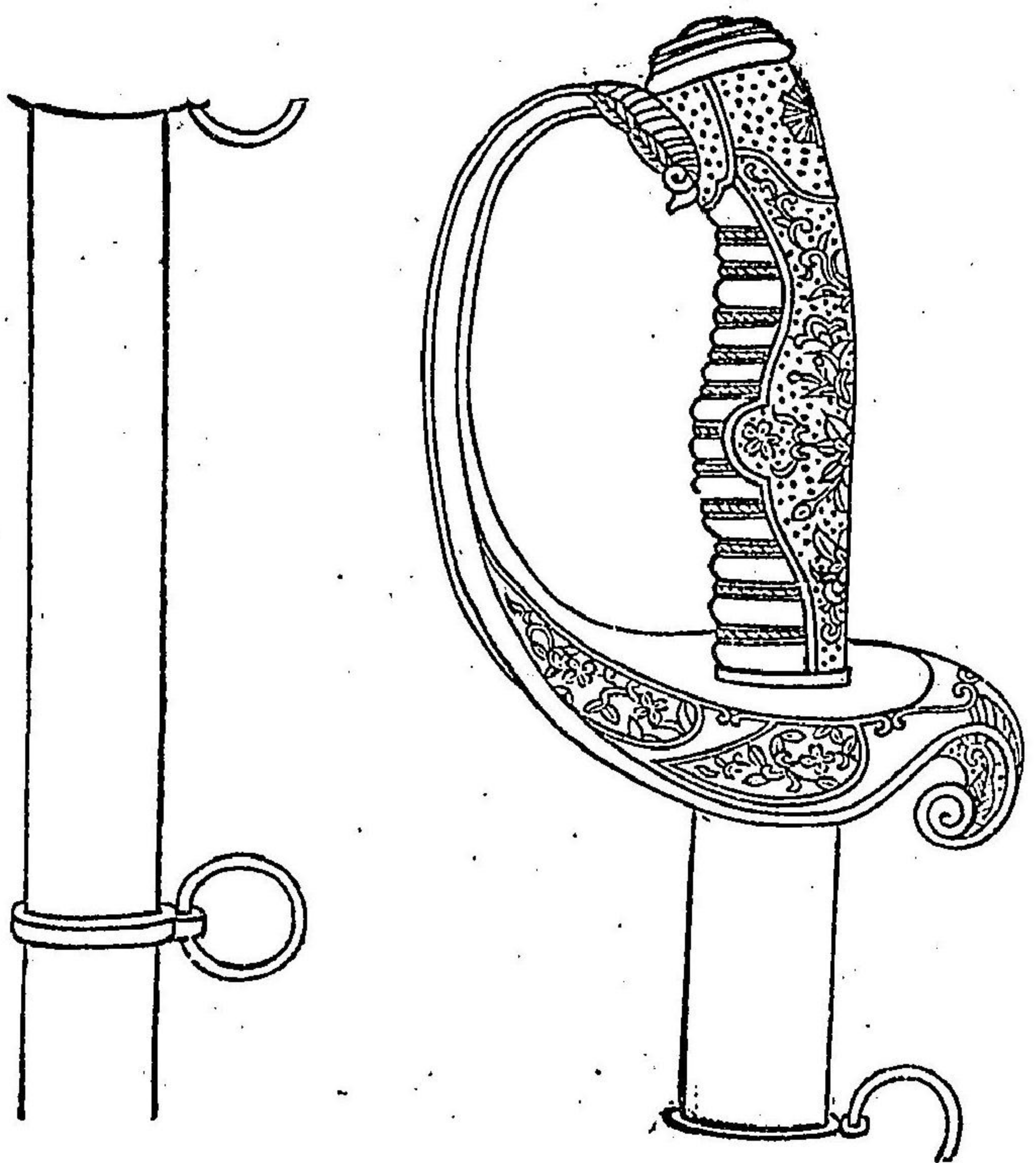


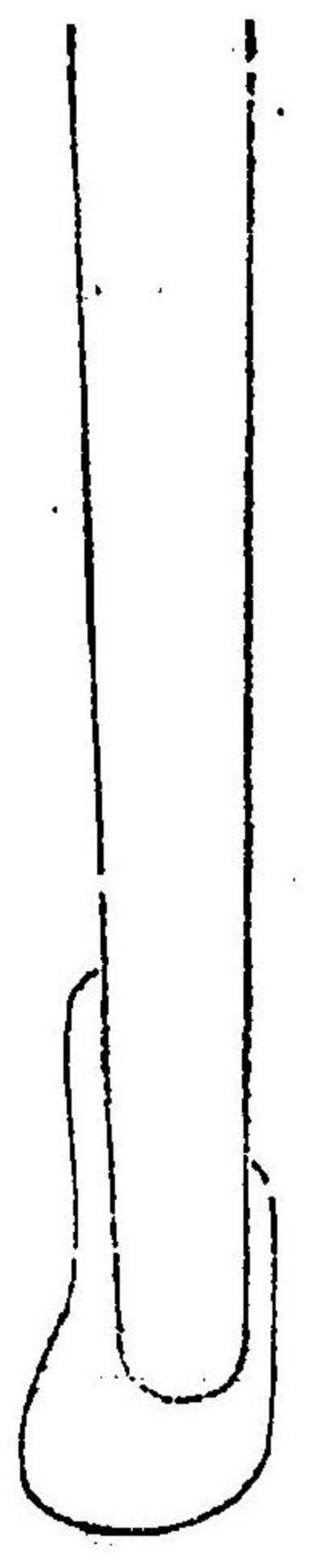
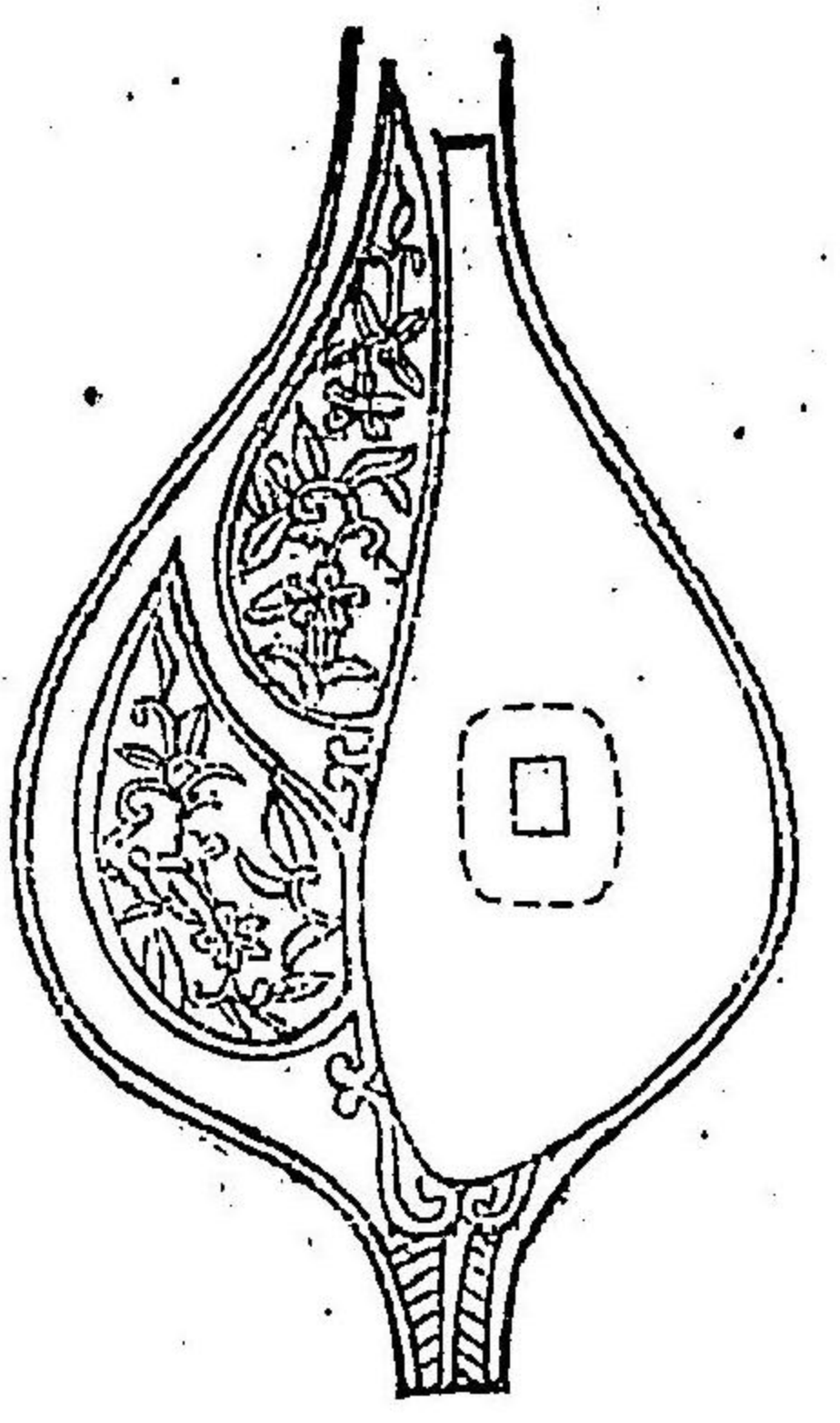
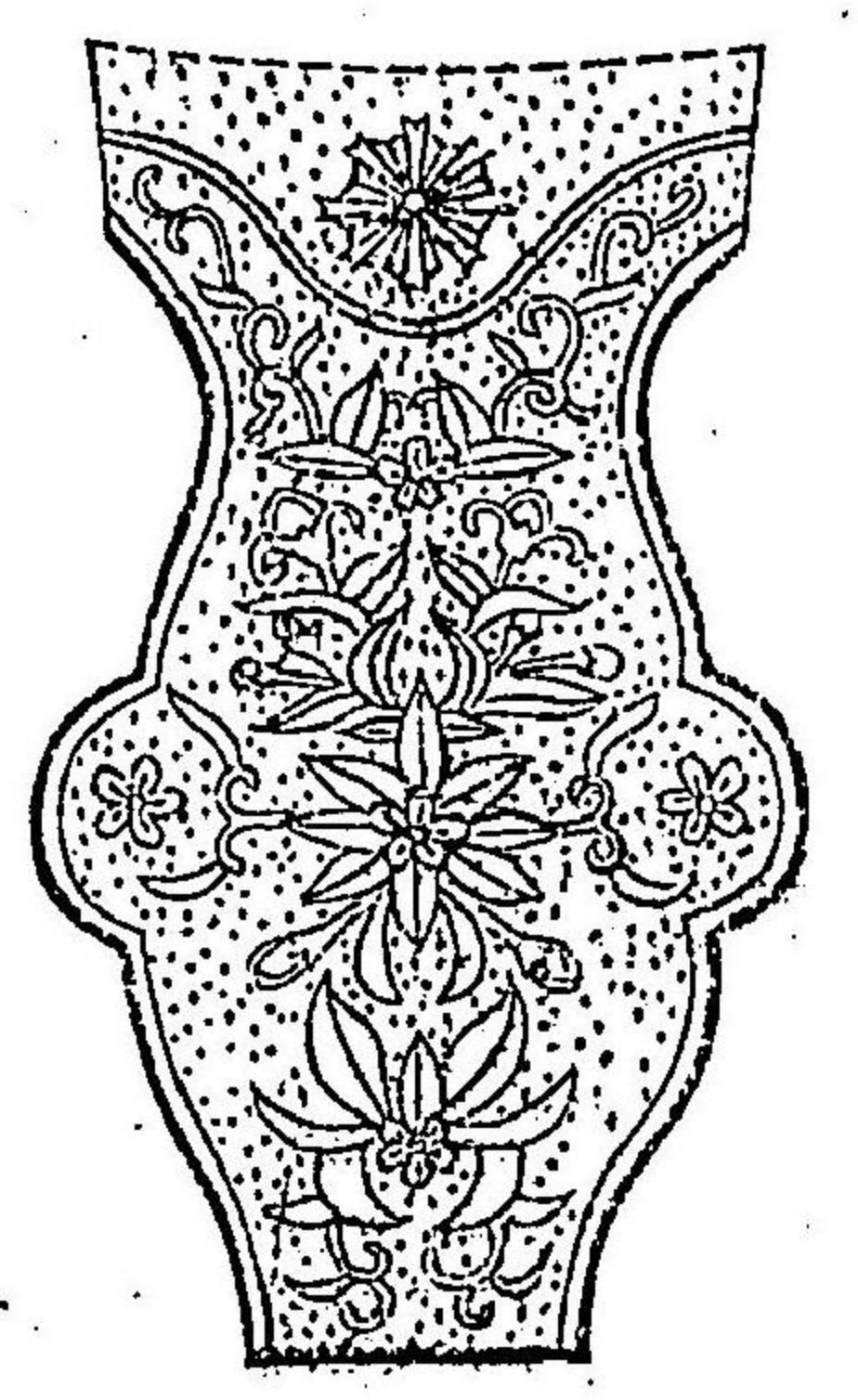
消防
機關
士士部



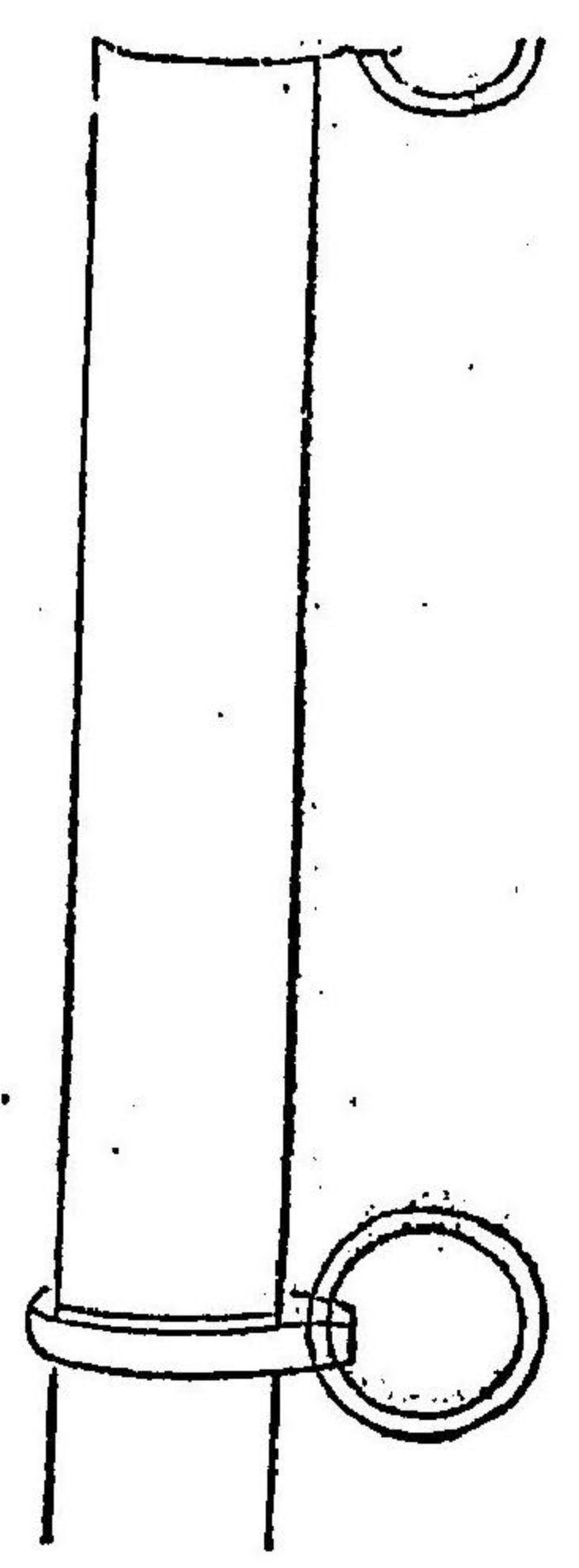
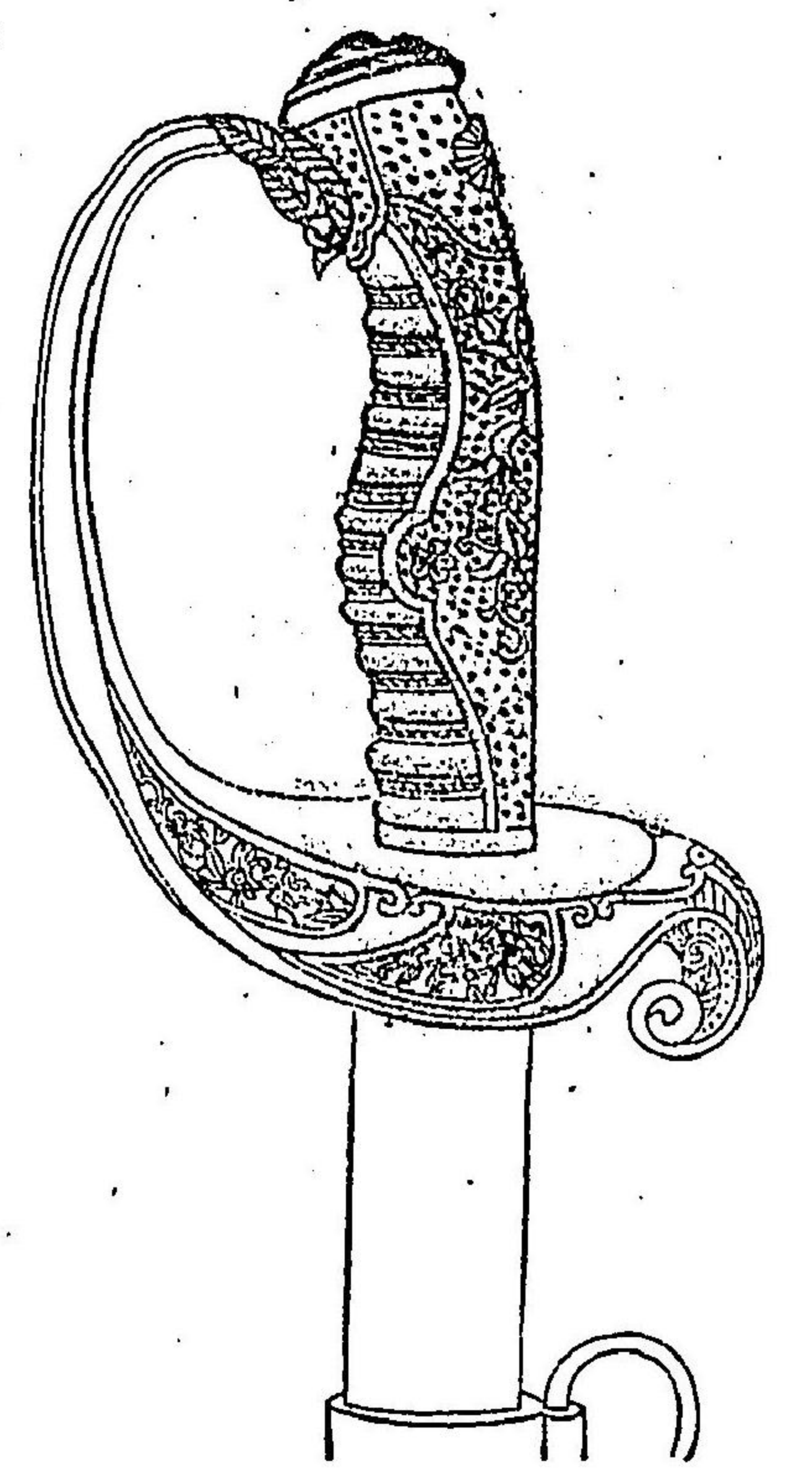
刀

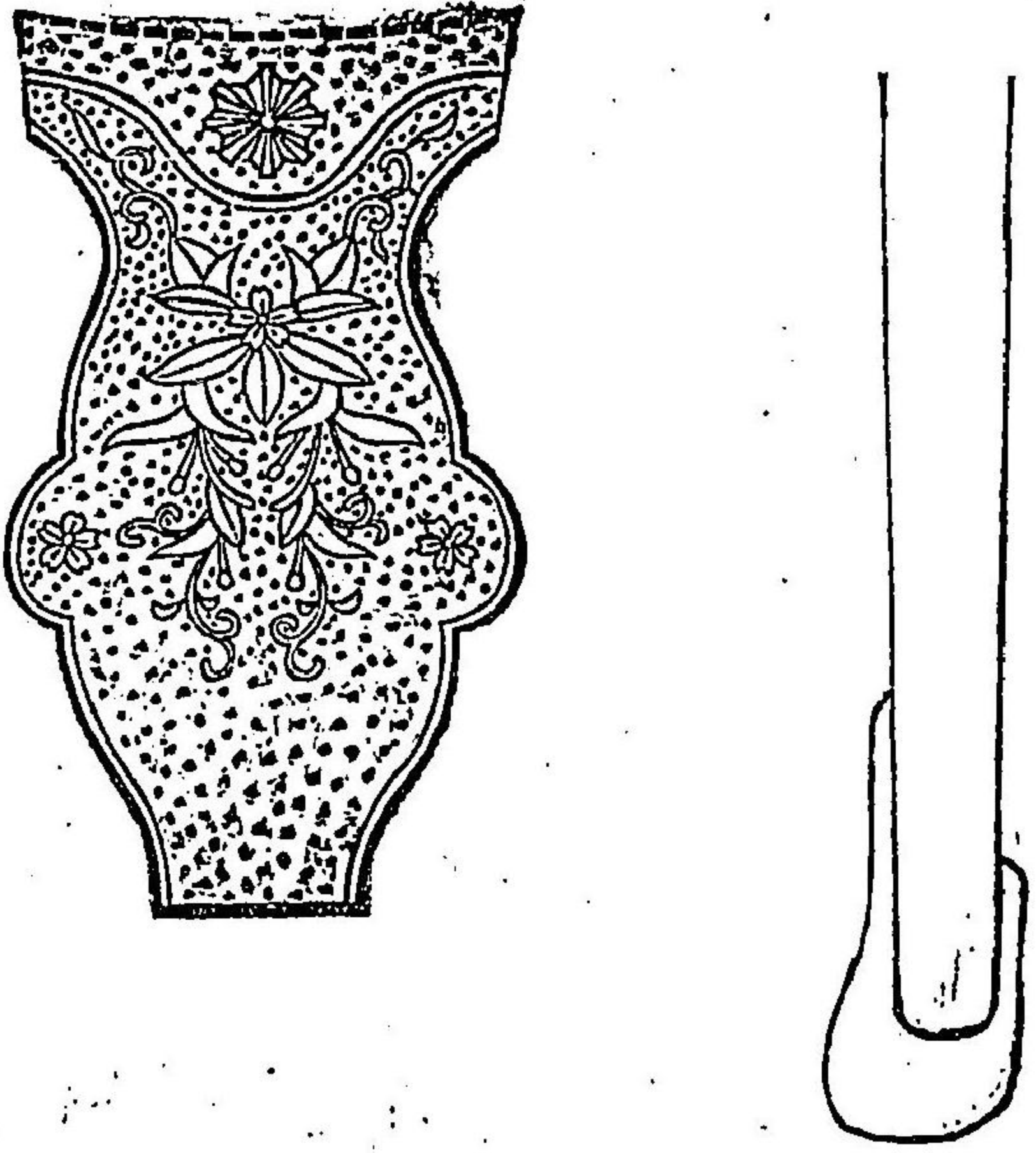
警視總監
警視廳官房主任、各部長、巡視官
タル警視廳府廳警務長
樺太廳第一部、府縣警察部及
北海道廳第四部二團スル警視
警察署長タル警視





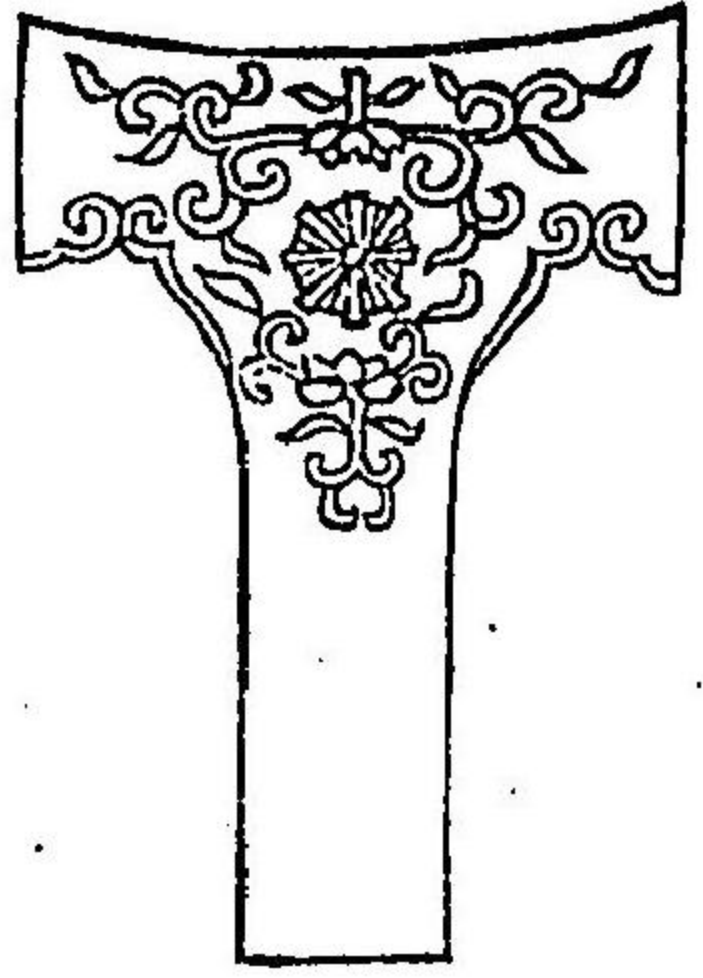
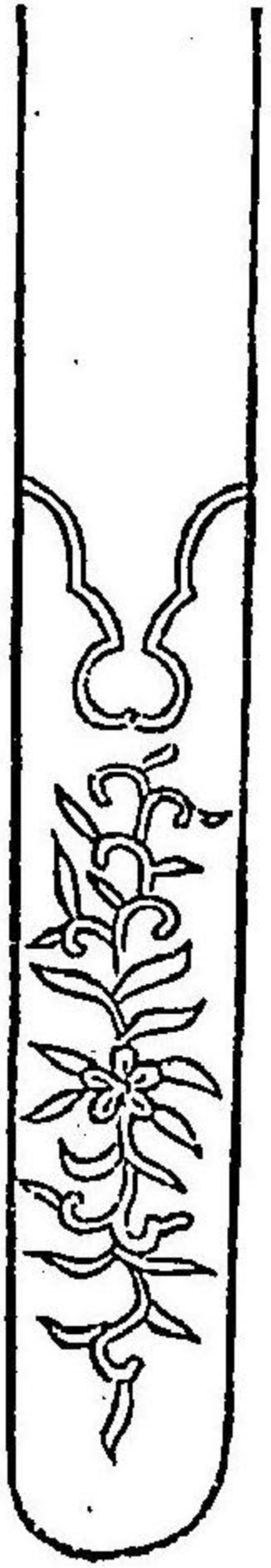
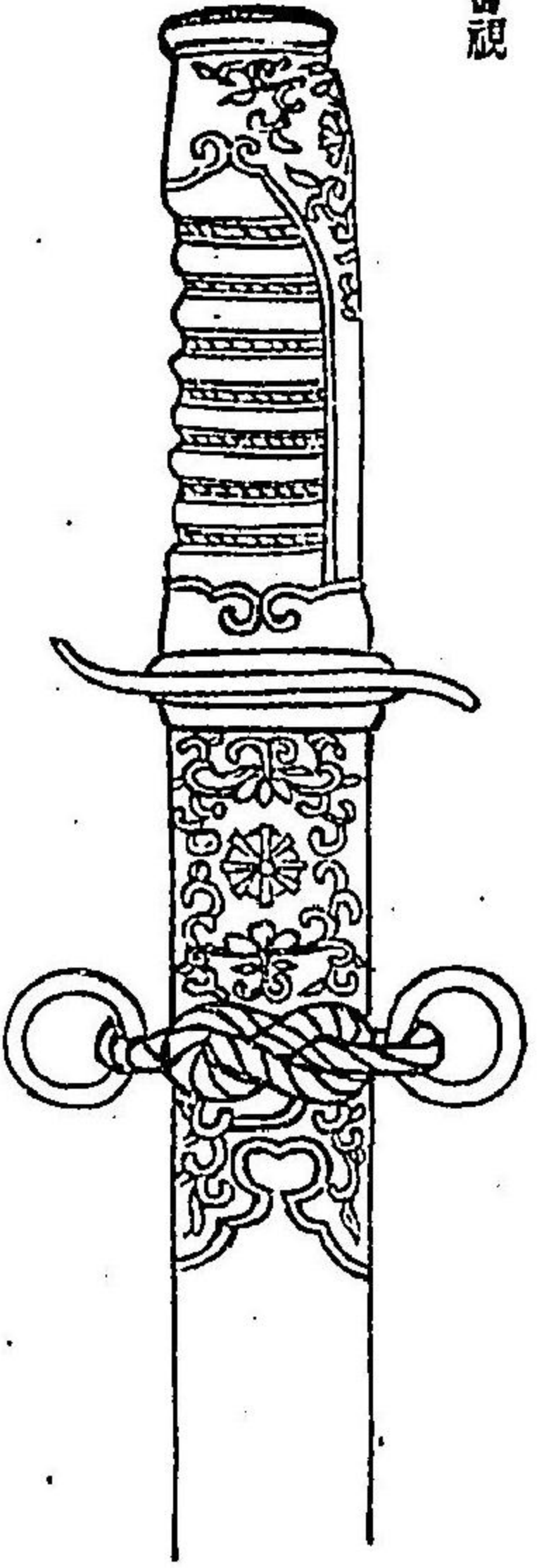
警防
防機
關士
部



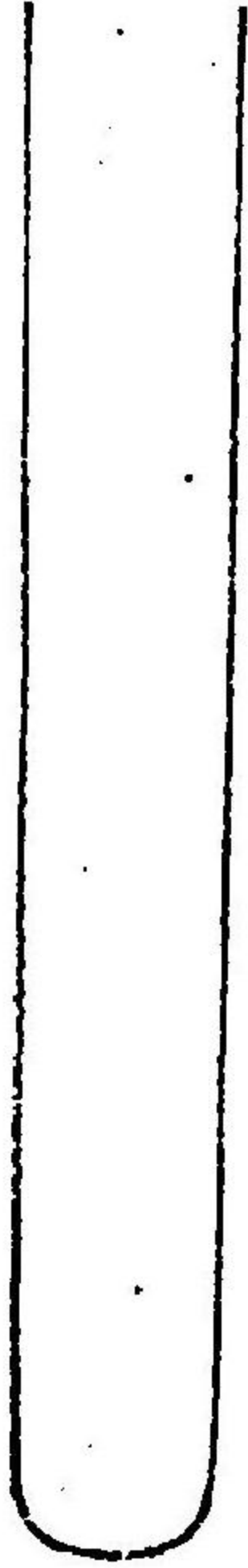
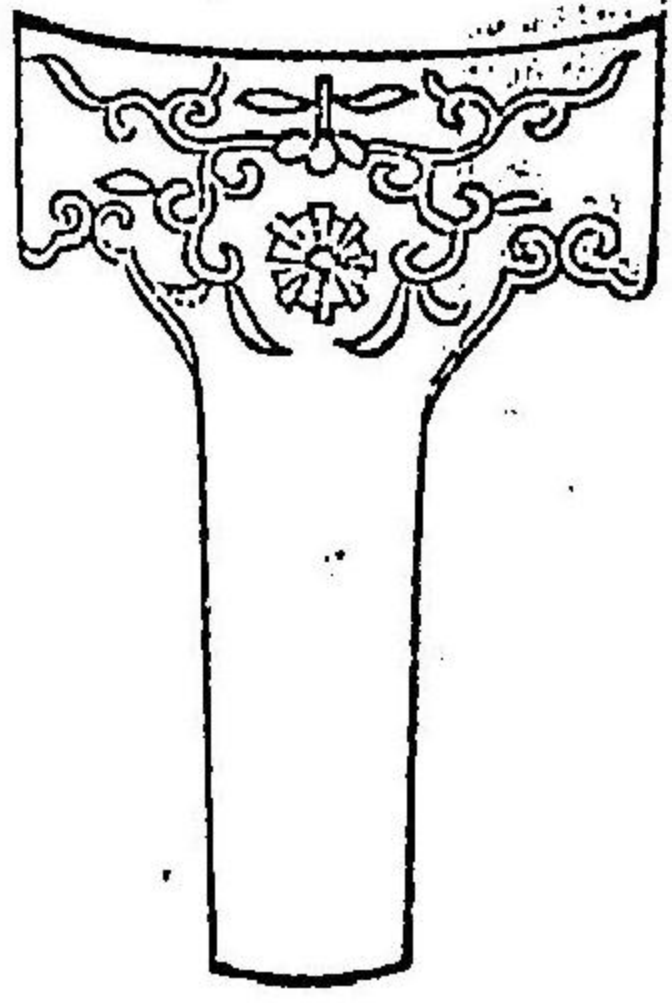
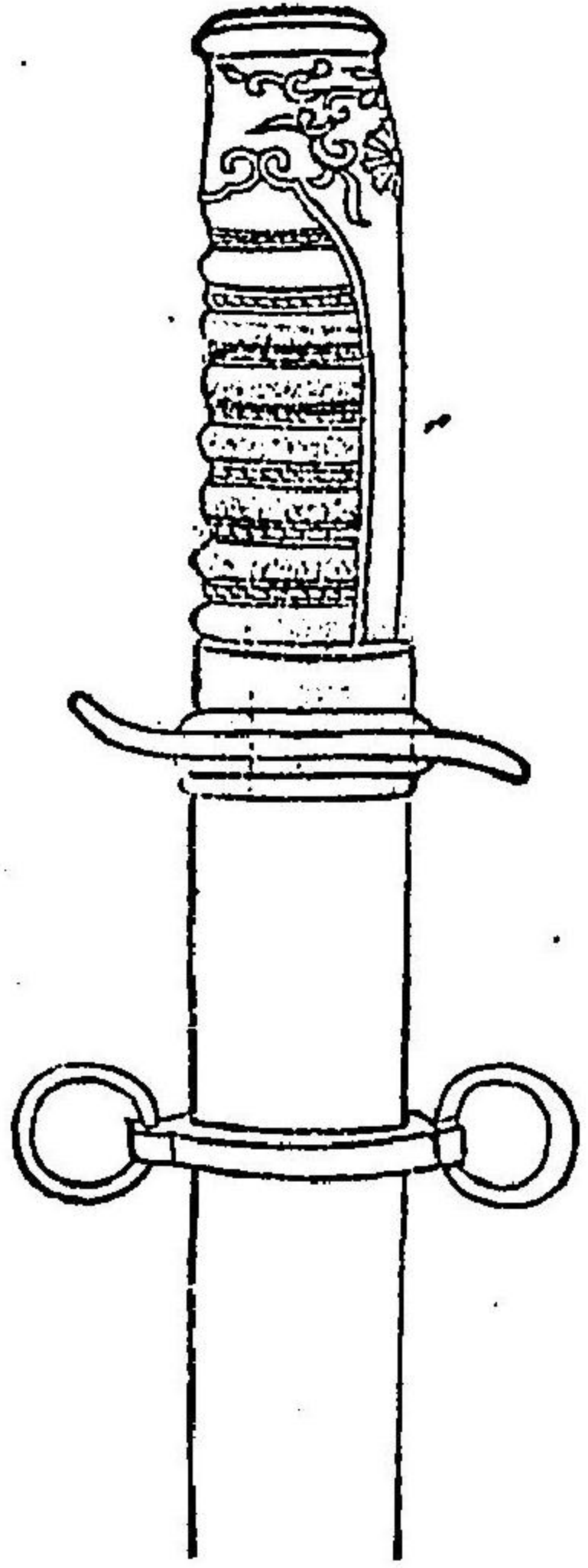


短刀

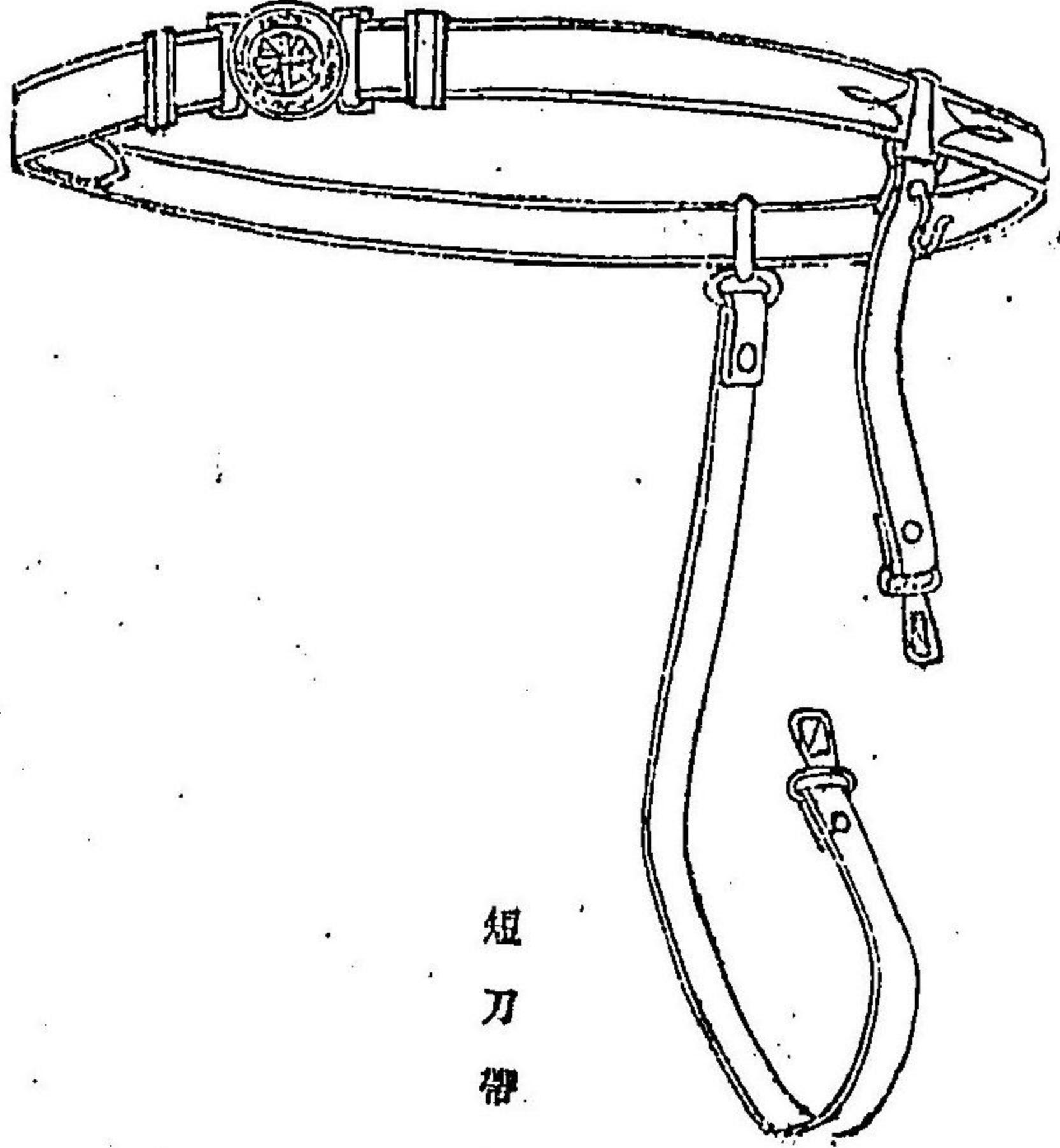
警視廳消防本部長タニ警視



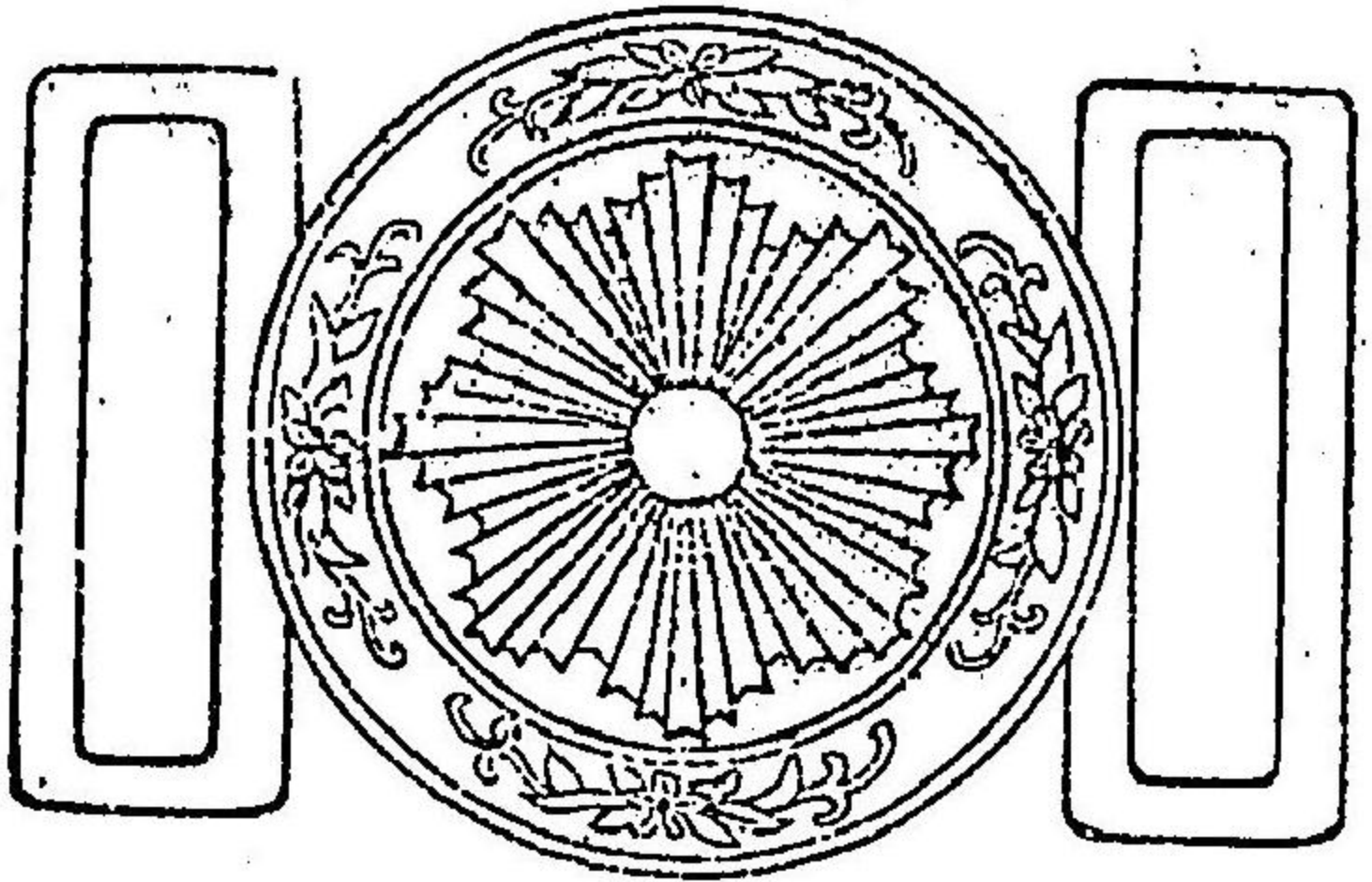
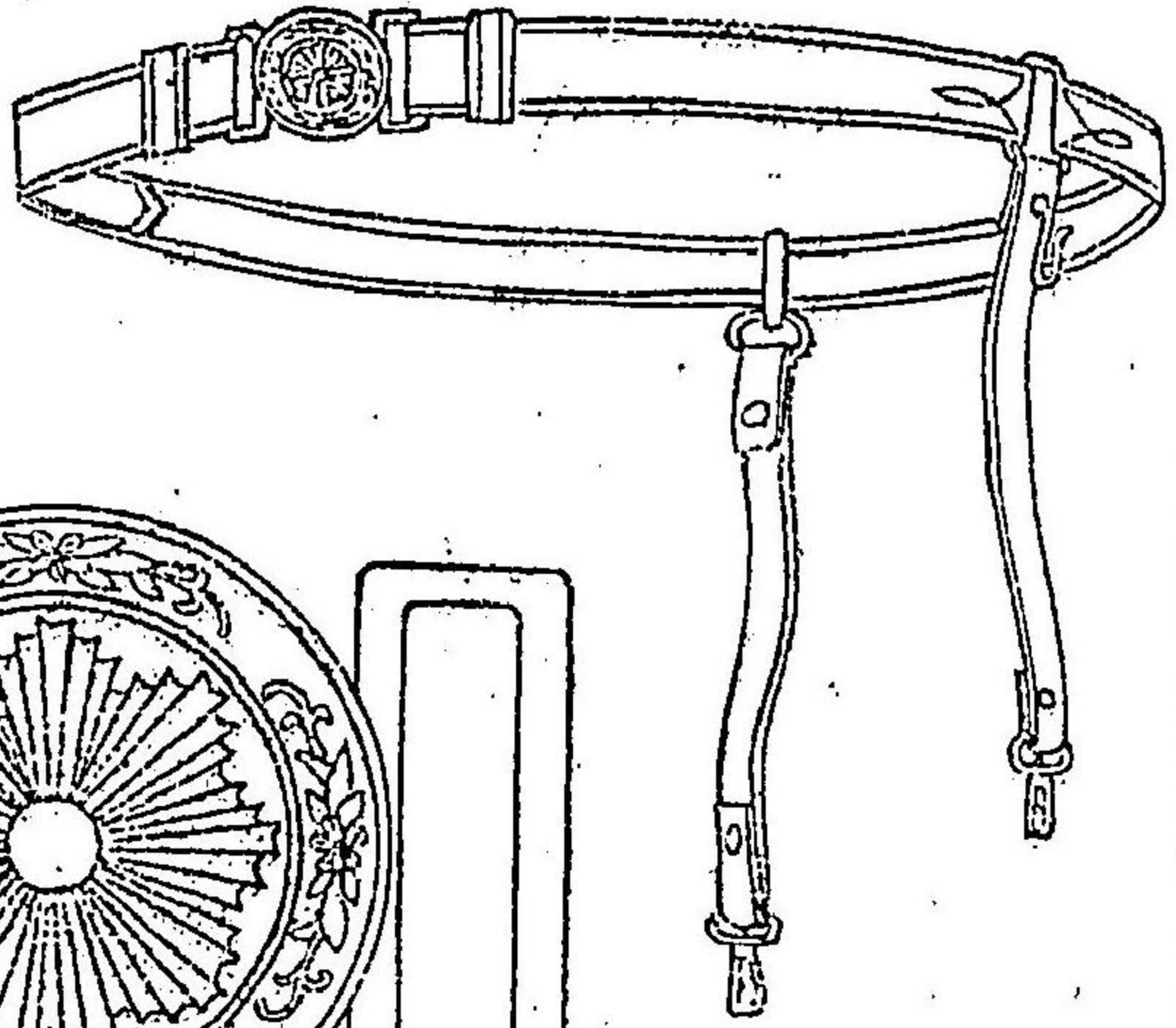
防
防
機
士
士



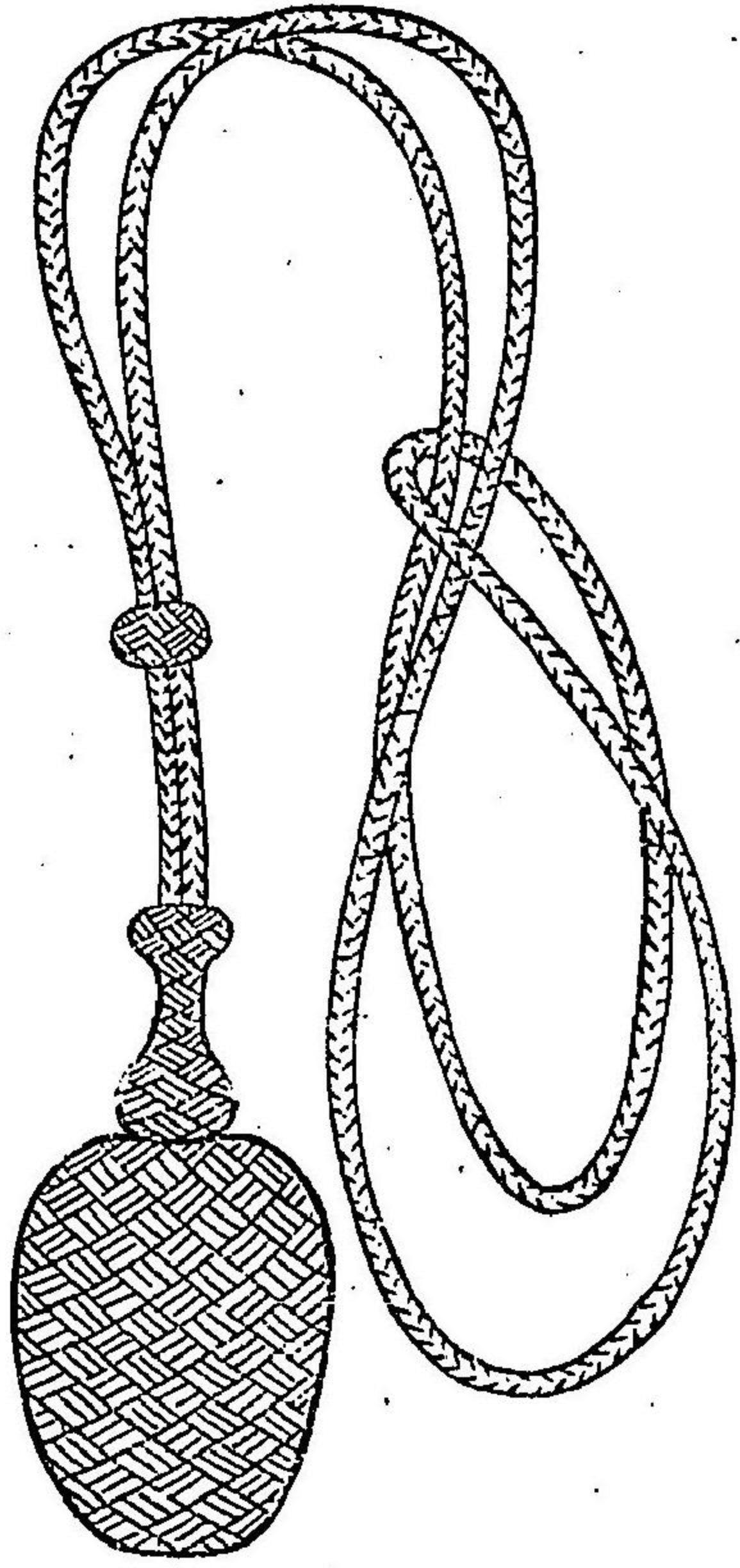
刀
帶



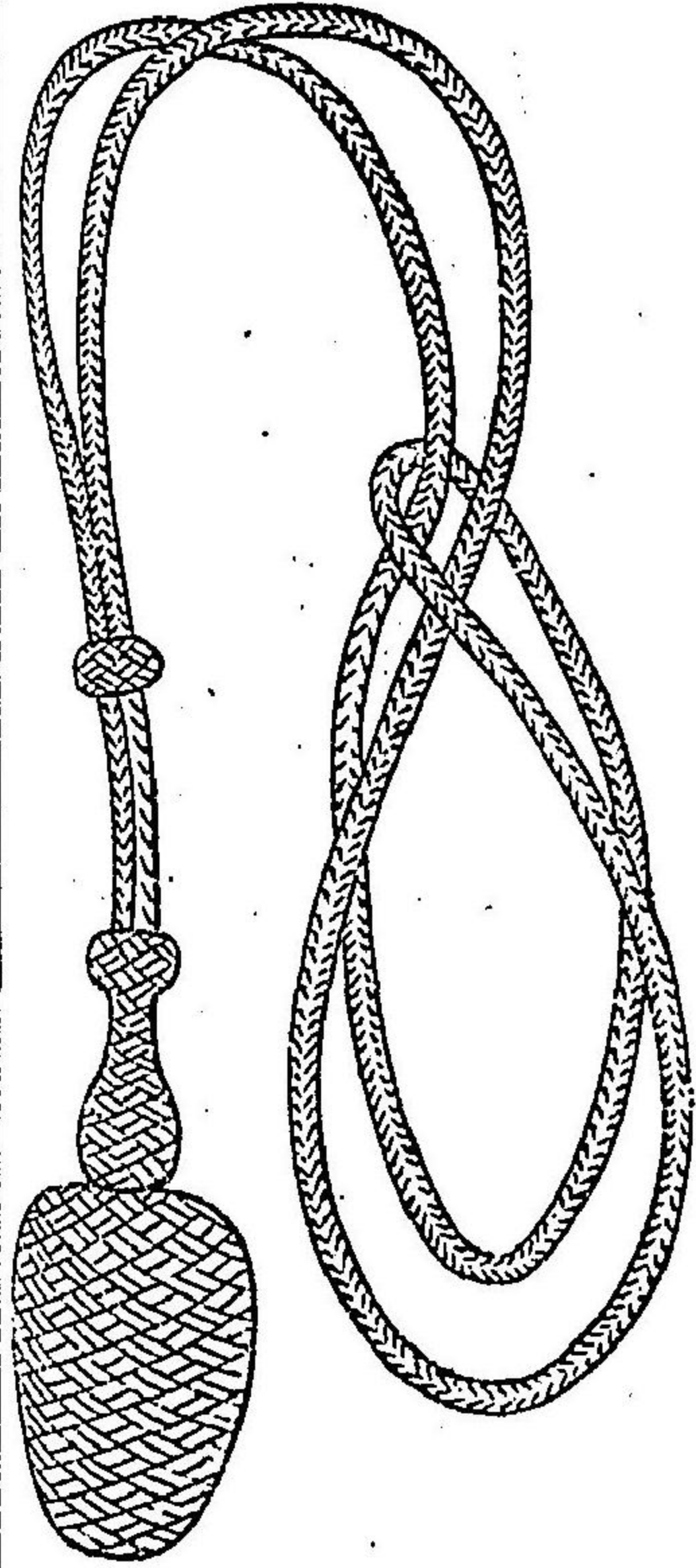
短
刀
帶



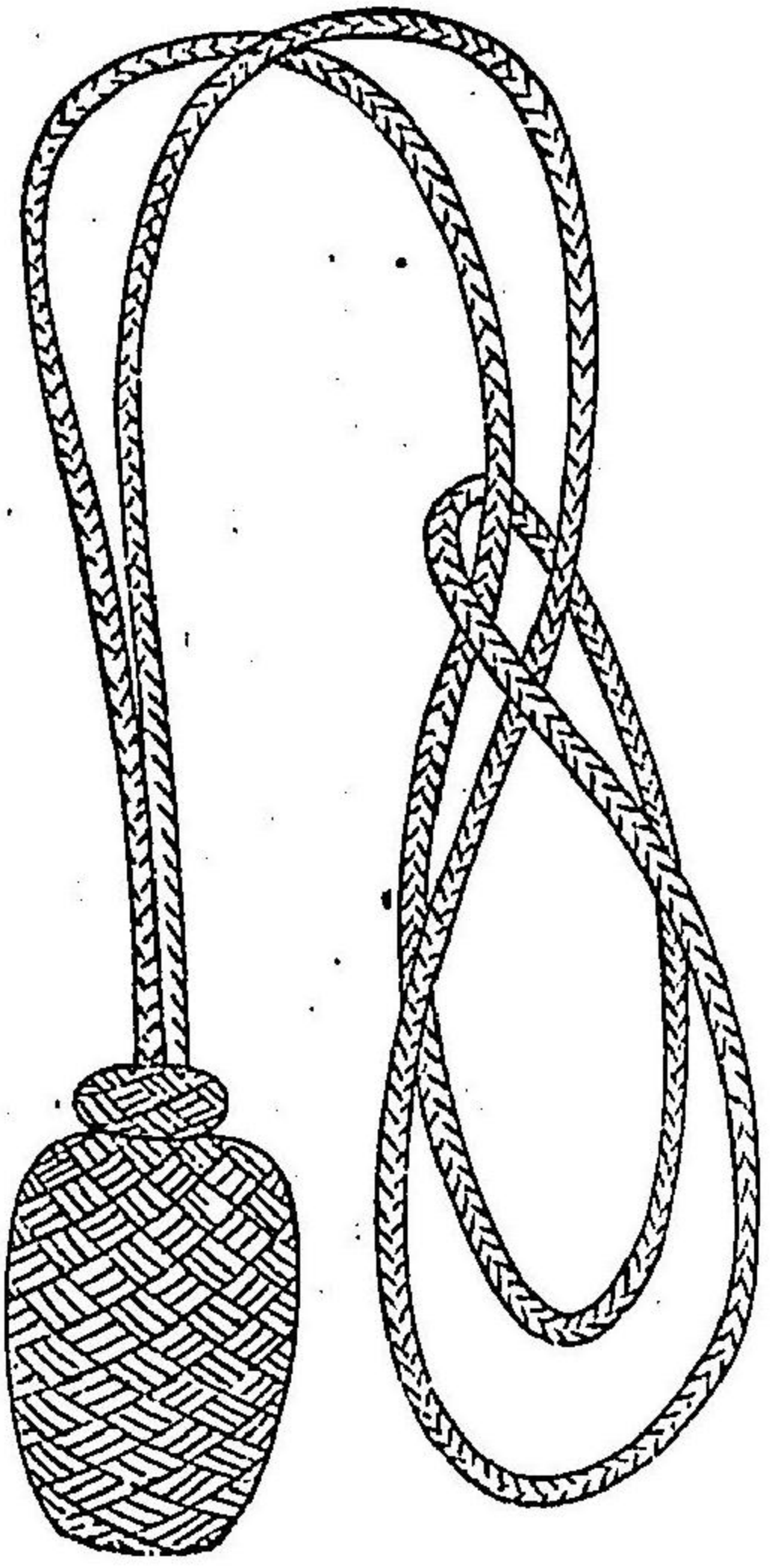
正結
警視總監



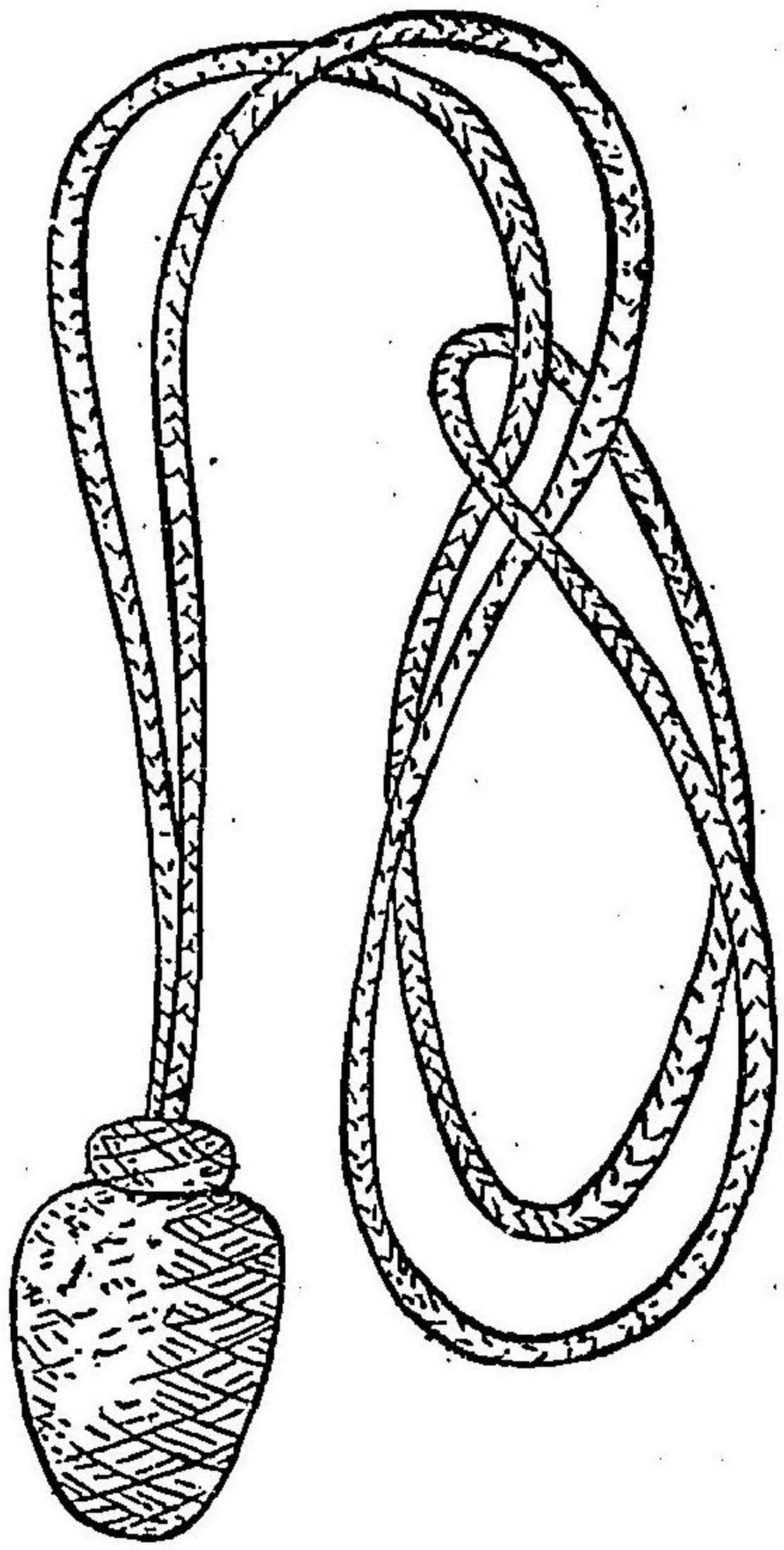
警視廳官房主事各部長巡視
官タル警視廳府縣警務長
神大廳第一部三屬スル警視



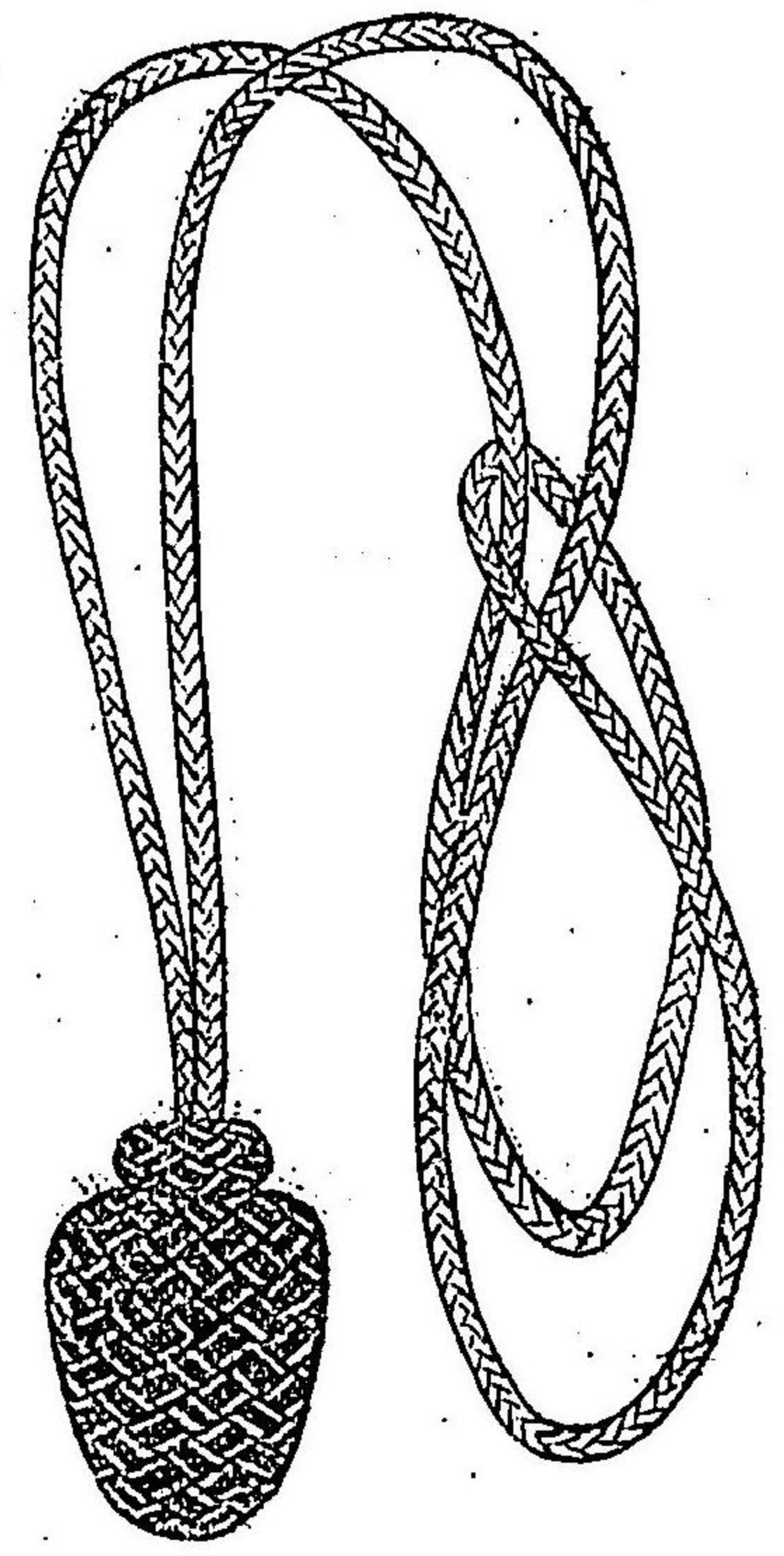
府縣警察部及北海道
第四部ニ屬スル警視
警察署長タル警視



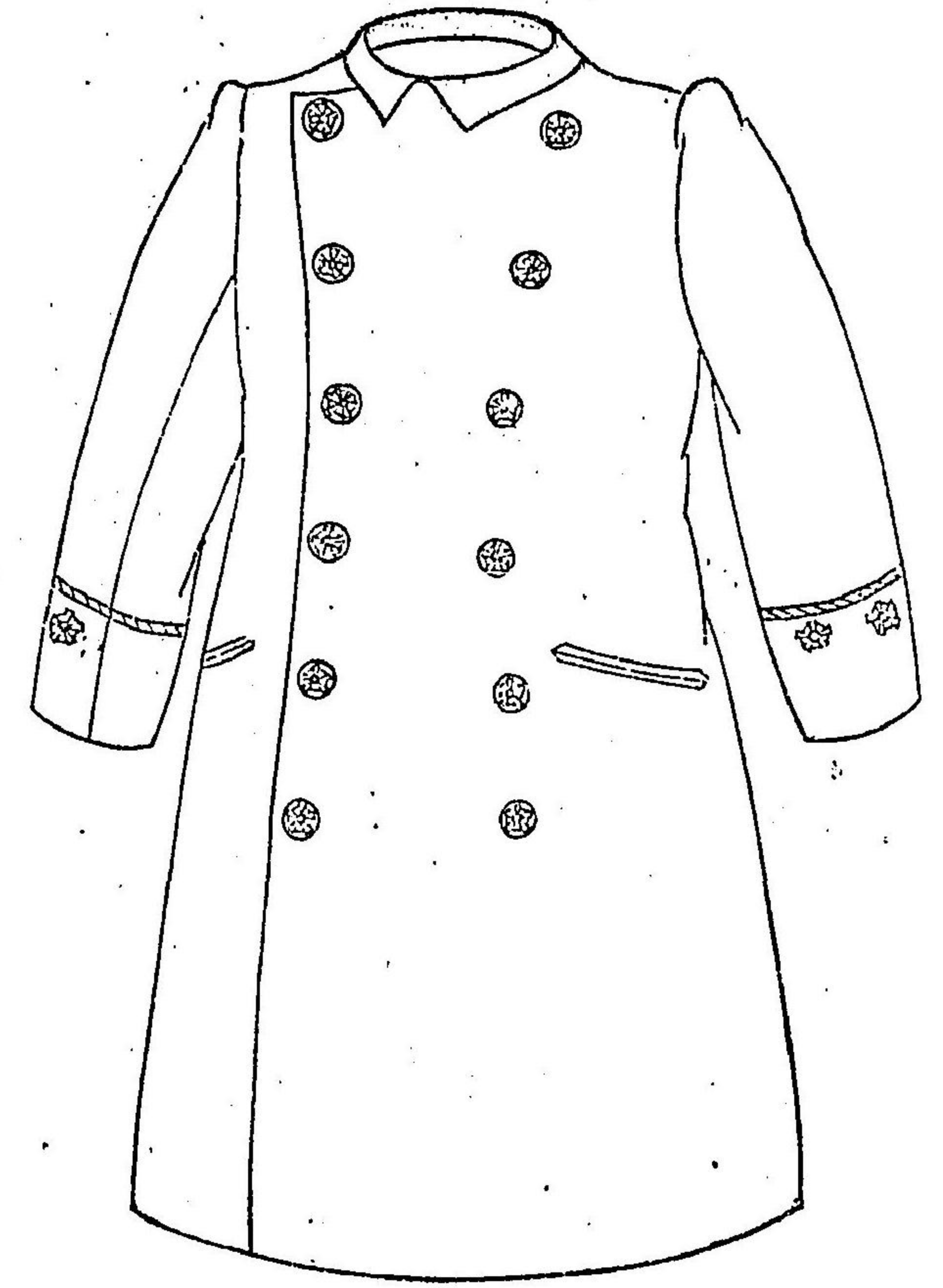
警防部
消防士
消防士

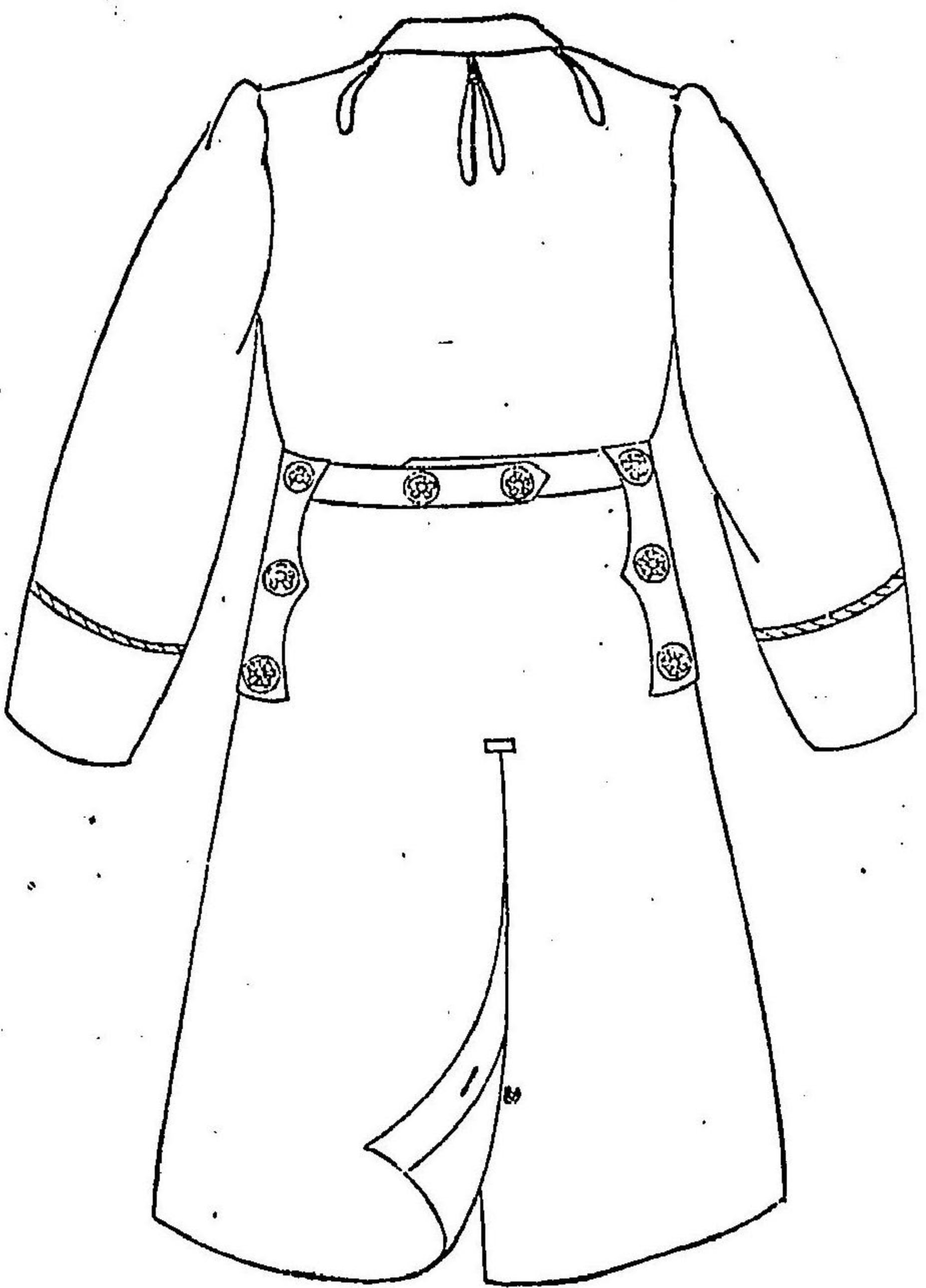


常
結



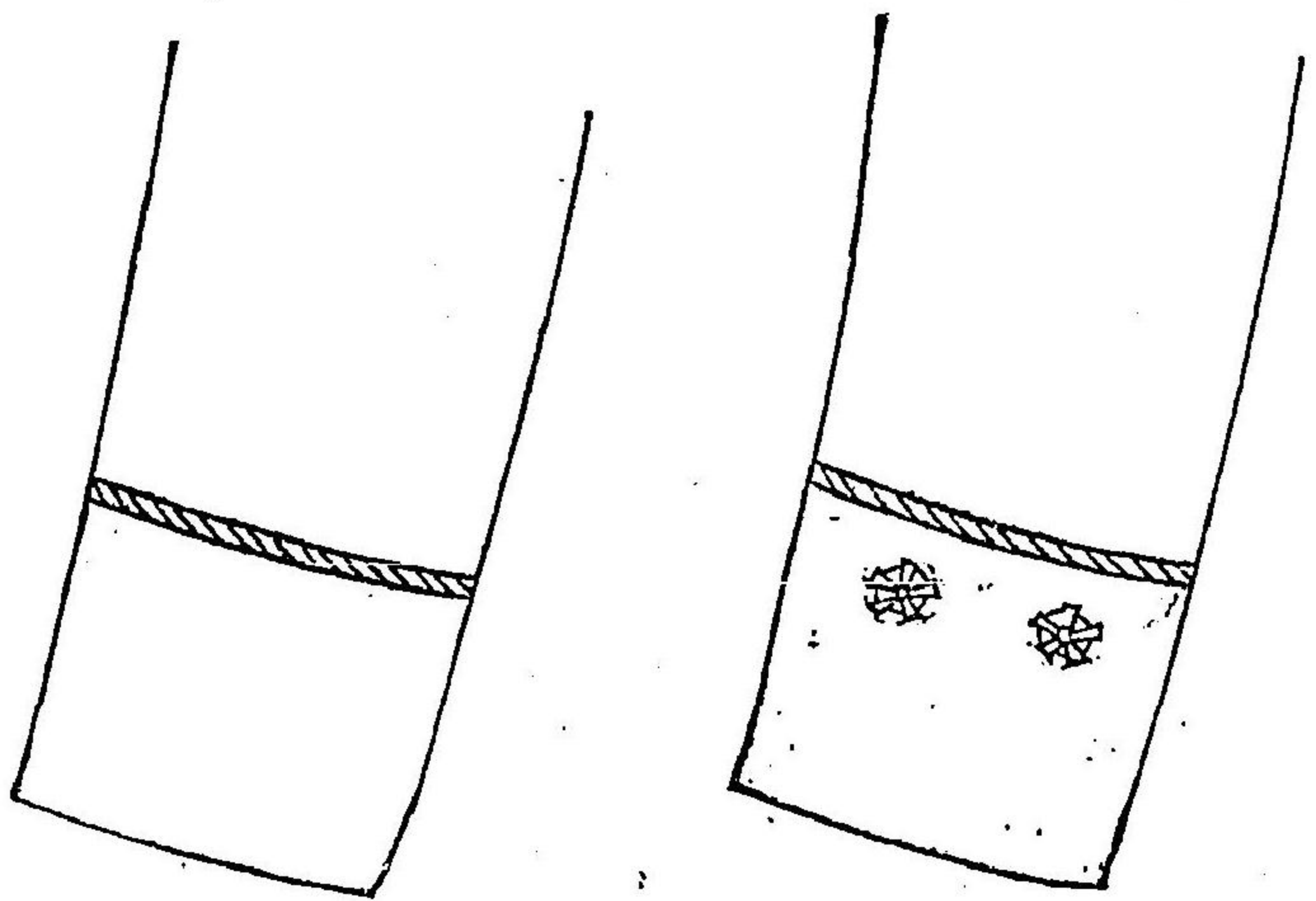
外
套
甲
種
警
視
總
監





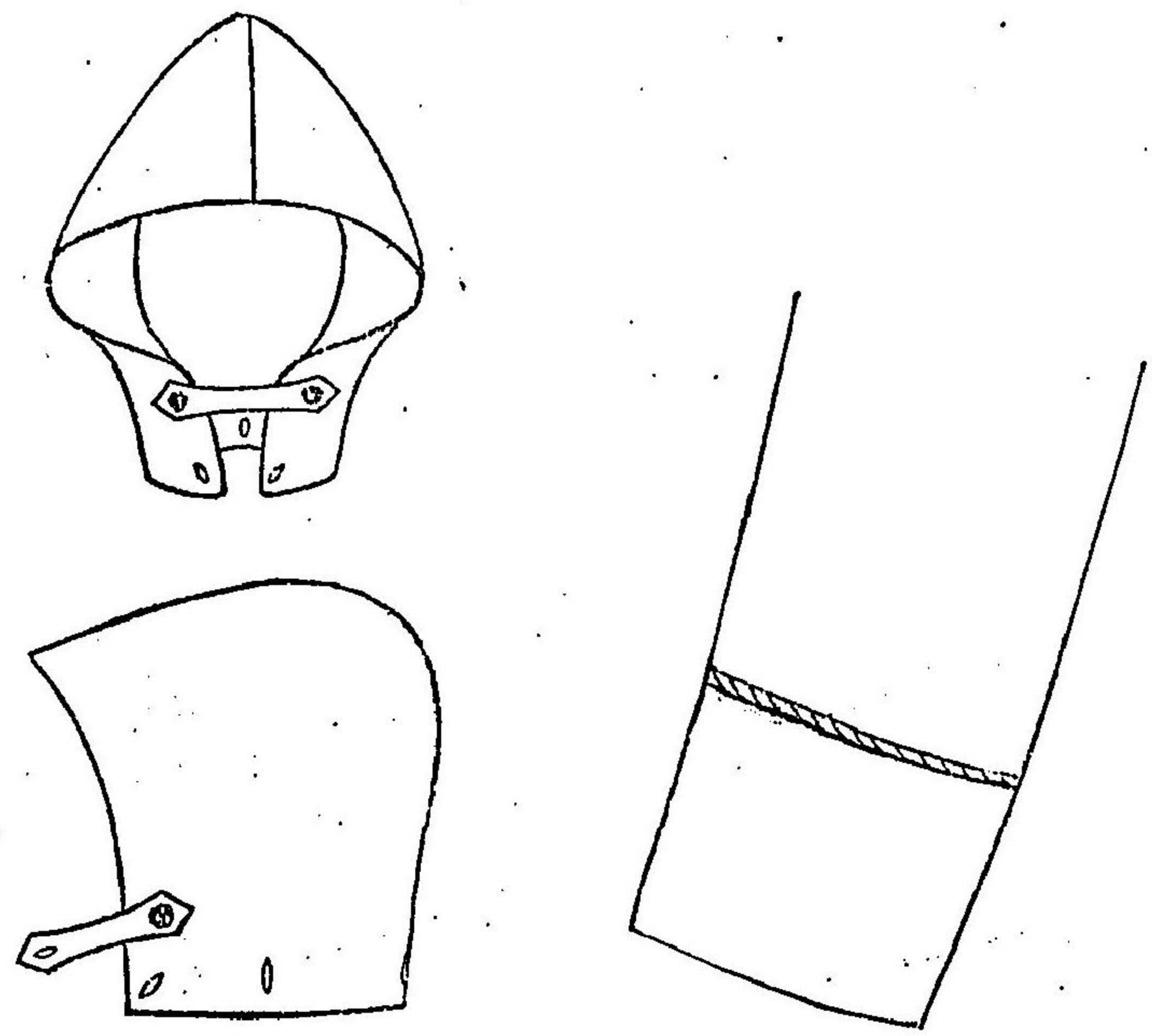
警視總監

警視總監官房主事、各部長、巡視官タル警視廳府縣警務長、樺太廳第一、府縣警察部長、北海道廳第四部ニ屬スル警視警察署長タル警視

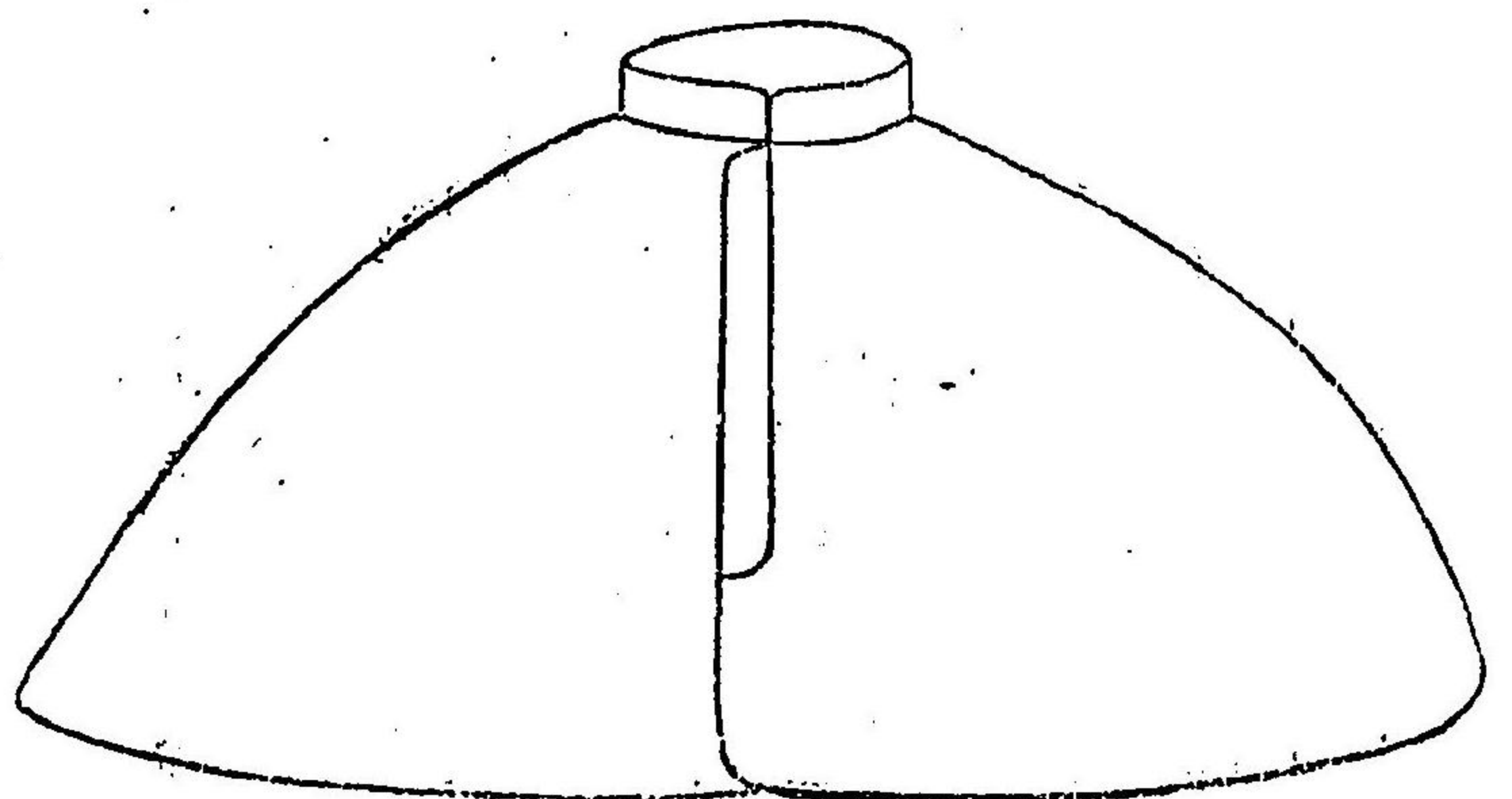


警防部
消防機關士

取
面



外
套
乙
種



附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
警察官及消防官ハ明治四十一年十二月迄ハ仍從前ノ制服ヲ着用スルコトヲ得
明治二十二年勅令第百二十二號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十二年日官三 勅令第百二十二號ハ警察官及消防官帶劔ノ制ナリ

朕巡查服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
内務大臣 原 敬

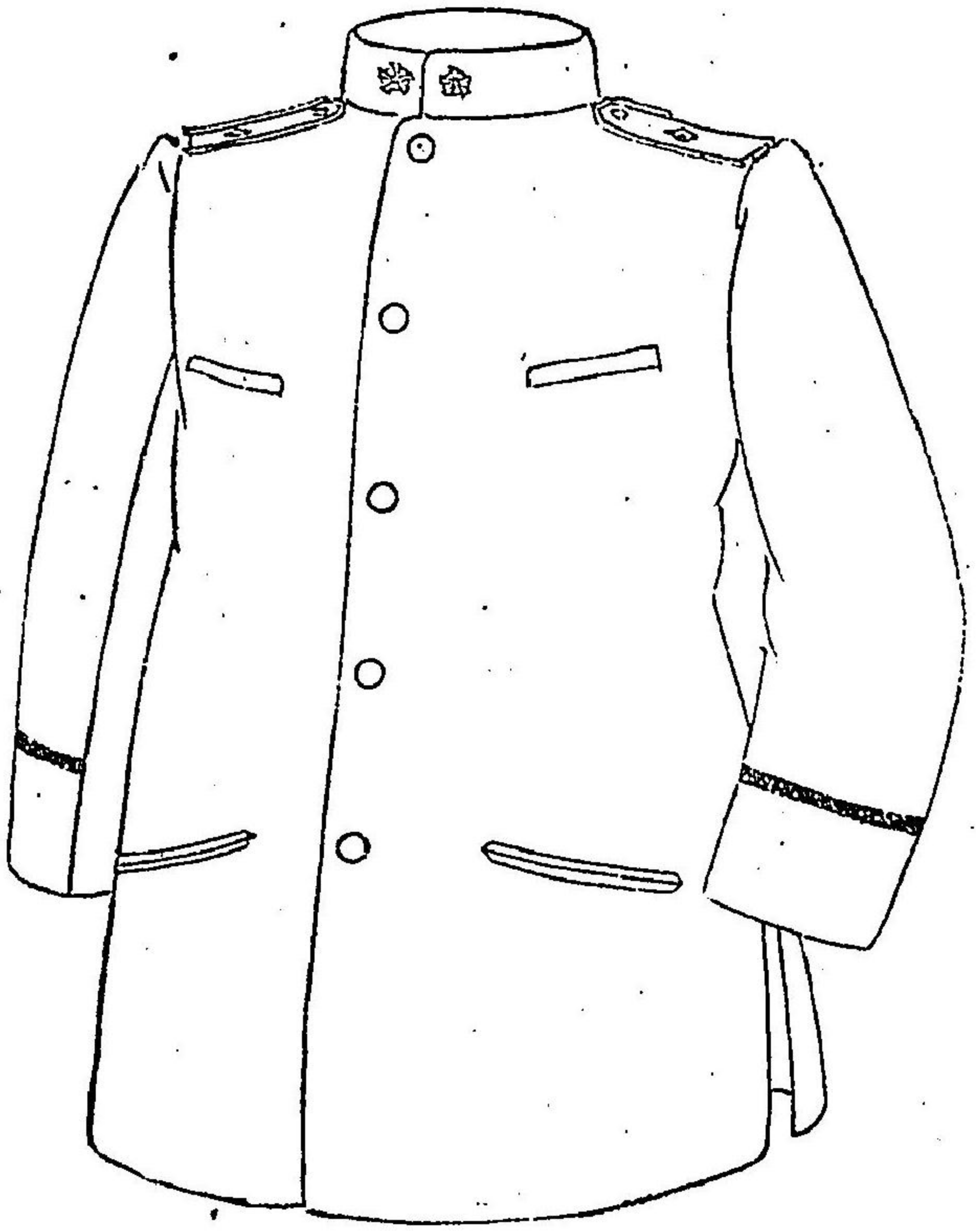
勅令第八號(官報二月五日)
巡查服制

巡查服制圖例		巡查部長	巡查	巡查	巡查
地質	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白小倉	同	同	同	同
製式	立襟一行鈕釦長シヤケツト前面ノ左 右ニ各二箇ノ物入ヲ附ス但シ乘馬勤 務ノ者ノ上衣(夏衣ヲ除ク)ニハ幅 分ノ赤色線ヲ以テ裝邊ニ玉線ヲ附ス	同	同	同	同

帽		短袴		袴		衣	
地質	製式	地質	製式	地質	製式	地質	製式
濃紺又ハ黒羅紗	圓形黒革製前底幅四分ノ黒革製頭紐 ヲ附シ頭紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ 徑四分ノ眞鍮略日章各一箇ヲ以テ留 メ天井吐出ハ幅一分トス乘馬勤務ノ 者ニハ其ノ周圍ニ赤色線ヲ附ス但シ 夏ハ白布ヲ以テ覆フ	濃紺又ハ黒羅紗	長襟上ニ止ム裾口ヲ裂クコト五寸之 二鈕釦各四箇ヲ附シ兩股ニ各一箇ノ 物入ヲ附ス	濃紺又ハ黒羅紗但シ夏ハ白小倉	普通長袴兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス	濃紺又ハ黒羅紗	領章 徑三分ノ眞鍮略日章二箇ヲ附ス
同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上
如	如	如	如	如	如	如	如
圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖

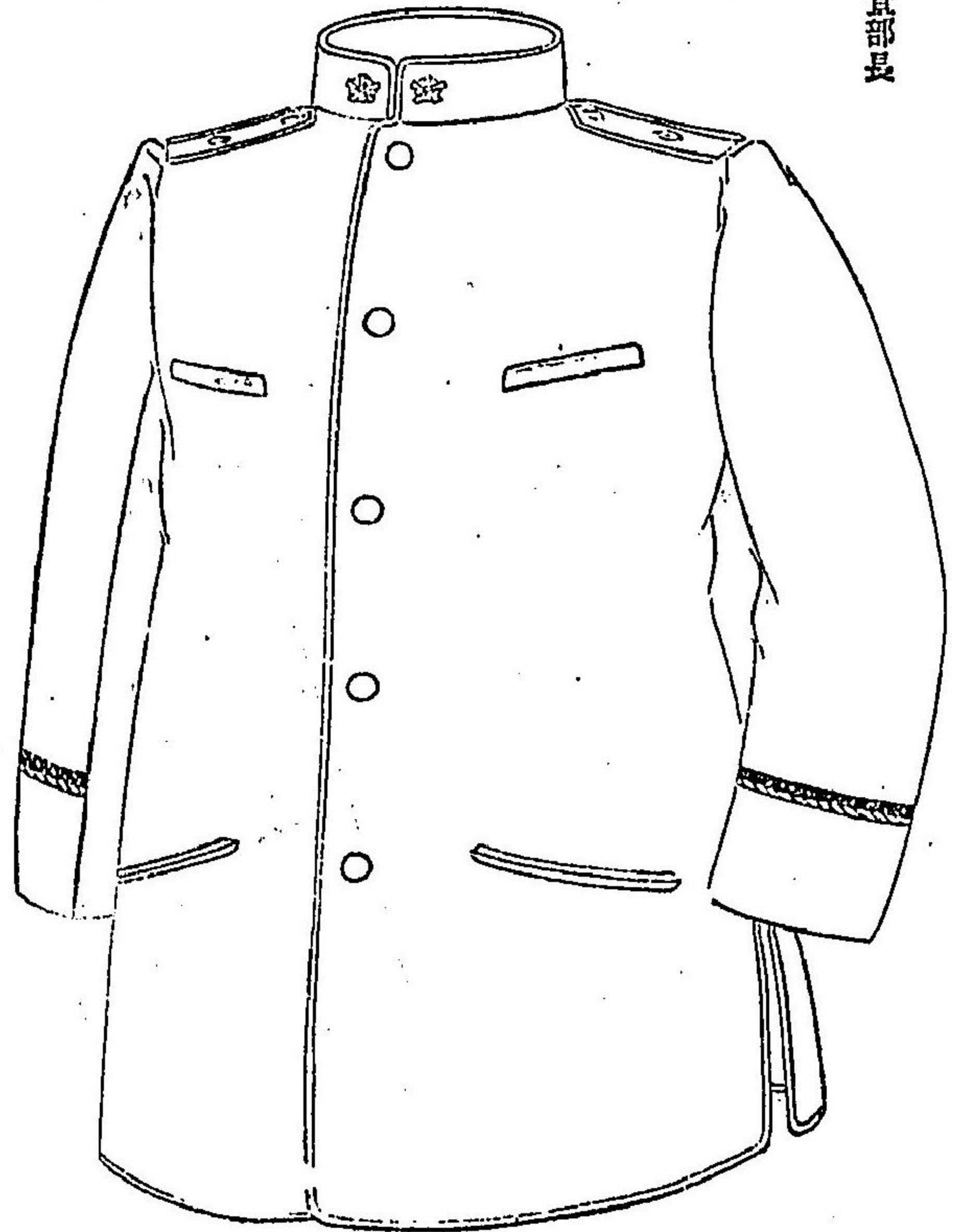
明治四十一年二月 勅令 第八號

巡查



四六

常装
梁馬助遊巡其部長

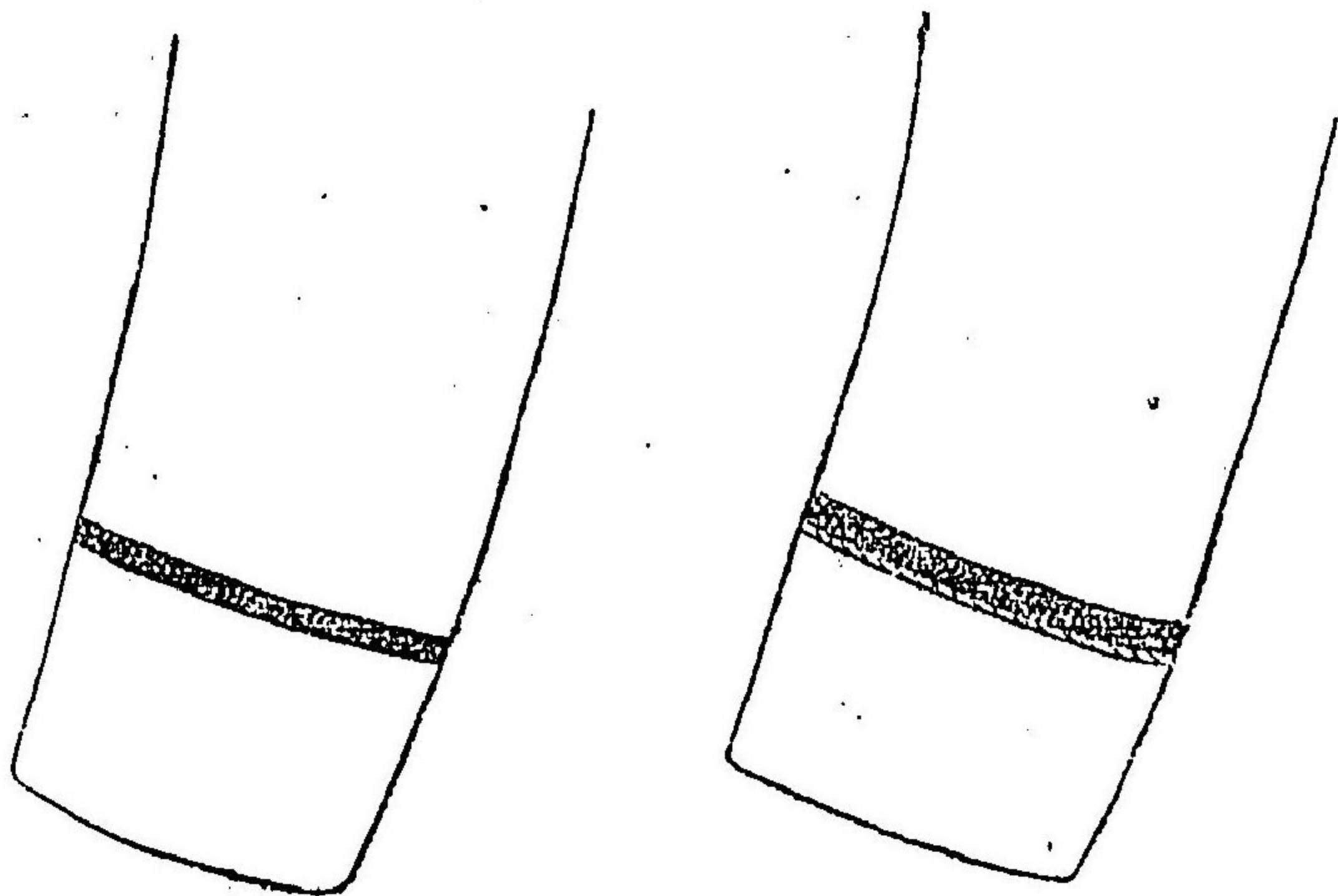


明治四十一年二月 勅令 第八號

四七

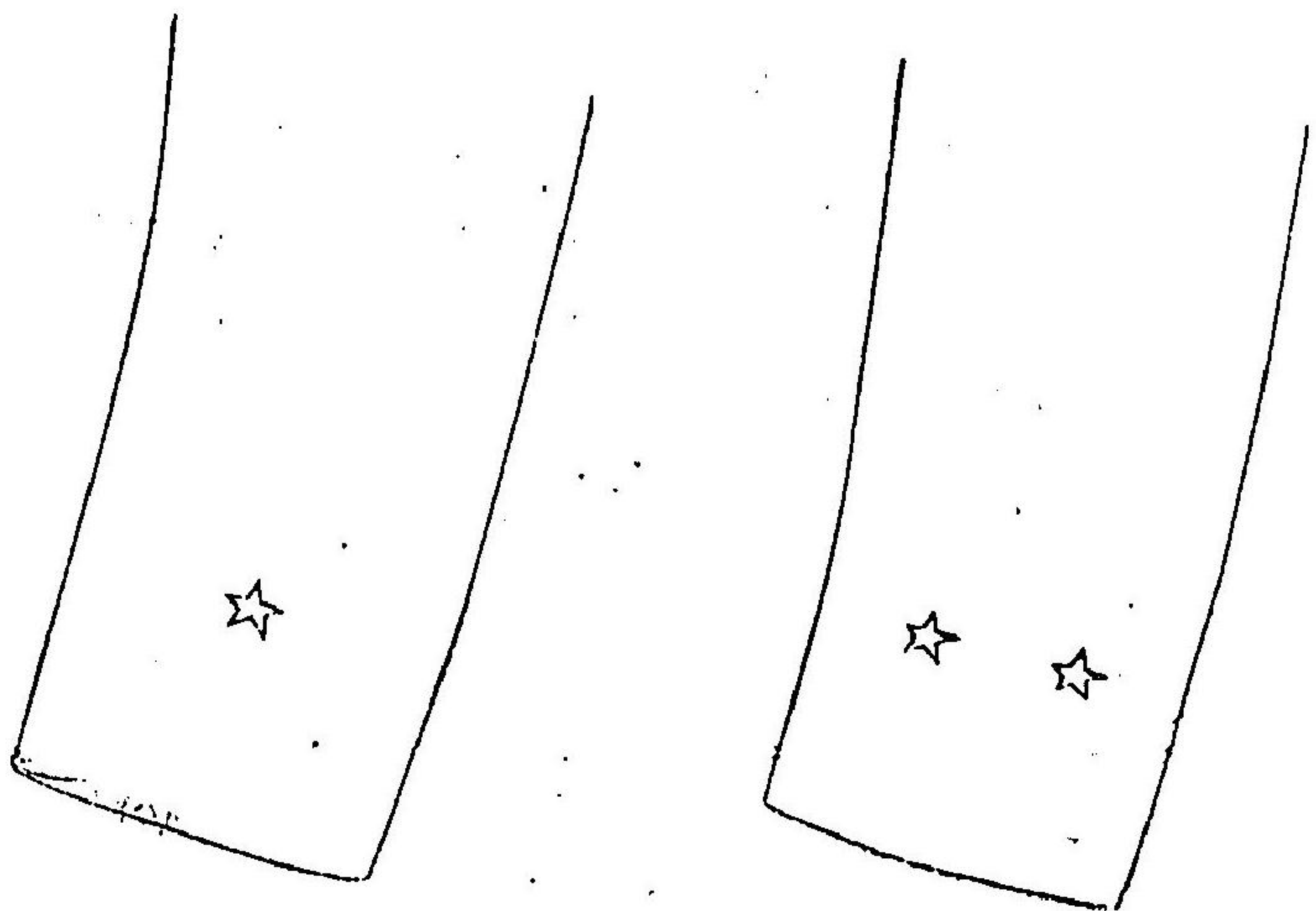
袖章
巡查部長

巡查

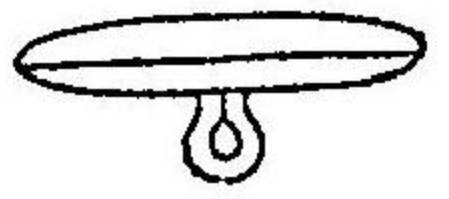
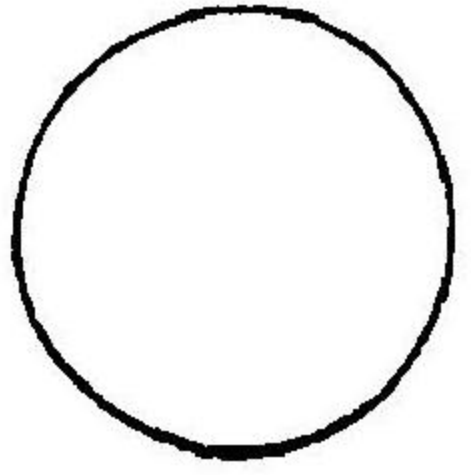


同夏衣
巡查部長

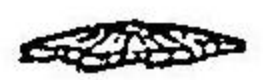
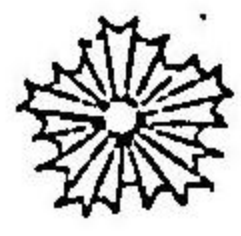
巡查



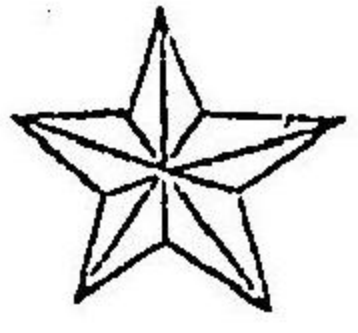
鈕釦



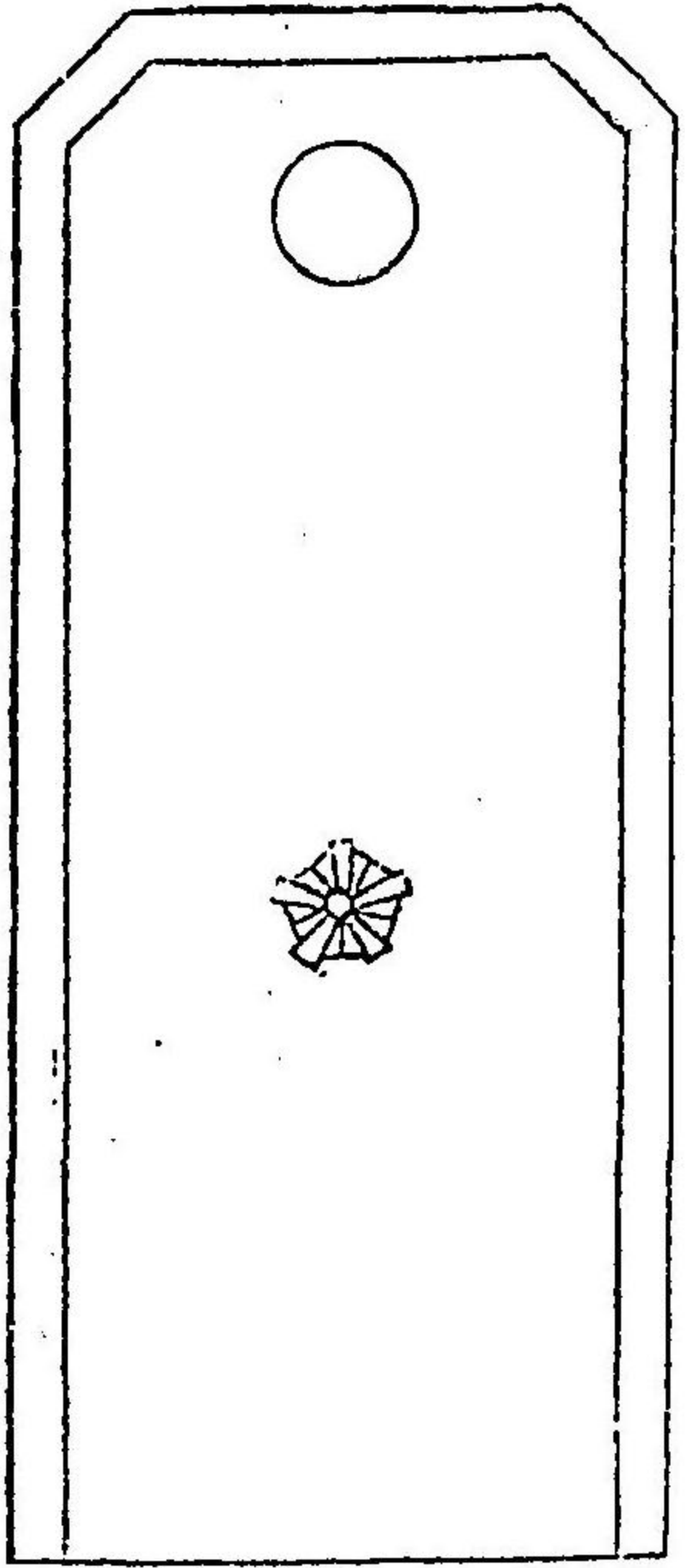
領章



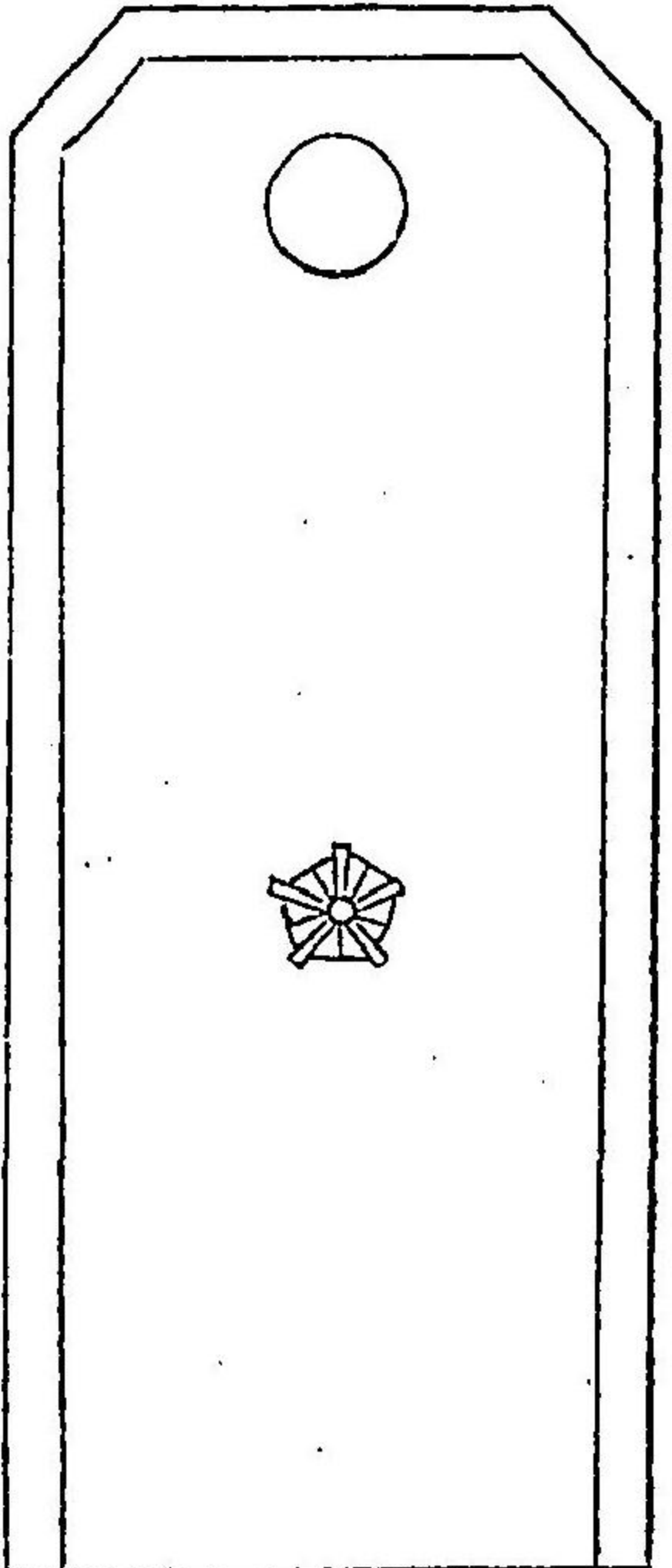
夏衣袖章



正肩章
巡查部長



巡查

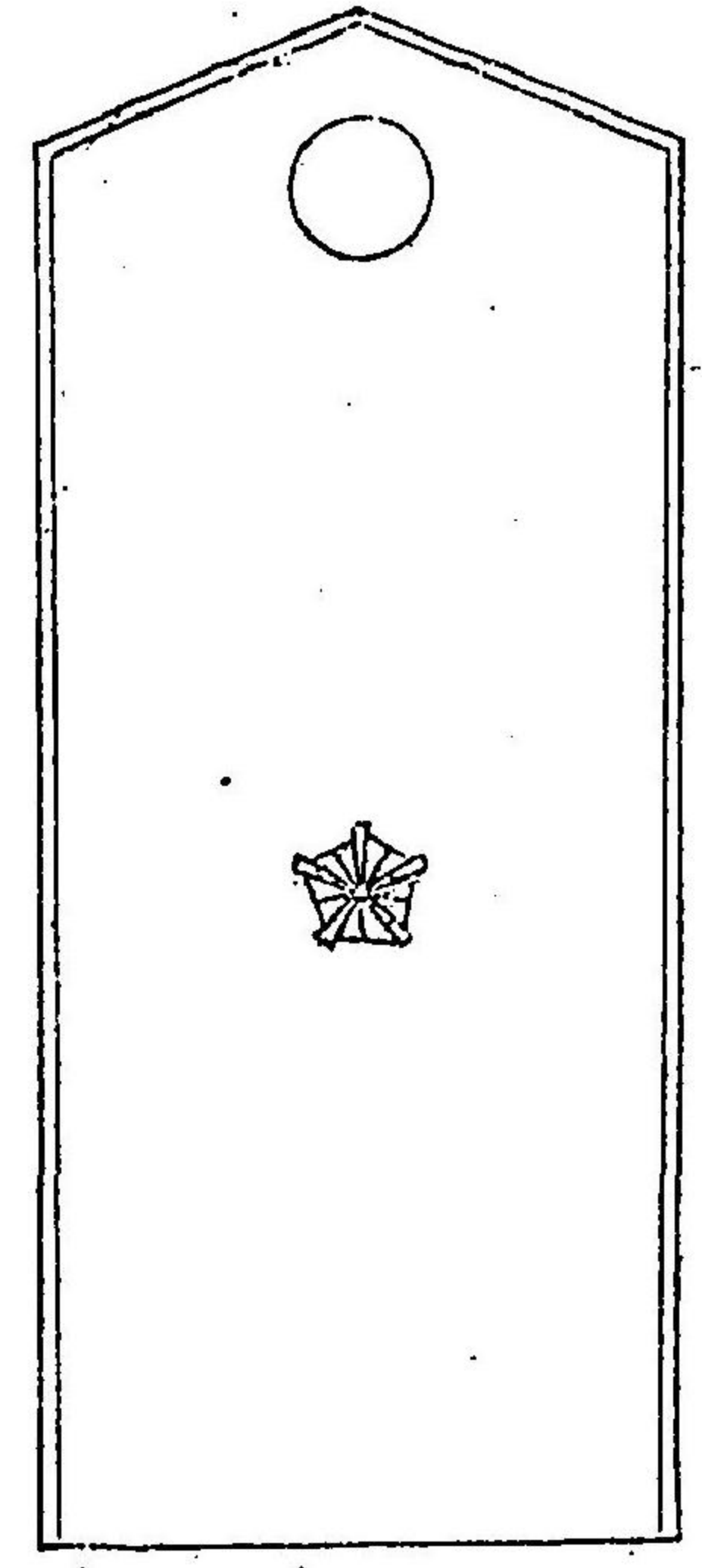
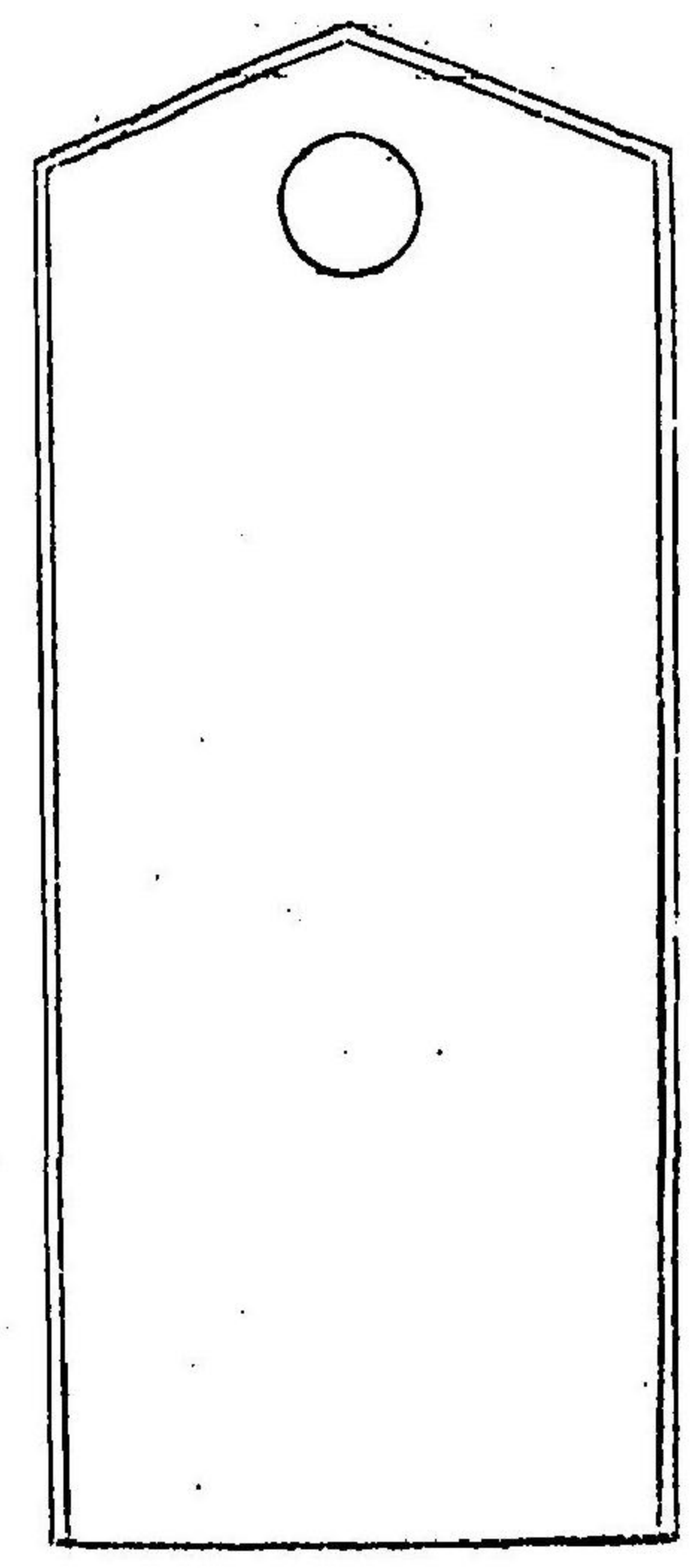


明治四十一年二月勅令第八號

略肩章

巡查部長

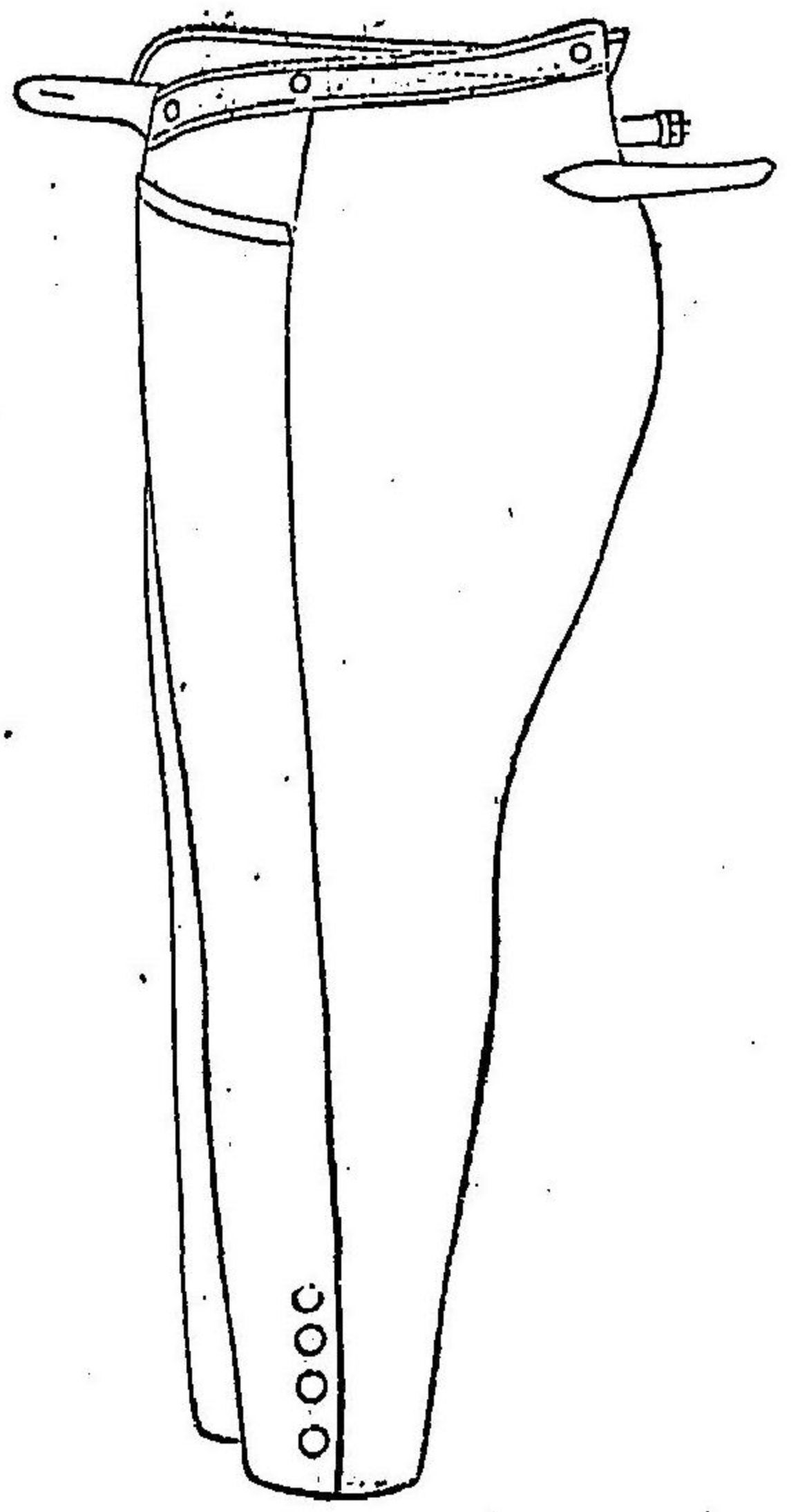
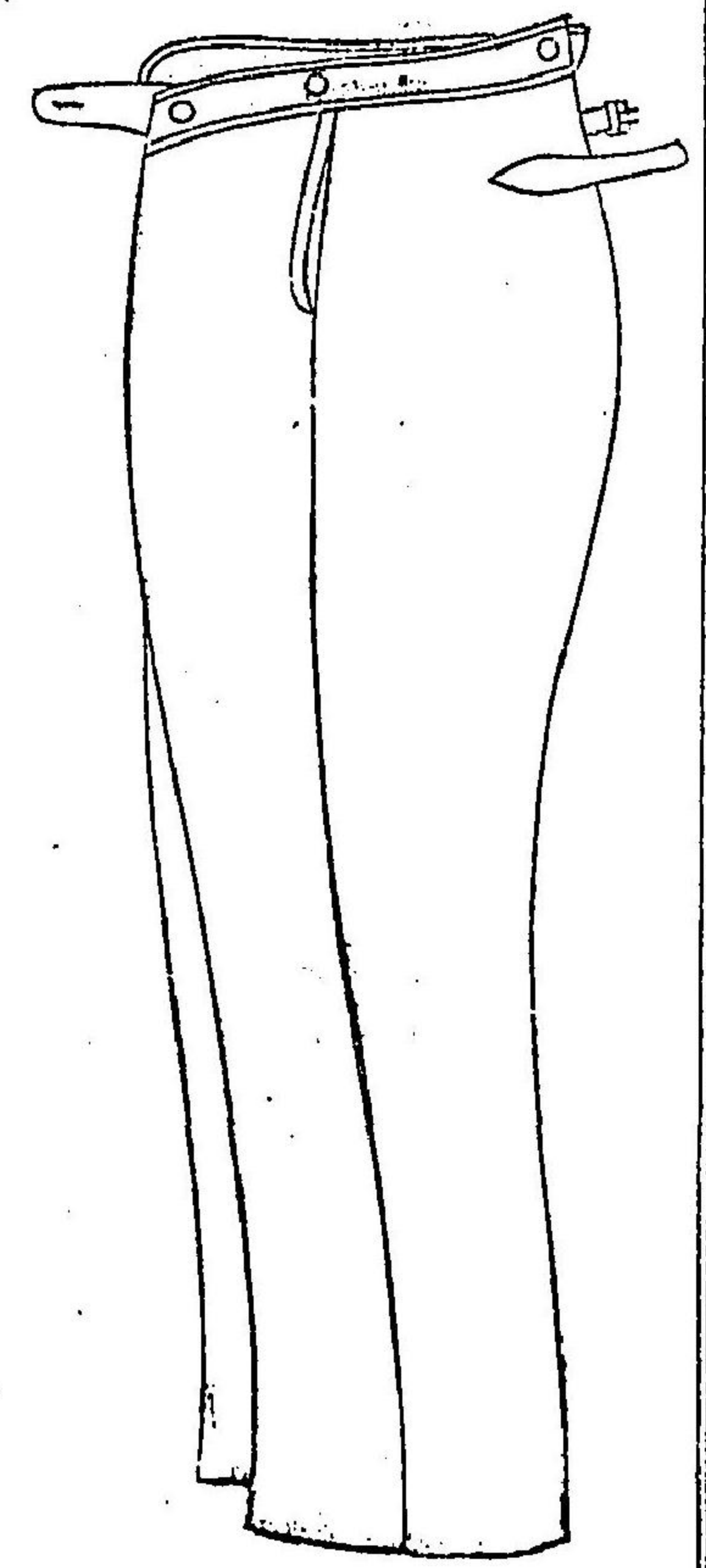
巡査



五三

袴

短袴

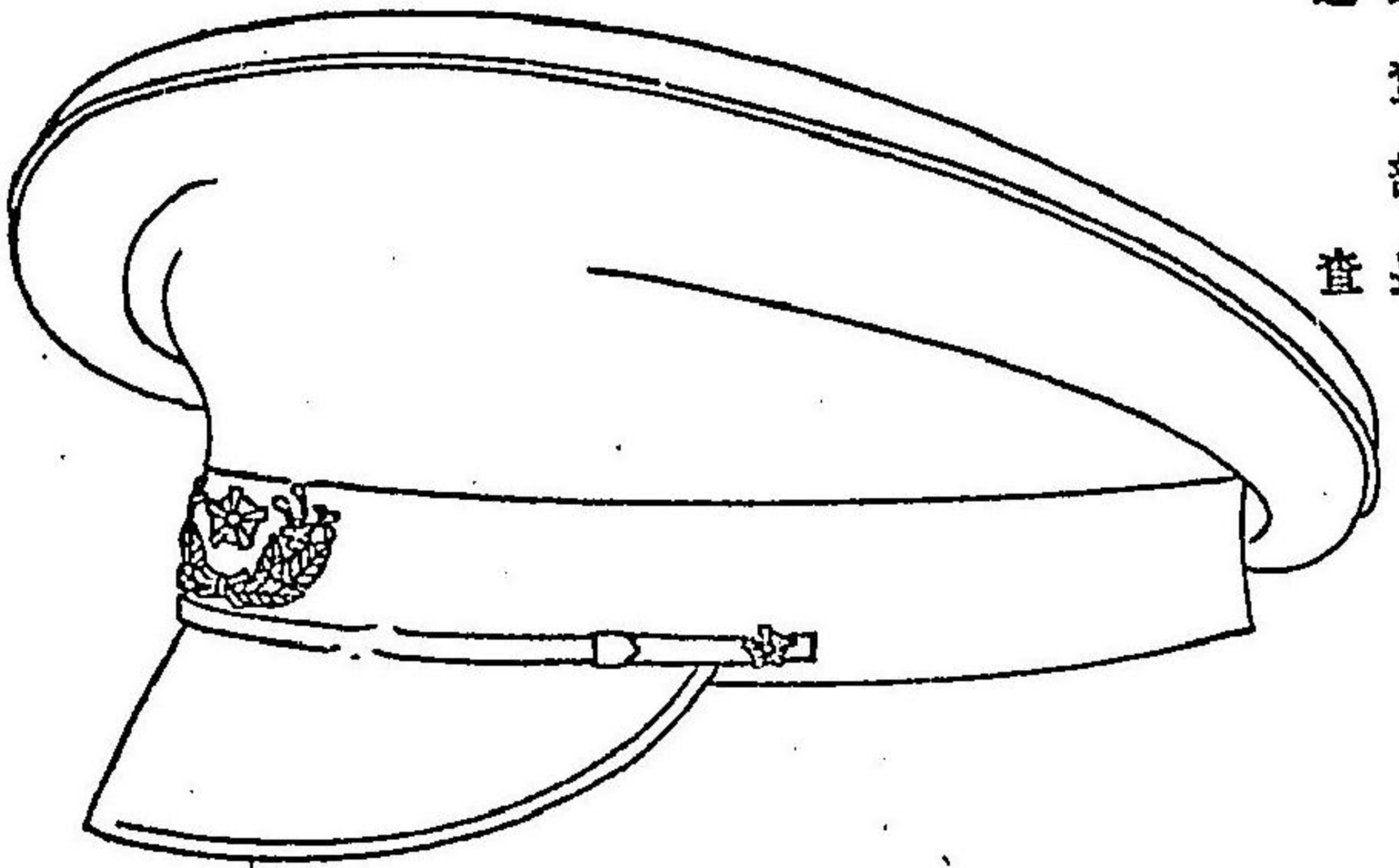


明治四十一年二月勅令第八號

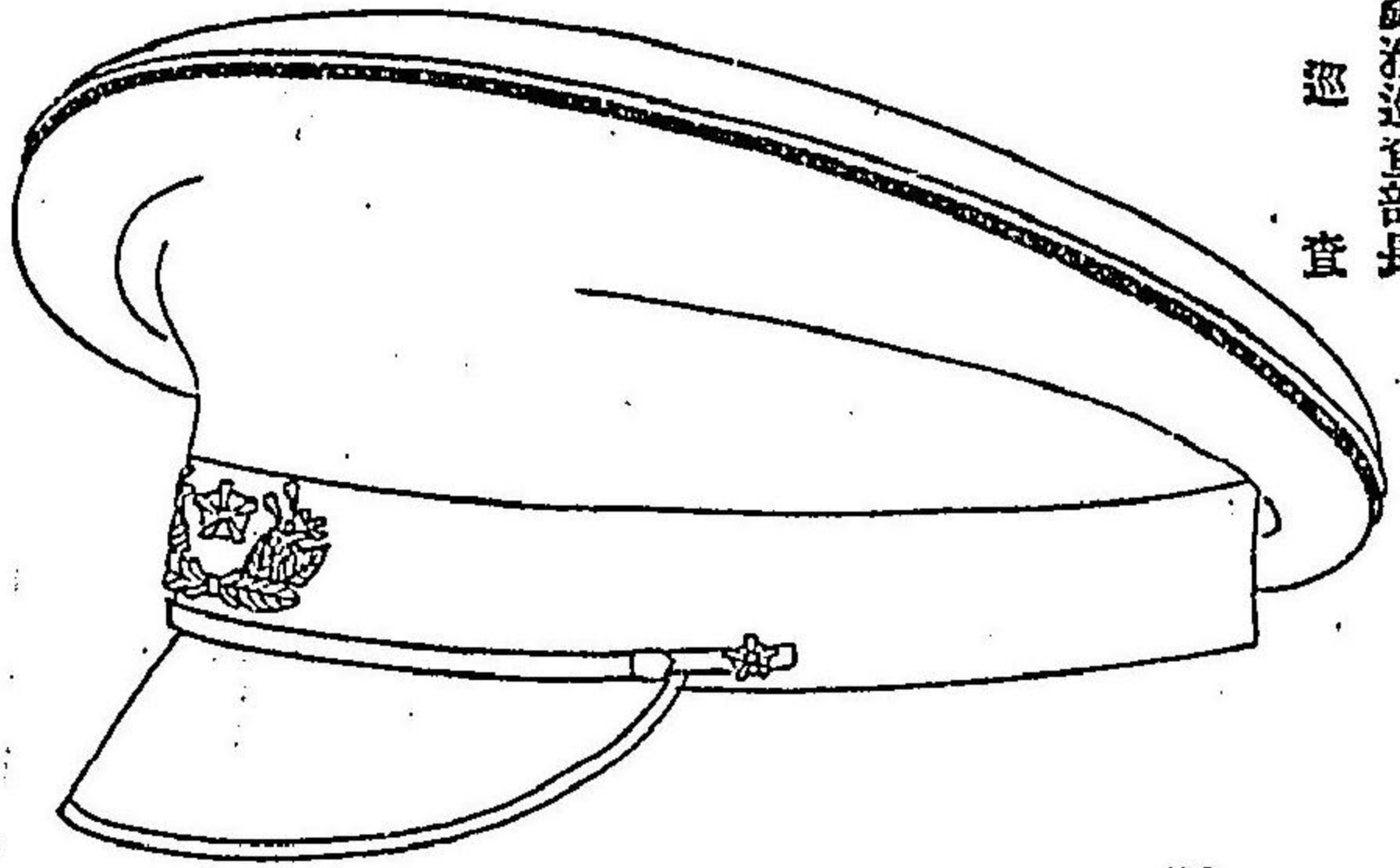
五三

帽

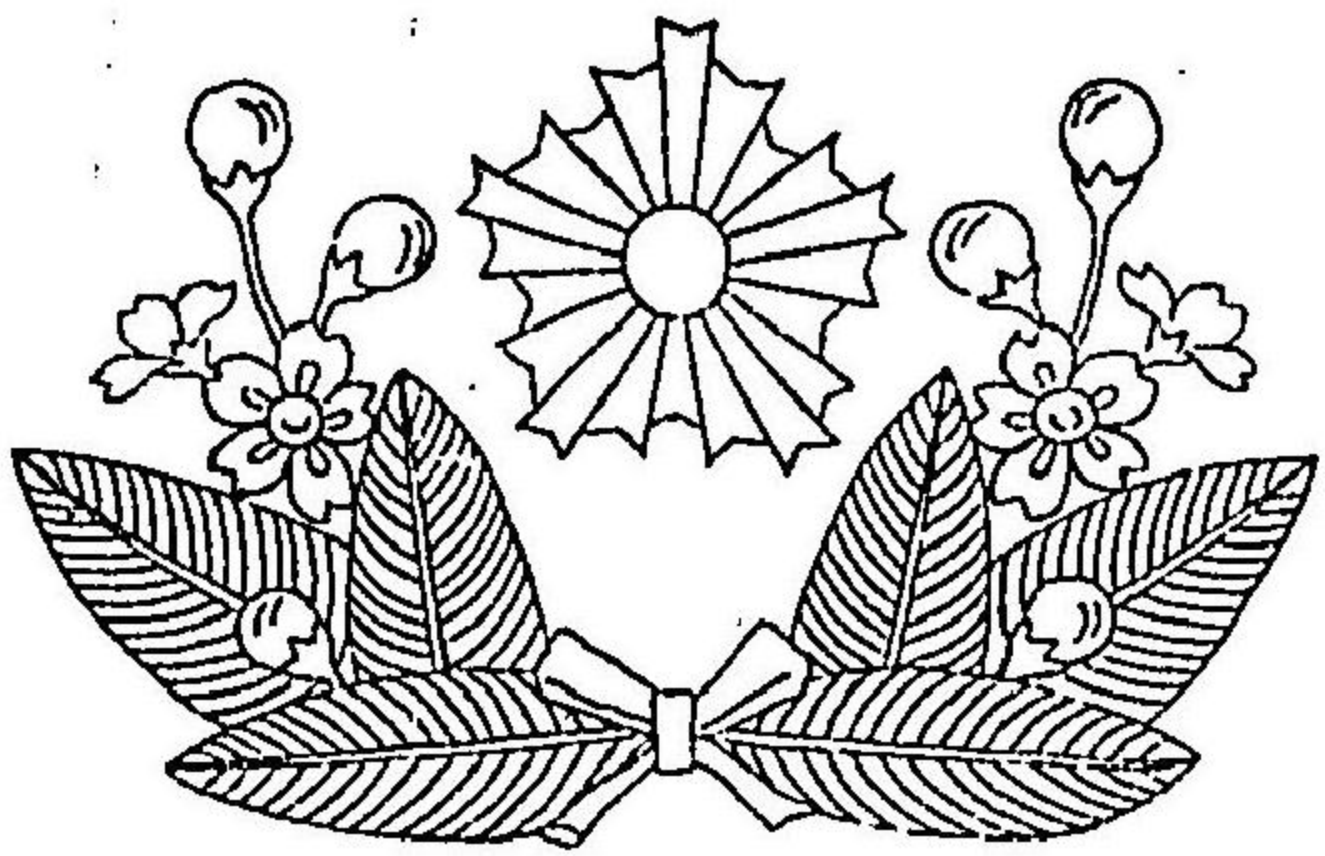
巡查部長
巡查



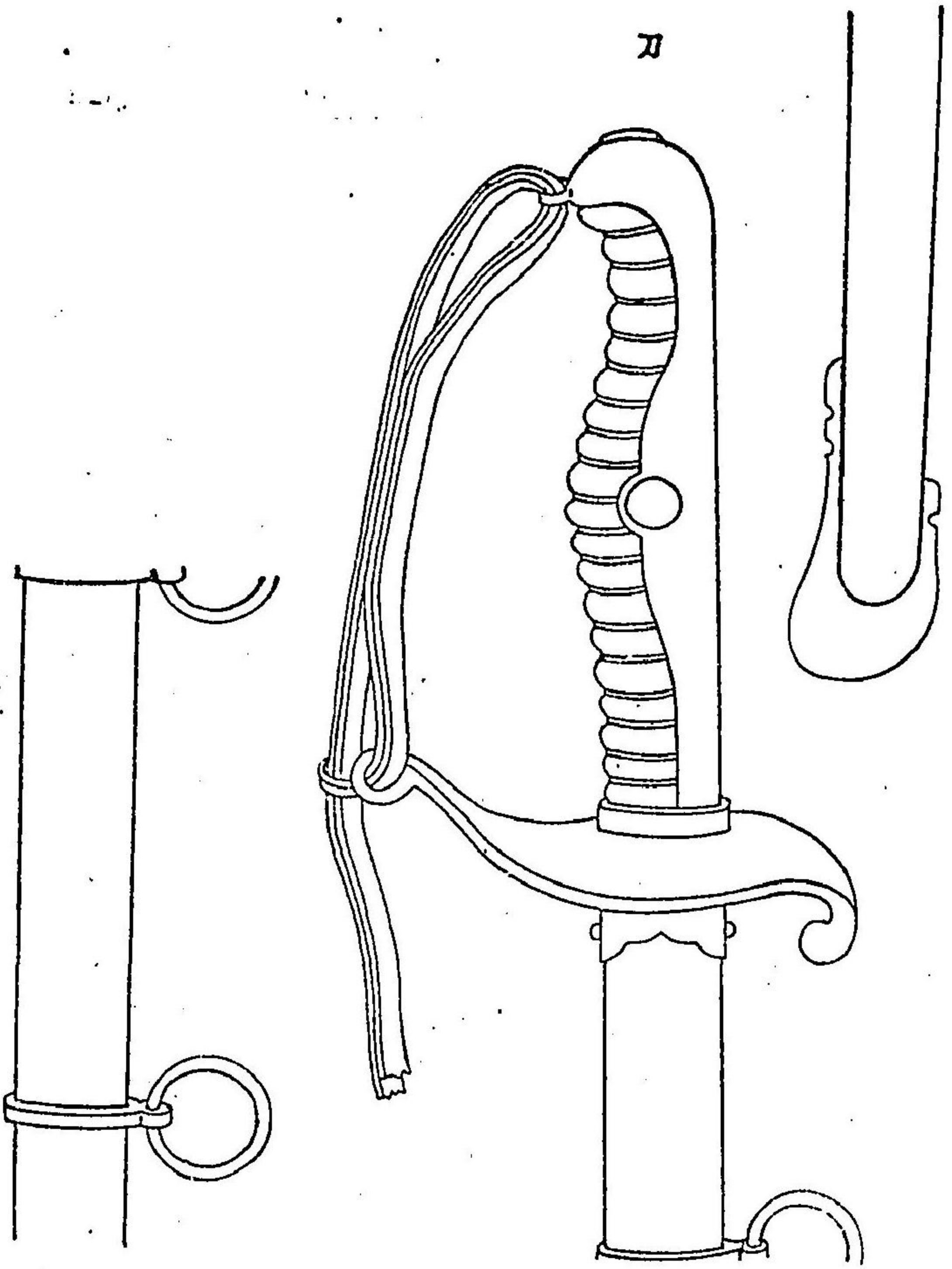
同
巡查
榮勳務巡查部長



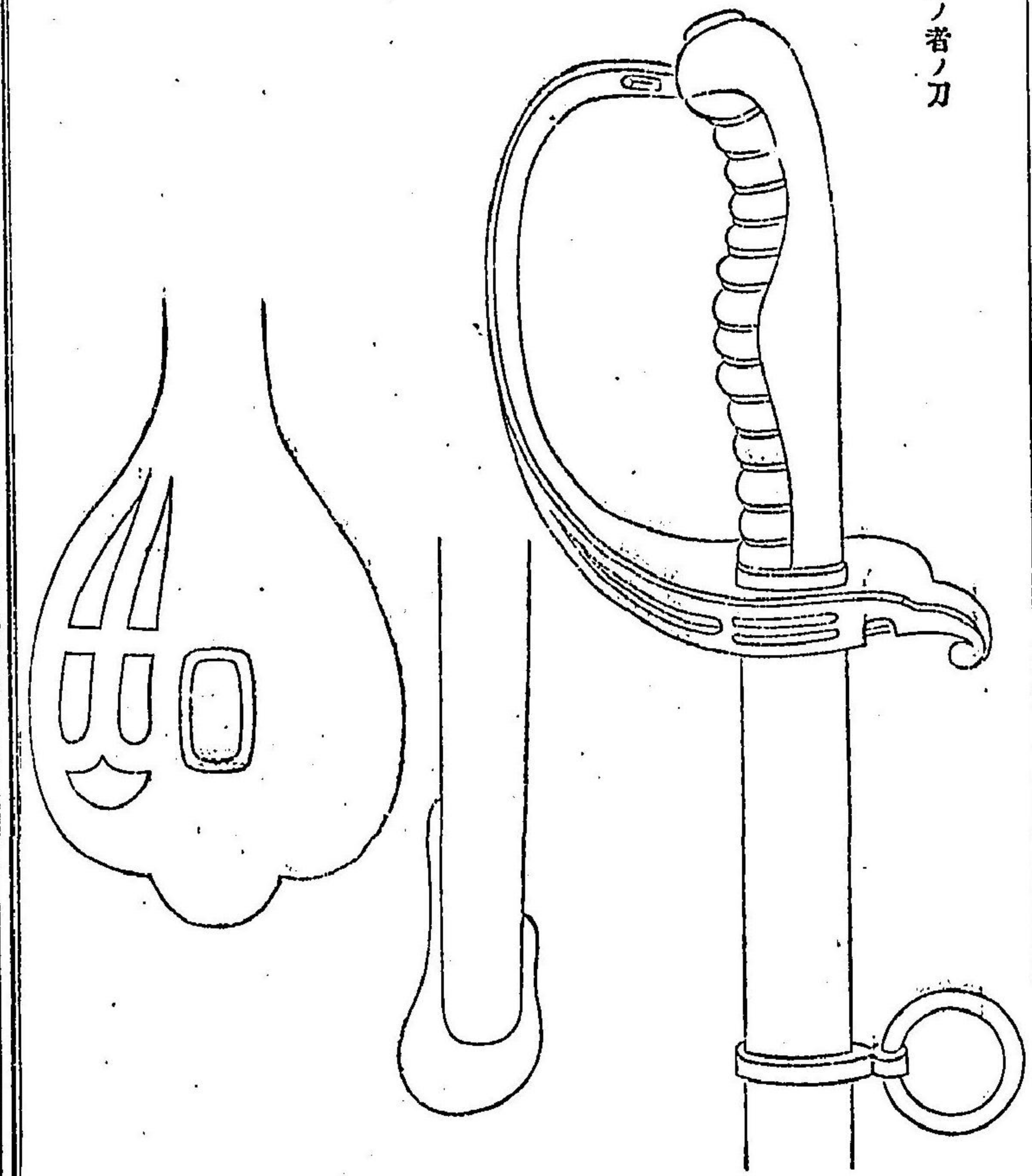
帽徽章



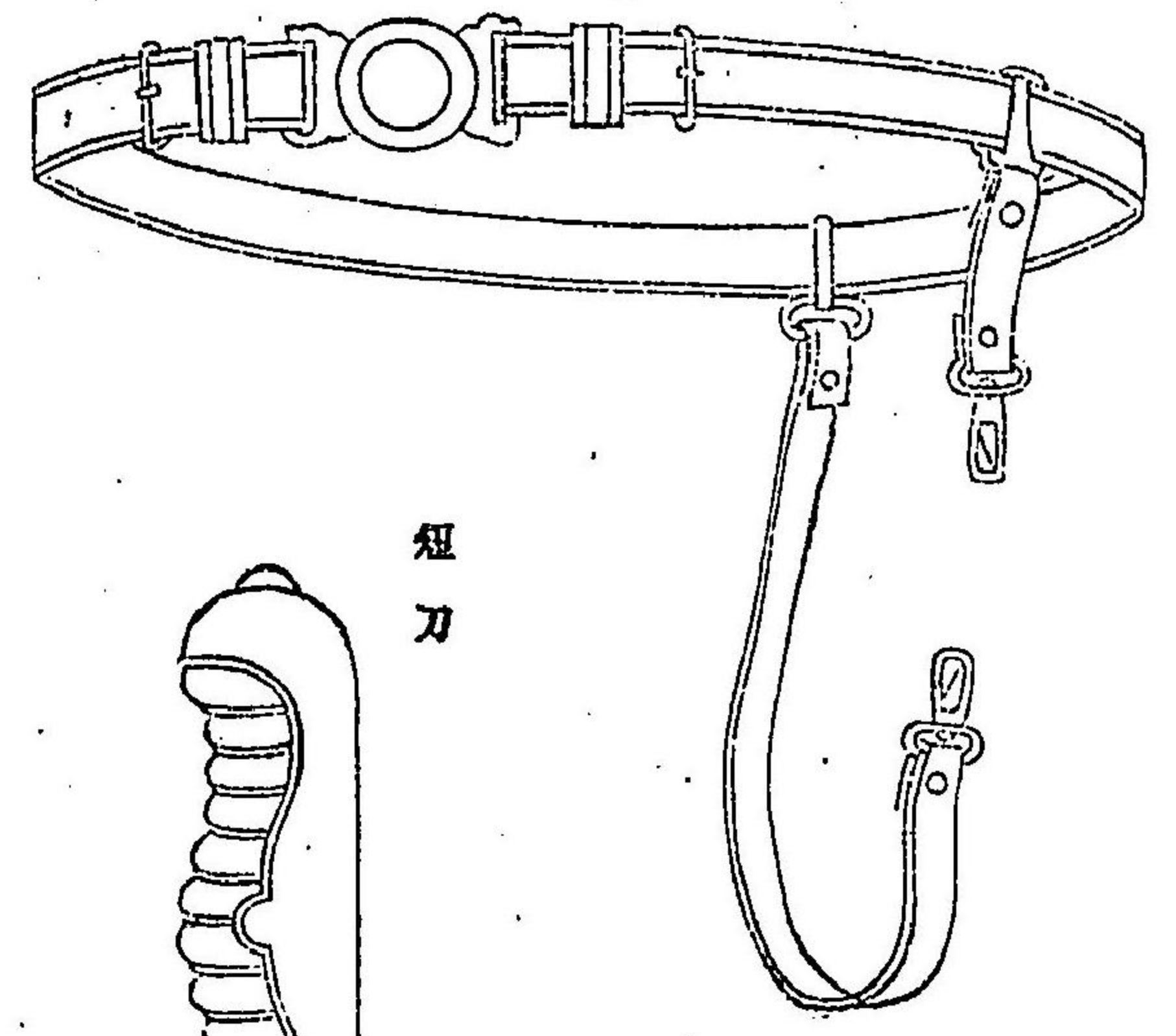
刀



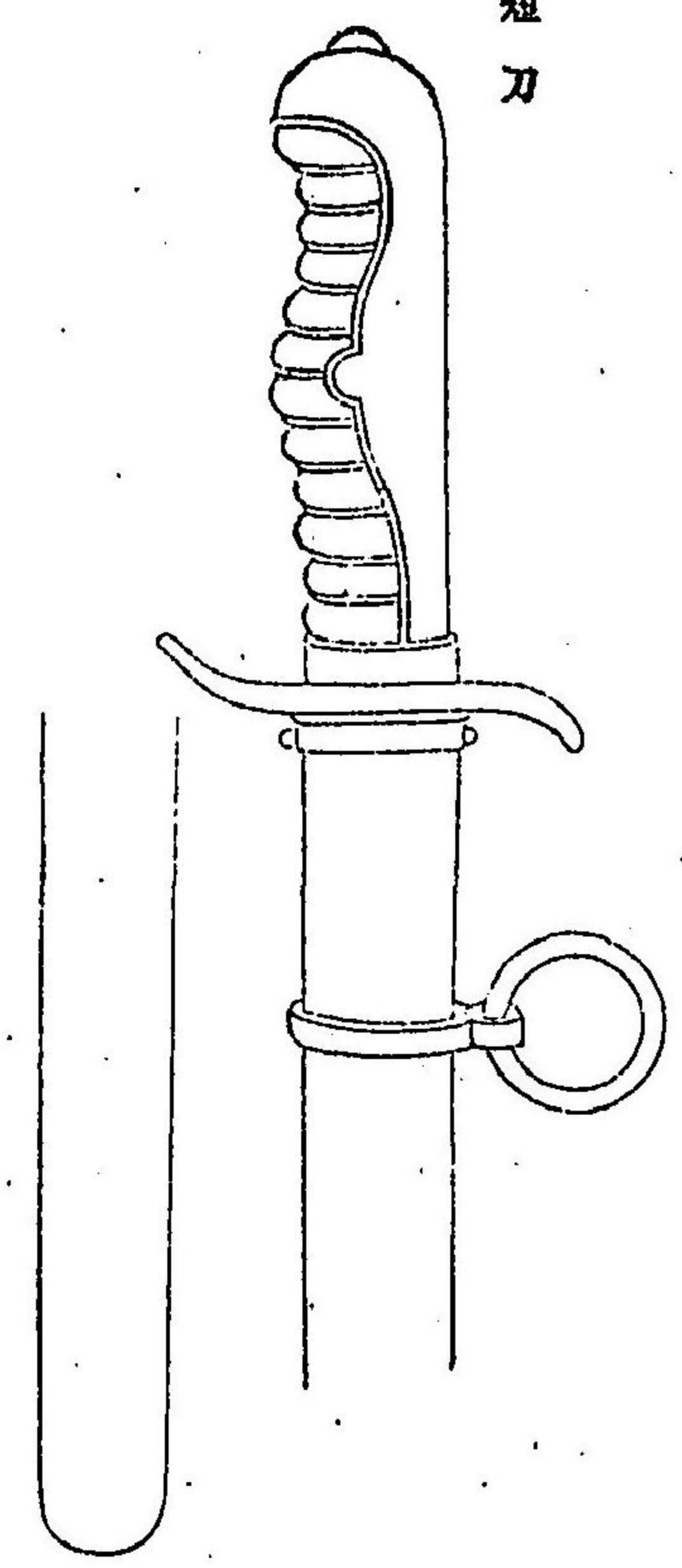
梁馬動務ノ者ノ刀



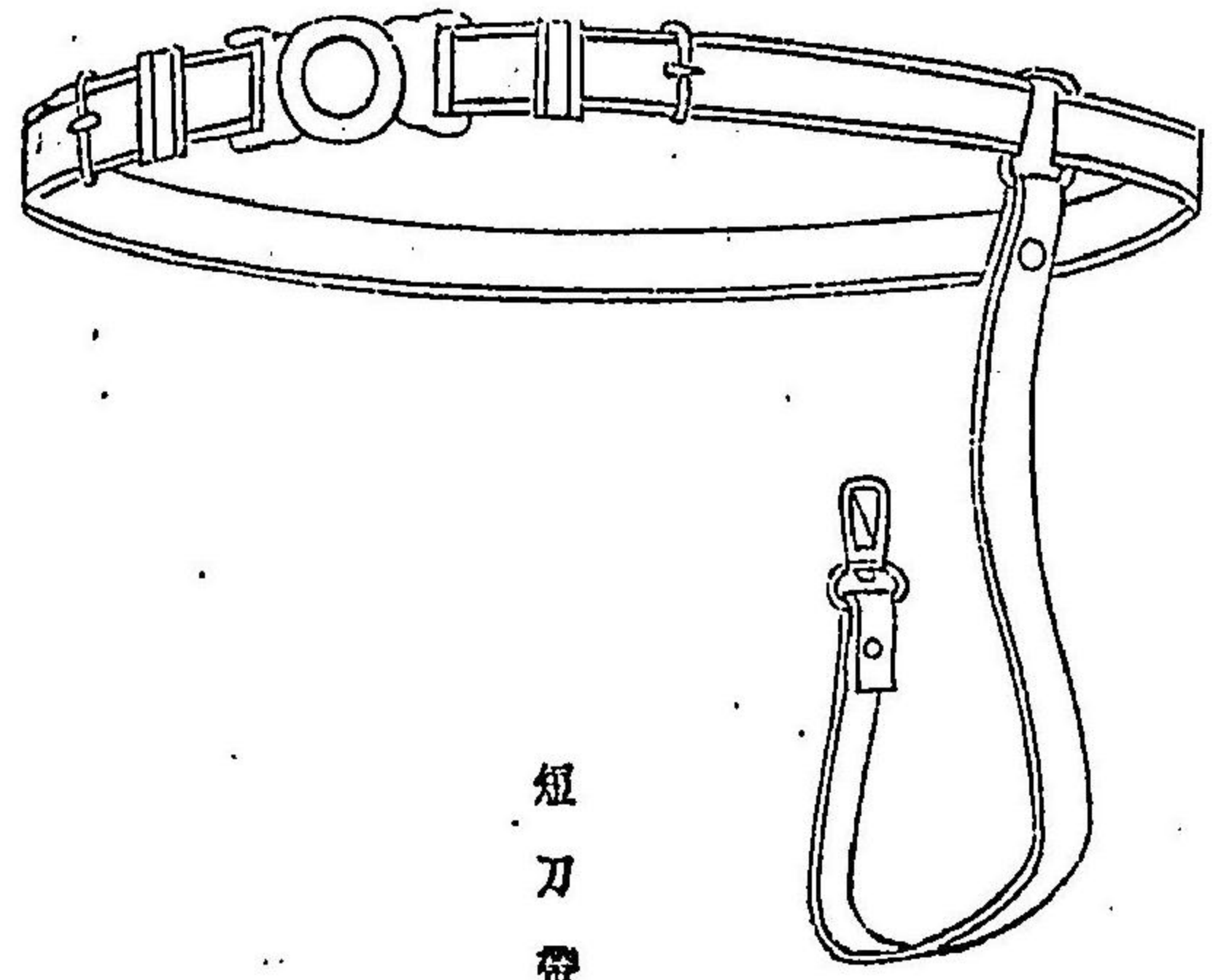
刀帶



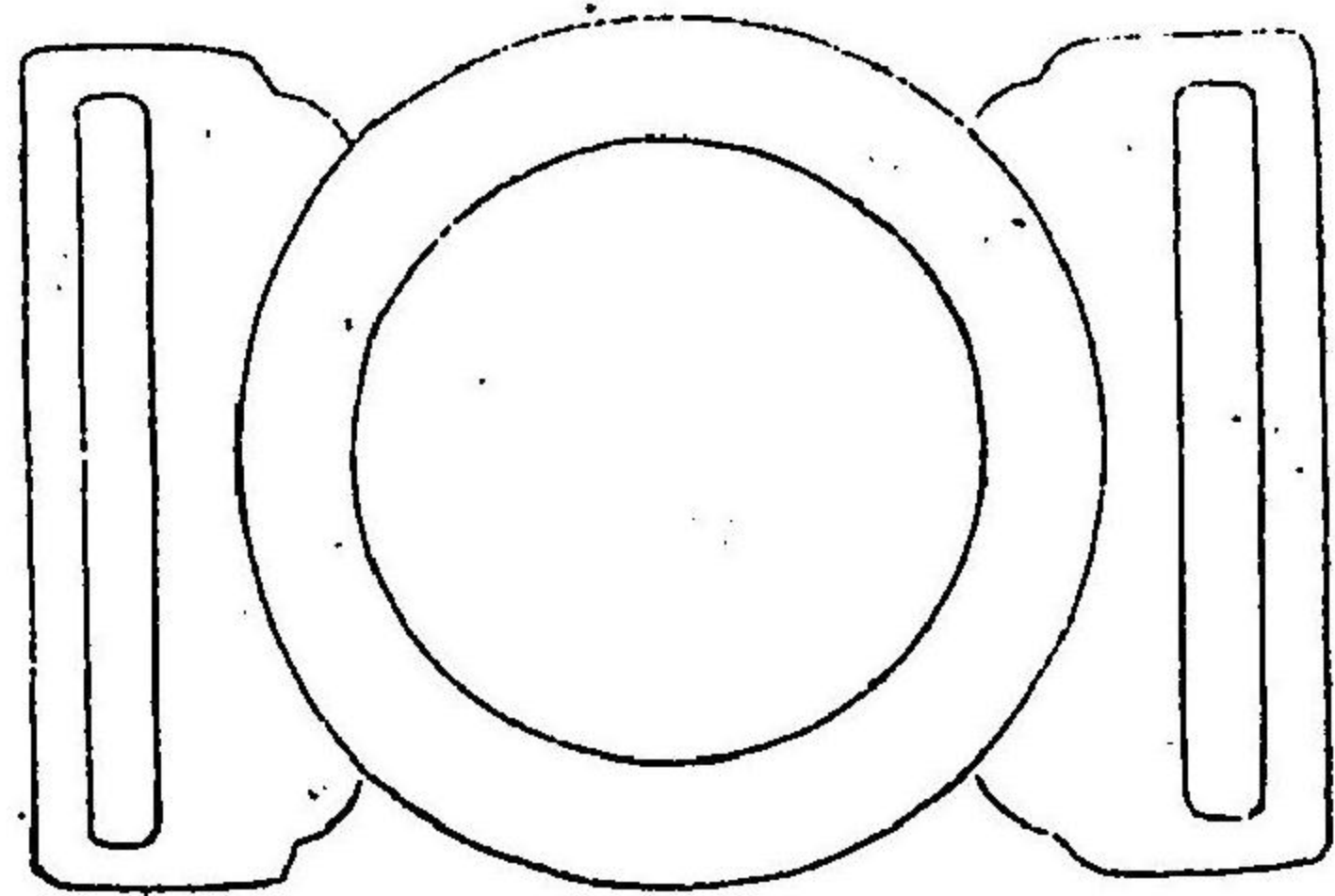
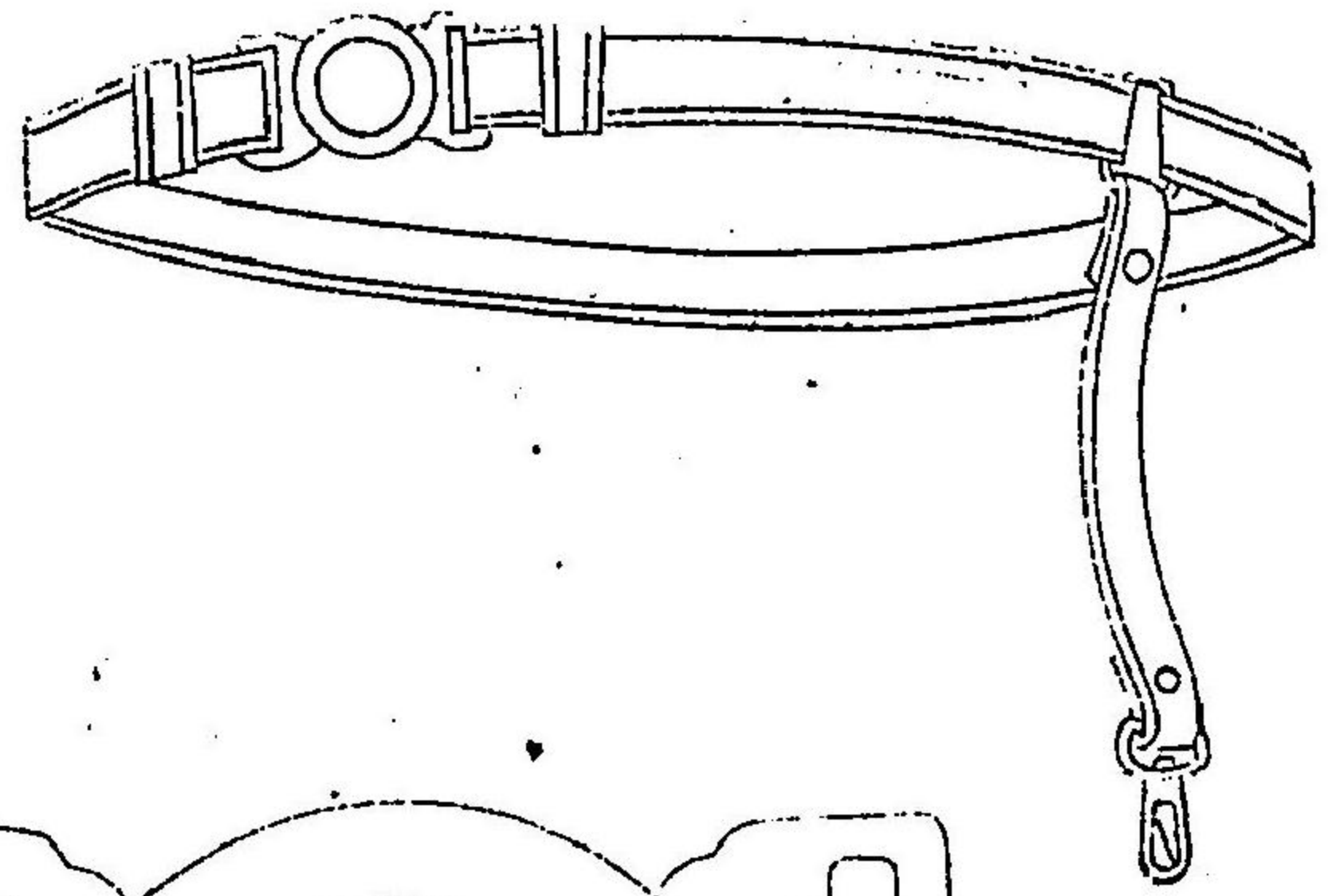
短刀



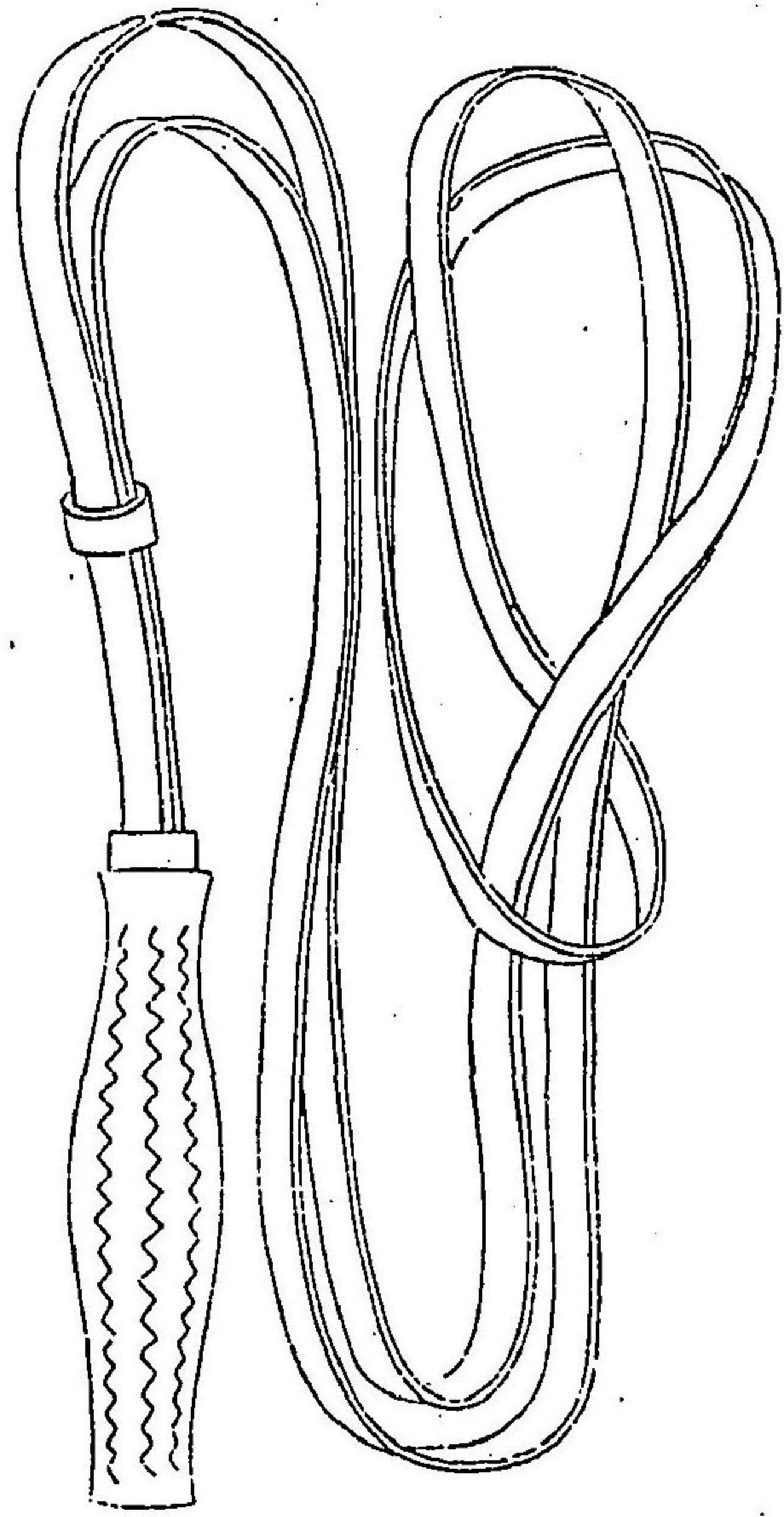
乘馬勤務ノ者ノ刀帶



短刀帶

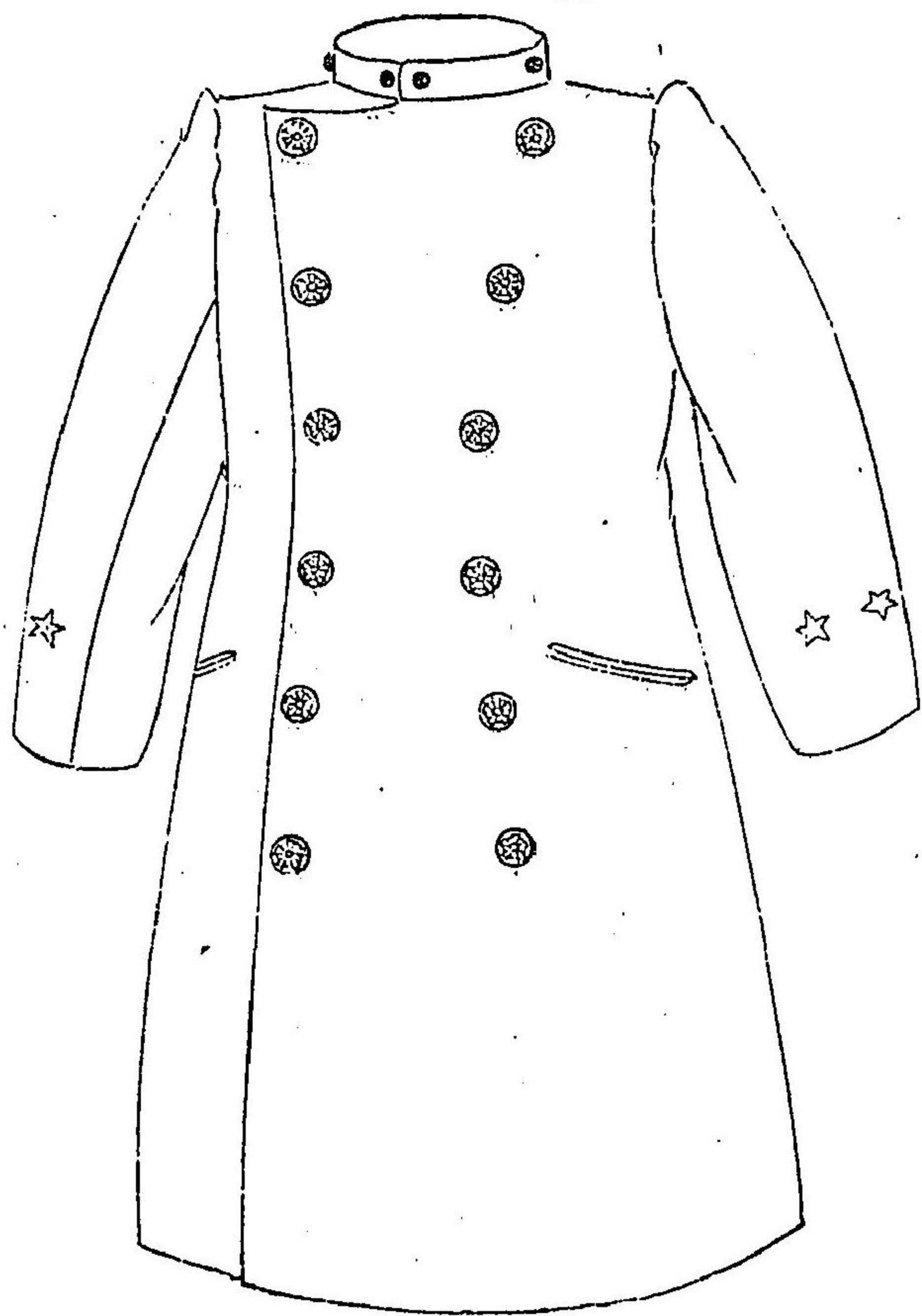


刀 緒



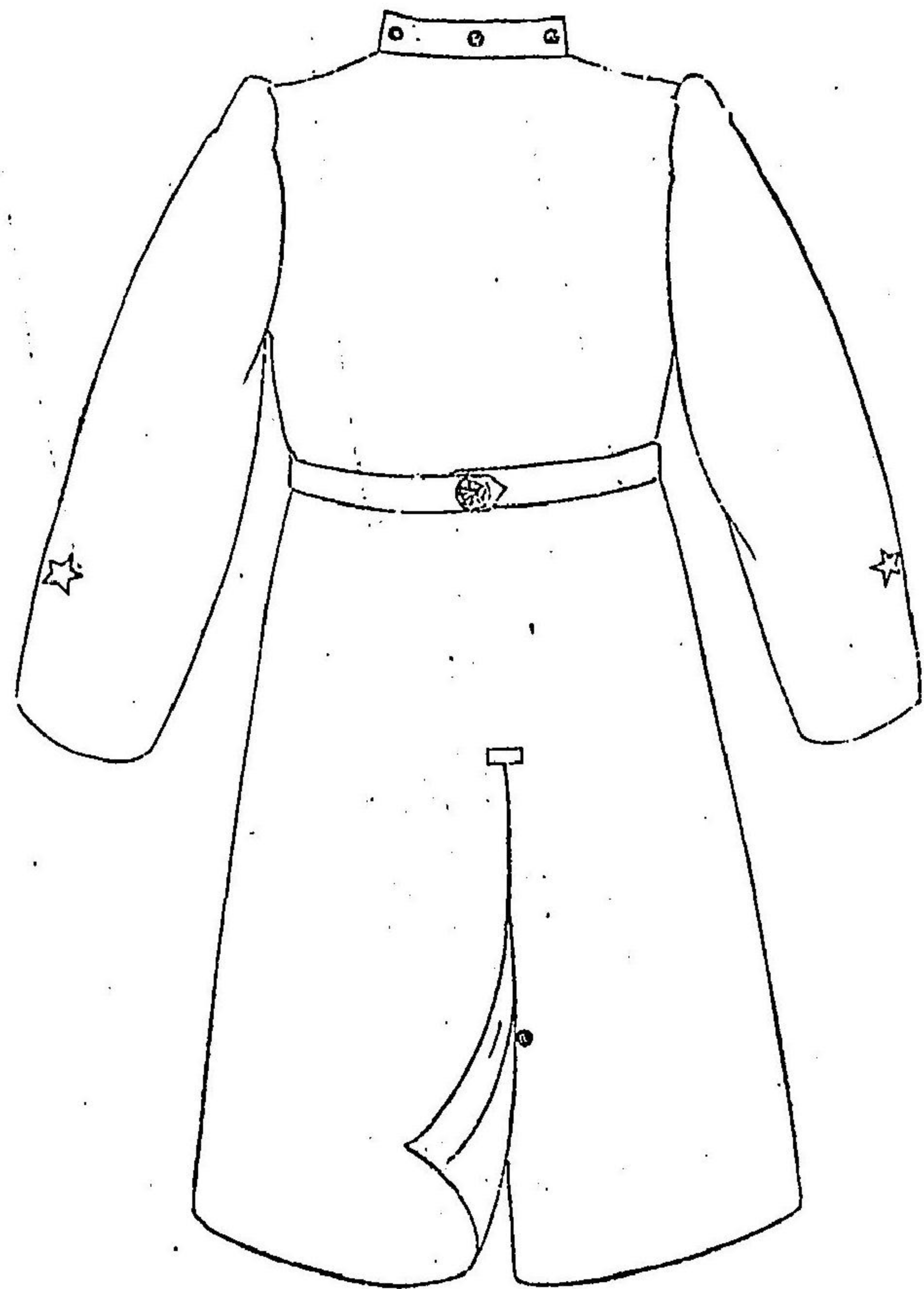
明治四十一年二月勅令第八號

外 套 甲 種
巡 査 部 長



六〇

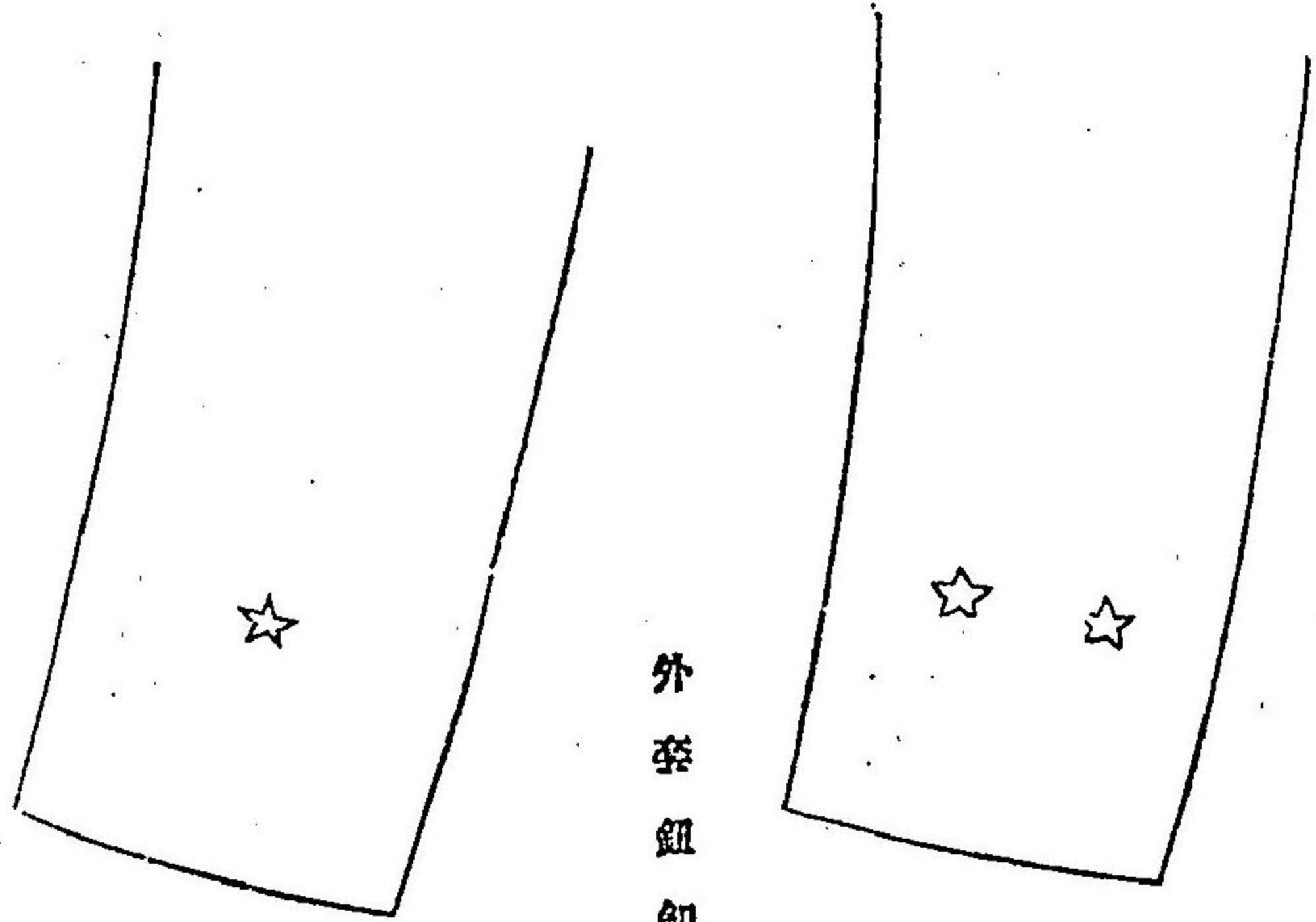
明治四十一年二月勅令第八號



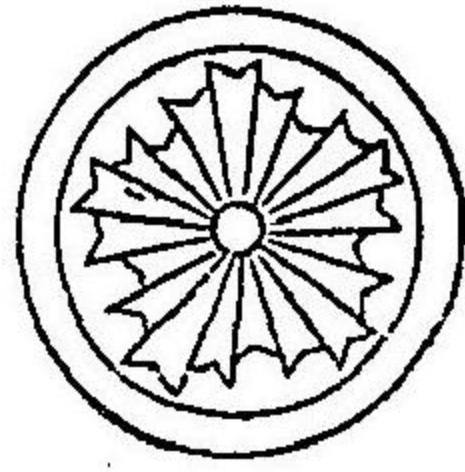
六一

袖章
巡查部長

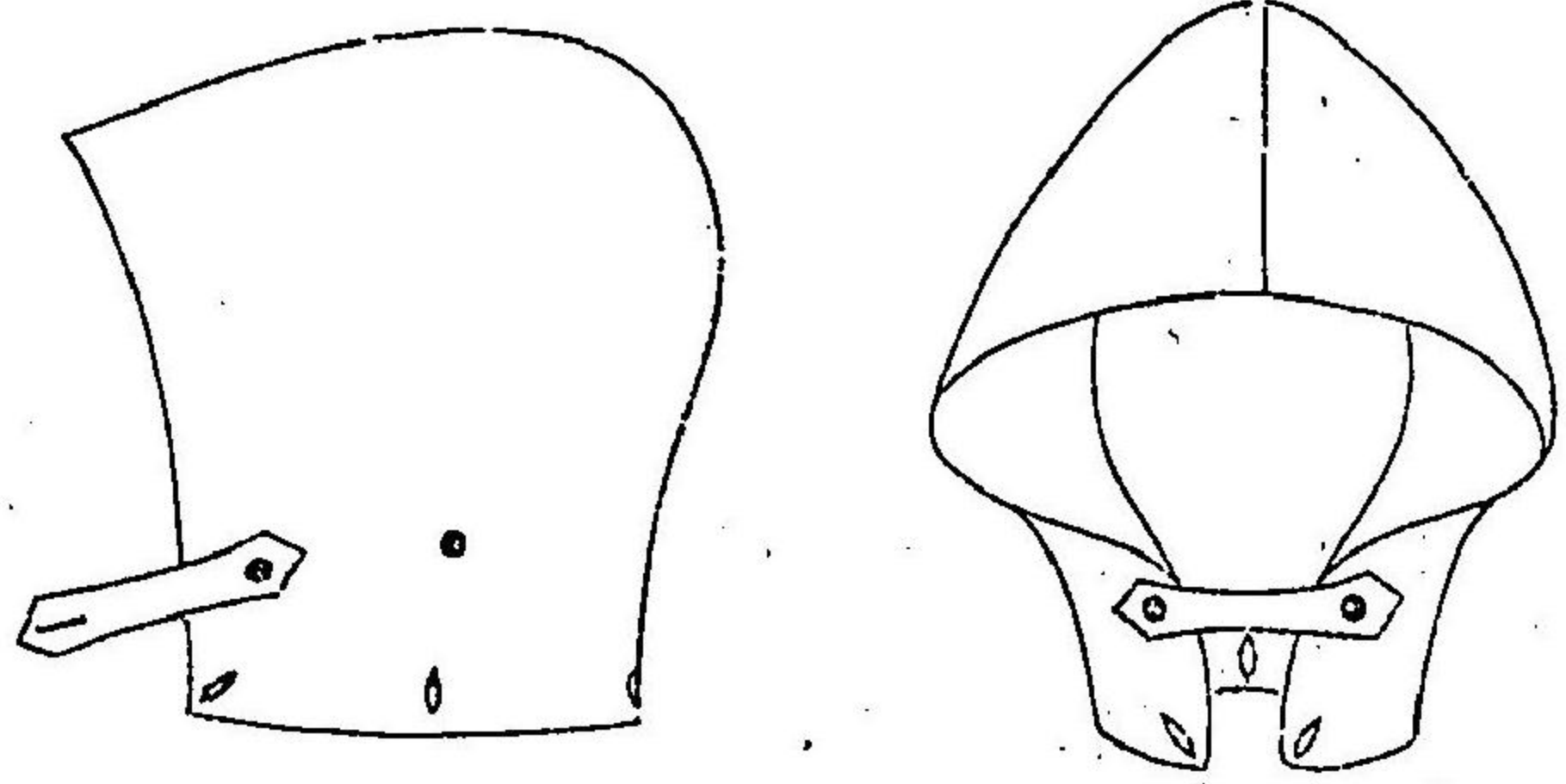
巡查



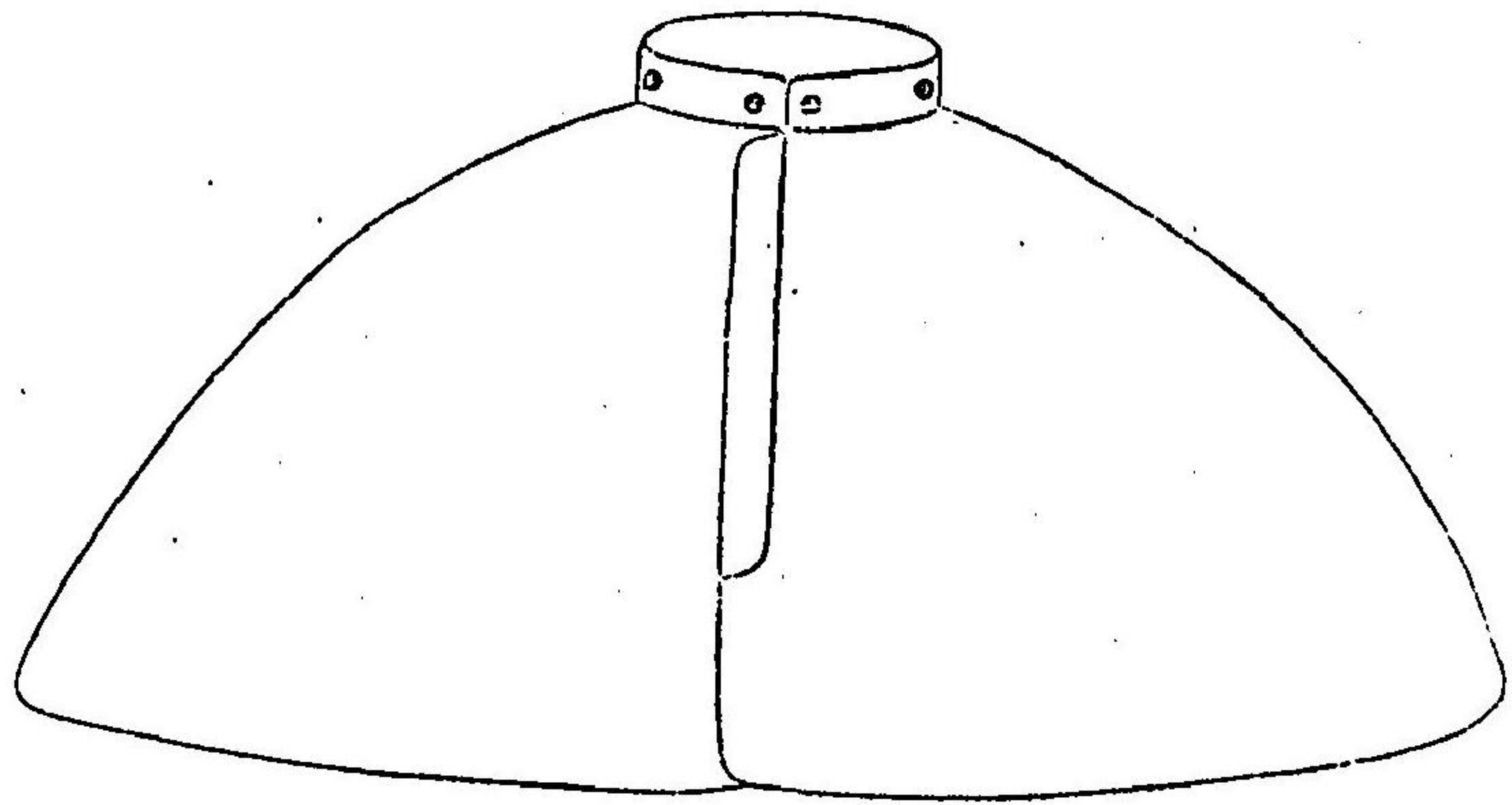
外装鈕釦



覆面



外套
乙種



附則

本令ハ明治四十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍六週間現役兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月十三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第九號(官報二月十四日)

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ其ノ在職地師管内ノ歩兵隊陸軍中隊及清國ニ在リニ編入シ服役セシムニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ハ毎年六月一日乃至十月一日ノ間ニ於テ入營セシム但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ入營期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年ニ於テ服役セシム
- 第三條 戰時事變ニ際シテハ前二條ノ規定ニ拘ラス服役セシムルコトヲ得
- 第四條 六週間現役兵ノ服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第五條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在リテ其ノ責ニ任スハ隊長以下同シ
- 第六條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹ナル者ニハ聯隊長其人成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ

認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第七條 六週間現役ニ服スヘキ者ノ身體検査ハ入營セシムヘキ年ニ於テ徵兵検査規則ニ依リ之ヲ行フ

第八條 六週間現役兵ニシテ傷疾疾病ノ爲其ノ役ニ堪ヘサル者ハ聯隊長之ニ退營ヲ命スルコトヲ得

第九條 六週間現役兵ニハ現役兵トシテノ給料ヲ給セス

検査ノ爲往復ノ旅費及入營旅費ハ官給トス

第十條 臺灣、樺太、韓國又ハ清國ニ在職シ六週間陸軍現役ニ服スヘキ者ニ付テハ臺灣總督府民政長官、樺太廳長官、理事廳理事官、關東都督府民政長官又ハ領事官ヲシテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍豫備員條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月十三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第十號(官報二月十四日)

海軍豫備員條例中左ノ通改正ス

海軍豫備員條例中「海軍豫備大機關士ヲ」海軍豫備機關大尉ニ、「海軍豫備中機關士ヲ」海軍豫備機

關中尉ニ「海軍豫備少機關士」ヲ「海軍豫備機關少尉」ニ「海軍豫備少機關士候補生」ヲ「海軍豫備機關少尉候補生」ニ改ム

第八條ノ二 外國ノ海技免狀ヲ有シ外國船舶ノ職員タル經歷アル者帝國ノ海技免狀ヲ併有スルトキハ前四條ニ掲クル者ニ準シ之ヲ海軍豫備員ニ採用又ハ任用スルコトヲ得

第十一條第一項中海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ヲ「海軍砲術學校、海軍水雷學校又ハ海軍工機學校」ニ改メ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第五條第二號、第六條第二號、第七條第二號、第八條第二號及第八條ノ二ニ該當スル者其ノ技倆特ニ拔群ナルトキハ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ之ヲ海軍豫備員ニ採用又ハ任用シ必要ナル教育ヲ受ケシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第七十九號海軍豫備員條例(明治三十七年六月二十九日官報)抄錄
第十一條第一項
海軍豫備員ノ採用、任用又ハ進級ハ海軍砲術練習所、海軍水雷術練習所又ハ海軍機關術練習所ニ於テ必要ナル教育ヲ施シ試験ヲ爲シ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ行フモノトス但シ商船學校卒業者ヲ候補生ニ採用スルハ此ノ限ニ在ラス

朕暴風雨標條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月十三日

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 海軍大臣 男爵齋藤實
- 内務大臣 兼 遞信大臣 原敬
- 文部大臣 男爵牧野伸顯
- 外務大臣 伯爵林董

勅令第十一號(官報二月十四日)

暴風雨標條例

第一條 暴風雨ノ位置及進行ノ方向等ヲ船舶ニ周知セシメ航路ノ安全ヲ圖ル爲港務部、海軍望樓、海軍測器庫、要港部、燈臺、築港局及測候所ニ暴風雨標ヲ設置ス

第二條 暴風雨標ヲ設置スヘキ地方測候所及其ノ暴風雨標ノ位置ハ文部大臣之ヲ指定ス

第三條 前條ノ暴風雨標ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第四條 暴風雨標式ハ中央氣象臺長之ヲ定ム

第五條 暴風雨標ハ中央氣象臺ヨリノ警報ニ依リ之ヲ掲揚スヘシ

第六條 郡市區町村又ハ私人ニ於テ暴風雨標ヲ設置セムトスルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 暴風雨標ノ設置、廢止、變更及掲揚中止ハ其ノ所管大臣、臺灣總督、關東都督ニ於テ之ヲ告示スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍工廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第十二號(官報二月二十日)

海軍工廠條例中左ノ通改正ス

第十七條中「臨時艦裝委員」ヲ「必要ニ應シ艦裝員」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第七十一號海軍工廠條例(明治三十六年十一月六日官報)抄錄

第十七條 海軍工廠ニ臨時艦裝委員ヲ置キ艦裝ニ關スル事務ニ服セシムルコトヲ得

朕明治三十二年勅令第二百一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第十三號(官報二月二十七日)

明治三十二年勅令第二百一號第二條第三號中「並臺灣總督府縣廳辨務署」ヲ「臺灣總督府廳統監府關東都督府樺太廳」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百一號(明治三十二年五月十七日官報)抄錄

第二條 明治二十九年法律第十三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ノ種類左ノ如シ

三 教育事務ニ従事スル北海道府廳郡區島廳並臺灣總督府縣廳辨務署官吏

朕明治四十一年法律第四號施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年二月二十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

勅令第十四號(官報二月二十八日)

明治四十一年法律第四號ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年二月 勅令

朕外交官及領事官大禮服代用服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

勅令第十五號 (官報 三月三日)

外交官及領事官大禮服代用服制

熱帶地方又ハ炎暑酷烈ナル地方ニ在勤スル外交官及領事官其ノ在勤地ニ於テ大禮服ニ代用スルコトヲ得ヘキ服制別表ノ通定ム

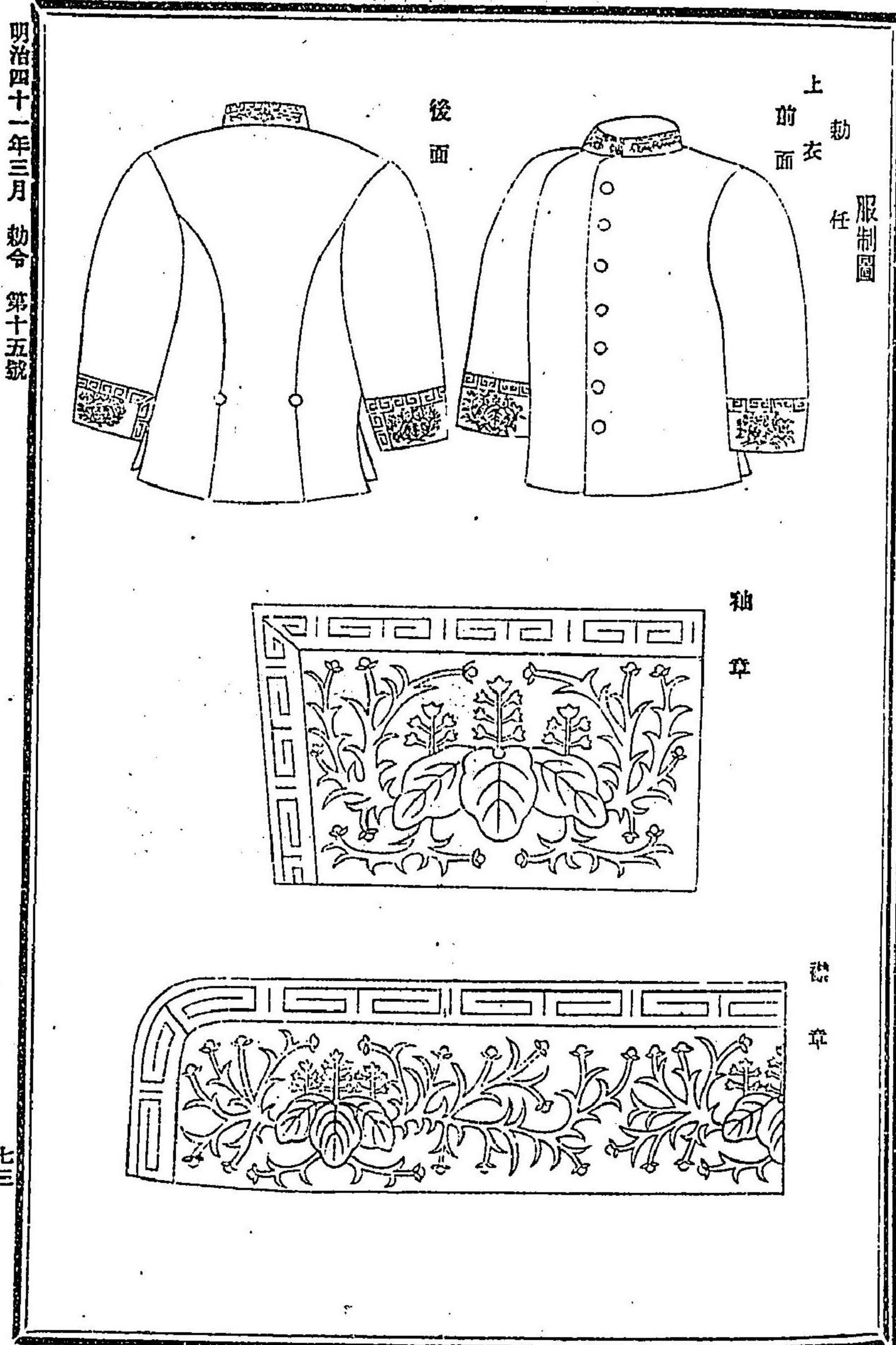
前項ノ地方ハ外務大臣之ヲ指定ス

別表

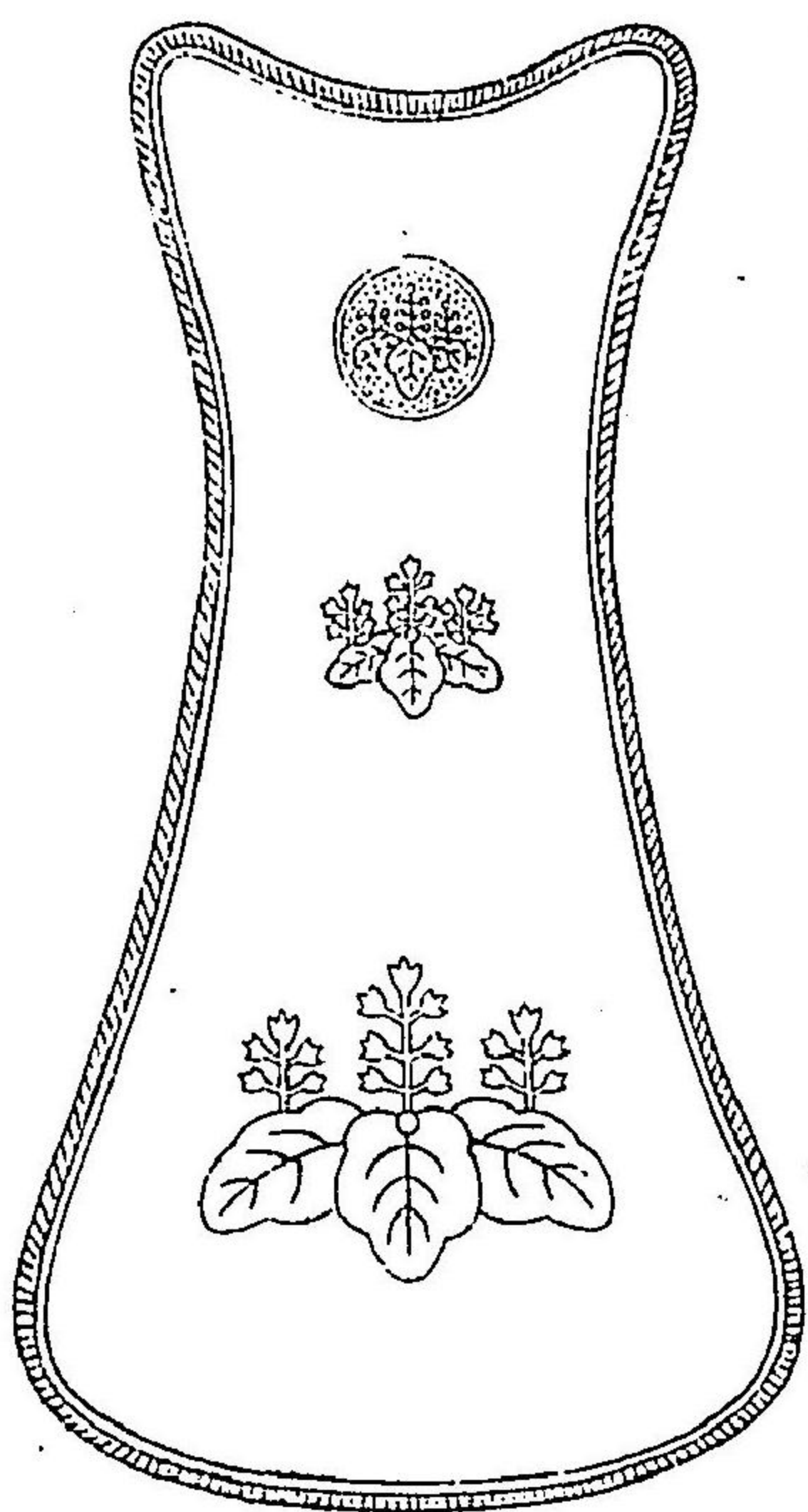
上		地質	勅	任
製式	袖章			
立襟一行鈕釦ジャケット、如圖	庶草ヲ配シタル金色桐章ニ箇ヲ附シ袖口ヨリ三寸ノ所ニ幅四分雷紋ノ袖線ヲ纏フ、如圖	白地リンネル		
同上	袖口ヨリ二寸五分ノ所ニ幅二分縞目ノ袖線ヲ纏フ、餘ハ同上	同上	奏	任

明治四十一年三月 勅令 第十五號

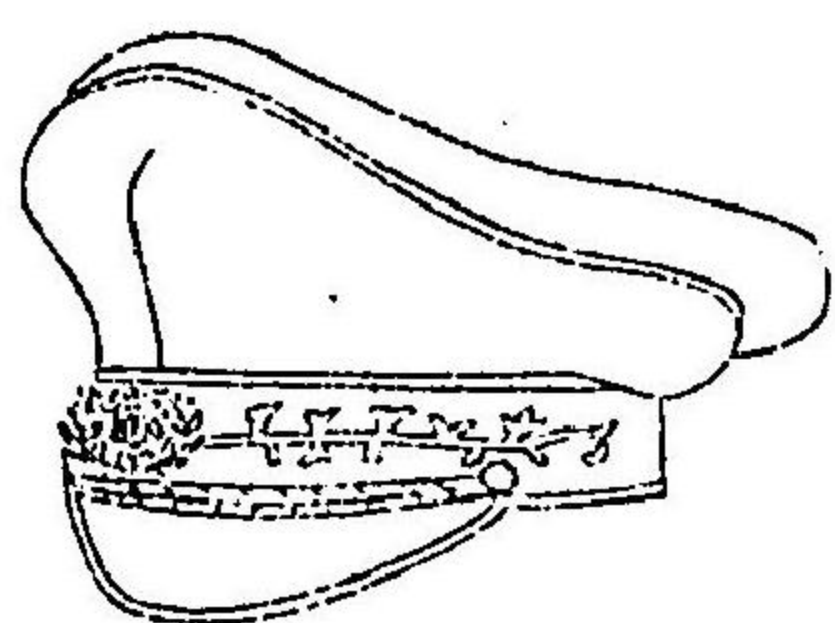
備考	劍	佩	帽		袴		衣			
			徽章	製式	地質	製式	地質	肩章	襟章	鈕釦
備考 桐章ハ勅任ニ在リテハ總テ五七トシ奏任ニ在リテハ總テ五三トス	總頭莖附形、緒金絲丸組紐徑二分、空ノ長一寸、鞞ノ長一寸四分、横徑一寸一分	柄白銀長五寸、銷鐵磨ニッケル鍍金長二尺三寸、柄頭鍔胸輪鍍ハ金色金具桐章及唐草ヲ附ス、如圖	前章ハ横二寸五分、縦一寸七分、中央ニ金色桐章ヲ附シ、木葉ヲ配ス、如圖	周圍ニ唐草ヲ纏ヒ前庇ハ白琥珀ノ類ヲ用井、額紐ハ金線蛇腹小鈕釦ヲ額紐ノ兩端ニ附ス、如圖	白羅紗	普通長袴	白地リンネル	長四寸五分、地質白羅紗、縁邊ニ幅二分ノ縷目ヲ施シ、大小金色桐章二箇ヲ附シ、桐章ヲ打出シタル金色小鈕釦一箇ヲ附ス、如圖	唐草ヲ配シタル金色桐章三箇ヲ附シ、幅四分、雷紋ノ縁ヲ附ス、如圖	桐章ヲ打出シタル徑六分五厘ノ金色鈕釦
同上	同上	同上	同上	周圍前面小鈕釦ノ間ニ唐草ヲ纏フ、餘ハ同上	同上	同上	同上	唐草ヲ配シタル金色桐章一箇ヲ附シ、幅二分、縷目ノ縁ヲ附ス、如圖	同上	



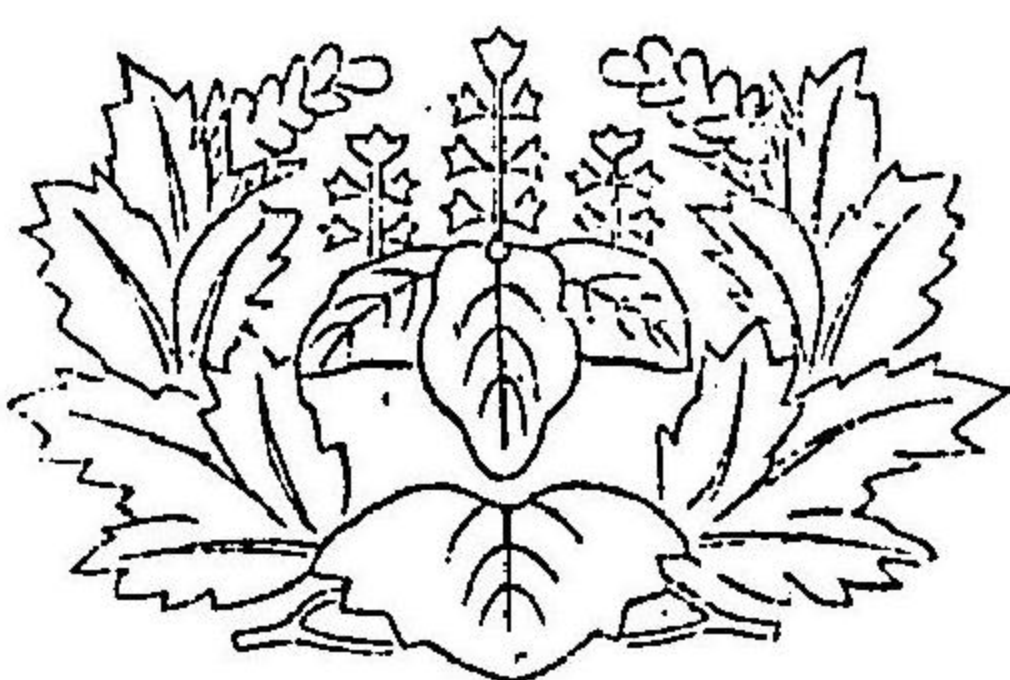
肩章



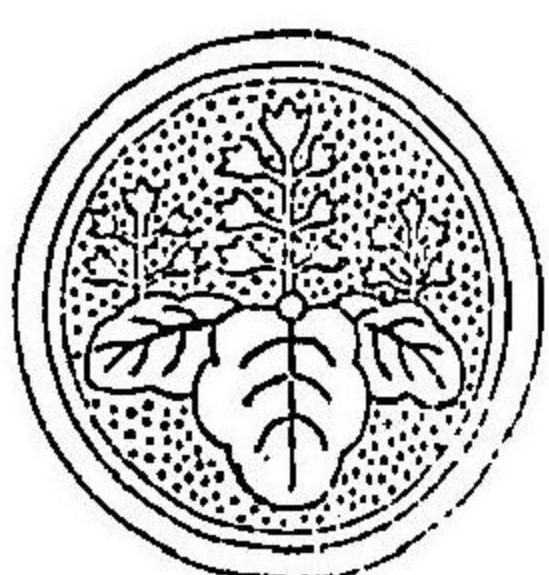
帽



帽前章



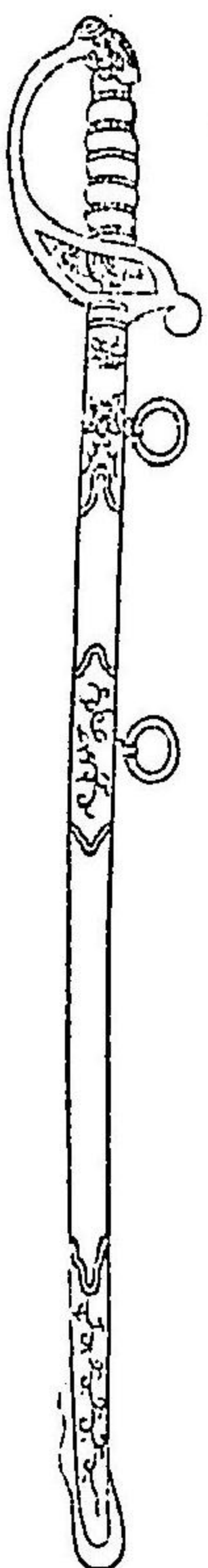
鈕釦



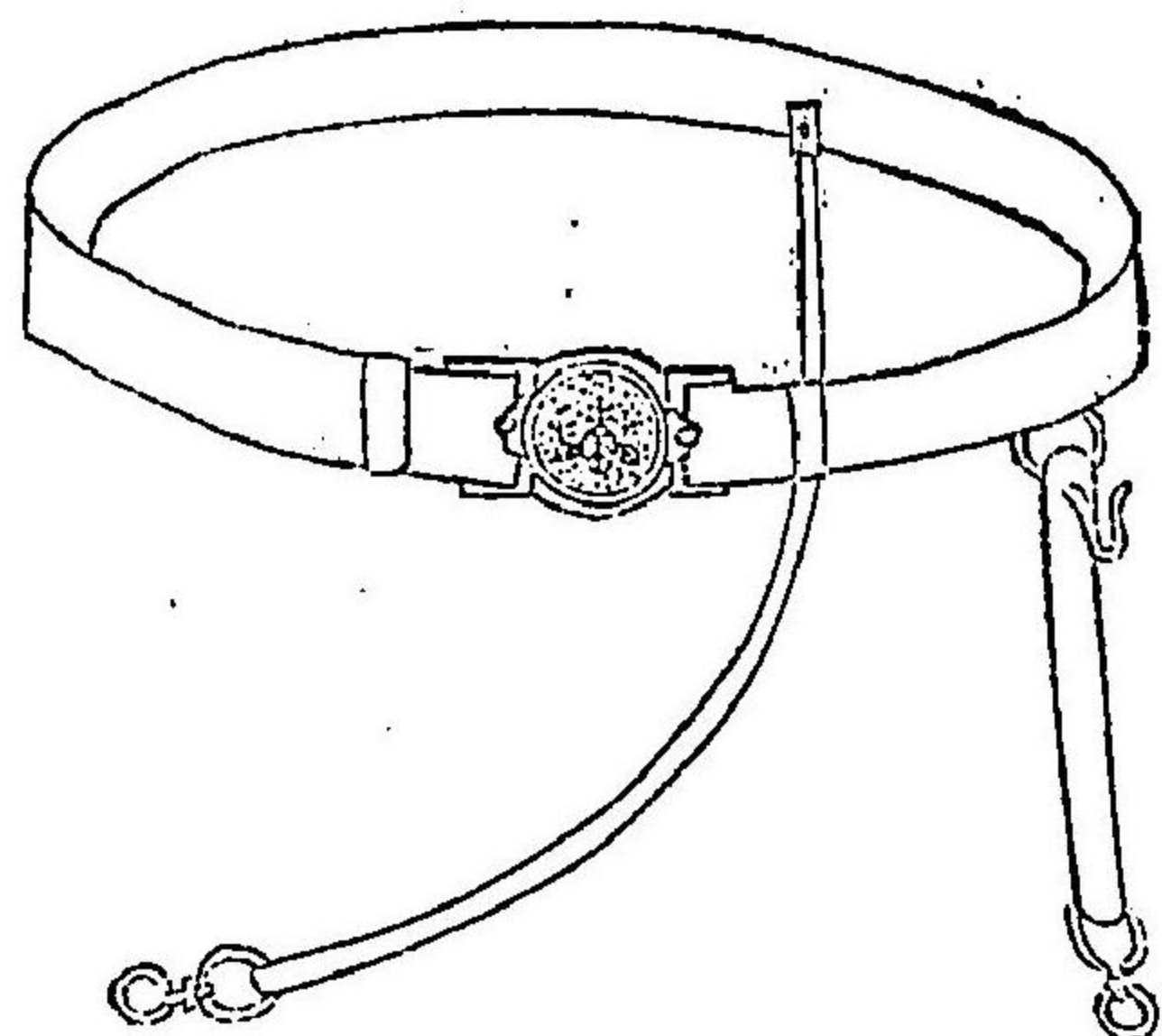
小鈕釦



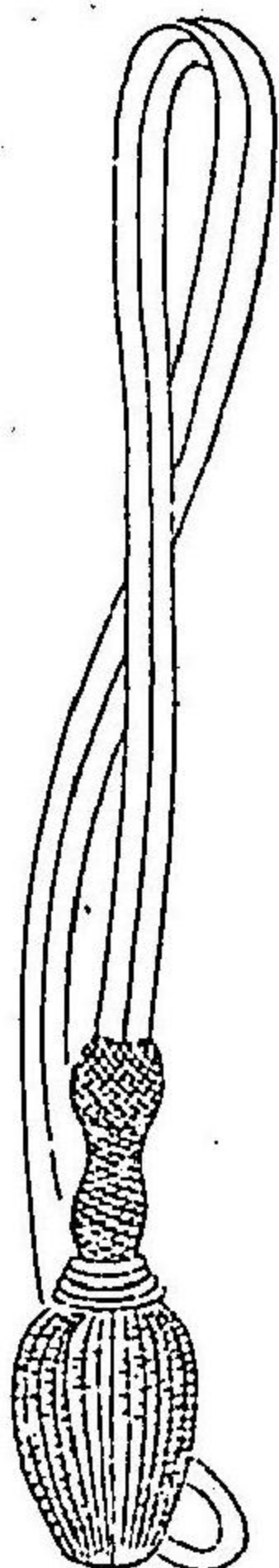
佩劍



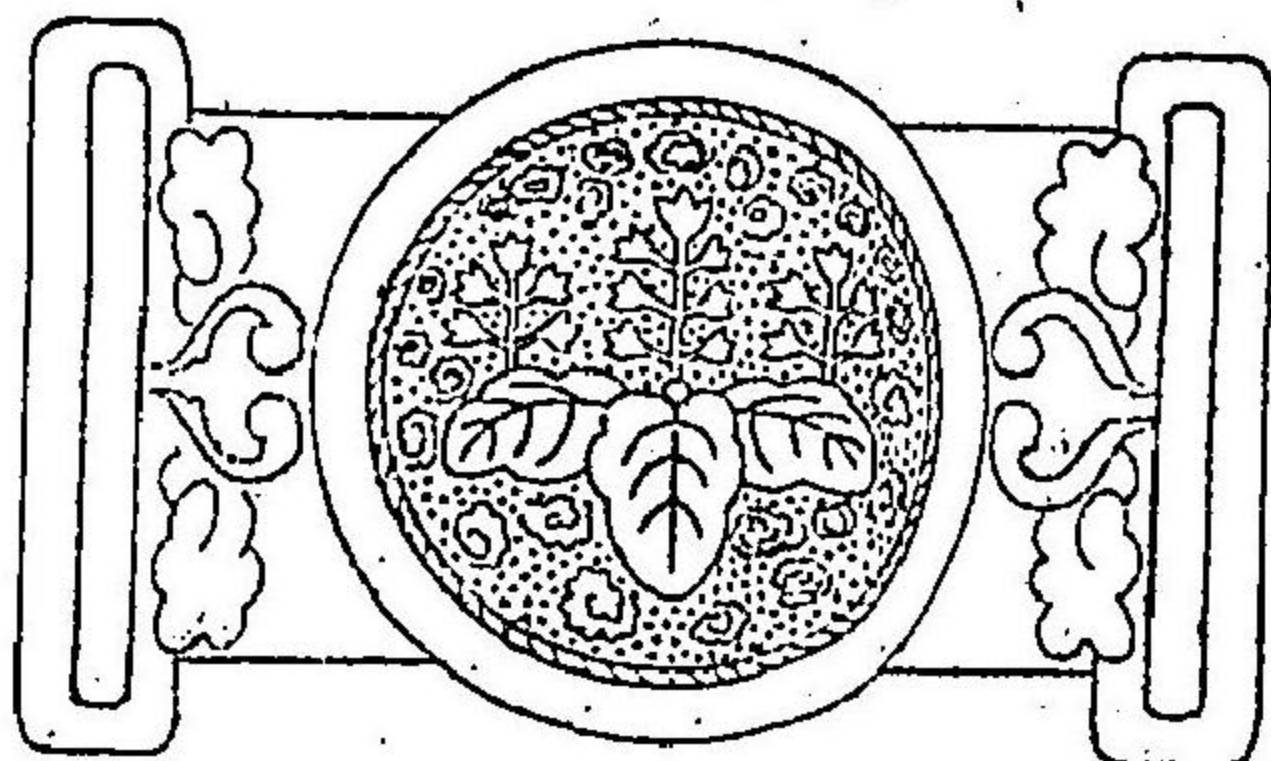
劍帶

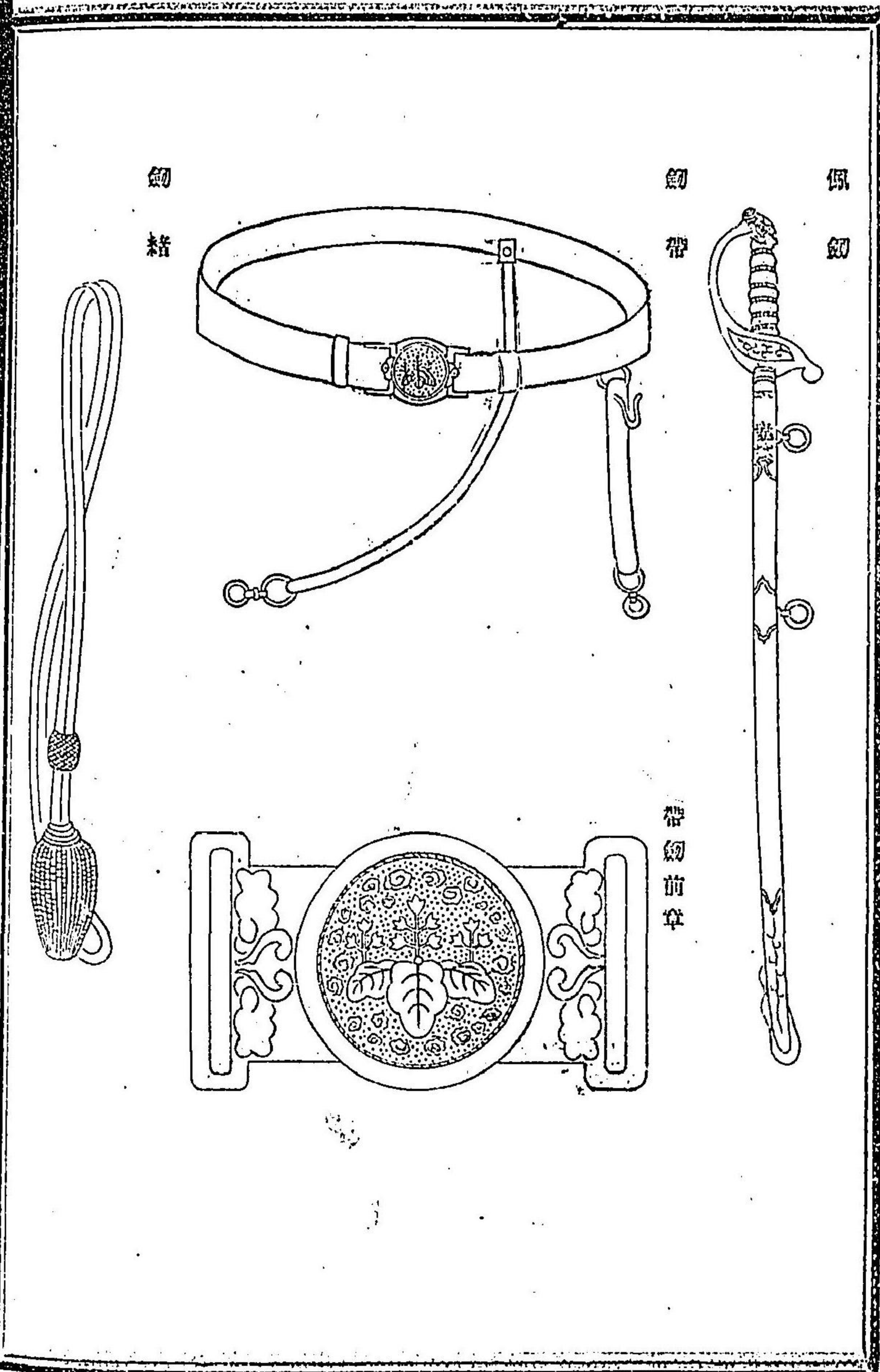


劍緒



劍帶前章





御名 御璽

明治四十一年三月三日

朕關東都督府警察官服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

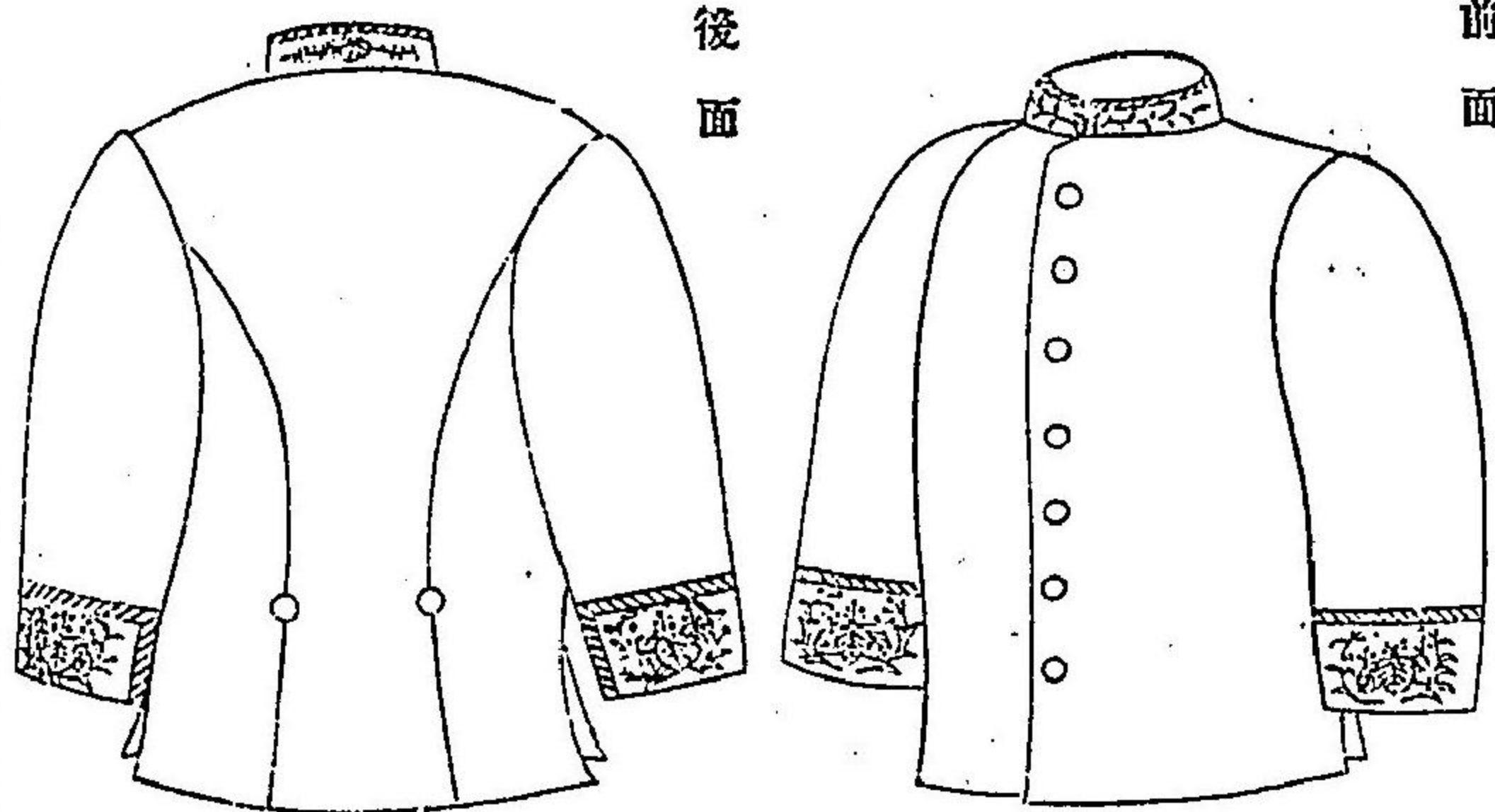
勅令第十六號 (官報 三月四日)

關東都督府警察官服制中左ノ通改正ス
別表中警視ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

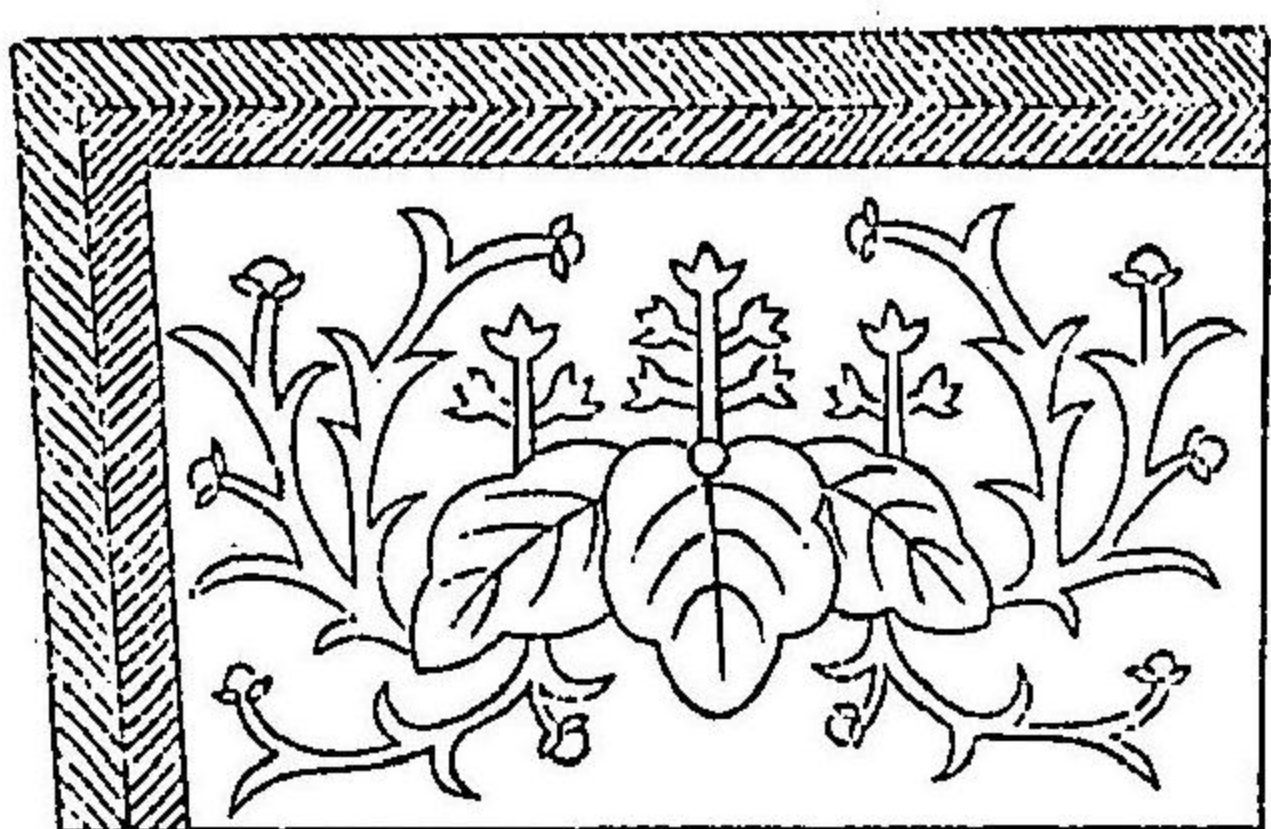
警視總長	警視	茶褐絨	圓形下部高サ一寸九分半製表黒色裏赤色前座及幅四分ノ黒革製履紐ヲ附シ履紐ノ兩端ハ幅ノ兩側ニ於テ徑四分ノ花章金鈕釦ヲ以テ留ム上端黒絨喰ミ出シヲ附ス形狀如圖	下部高サ一寸七分餘ハ同上
前章	小線幅一分一條ヲ附ス餘ハ同上	日章大サ中心ヨリ尖頭ニ至ル五分ノ金一分二條ヲ附ス 大線幅六分二條小線幅一分二條ヲ附ス	冬茶褐絨 夏茶褐絨又ハ布	同上
立襟一行鈕釦	同上	立襟一行鈕釦シヤケット物入左右各二箇ヲ股グ上部ノ物入ニハ蓋ヲ附ス形狀如圖		同上

上
衣
任
前
面

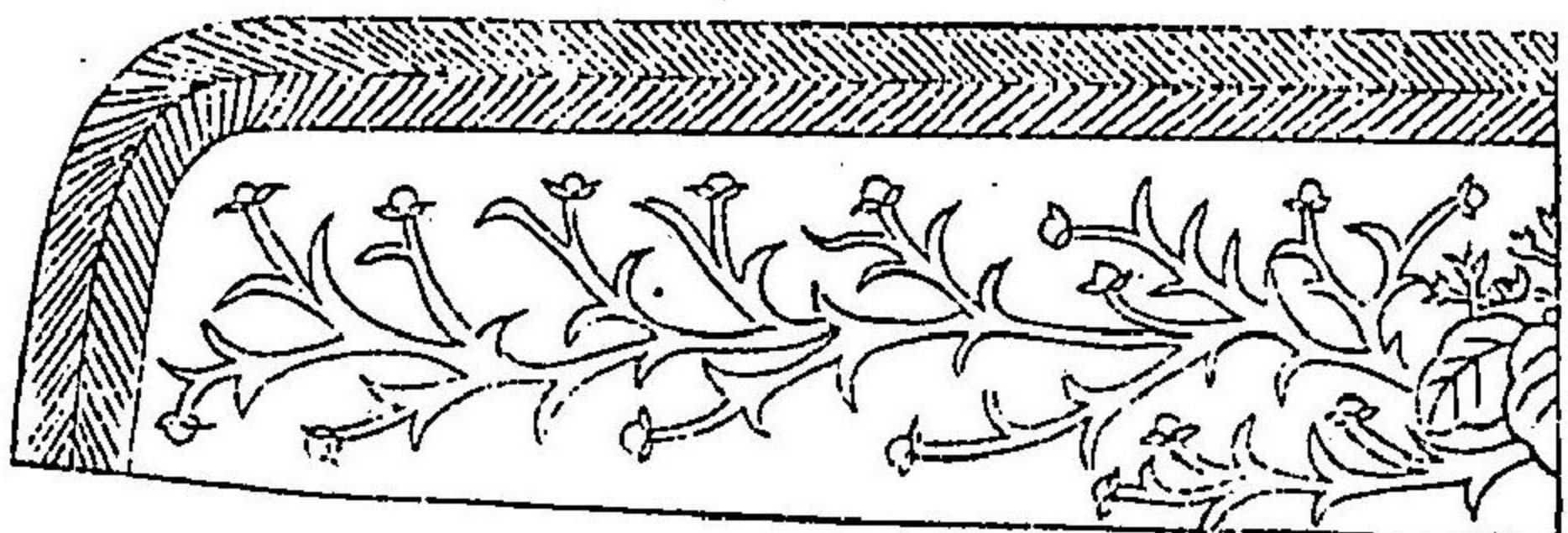


後
面

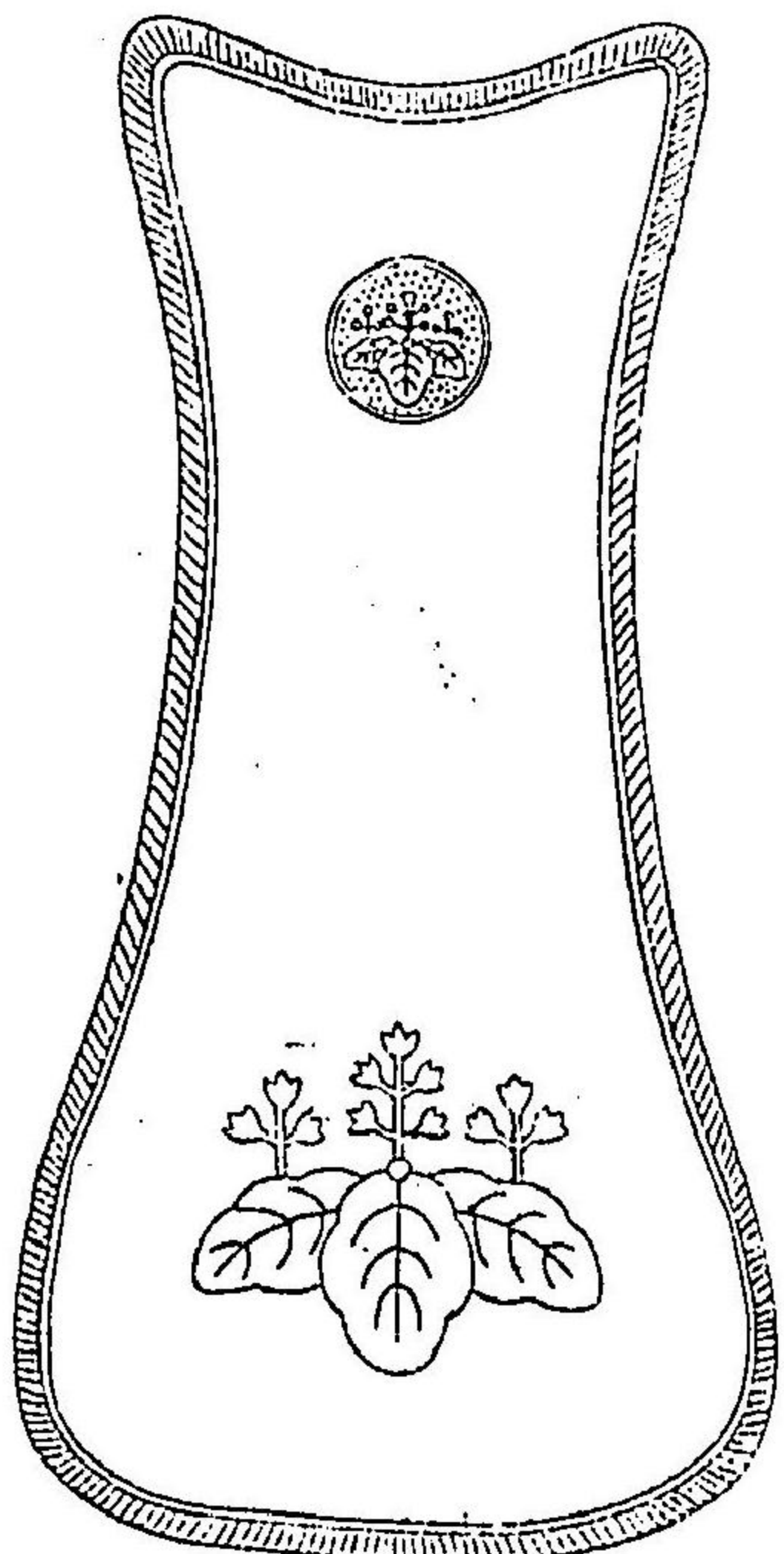
袖
章



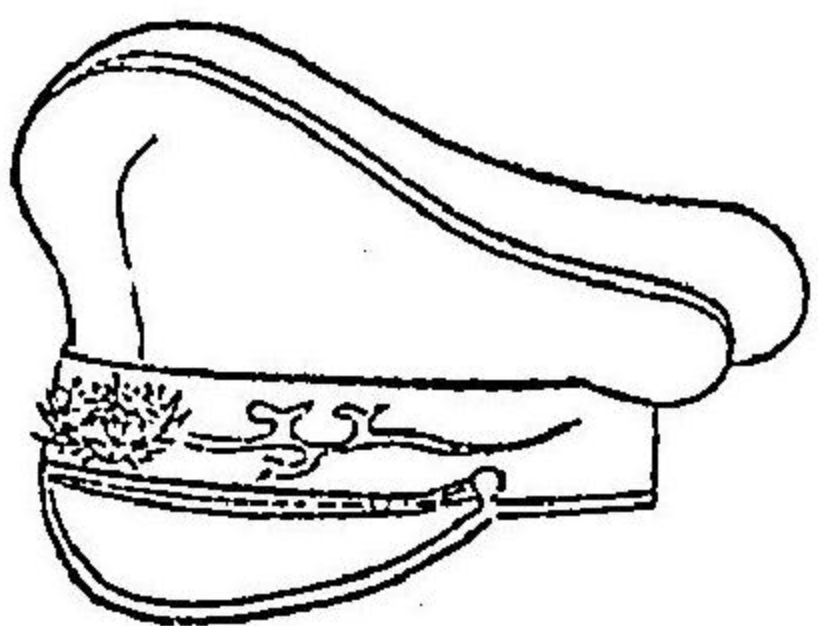
襟
章



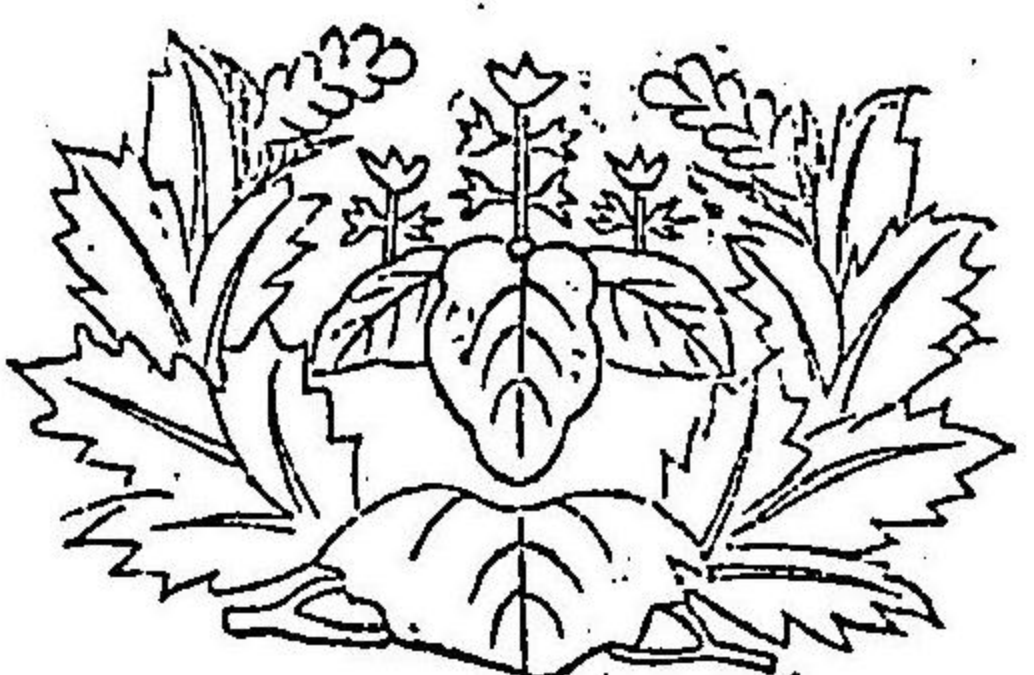
肩
章



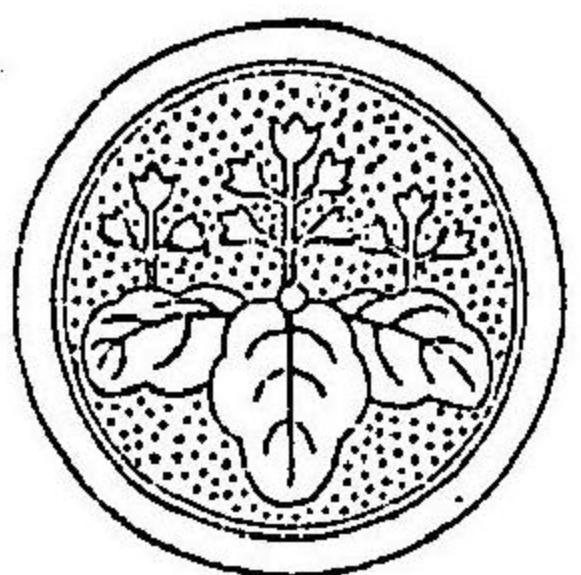
帽



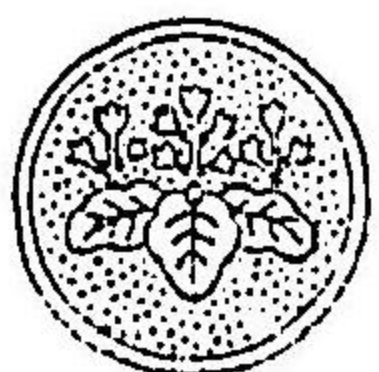
帽
前
章

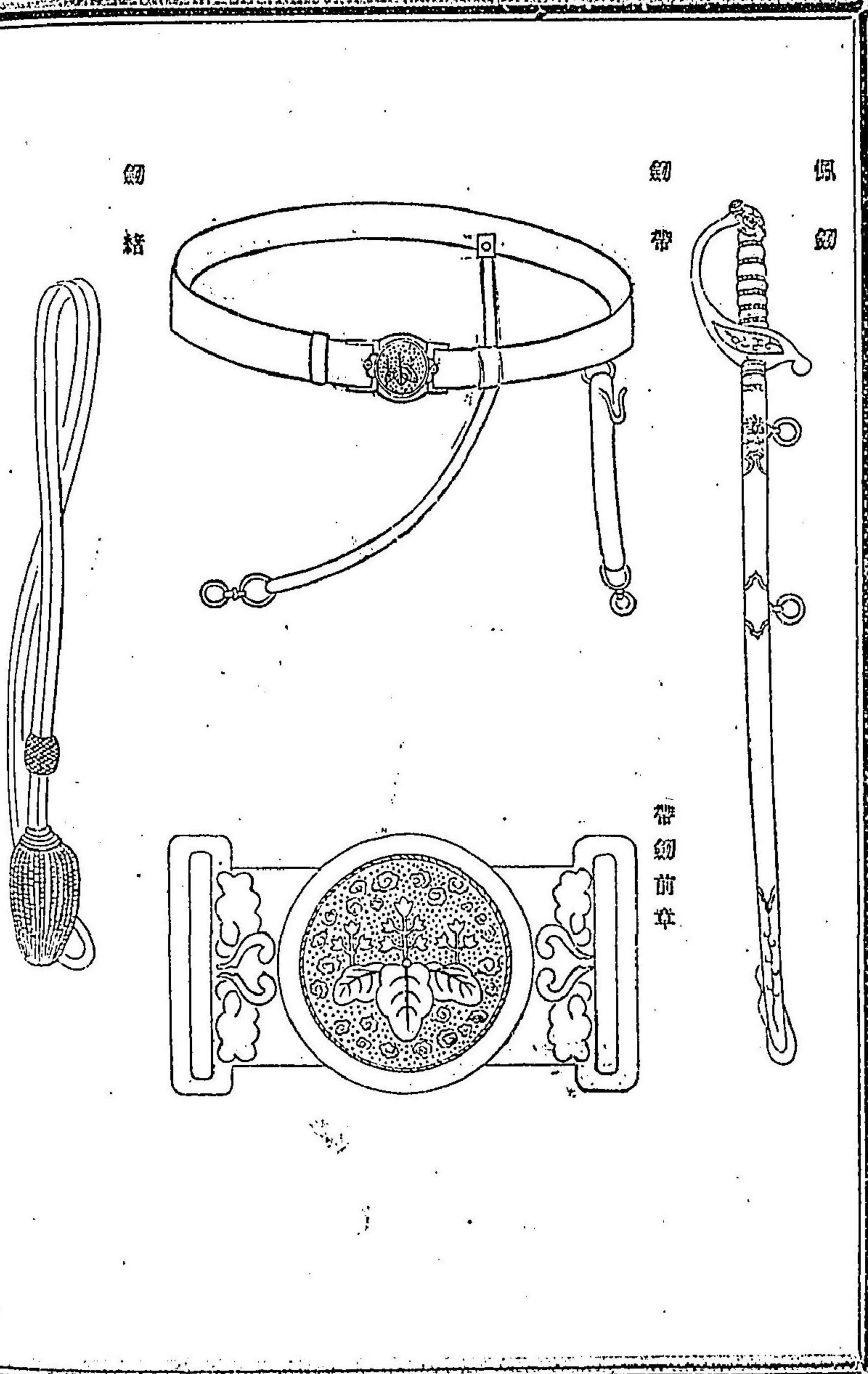


鈕
釦



小
鈕
釦





朕關東都督府警察官服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
外務大臣 伯爵林 董

勅令第十六號 (官報 三月四日)
關東都督府警察官服制中左ノ通改正ス
別表中警視ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

警視 總長	警視	茶褐絨	圓形下部高サ一寸九分半製表黑色裏赤色前此及幅四分ノ黒半製隨紐ヲ附シ原紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分櫻花章金鈕釦ヲ以テ留ム上端黒絨喰ミ出シヲ附ス形狀如圖	下部高サ一寸七分餘ハ同上
前掌大サ中心ヨリ尖頭ニ至ル五分ノ金口掌下部ニ黒絨大線幅六分二條小線幅一分二條ヲ附ス	小線幅一分二條ヲ附ス餘ハ同上	冬茶褐絨 夏茶褐絨又ハ布	立襟一行鈕釦シヤケット物入左右各二箇ヲ設ケ上部ノ物入ニハ蓋ヲ附ス形狀如圖	同上

袖口ヨリ四寸ノ前半面ニ黒絨喰ミ出シ ヲ附シ之ニ沿フテ幅二分ノ金蛇腹線三 條ヲ縫ヒ大サ中心ヨリ尖頭ニ至ル三分 ノ銀日章三箇ヲ附ス但シ夏ハ喰ミ出シ 及金蛇腹線ヲ白色一分線ニ代フ	徑六分銀釦五箇一行及上部左右ノ物 入ニ各一箇ヲ附ス	長サ四寸三分幅一寸七分地質黒絨上端 ヲ三角形トシ周邊ニ幅一分五厘ノ圓委 金線縫目ヲ施シ其ノ内ニ幅四分ノ圓委 織金線三條ヲ縫ニ附シ金色徑四分ノ釦 釦一箇及大サ中心ヨリ尖頭ニ至ル三分 ノ金日章三箇ヲ附ス	冬茶褐絨 夏茶褐絨又ハ布	短袴製如圖	黒絨大線幅八分二條小線幅一分一條	柄白紋金線卷キ背面ヲ覆ヒタル金具ハ 金色地石目日章一箇葉附櫻花三箇ヲ 置ク鏢櫻唐草鞘洋銀又ハ鍍銀キ形状如 圖	柄白紋金線卷キ背面ヲ覆ヒタル金具ハ 金色地石目日章唐草ヲ置ク鏢無地鞘 ハ洋銀又ハ鍍銀キ形状如圖	象皮幅一寸二分鈞率幅七分長サ一尺ト シ其ノ上下端ニ各鈞ヲ附ス前方ニ於テ ニ縫ヒテ留メ皮ヲ以テ之ヲ覆ヒ輪留 ニ縫ヒテ留メ皮ヲ以テ之ヲ覆ヒ輪留	總頭至附金線柄圓形長サ一寸五分徑 一寸至ノ長サ一寸積金線九組紐徑二分 積金線九組紐徑五分形状如圖	黒絹絲製トシ餘ハ正緒ニ同シ	茶褐絨	折襟胸ニ重金色徑八分櫻花章ヲ鐫刻セ ル釦釦六箇二行左右ノ腰部ニ物入各一 箇ヲ設ク後面ハ襷ヲ割キ腰部ニ帶緒ヲ 附シ之ニ同上ノ釦釦四箇ヲ附ス形状如 圖	冬ハ毛皮製襟ヲ附スルコトヲ得	袖口ヨリ約五寸ノ部ニ黒絨喰ミ出シシ 附シ之ニ沿フテ幅二分金蛇腹線二條ヲ 縫ヒ大サ中心ヨリ尖頭ニ至ル三分ノ銀 日章三箇ヲ附ス	普通	茶褐絨	普通	通常マント形状如圖	普通
同上	同上	同上ノ日章二箇金蛇腹線二條トス餘ハ 同上	同上	同上	黒絨幅八分線二條線ノ間隙二分	同上	同上	同上	總頭金線柄圓形長サ一寸五分徑九分 餘ハ同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	

服制圖中左ノ如ク改ム

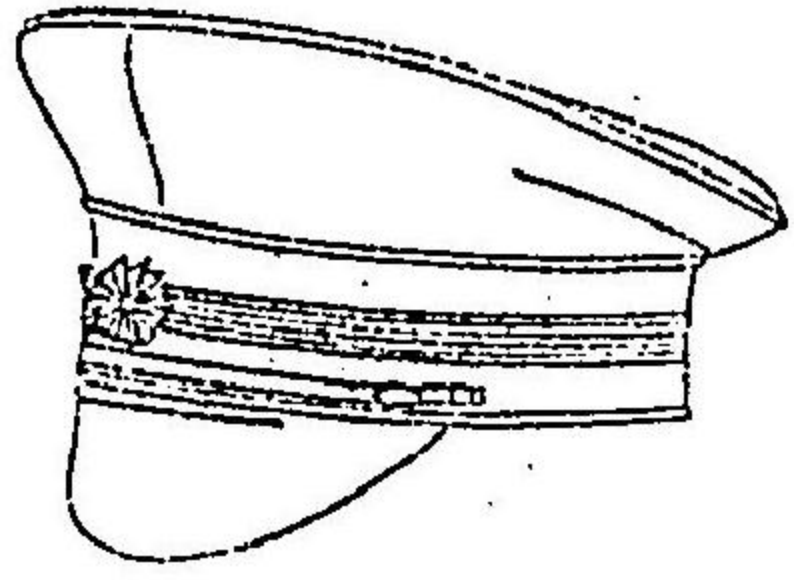
警視帽ノ圖ノ上ニ警視總長帽ノ圖ヲ、警視袖章ノ圖ノ上ニ警視總長袖章ノ圖ヲ、警視肩章ノ圖ノ上
ニ警視總長肩章ノ圖ヲ、警視袴ノ圖ノ前ニ警視總長袴ノ圖ヲ、警視刀緒ノ圖ノ前ニ警視總長刀緒ノ
圖ヲ及警視外套袖章ノ圖ノ上ニ警視總長外套袖章ノ圖ヲ加フ
襟章、刀柄、刀帶及甲種外套ノ部警視ノ前ニ警視總長ヲ加フ

警視總長

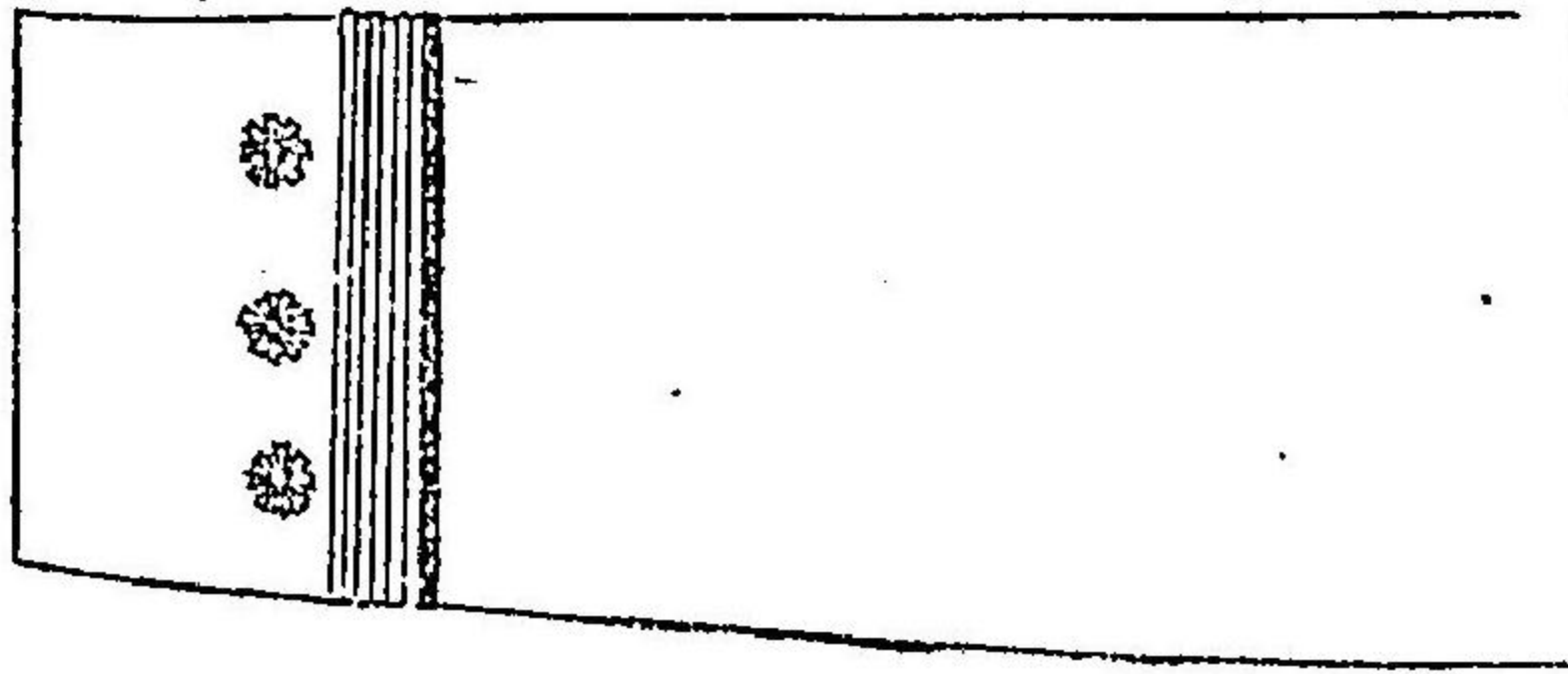
警視總長

警視總長

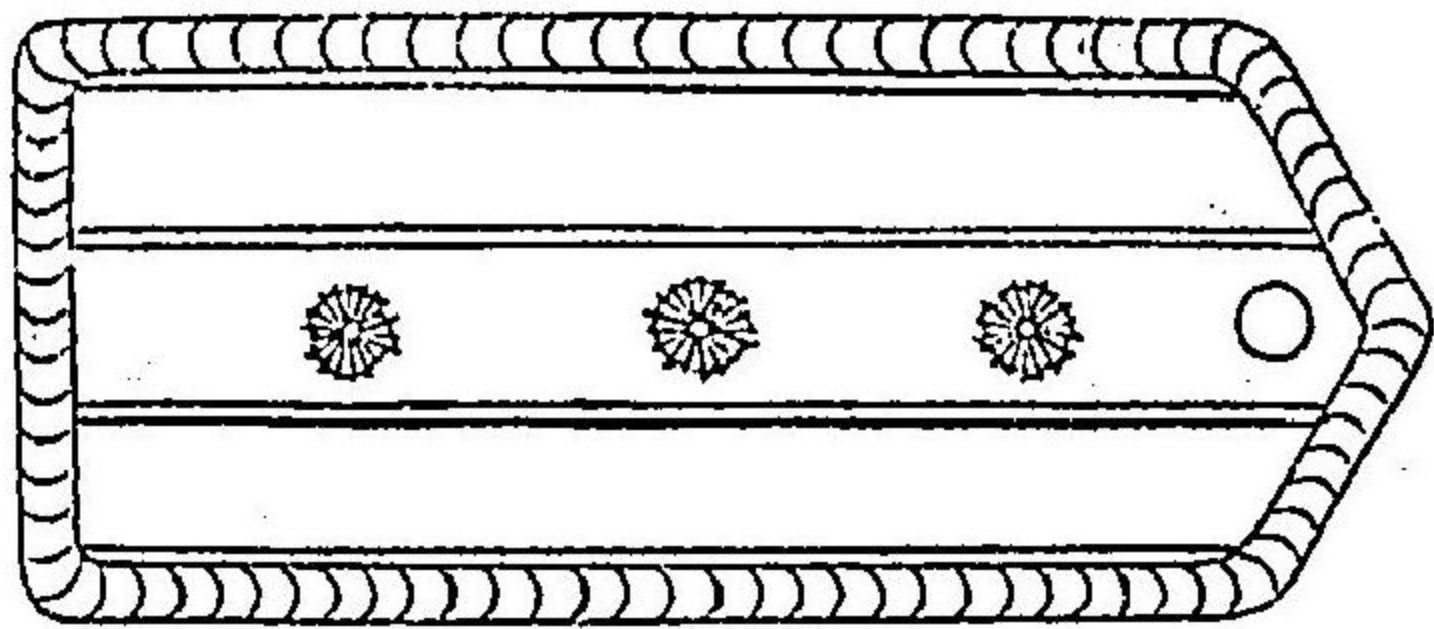
帽



卒 袖

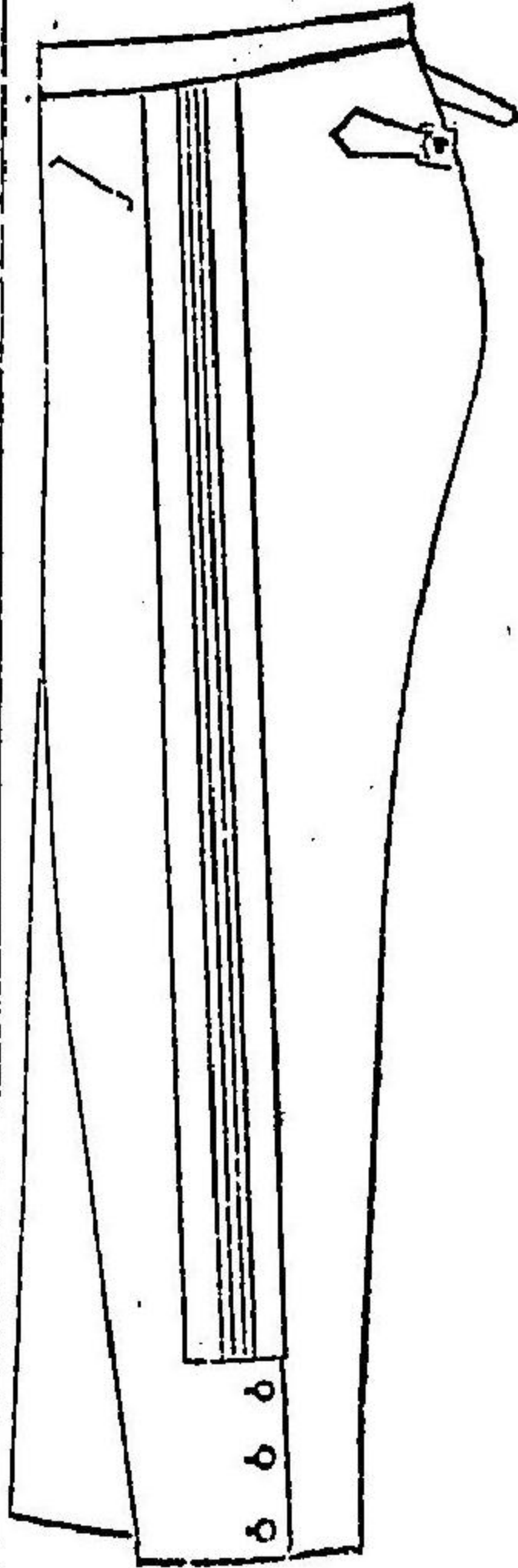


卒 肩



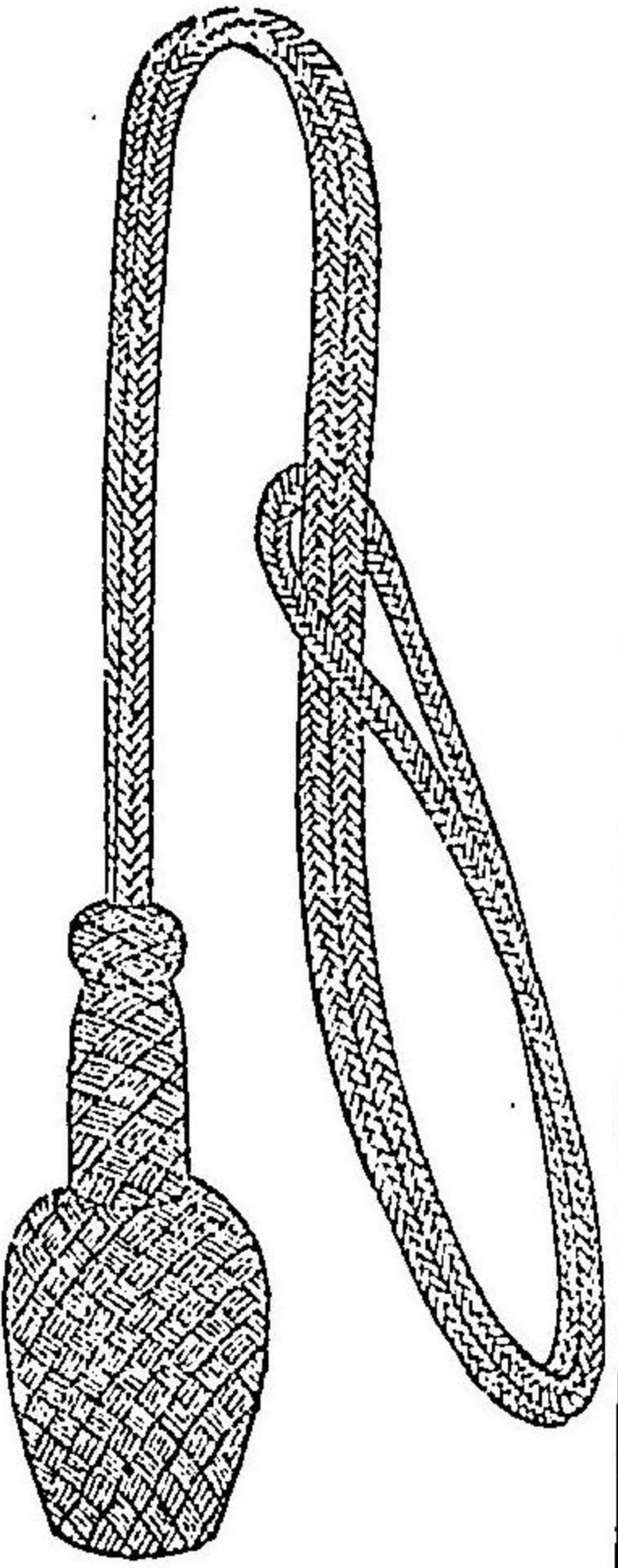
警視總長

袴



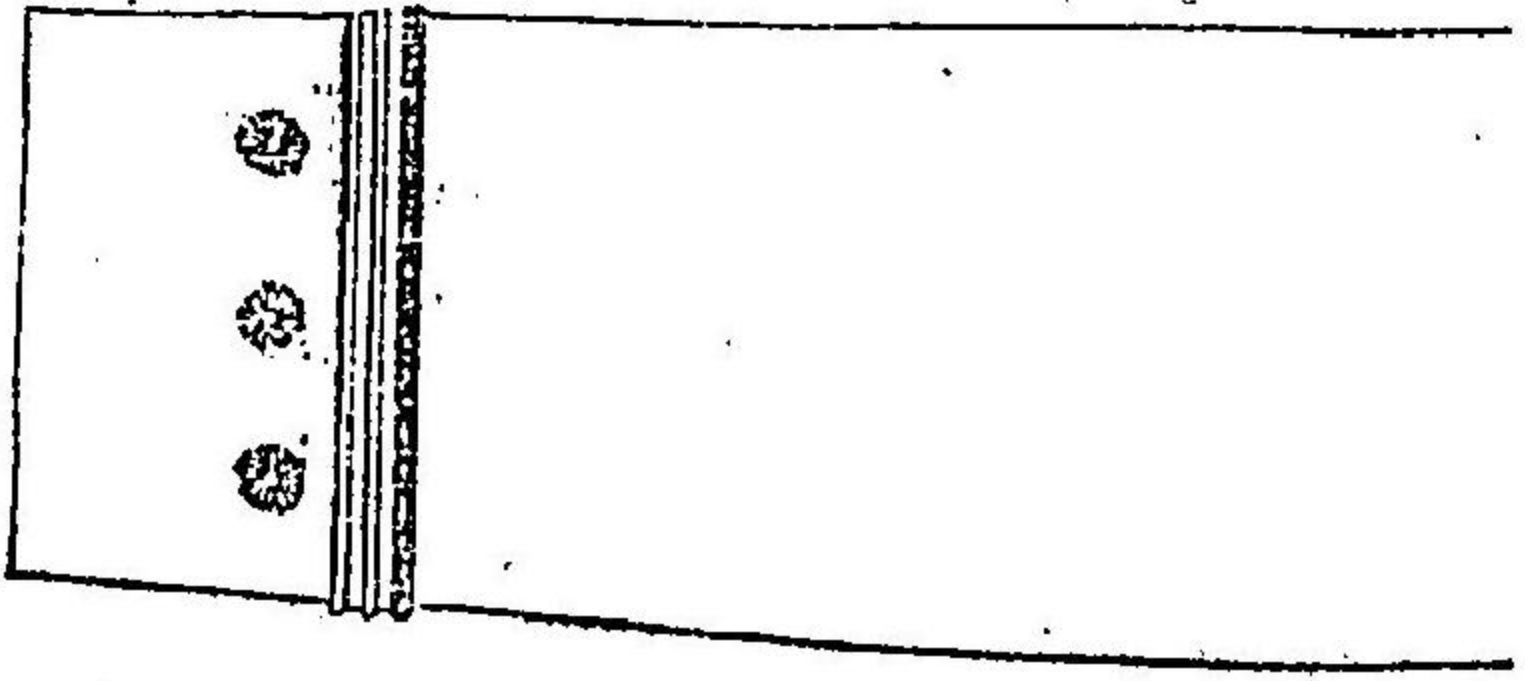
警視總長

緒 刀



警視總長

卒 袖 委 外



朕軍馬補充部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第十七號(官報 三月四日)

軍馬補充部條例

- 第一條 軍馬補充部ハ軍馬ノ供給、育成、購買及資源調査ヲ掌ル
- 第二條 軍馬補充部ハ本部及支部ヨリ成ル
- 本部ハ東京ニ、支部ハ第二、第六、第七、第八及第十師管内並韓國及關東州ニ一箇乃至三箇ヲ置ク
- 第三條 軍馬補充部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部

本部長

部員

主計

技師

下士、判任文官

支部

支部長

部員

主計

獸醫

技師

下士、判任文官

前項職員ノ外必要ニ應シ支部ニ軍醫ヲ置クコトヲ得

第四條 本部長ハ陸軍大臣ニ隸シ軍馬補充部ノ業務ヲ掌理ス

第五條 支部長ハ本部長ニ隸シ軍馬ノ供給及育成ニ關スル業務ヲ分擔シ特ニ牧場事業ノ整理ニ任ス

第六條 部員、主計、獸醫及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條 下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第八條 陸軍大臣ハ必要ニ應シ支部ニ派出部及出張所ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該支部ノ職員ヲシテ其ノ事務ニ從事セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍兵器廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第十八號 (官報 三月四日)

陸軍兵器廠條例中左ノ通改正ス

第一條 中交換ノ下ニ「廢品處分」ヲ加フ

第二條 兵器廠ハ兵器本廠兵器支廠及兵器分廠ヨリ成ル

本廠ハ東京ニ、支廠ハ師團司令部所在地門司臺北韓國及關東州ニ、分廠ハ臺南ニ置ク

陸軍大臣ハ必要ニ應シ兵器支廠ニ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條 中「監督」ヲ「主計正主計」ニ改メ支廠職員ノ次ニ「主計」ヲ加フ

第七條 廠員主計正及主計ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第八條 第二項ヲ左ノ如ク改ム

砲兵工廠製作品ノ検査ニ任ナル検査官並之ニ屬スル准士官下士及判任文官ハ砲兵工廠ニ於テ其ノ任務ニ服セシム

第十條 師團ノ兵器ニ付テハ支廠長ハ當該師團長、臺灣守備隊ノ兵器ニ付テハ支廠長及分廠長ハ

臺灣守備隊司令官ノ命ヲ受ク

臺灣韓國又ハ關東州ニ在ル支廠長ハ戰時若ハ事變ニ際シ又ハ動員計畫ニ關シテハ臺灣總督韓國

駐劄軍司令官又ハ關東都督ノ命ヲ受ク

第十三條 中「保管」ノ武器庫彈藥庫器具庫及材料庫ヲ「所管倉庫」ニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ外必要ニ應シ倉庫ニ准士官下士ヲ置クコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第七十八號陸軍兵器廠條例(明治三十六年四月十五日官報)抄錄

第一條 陸軍兵器廠ハ兵器ノ購買貯藏保存修理支給交換及検査並要塞ノ備砲工事ヲ掌ル

第二條 兵器廠ハ兵器本廠兵器支廠及兵器分廠ヨリ成ル

本廠ハ之ヲ東京ニ置ク

支廠ハ師團司令部所在地臺北及門司ニ置キ本廠ノ事務ヲ分掌セシム

分廠ハ臺中及臺南ニ置キ臺北兵器支廠ノ事務ヲ分掌セシム

第三條 兵器廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠長

廠員

検査官

監督

支廠長

廠員

分廠長

右ニ掲クル職員ノ外准士官下士及判任文官ヲ置ク

第七條 本廠ノ職員及監督ハ本廠長ノ命ヲ受ケ支廠ノ職員ハ支廠長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第八條 第二項

検査官及之ニ屬スル准士官下士及判任文官ハ砲兵工廠ニ在リテ其ノ勤務ニ服セシム

第十條 支廠長及分廠長ハ師團臺灣守備隊混成旅團ノ兵器ニ就テハ當該師團長混成旅團長ノ命ヲ受ク

臺北兵器支廠長ハ戰時若ハ事變ニ際シ又ハ臺灣ニ於ケル動員計畫ニ關シテハ臺灣總督ノ命ヲ受ク

第十三條 兵器廠保管ノ武器庫彈藥庫器具廠及材料庫ニシテ衛兵ヲ匿クノ必要アルトキハ兵器本廠長支廠長分廠長ハ之ヲ衛戍司令官ニ請求スルコトヲ得
前項ノ外武器庫彈藥庫器具廠及材料庫ニ准士官下士ヲ匿クコトヲ得

朕砲兵工廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第十九號(官報三月四日)

砲兵工廠條例中左ノ通改正ス

第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置ク

砲兵工廠ニ所要ノ製造所ヲ置ク

第四條中「廠員」ヲ削リ「所員」ヲ「廠員」ニ「軍醫」ヲ「軍醫正」「軍醫」ニ改ム

第六條 製造所長ハ提理ニ隸シ製造所ノ業務ヲ掌理ス

東京砲兵工廠製造所長ハ前項ノ外砲兵工科學校ノ實業教授ヲ擔任ス

第七條 廠員、主計正、主計、軍醫正、軍醫及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第八條 准士官、下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十九號砲兵工廠條例(明治三十三年四月二十五日官報)抄錄
第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置ク

製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

砲具製造所

目黒火藥製造所

板橋火藥製造所

岩鼻火藥製造所

熱田兵器製造所

大阪砲兵工廠

火砲製造所

彈丸製造所

火具製造所

宇治火藥製造所

門司兵器製造所

第四條第一項

砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理

廠員

製造所長

所員

主計正、主計

軍醫
技師

第六條 廠員ハ提理ノ命ヲ受ケ職務ヲ分擔ス
第七條 製造所長ハ提理ニ隸シ製造所ノ業務ヲ擔任シ所長ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ服ス
東京砲兵工廠製造所長ハ前項ノ外砲兵工科學校ノ實業教授ヲ擔任ス
第八條 主計正、主計軍醫、技師ハ各分擔ノ事務ニ服ス

朕陸軍運輸部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第二十號(官報 三月四日)

陸軍運輸部條例

第一條 陸軍運輸部ハ陸軍ニ於テ所有又ハ使用スル汽船ヲ管理シ陸軍ニ屬スル人馬物件ノ船舶輸送及之ト聯絡スル鐵道輸送ノ業務ヲ掌リ船舶輸送用補助物件ヲ整備保管シ且臨時陸軍似島檢疫所ヲ管轄ス

第二條 陸軍運輸部ハ本部及支部ヨリ成ル

本部ハ字品ニ、支部ハ門司、基隆、大連、仁川、元山及「コルサコフ」ニ置ク
第三條 陸軍大臣ハ必要ニ應シ本部及支部ニ出張所ヲ設クルコトヲ得

第四條 陸軍大臣ハ患者收容ノ爲必要ニ應シ本部ノ下ニ患者集合所及病院船ヲ置クコトヲ得
第五條 陸軍運輸部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部

本部長

部員

主計

軍醫

下士、判任文官

支部

支部長

部員

主計

軍醫

下士、判任文官

支部ニハ主計及軍醫ヲ置カサルコトヲ得

第六條 本部長ハ陸軍大臣ニ隸シ陸軍運輸部ノ業務ヲ掌理ス

第七條 支部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ支部ノ業務ヲ掌ル

第八條 部員、主計及軍醫ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第九條 下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍會計監督部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第二十一號(官報 三月四日)

陸軍會計監督部條例中左ノ通改正ス

第一條及第五條中「師團並臺灣ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第九十九號陸軍會計監督部條例(明治三十六年十一月三十日)抄録

第一條第一項

陸軍會計監督部ハ陸軍全般ノ會計經理ヲ監督シ師團並臺灣陸軍經理部管轄以外陸軍各部各隊ノ會計事務ヲ監督ス
第五條 部長ハ師團並臺灣陸軍經理部管轄以外陸軍各部各隊ノ廢品處分ヲ承認スヘシ但シ當該長官ニ之ヲ分任スルコトヲ得

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

朕陸軍衛生材料廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第二十二號(官報 三月四日)

陸軍衛生材料廠條例中左ノ通改正ス

第一條 陸軍衛生材料廠ハ衛生材料及獸醫材料ノ模範品、特種品及戰用品ノ製作、購買、貯藏、補給及品質審査ヲ行ヒ且外國駐屯ノ部隊ニ要スル材料ノ購買、補給ヲ掌ル

第二條及第四條中「副監督」ヲ「主計」ニ改ム

第三條但書ヲ「但シ獸醫材料ニ關シテハ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ク」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第四百十六號陸軍衛生材料廠條例(明治三十二年十月二十八日官報)抄録

第一條 陸軍衛生材料廠ハ衛生材料獸醫材料ノ模範品及戰用豫備品ノ製作、購買、貯藏、交換、品質ノ審査並戰時ニ於ケル材料ノ補給及外國駐屯ノ部隊ニ要スル材料ノ購買、補給ヲ行フ所トス
第二條 陸軍衛生材料廠ニ左ノ職員ヲ置ク
廠長

廠員
副監督
前項ノ外下士判任文官ヲ置ク
第三條 廠長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ職務ヲ掌理ス但シ獸醫材料ニ關シテハ軍務局長醫務局長協同ノ上之ヲ取處ス
第四條 廠員及副監督ハ廠長ノ命ヲ受ケ職務ニ服ス

朕陸軍被服廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第二十三號(官報 三月四日)

陸軍被服廠條例

第一條 陸軍被服廠ハ陸軍被服品ノ調辨、製造、貯藏及補給ヲ掌リ陸軍縫靴工長ノ養成ニ任シ且被服ニ關スル試験ヲ行フ
第二條 陸軍被服廠ハ被服本廠及被服支廠ヨリ成ル
本廠ハ東京ニ、支廠ハ大阪及廣島ニ置ク
陸軍大臣ハ必要ニ應シ被服廠ニ派出所ヲ設クルコトヲ得
第三條 陸軍被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク
本廠

本廠長

廠員

技師

下士判任文官

支廠

支廠長

廠員

技師

下士判任文官

前項職員ノ外必要ニ應シ軍醫ヲ置クコトヲ得

陸軍被服廠ニ縫靴工卒ヲ置ク

第四條 本廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ被服廠ノ業務ヲ掌理ス

第五條 支廠長ハ本廠長ノ命ヲ承ケ支廠ノ業務ヲ掌ル

第六條 廠員及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル

第七條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍糧秣廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ヒシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第二十四號(官報 三月四日)

陸軍糧秣廠條例

- 第一條 陸軍糧秣廠ハ陸軍糧秣品ノ調辨、製造、貯藏及補給ヲ掌リ且糧秣ニ關スル試験ヲ行フ
- 第二條 陸軍糧秣廠ハ糧秣本廠及糧秣支廠ヨリ成ル
- 本廠ハ東京ニ、支廠ハ大阪及宇品ニ置ク
- 陸軍大臣ハ必要ニ應シ糧秣廠ニ派出所ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 陸軍糧秣廠ニ左ノ職員ヲ置ク

- 本廠長
- 廠員
- 技師
- 下士、判任文官
- 支廠長

廠員

技師

下士、判任文官

- 前項職員ノ外必要ニ應シ軍醫ヲ置クコトヲ得
 - 第四條 本廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ糧秣廠ノ業務ヲ掌理ス
 - 第五條 支廠長ハ本廠長ノ命ヲ承ケ支廠ノ業務ヲ掌ル
 - 第六條 廠員及技師ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ事務ヲ掌ル
 - 第七條 下士、判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕衛戍病院條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ヒシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第二十五號(官報 三月四日)

衛戍病院條例

第一條 衛戍病院ハ之ヲ衛戍地ニ置ク

衛戍病院ハ其ノ所在地陸軍部隊ノ患者ヲ收容治療シ衛生材料ヲ保管供給シ衛生部下士以下ノ教育ヲ掌ル

前項ノ外内地ノ衛戍病院ニ於テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ海外臺灣及樺太ヲ含ムヨリ送還スル患者ヲ收容治療スルコトヲ得

第二條 東京衛戍地ニハ衛戍病院二箇ヲ置ク其ノ各病院ニ收容治療スヘキ部隊ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條 衛戍地ノ狀況ニ依リ衛戍病院ニ分院ヲ設クルコトヲ得其ノ設置及位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ臺灣樺太韓國又ハ滿洲ニ在リテハ臺灣總督樺太守備隊司令官韓國駐劄軍司令官又ハ關東都督之ヲ定ム

第四條 衛戍病院臺灣樺太韓國及滿洲ニ在リテハモノヲ除クハ之ヲ四等ニ區分ス

第五條 衛戍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

病院長

軍醫正、軍醫

藥劑正、藥劑官

主計

前項職員中軍醫正、藥劑正、藥劑官又ハ主計ハ之ヲ置カサルコトヲ得

衛戍病院ニ看護卒ヲ置ク

第六條 衛戍病院所在地部隊附衛生部員ハ之ヲシテ病院ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

第七條 病院長ハ所在地高級國隊長東京ニ在リテハ第一師團長習志野ニ在リテハ騎兵第二旅團長

司令官、滿洲ニ在リテハ關東都督、樺太ニ在リテハ樺太守備隊司令官、

及衛生材料整理ノ責任ニ任ス尙其ノ衛生勤務ニ關シテハ所管軍醫部長樺太ニ在リテハ樺太守備隊

司令官、關東都督府陸軍部、滿洲ニ在リテハ關東都督府陸軍部、

第八條 軍醫正、軍醫、藥劑正、藥劑官及主計ハ病院長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ事務ヲ掌ル第六條ニ

依リ病院勤務ニ服スル者亦同シ

第九條 下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十條 軍人、軍屬旅行途上發病シタルトキ其ノ他患者ノ治療上必要アルトキハ第一條ノ規定ニ

拘ラス便宜ノ衛戍病院ニ於テ之ヲ收容治療スルコトヲ得現職若ハ現役ヲ離レ又ハ候補生、諸生

徒ヲ免セラレタル者ニシテ一時治療ヲ要スルトキ亦同シ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍經理部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第二十六號(官報 三月四日)

陸軍經理部條例

- 第一條 本令ニ於テ陸軍經理部ト稱スルハ師團經理部、臺灣總督府陸軍經理部、韓國駐節軍經理部及關東都督府陸軍經理部ヲ謂フ
- 第二條 陸軍經理部ハ當該師團長、臺灣總督、韓國駐節軍司令官又ハ關東都督ニ隸屬スル陸軍部隊ノ會計經理ヲ統理ス
- 第三條 陸軍經理部ハ當該師管、臺灣、韓國又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊ノ會計事務ノ監督及陸軍所屬ノ土地、建造物ノ經營ヲ掌ル但シ經營事務中國防ニ關スルモノ又ハ砲兵工廠若ハ千住製絨所ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 前條ノ監督及經營ニシテ近衛師團長ニ隸屬スル部隊ニ關スルモノハ該師團經理部之ヲ掌ル
- 第五條 陸軍大臣ハ必要ニ應シ前三條ノ所管區域ヲ變更スルコトヲ得
- 第六條 陸軍經理部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長
 - 部員
 - 技師
 - 下士判任文官
- 第七條 經理部長ハ當該師團長、臺灣總督、韓國駐節軍司令官又ハ關東都督ニ隸シ部務ヲ掌理ス但シ第三條ノ事項ニ關シテハ陸軍大臣ニ直隸ス

前項但書ノ場合ニ於テ其ノ事項所屬長官ニ直接關係ヲ有スルトキハ經理部長ハ之ヲ該長官ニ報告スヘシ

- 第八條 經理部長ハ必要ニ應シ陸軍經理部ニ派出所ヲ設クルコトヲ得
 - 第九條 經理部長ハ陸軍省經理局長ノ區域ヲ受ケ所管內經理部士官以下ノ人事及教育ヲ掌理ス
 - 第十條 韓國又ハ滿洲ニ駐節スル師團ノ經理部長ハ駐節ノ爲必要ナル事項ニ付テハ韓國駐節軍經理部長又ハ關東都督府陸軍經理部長ノ區域ヲ受ク
 - 第十一條 經理部長ハ所管內陸軍部隊ニ於ケル會計經理ノ檢查ヲ行フ
 - 第十二條 經理部長ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外所管內陸軍部隊ノ廢品處分ヲ承認ス但シ當該長官ニ之ヲ分任スルコトヲ得
 - 第十三條 經理部長ハ必要アルトキハ當該部隊ノ長官又ハ主任官吏ヲシテ會計經理ニ關スル簿表及報告書ヲ提出セシメ又ハ其ノ辯明ヲ爲サシムルコトヲ得
 - 第十四條 經理部長ハ會計經理ニ關シ必要アルトキハ所管內陸軍部隊ノ經理委員又ハ主任官吏ヲ會同セシムルコトヲ得
 - 第十五條 部員ハ經理部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス
 - 第十六條 技師ハ經理部長ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス
 - 第十七條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 師團經理部條例及臺灣陸軍經理部條例ハ之ヲ廢止ス

朕陸軍軍醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第二十七號(官報三月四日)

陸軍軍醫部條例

- 第一條 本令ニ於テ陸軍軍醫部ト稱スルハ師團軍醫部、臺灣總督府陸軍軍醫部、韓國駐劄軍軍醫部及關東都督府陸軍軍醫部ヲ謂フ
- 第二條 陸軍軍醫部ハ當該師團及師管、臺灣、韓國又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊ノ衛生及醫事ヲ統理ス
- 近衛師團長ニ隸屬スル部隊ノ衛生及醫事ハ該師團軍醫部之ヲ統理ス
- 第三條 陸軍大臣ハ必要ニ應シ前條ノ所管區域ヲ變更スルコトヲ得
- 第四條 陸軍軍醫部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長
 - 部員
 - 下士
- 第五條 軍醫部長ハ當該師團長、臺灣總督、韓國駐劄軍司令官又ハ關東都督ニ隸シ部務ヲ掌理シ所管內陸軍部隊ノ衛生勤務ヲ監督ス

第六條 軍醫部長ハ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ケ所管內衛生部士官以下ノ人事及教育並衛生材料ニ關スル事項ヲ掌理ス

第七條 韓國又ハ滿洲ニ駐劄スル師團ノ軍醫部長ハ駐劄ノ爲必要ナル事項ニ付テハ韓國駐劄軍軍醫部長又ハ關東都督府陸軍軍醫部長ノ區處ヲ受ク

第八條 軍醫部長ハ所屬長官ノ命ヲ承ケ所管內陸軍部隊ニ於ケル衛生及之ニ關スル教育並戰用衛生材料等ノ查閱ヲ行フ

第九條 軍醫部長ハ所管內陸軍部隊ノ勤務上必要アル場合ニ於テハ衛生部員ヲシテ其ノ所屬以外ノ部隊ニ就キ勤務ニ服セシムルコトヲ得

第十條 部員ハ軍醫部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス

第十一條 下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣陸軍軍醫部條例ハ之ヲ廢止ス

朕陸軍獸醫部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第二十八號(官報三月四日)

陸軍獸醫部條例

- 第一條 本令ニ於テ陸軍獸醫部ト稱スルハ師團獸醫部、臺灣總督府陸軍獸醫部、韓國駐節軍獸醫部及關東都督府陸軍獸醫部ヲ謂フ
- 第二條 陸軍獸醫部ハ當該師團及師管、臺灣、韓國又ハ滿洲ニ在ル陸軍部隊ノ軍馬衛生ヲ統理ス
- 第三條 陸軍大臣ハ必要ニ應シ前條ノ所管區域ヲ變更スルコトヲ得
- 第四條 陸軍獸醫部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
下士

- 第五條 獸醫部長ハ當該師團長、臺灣總督、韓國駐節軍司令官又ハ關東都督ニ隸シ部務ヲ掌理シ所管內陸軍部隊ノ軍馬衛生勤務ヲ監督ス
- 第六條 獸醫部長ハ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ケ所管內獸醫部士官以下ノ人事及教育並獸醫材料及蹄鐵ニ關スルコトヲ掌理ス
- 第七條 韓國又ハ滿洲ニ駐節スル師團ノ獸醫部長ハ駐節ノ爲必要ナル事項ニ付テハ韓國駐節軍獸醫部長又ハ關東都督府陸軍獸醫部長ノ區處ヲ受ク
- 第八條 獸醫部長ハ所屬長官ノ命ヲ承ケ所管內陸軍部隊ニ於ケル軍馬衛生及之ニ關スル教育並獸醫材料及蹄鐵等ノ査閲ヲ行フ

- 第九條 獸醫部長ハ所管內陸軍部隊ノ勤務上必要アル場合ニ於テハ獸醫ヲシテ其ノ所屬以外ノ部隊ニ就キ勤務ニ服セシムルコトヲ得
- 第十條 部員ハ獸醫部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス
- 第十一條 下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
臺灣陸軍獸醫部條例ハ之ヲ廢止ス

朕陸軍法官部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第二十九號(官報三月四日)

陸軍法官部條例

- 第一條 本令ニ於テ陸軍法官部ト稱スルハ師團法官部、臺灣總督府陸軍法官部、韓國駐節軍法官部及關東都督府陸軍法官部ヲ謂フ
- 第二條 陸軍法官部ハ當該師團長、臺灣總督、韓國駐節軍司令官又ハ關東都督ノ權限ニ屬スル軍事司法ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條 陸軍法官部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員

前項職員ノ外録事及陸軍警守ヲ置ク陸軍警守ハ判任官ノ待遇トシ其ノ採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 法官部長ハ當該師團長、臺灣總督、韓國駐節軍司令官又ハ關東都督ニ隸シ部務ヲ掌理シ法律事項ノ諮問ニ應ス

第五條 部員ハ法官部長ノ命ヲ承ケ部務ニ從事ス

第六條 録事及陸軍警守ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

陸軍警守ハ陸軍軍法會議ノ法廷ノ警衛書類ノ送達並被告人ノ護送及看守ニ任ス

第七條 陸軍法官部ノ職員ハ陸軍軍法會議ノ事務ニ服ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣陸軍法官部條例及明治三十五年勅令第八十五號ハ之ヲ廢止ス

朕陸軍經理學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第三十號(官報 三月四日)

陸軍經理學校條例

第一條 陸軍經理學校ハ陸軍經理部士官中ヨリ選拔シタル者ヲ學生ト爲シ之ニ高等ノ學術ヲ修得セシメ陸軍主計候補生ヲ生徒ト爲シ之ニ陸軍經理部初級士官タル爲必要ノ教育ヲ施シ且經理ニ關スル學術上ノ調査ヲ行フ所トス

第二條 學生及生徒ノ教育綱領ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條 陸軍經理學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

生徒隊長

生徒隊附中少尉

軍醫

下士判任文官

第四條 校長ハ陸軍大臣ニ隸シ校務ヲ掌理ス

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條ノ事項ヲ分擔ス

第七條 生徒隊長ハ生徒ノ訓育ヲ掌リ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス

第八條 生徒隊附中少尉ハ生徒隊長ノ指揮ヲ承ケ生徒訓育ノ事ニ從ヒ生徒ノ躬行ヲ監視シ其ノ責ニ任ス

第九條 軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ衛生事務ヲ掌ル

第十條 學生ハ現役一二等主計中身體強健勤務精勵操行高尚且將來發達ノ見込アリテ檢定試験ニ合格シタル者ヨリ採用ス

第十一條 陸軍經理部長、陸軍省經理局各課長、陸軍會計監督部長、陸軍被服本廠長、陸軍糧秣本廠長、陸軍經理學校長ハ所管内ニ於テ適當ト認ムル者ヲ選拔シ學生候補名簿ヲ調製シ本人ノ考科表ヲ附シ陸軍省經理局長ニ進達ス經理局長ハ之ヲ審査シ檢定試験ヲ受ケシムヘキ者ノ名簿ヲ調製シ陸軍大臣ニ進達ス

第十二條 陸軍大臣ハ學生ニ採用スヘキ者ノ學力及其ノ活用ヲ檢定スル爲試験委員ヲ設ケ經理局長ヲ委員長ト爲シ檢定試験ヲ行ハシム

第十三條 試験委員長ハ試験ノ成績ニ依リ學生ニ採用スヘキ者ヲ選定シ陸軍大臣ニ上申ス陸軍大臣ハ之ヲ裁定シ學生ヲ命ス

第十四條 毎年採用スヘキ學生ノ人員、入校期日其ノ他採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十五條 學生ノ修學期間ハ概一年トシ生徒ノ修學期間ハ概一年九月トス

第十六條 學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

生徒ハ校長ノ管轄ニ屬ス

第十七條 學生ハ校外ニ居住セシメ學生及生徒ノ修學ニ要スル兵器、圖書、器具及消耗品ハ之ヲ貸

與又ハ支給スルコトヲ得

生徒中各隊ヨリ派遣スル者ハ所屬隊ヨリ其ノ被服ヲ、計手ニシテ主計候補生ヲ命セラレタル者ハ所持被服一切ヲ携行セシム

第十八條 學生及生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退校スルヲ許サス

第十九條 生徒中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ退校セシム

一 學術ノ修得不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷痍疾病ニ因リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第シタル者

第二十條 校長ハ學生修學期末ニ於テ教官ヲ會シ學生ノ學術及伎倆ヲ審査シ伎倆證明書及列序名簿ヲ調製シ陸軍省經理局長ヲ經テ陸軍大臣ニ呈出シ其ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與ス

第二十一條 卒業ノ學生中成績優秀ノ者ハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ員外學生ト爲シ更ニ一年間在學セシメ又ハ帝國大學ノ規程ニ依リテ之ニ入學セシメ必要ノ學科ヲ研究セシムルコトヲ得
卒業證書ヲ付與シタル者ノ中更ニ員外學生トシテ在學セシムル者ノ外ハ校長ニ於テ直ニ之ヲ原

所管部隊ニ復歸セシム

第二十二條 校長ハ生徒修學期末ニ於テ卒業試験格例ヲ定メ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受ケテ卒業試験ヲ施行シ教官及生徒隊長ヲ會シ其ノ成績ヲ審議シ考科及列序ヲ定メ經理局長ノ認可ヲ受ケ及第者ニ卒業證書ヲ付與シ歸隊ヲ命ス

第二十三條 校長ハ學生又ハ生徒ニシテ退校又ハ滯學セシムル必要アリト認メタル者アルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ具申シ其ノ裁定ヲ受ク

第二十四條 滯學ヲ命セラレタル學生又ハ生徒修學ヲ終レハ第二十條乃至第二十二條ニ準シテ之ヲ取扱フ

第二十五條 校長ハ毎年學生及生徒ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

經理部依託學生ハ従前ノ規定ニ依リ經理學校學生ト爲スコトヲ得其ノ修學期間ハ従前ノ規定ニ依ル

朕陸軍軍醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第三十一號(官報三月四日)

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ學生ヲシテ衛生部ニ必要ナル學術ヲ練習セシメ軍陣醫學ヲ研究シ教科圖書ノ編纂又ハ選擇ヲ爲シ且軍事衛生ニ關スル試験ヲ行フ所トス

第二條 學生ノ教育綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ陸軍省醫務局長之ヲ定ム

第三條 陸軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

主計

下士判任文官

第四條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ校務ヲ掌理ス

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第六條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條ノ事項ヲ分擔ス

第七條 主計ハ校長ノ命ヲ承ケ其ノ擔任ノ事務ヲ掌ル

第八條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第九條 學生ヲ分チテ左ノ三種トス

普通學生

專攻學生

上長官學生

普通學生ハ衛生部士官ヲ以テ之ニ充ツ

專攻學生ハ校長陸軍省醫務局長ノ認可ヲ受ケ練習ヲ終リタル普通學生中ヨリ選抜シタル者ヲ以テ之ニ充ツ但シ普通學生ノ練習ヲ爲ササル衛生部士官ト雖特ニ陸軍省醫務局長ノ認可ヲ經タル

者ニ限リ之ヲ專攻學生ト爲スコトヲ得

專攻學生ハ研究ノ爲之ヲ帝國大學醫科大學又ハ傳染病研究所等へ派遣スルコトヲ得

上長官學生ハ三等軍醫正ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 普通學生ノ練習期間ハ概六月トス

專攻學生ノ練習期間ハ概四月トス但シ前條第三項但書ノ者ニ在リテハ概一年トス

上長官學生ノ練習期間ハ概四月トス

第十一條 學生ノ人員ハ入校期日ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 前條ノ告達アリタルトキハ師團長ハ軍醫部長ヲシテ學生タルヘキ者ヲ選定シ入校期日

二十日前ニ其ノ官等氏名ヲ校長ニ通報セシムヘシ

第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ其ノ修學ニ要スル圖書器具及消耗品ハ之ヲ貸與又ハ支給ス

ルコトヲ得

第十四條 學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ自己ノ便宜ニ依リ退校スルヲ許サス

第十六條 學生中疾病其ノ他ノ事故ニ因リ練習ヲ終ルノ目途ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍省

醫務局長ノ認可ヲ受ケテ退校ヲ命シ原所管部隊ニ復歸セシム

第十七條 學生練習ヲ終リタルトキハ校長ハ之ニ原所管部隊復歸ヲ命シ練習科業ノ成績其ノ他必

要ノ事項ヲ陸軍省醫務局長ニ報告スルト共ニ師團長ヲ經テ所管軍醫部長ニ通報ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍獸醫學學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第三十二號(官報三月四日)

陸軍獸醫學學校條例

第一條 陸軍獸醫學學校ハ學生ヲシテ獸醫及蹄鐵ニ關スル必要ノ學術ヲ練習セシメ學術材料ヲ研究
調査シ教科圖書ノ編纂又ハ選擇ヲ爲シ軍馬衛生ニ關スル試験ヲ行ヒ且蹄鐵工長候補者ニ對シ必
要ノ教育ヲ施ス所トス

陸軍獸醫學學校ニ病馬廠ヲ置キ東京衛戍地内ニ在ル陸軍部隊所屬ノ重症患馬ヲ收容治療ス

第二條 學生ノ教育綱領ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ陸軍省軍務局長之ヲ定ム

第三條 陸軍獸醫學學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

病馬廠長

病馬廠廠員

主計

軍醫

下士判任文官

- 第四條 校長ハ陸軍省軍務局長ニ隸シ校務ヲ掌理ス
- 第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル
- 第六條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ第一條第一項ノ事項ヲ分擔ス
- 第七條 病馬廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ病馬廠ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第八條 病馬廠廠員ハ病馬廠長ノ命ヲ承ケ廠務ニ従事ス
- 第九條 主計軍醫ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ事務ヲ掌ル
- 第十條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス
- 第十一條 學生ヲ分チテ士官學生及下士學生ノ二トス
士官學生ハ左ノ二種トス
甲種學生 一、二等獸醫ヲ以テ之ニ充ツ
乙種學生 一、二等獸醫ヲ以テ之ニ充ツ
- 下士學生ハ蹄鐵工長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十二條 蹄鐵工長候補者ハ蹄鐵工卒ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十三條 陸軍大臣ハ陸軍獸醫學校ニ獸醫部上長官ヲ召集シ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但シ入校期日及修學期間ハ其ノ都度之ヲ告達ス
- 第十四條 修學期間ハ甲種學生ニ在リテハ概五月、乙種學生ニ在リテハ概八月、下士學生ニ在リテハ概三月、蹄鐵工長候補者ニ在リテハ概九月トス

ハ概三月、蹄鐵工長候補者ニ在リテハ概九月トス
校長ハ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ受ケ甲種學生ノ練習ヲ終リタル者ヲ選拔シ更ニ一年以内在學セシメ必要ノ學術ヲ專攻セシムルコトヲ得

- 第十五條 學生及蹄鐵工長候補者ノ人員及入校期日ハ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十六條 前條ノ告達アリタルトキハ師團長ハ士官學生ニ在リテハ獸醫部長、下士學生及蹄鐵工長候補者ニ在リテハ當該隊長ヲシテ之ヲ選定シ入校期日二十日前ニ其ノ官等氏名ヲ校長ニ通報セシムヘシ
- 第十七條 士官學生ハ校外ニ下士學生及蹄鐵工長候補者ハ校内ニ居住セシム但シ營外居住ノ下士ハ校外ニ居住セシム
- 第十八條 學生及蹄鐵工長候補者ノ修學ニ要スル圖書、器具及消耗品ハ士官學生ニ在リテハ自辨トシ下士學生及蹄鐵工長候補者ニ在リテハ之ヲ貸與又ハ支給ス但シ士官學生ト雖科業ノ種類ニ依リ之ヲ貸與又ハ支給スルコトヲ得
- 下士學生及蹄鐵工長候補者ニ在リテハ兵器及被服ヲ其ノ所屬隊ヨリ携行セシム
- 第十九條 學生及蹄鐵工長候補者ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス
- 第二十條 學生及蹄鐵工長候補者ハ自己ノ便宜ニ依リ退校スルヲ許サス
- 第二十一條 學生中疾病其ノ他ノ事故ニ因リ練習ヲ終ル目途ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ受ケテ退校ヲ命シ原所管部隊ニ復歸セシム
- 第二十二條 蹄鐵工長候補者中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ校長其ノ事由ヲ具シ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ受ケテ退校ヲ命シ歸隊セシム但シ第四號ニ該當スル者ハ豫メ所屬隊長ニ通報シ退校ト

同時ニ除隊ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 學術ノ修得不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
 - 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
 - 三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 - 四 傷痍疾病ニ因リ卒業ノ目途ナキ者
 - 五 卒業試験ニ落第シタル者
- 蹄鐵工長候補者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ卒業試験ヲ受ケサルモ將來ニ望アル者ハ之ニ相當ノ延期ヲ與ヘ更ニ受験セシムルコトヲ得

第二十三條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ニ在リテハ教官ヲ會シ其ノ學術及伎倆ヲ審査シ陸軍省軍務局長ノ認可ヲ受ケテ之ニ修得證明書ヲ付與シ蹄鐵工長候補者ニ在リテハ卒業試験ヲ施行シ及第者ニ卒業證書ヲ付與ス

修學ヲ終リタル者ハ校長ニ於テ之ニ原所管部隊復歸ヲ命シ科業ノ成績及其ノ他必要ノ事項ヲ陸軍省軍務局長ニ報告スルト共ニ師團長ヲ經テ其ノ所屬長ニ通報ス

第二十四條 授業上所要ノ馬匹ハ入廠中ノ患馬又ハ陸軍騎兵實施學校保管馬ヲ以テ之ニ充ツ但シ時宜ニ依リ他ノ學校又ハ軍隊ノ保管馬ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

入廠患馬及軍隊學校ノ馬匹中所管長官ニ於テ除役處分ノ認可ヲ與ヘタルモノ及斃馬ハ校長ヨリ當該部隊長ニ協議ノ上試験用トシテ交付ヲ受クルコトヲ得

第二十五條 入廠患馬ノ治療ニ要スル藥物及消耗品ノ費用ハ學校ノ支辨トス但シ將校又ハ同相當官各自ニ緊需スル乘馬ニ付テハ陸軍大臣ノ定ムル定額ヲ納付セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十一年三月三日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望
 文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第三十三號(官報 三月四日)
 帝國大學經理委員會規則中左ノ通改正ス

第三條第一項第三號中「帝國大學各分科大學長」ノ下ニ「醫科大學附屬醫院長」ヲ加フ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

- 勅令第五十四號帝國大學經理委員會規則(明治四十年三月二十五日官報)抄錄
- 第三條 帝國大學經理委員會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 三 帝國大學各分科大學長及帝國大學書記官一人

朕明治三十二年勅令第三百四十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

勅令第三百四十四號(官報 三月七日)

明治三十二年勅令第三百四十二號中左ノ通改正ス

第一條中「肥前國口ノ津」ノ次ニ「筑後國三池」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百四十二號(明治三十二年七月十三日官報)抄錄

第一條 從來ノ開港ノ外左ノ諸港ヲ開港トス

駿河國清水港(以下)

朕明治三十二年勅令第三百四十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

勅令第三十五號(官報 三月七日)

明治三十二年勅令第三百四十九號別表中左ノ通改正ス

「口ノ津」ノ欄ノ次ニ左ノ如ク加フ

三 池

筑後國三川

筑後國 肥後國玉名郡、鹿本郡、菊池郡、阿蘇郡

「三角」ノ欄管轄區域中「肥後國」ヲ「肥後國熊本市宇土郡、飽託郡、下益城郡、上益城郡、八代郡、葦北郡、球磨郡、天草郡」ニ改メ「筑後國」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十二年 四月二十日 勅令第三百六十九號ハ稅關支署ノ名稱位置及管轄區域ナリ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東州防禦營造物地帶令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
陸軍大臣 子爵寺內正毅
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第三十六號(官報 三月七日)

關東州防禦營造物地帶令

第一條 防禦營造物地帶ハ陸地ト水面トヲ問ハス防禦營造物ヲ基點トシ其ノ外方地域ヲ左記標準ニ依リ三區ニ分ツ

第一區 基點ヲ去ルコト五百間以内

第二區 基點ヲ去ルコト二千五百間以内

第三區 基點ヲ去ルコト五千間以内

前項ノ規定ハ防禦營造物ヲ設クルコトニ豫定シタル箇所ニ付亦之ヲ適用ス

第二條 防禦營造物地帶ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ關東都督其ノ區域ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ變更ノ場合亦同シ

第三條 防禦營造物ニ出入セムトスル者ハ其ノ所屬ニ從ヒ要塞司令官又ハ旅順鎮守府司令長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 防禦營造物地帶ニ於ケル水陸ノ形狀又ハ防禦營造物ハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ測量、攝影、模寫、模造又ハ錄取スルコトヲ得ス

第五條 防禦營造物地帶第一區及第二區ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ左記各號ノ行為ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル工事
- 二 溝渠、鹽田、水道、道路、橋梁、繫泊場ノ新設又ハ其ノ變更
- 三 鐵道、軌道、隧道ノ新設又ハ其ノ變更

四 採鑛共ノ他地盤ノ掘鑿

五 運河、永久棧橋ノ新設、水面ノ埋立、河海岸ノ掘鑿又ハ其ノ變更

前項ニ關スル處分ニ付テハ要塞司令官ハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 防禦營造物地帶第一區ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ左記各號ノ行為ヲ爲スコトヲ得ス

一 工作物ノ新設、變更又ハ移轉

二 埋葬地、牧場、公園、竹林ノ新設又ハ其ノ變更

三 山林原野ニ於ケル焚火

四 火器爆發物ノ發射、發火

五 爆發物其ノ他燃焼シ易キ危險物ノ製造又ハ貯藏

六 漁業、採藻又ハ船舶ノ繫泊

第七條 要塞司令官ハ防禦營造物地帶ニ於テ兵備ノ狀況其ノ他地形等ノ視察ヲ爲ス者ト認メタルトキハ之ヲ地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第八條 要塞司令官ハ防禦營造物地帶ニ於ケル水陸ノ形狀又ハ防禦營造物ニ關スル文書、圖畫、模型ノ類ニシテ軍事上有害ナリト認ムルモノヲ發見シタルトキハ之ヲ沒入スルコトヲ得

第九條 要塞司令官ハ第五條及第六條ノ違反者ニ對シ期限ヲ定メテ其ノ復舊ヲ命スルコトヲ得義務者指定ノ期限迄ニ復舊セサルトキ又ハ復舊ヲ終了シ能ハスト認メタルトキハ要塞司令官ニ於テ之ヲ執行シ國稅徵收ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項ニ依リ第五條ノ違反者ニ對シ復舊ヲ命スル場合ニ於テハ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 關東都督ハ一定ノ區域ヲ限リ第四條乃至第六條ノ禁止ノ一部又ハ全部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス其ノ變更又ハ取消ヲ爲シタルトキ亦同シ前項ノ場合ニ於テハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 防禦營造物地帯ニシテ専ラ海軍ニ關スルモノニ付テハ本令ニ定メタル關東都督及要塞司令官ノ職權ハ旅順鎮守府司令長官之ヲ行ヒ陸軍大臣ノ職權ハ海軍大臣之ヲ行フ
防禦營造物地帯ニシテ海軍ニ關係アルモノニ付テハ第七條及第八條ニ定メタル要塞司令官ノ職權ハ旅順鎮守府司令長官ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十二條 第二條第五條第六條第九條及第十條ノ場合ニ於テ其ノ海軍ノ防禦營造物地帯ニ關聯スルモノニ在リテハ陸軍官憲ハ之ヲ海軍官憲ニ協議スヘシ
第十三條 要塞司令官及旅順鎮守府司令長官ハ防禦營造物ノ地帯ヲ畫スル爲其ノ他必要アル場合ニ於テ部下官僚ヲシテ防禦營造物地帯及其ノ附近ノ地ニ出入セシムルコトヲ得

第十四條 官廳ニ於テ第三條乃至第六條ニ定メタル行爲ヲ爲サントスル場合ニ於テハ豫メ陸海軍官憲ニ協議スヘシ
第十五條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 防禦營造物地帯ニ關スル標木標石又ハ標札ノ類ヲ移轉シ又ハ毀損シタル者
二 許可ヲ受ケスシテ防禦營造物ニ出入シタル者
三 第四條乃至第六條ニ違反シタル者
四 第七條ニ依リ退去ヲ命セラレ之ニ從ハサル者

第十六條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ關東都督旅順鎮守府司令長官ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ニ依リ許可ヲ要スル事項ハ本令施行前既ニ許可ヲ受ケタルモノト雖遲滞ナク其ノ目的位置方法等ヲ記シ更ニ要塞司令官ニ申請スヘシ本令施行後三月内ニ申請セサルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

朕海軍大學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第三十七號(官報三月七日)

海軍大學校條例中左ノ通改正ス

第二十二條 海軍大學校學生銓衡委員ハ海軍教育本部長海軍大學校長並海軍大臣ノ特ニ命スル海軍將官同相當官及海軍佐官同相當官ヲ以テ編成シ委員長ハ海軍教育本部長ヲ以テ之ニ充ツ

〔參照〕

勅令第百三十四號海軍大學校條例(明治四十年四月二十二日官報)抄録
第二十二條 海軍大學校學生銓衡委員ハ海軍教育本部長海軍大學校長及海軍大臣ノ特ニ命スル海軍將官同相當官ヲ以テ編成シ委員長ハ海軍教育本部長ヲ以テ之ニ充ツ

朕酒造税法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

勅令第三十八號

酒造税法施行規則中左ノ通改正ス

第十條中「酒精含有飲料」ヲ削ル

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 金錢

二 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

三 土地

四 火災保險ニ附シタル建物

第二十二條 保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル

第二十四條中「證券、債券」ヲ「有價證券」ニ改ム

第四十二條ノ二 酒造税法第三十三條ニ依リ 酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醱其

ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行為ヲ繼續セシムヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百八十七號酒造税法施行規則(明治二十九年八月十八日官報)抄録

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醱、酒精、酒精含有飲料ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 金錢

二 利付國債證券地方債證券

三 政府ノ保險又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

四 土地

五 建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第二十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地建物ハ稅務管理局長ノ認メタル時價ヨリ十分ノ二ヲ控除シタルモノニ依ル但シ建物ニ付テハ時價ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シタルモノノ被保險額ヨリ多キトキハ被保險額ニ依ル

第二十四條 保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ墮倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ地方長官ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

朕酒精及酒精含有飲料稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十六日

勅令第三十九號

酒精及酒精含有飲料稅法施行規則中左ノ通改正ス

第七條ノ二 變災共ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ノ二ノ制限石數

以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取

消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製

成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

朕麥酒稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

勅令第四十號

麥酒稅法施行規則中左ノ通改正ス

第七條ノ二 變災共ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ麥酒稅法第三條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲

ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 麥酒稅法第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スル

トキハ稅務署長ハ麥酒製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕石油消費稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
大藏大臣 松田正久

勅令第四十一號

石油消費稅法施行規則

第一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第三條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ石油製造者ニ製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ

目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四條 石油製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條 石油製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第一條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 石油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
石油製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 石油製造者共ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
第九條 外國ニ輸出スル石油ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ其ノ石油ニ封印ヲ施シ之ヲ護送シ又ハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

消費稅ノ免除ヲ得タル石油ヲ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取リタル後六月以内ニ外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出セサルトキハ外國ニ輸出セラレサルモノト看做シ引取人ヨリ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十條 消費稅ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際其ノ旨輸出港稅關ニ申告スヘシ
前項ニ依リ輸出ヲ爲シタル者共ノ石油ニ付消費稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ輸出港稅關ニ出願シタルトキハ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

第十一條 石油消費稅法第六條ニ依リ石油ヲ移出セムトスル者ハ運搬線路及運搬先ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ
第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 第九條及前條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第十四條 擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル
擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ
前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十八條 石油製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日

四 他ニ引渡シタル種類、數量、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條 石油販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル數量、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル數量、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テ製造場又ハ貯藏場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條 收稅官吏ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル石油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附則 本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石油消費稅法第二十二條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

朕間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十六日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 松田正久

勅令第四十二號

間接國稅犯則者處分法施行規則中左ノ通改正ス

第一條中「鹽稅」ヲ「石油消費稅」ニ改ム

第二條中「所有者」ヲ「所有者、所持者」ニ改ム

附則 本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕 勅令第五十二號間接國稅犯則者處分法施行規則(明治三十三年三月二十三日官報)抄錄

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

十一 鹽稅

朕沖繩縣區制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
内務大臣 原 敬

勅令第四十三號 (官報 三月十七日)

沖繩縣區制

第一章 總則

第一款 區及其ノ區域

第二款 區住民及其ノ權利義務

第三款 區條例及區規則

第二章 區吏員

第一款 組織選舉及任免

第二款 職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第三章 區會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 區ノ財務

第一款 財產營造物及收入支出

第二款 歲入出豫算及決算

第五章 區内一部ノ行政

第六章 區行政ノ監督

第七章 雜則

沖繩縣區制

第一章 總則

第一款 區及其ノ區域

第二款 區ハ從來ノ區域ニ依ル

ニ屬スル事務ヲ處理ス
第三款 町村ヲ區ト爲シ區ヲ町村ト爲スコトヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム

町村ヲ區ニ合併シ又ハ區ノ區域ヲ分割シ若ハ區ノ境界變更ヲ要スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得

テ沖繩縣知事之ヲ定ム所屬未定地ヲ區ノ區域ニ編入スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得
本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ關係アル區町村會ノ意見ヲ徵シ沖繩縣知事之ヲ定ム

區ノ境界判明ナラサル場合ニ於テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム
第四條 區ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要スルトキハ區ノ申請ニ依リ内務大臣之ヲ定ム
區役所ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ要スルトキハ區ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 區住民及其ノ權利義務

第五條 區内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ區住民トス

區住民ハ本令ニ從ヒ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ區ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第六條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子二年以來區ノ住民ト爲リ

其ノ區ノ負擔ヲ分任シ及其ノ區内ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者ハ其ノ區公民トス但シ公費ヲ以テ

貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

區ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納

稅シタルモノト看做ス

區公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ區町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セララルコト

ナシ

區稅ヲ賦課セサル區ニ在リテハ第一項區公民ノ要件中區ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第七條 區公民ハ區ノ選舉ニ參與シ區ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ區ノ名譽職ヲ擔任スル

義務ヲ負フ

名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ退キ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル制裁ニ付必

要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第八條 區公民ニシテ第六條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ失フトキハ其ノ公民權ヲ失フ

區公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ

受ケ共ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ

其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ區ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時

又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第二款 區條例及區規則

第九條 區ハ區住民ノ權利義務又ハ區ノ事務ニ關シ區條例ヲ設クルコトヲ得

區ハ區ノ營造物ニ關シ區規則ヲ設クルコトヲ得

區條例及區規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 區吏員

第一款 組織選舉及任免

第十條 區ニ區長及助役各一人ヲ置ク

第十一條 區長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

內務大臣ハ區會ヲシテ區長候補者三人ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

區長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第十二條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ區會之ヲ選舉シ沖繩縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

助役ハ沖繩縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第十三條 區公民ニ非シテ區長又ハ助役タル者ハ在職ノ間其ノ區公民權ヲ取得ス

第十四條 區長及助役ハ第四十五條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ區ニ對シ工事ノ

請負物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ區ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ區長及助役タルコトヲ得ス縁故者助役ニ當選シタルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ區長ニ推薦セラレ裁可アリタルトキハ縁故アル助役ハ其ノ職ヲ失フ

第十五條 區長及助役ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業又ハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

區長及助役ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第十六條 區ニ收入役一人ヲ置ク

區ハ區條例ヲ以テ副收入役一人ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ區長ノ推薦ニ依リ區會之ヲ選定シ沖繩縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及副收入役ニ關シテハ第十二條第一項及第十三條乃至第十五條ノ規定ヲ準用ス

區長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ收入役又ハ副收入役タルコトヲ得ス收入役又ハ副收入役トノ間ニ其ノ縁故アル者區長ニ推薦セラレ裁可アリタルトキ又ハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受ケタルトキハ縁故アル收入役又ハ副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

第十七條 區ハ區條例ヲ以テ處務便宜ノ爲部ヲ劃シ部長及其ノ代理者各一人ヲ置クコトヲ得

部長及其ノ代理者ハ名譽職トシ其ノ部ニ於テ被選舉權ヲ有スル者ノ中ニ就キ區長之ヲ任免ス

第十八條 區ハ區條例ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ區條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第十九條 區公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ區公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレ又ハ第八條第三項ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲公民權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシ

テ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ又ハ第八條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第二十條 前數條ニ定ムルモノノ外區ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ有給吏員トス

前項吏員ハ區長之ヲ任免シ其ノ定員ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第二款 職務權限及處務規程

第二十一條 區長ハ區ヲ統轄シ區ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 區會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
- 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 五 法令又ハ區會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 六 其ノ他法令ニ依リ區長ノ職權ニ屬スル事項

第二十二條 區長ハ區吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係ル區吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第二十三條 區會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ區長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ沖

繩縣知事ノ決定ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セシテ直ニ決定ヲ請フコトヲ得
前項ノ決定ニ不服アル區會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

區會ノ議決公益ヲ害シ又ハ區ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ區長ハ其ノ意見ニ依リ又
ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ
付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ沖繩縣知事ノ決定ヲ請フヘシ
前項決定ニ不服アル區會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十四條 區會成立セス又ハ第七十四條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ區
長ハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

區會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

區會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ區會成立セス又ハ區長ニ於テ之ヲ
招集スルノ暇ナシト認ムルトキ又ハ第七十六條ノ故障ニ依リ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ區
長ハ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

第二十五條 區會ノ權限ニ屬スル事件ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ沖繩縣知事ノ許可ヲ得區長ヲシテ
專決處分セシムルコトヲ得

第二十六條 區長其ノ他區吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌
ル
本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ區ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ
在ラス

第二十七條 區長ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ部長ニ分掌セシムルコト
ヲ得但シ區行政事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

區長ハ區吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十八條 助役ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第二十九條 收入役ハ區ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

團體ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

區長ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區
ノ出納其ノ他會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

副收入役ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス
副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ區ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ沖繩縣知
事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 部長ハ區長ノ命ヲ承ケ區長ノ事務ニシテ部内ニ關スルモノヲ補助執行ス

部長代理者ハ部長ノ事務ヲ補助シ部長故障アルトキ之ヲ代理ス

第三十一條 委員ハ區長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他區行政事務ノ一部ヲ調
査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第三十二條 第二十條第一項ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第三十三條 區長ハ處務規程ヲ定メ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 給料及給與

第三十四條 名譽職吏員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長部長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第三十五條 區長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

區長ノ給料額ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

區長ノ給料支給方法並旅費額及其ノ支給方法助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十六條 有給吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ區條例ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 前數條ニ定ムルモノノ外區ニ於テ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞與慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サムトスルトキハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 費用辨償報酬給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 費用辨償報酬給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ區ノ負擔トス

第二章 區會

第一款 組織及選舉

第四十條 區會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

第四十一條 區公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第八條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ直接區稅ヲ納ムル者其ノ額區公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第六條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ第八條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦前項ニ同シ

直接區稅ヲ賦課セサル區ニ在リテハ其ノ區内ニ於テ納ムル直接區稅ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

本條ノ直接區稅及直接區稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第四十二條 選舉人ハ分チテ三級ト爲ス

選舉人中直接區稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數三人ニ滿タサルトキハ納額最多キ者三人ヲ以テ一級トス

一級選舉人ヲ除クノ外直接區稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接區稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ區内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住所ヲ有スル年數同シキト

キハ年長者ヲ以テシ年齢同シキトキハ區長抽籤ヲ以テ定ムヘシ
 選舉人毎級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難
 キトキハ其ノ配當方法ハ第四十三條第一項ノ區條例中ニ之ヲ規定スヘシ
 被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得
 直接區稅ヲ賦課セサル區ニ在リテハ本條ノ納稅額ハ選舉人ノ區内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依
 ルヘシ

本條ノ直接區稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 區ハ區條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ之
 ヲ設クルモ妨ナシ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項區條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム區内ニ住所ナキ者ハ直接區稅又ハ直接國稅ノ賦課ヲ受
 ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ若物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對ス
 ル課稅ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ選舉區ヲ定ムヘシ
 選舉區ヲ設クルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ
 被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第四十四條 特別ノ事情アルトキハ區ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコ
 トヲ得但シ特ニ二級若ハ三級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨ナシ

第四十五條 選舉權ヲ有スル區公民ハ被選舉權ヲ有ス
 左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

- 一 沖繩縣ノ官吏及有給吏員
- 二 其ノ區ノ有給吏員
- 三 檢事警察官吏及收稅官吏
- 四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
 區ニ對シ工事ノ請負物件努力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ區ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ
 同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ區ニ於テ被選舉權ヲ有セス
 父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ區會議員タルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得
 票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一入ヲ當選トシ若同數ナルトキハ年長者ヲ當選トス其ノ時ヲ異ニシテ
 選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

區長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ區會議員タルコトヲ得ス議員トノ間ニ
 其ノ縁故アル者區長ニ推薦セラレ裁可アリタルトキ又ハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受ケタルトキ
 ハ縁故アル議員ハ其ノ職ヲ失フ

第四十六條 區會議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ四年トス

區會議員中議員ヲ生シ其ノ議員員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ沖繩縣知事若ハ區
 長區會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補選選舉ヲ行フヘシ
 補選議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
 補選議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第四十七條 區長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ選舉區毎ニ名簿ヲ調製シ選舉分會ヲ設クルトキハ各簿ニ依リ分會ノ區畫毎ニ名簿ヲ抄本ヲ調製スヘシ

區長ハ其ノ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄區役所又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區長ハ其ノ確定期日迄ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヲ以テ確定ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日ノ前三日迄ニ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接區稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ納稅額選舉人名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キト

キハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ
確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製縦覽修正及確定ニ關スル期日及期限等ハ沖繩縣知事ノ定ムル所ニ依ル天災事變等ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用井縦覽修正及確定ニ關スル期日等ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第四十八條

選舉ヲ行フトキハ區長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉會場投票ノ日時及各級

ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區ヲ設クル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區畫ヲ告示スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第四十九條 區長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス

各選舉區ニ於ケル選舉會ハ區長又ハ其ノ指名シタル吏員選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ區長ノ指名シタル吏員分會掛長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

區長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區又ハ選舉分會ヲ

設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ
選舉立會人ハ名譽職トス

第五十條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ
監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス
選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉
會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會掛長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉
會場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉會場
閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票スヘシ
投票ニハ被選舉人一人ノ氏名又ハ住所氏名ヲ記載スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選
舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ
投票ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス
區長ハ投票ニ關シ一定ノ用紙ヲ定ムルコトヲ得

選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ
選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ行フヘシ
選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘシ

第五十二條 第四十一條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコト
ヲ得但シ滿二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ
代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル滿二十五年以上ノ男子ニ限ル

第六條第二項但書ニ當ル者公民權停止中ノ者及第八條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三
項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス
代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會掛長ニ示スヘシ

第五十三條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ法ヲ用非タル場合ニ於テハ第一號又ハ第六
號ニ該當スルモノ及其ノ記載ノ人眞其ノ選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ第二號

第四號又ハ第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス
一 投票用紙ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ

二 現ニ區會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名又ハ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分又ハ敬稱ノ類ヲ
記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘ
シ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ分會掛長之ヲ決
シ

スヘシ

第五十五條 區會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル其ノ級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十六條 選舉長又ハ分會掛長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ區長ニ報告スヘシ

選舉分會掛長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第五十七條 當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ區長ニ申立ツヘシ但シ第四十五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應ズルヤ否ヲ區長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應ズヘキカヲ區長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ

當選ヲ辭シタルモノト看做ス但シ第四十五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本項ニ定ムル期間ヲ二十日トス

第五十八條 區會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ第五十五條ノ例ニ依リ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第五十九條 選舉ヲ終リタルトキハ區長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ沖繩縣知事ニ報告スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ區長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ沖繩縣知事ニ報告スヘシ

第六十條 選舉其ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第六十一條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第五十九條ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願スルコトヲ得

沖繩縣知事ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第五十九條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及區長ノ決定ハ無効トス

本條沖繩縣知事ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
區會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ
議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第六十二條 當選無効ト確定シタルトキハ第五十五條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム
選舉無効ト確定シタルトキ又ハ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數
ニ對シ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第六十三條 區會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ
區長之ヲ決定ス

本條區長ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

第六十一條第六項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二款 職務權限及處務規程
第六十五條 區會ハ區ニ關スル事件及法令ニ依リ區會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第六十六條 區會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 區條例及區規則ヲ設ケ及改廢スル事
- 二 區費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ第二十六條ノ事務其ノ他法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ
限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金區稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 區吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 區ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第六十七條 區會ハ法令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第六十八條 區會ハ區ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ區長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議
決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

區會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ區長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項區會ノ權
限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十九條 區會ハ區ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第七十條 區會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

區會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ區會成立セス若ハ招集ニ應セス又ハ意見ヲ呈出
セサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 區會ハ區長ヲ以テ議長トス區長故障アルトキハ助役其ノ職務ヲ代理ス

第七十二條 區長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ於テ議事ニ付辯明ヲ爲スコトヲ得
第七十三條 區會ハ區長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ區長ハ之ヲ招集スヘ

區長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ區會ヲ招集スルコトヲ得
招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限
ニ在ラス
區會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ區長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得
區會ハ區長之ヲ開閉ス

第七十四條 區會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第七十六
條除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ又ハ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ若
ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第七十五條 區會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七十六條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其
ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ區會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第七十七條 法令ノ規定ニ依リ區會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一人毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ
過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ
之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキ
トキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナ

ルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第五十一條及第五十三
條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ區會之ヲ議決ス

前項ノ選舉ニ付テハ區會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連
名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第七十八條 區會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第七十九條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持
ス

第八十條 區會議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
區會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第八十一條 會議中本令又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ
制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ
外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
第八十二條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制
止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ
得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分
ヲ求ムルコトヲ得

第八十三條 區會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第八十四條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スヘシ

第八十五條 區會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ會議規則ニハ本令及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第八十六條 第三十四條第一項第三項第三十八條及第三十九條ノ規定ハ區會議員ニ準用ス

第四章 區ノ財務

第一款 財產營造物及收入支出

第八十七條 區ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

區ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財産ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別ノ基本財産又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得第八十八條 舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ區内ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財産ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ區會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得

前項ノ營造物又ハ財産ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ區會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第八十九條 區ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若

ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十條 區ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得數個人又ハ區内ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財産ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

區ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十一條 區ハ第八十八條及前條ニ規定スル財産ノ使用ニ關シ區規則ヲ設クルコトヲ得

第九十二條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ區會ノ同意ヲ得タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 區ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十四條 區ハ其ノ必要ナル費用及法令ニ依リ區ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

區ハ其ノ財産ヨリ生スル收入使用料手数料過料過怠金其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十五條 區稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

- 一 國稅縣稅ノ附加稅
- 二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ區ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス國稅ノ附加稅タル縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別税ハ別ニ税目ヲ起シテ課税スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十六條 三月以上区内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ區税ヲ納ムル義務ヲ負フ
第九十七條 区内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖区内ニ於テ土地家屋物件ヲ

所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ区内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ
其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル區税ヲ納ムル義務ヲ負フ
其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 納税者ノ區外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ區外
ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ數市區町
村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサル
者ニ對シ區ニ於テ附加税ヲ賦課スルトキハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

住所滞在敷市區町村ニ涉ル者ノ收入ニ對シ區税ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ關係市區町村ニ平
分シ其ノ一部ニミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ
此ノ限ニ在ラス

第九十九條 所得税法第五條ニ掲グル所得ニ對シテハ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス
神社遙拜所寺院祠堂佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會
所説教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦
課スル場合及住宅ヲ以テ教會所説教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス
國府縣市區町村其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ
區税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス
前各項ノ外區税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル區税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第一百條 數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコ
トヲ得

区内ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ區税ヲ納ムル義務
アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入又ハ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ
費用ニ充ツヘシ

數個人又ハ区内ノ一部ヲ利スル財産ニ付テモ亦本條ノ例ニ依ル

第一百一條 數個人又ハ区内ノ一部ニ對シテ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ
得

第一百二條 區ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ納稅義務者ノ全部又ハ一部ニ賦課スルコトヲ得但シ
學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接區税ヲ準率ト爲シ直接區税ヲ賦課セサル區ニ於テハ直
接區税ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫
役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百三條 區税ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シ

テハ仍其ノ營業時間家宅營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得
第百四條 區長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ區會ノ議決ヲ經ヘシ

區長ハ特別ノ事情アル者ニ限リ區會ノ議決ヲ經テ區稅ヲ減免スルコトヲ得

第百五條 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ區條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル區規則ニ付亦同シ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ區長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百六條 區稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後三月以内ニ區長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得
本條ノ異議ハ區長之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料手数料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ依ル

第百七條 區稅使用料手数料加入金過料過怠金其ノ他區ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ區長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ區長ハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ其ノ急迫ノ場合ニ賦課シタルモノニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ區條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得
滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ仍之ヲ完納セサルトキハ國稅稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
本條區長ノ處分ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第百八條 區ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ區ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ已ムヲ得サル場合ニ限リ區債ヲ起スコトヲ得

區債ヲ起スニ付區會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
區ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ
第二款 歳入出豫算及決算

第百九條 區長ハ每會計年度歳入歳出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ區會ノ議決ヲ經ヘシ
區ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ區會ニ提出スルトキハ區長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第一百十條 區長ハ區會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第一百十一條 區費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ區會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第一百十二條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ區會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第一百十三條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ沖繩縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百十四條 區ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第一百十五條 區會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ區長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ區長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第一百十六條 區ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第一百十七條 區ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ且毎會計年度少クトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ區長之ヲ爲シ臨時検査ニハ區會ニ於テ選舉シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第一百十八條 區ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ區長ニ提出スヘシ區長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ區會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル區會ノ議決ハ之ヲ沖繩縣知事ニ報告シ且決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ區長及助役共ニ議長タルコトヲ得ス

第一百十九條 豫算ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第五章 區内一部ノ行政

第二百十條 區内ノ一部ニ於テ從來所有スル財産ノ管理及處分ハ區有財産ニ關スル規定ニ依ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ爲テ必要ナル費用ハ其ノ財産ヲ所有スル區内ノ一部ノ負擔トス

區内一部ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第二百十一條 區内ノ一部ニ於テ有スル財産又ハ區内ノ一部ヲ利スル財産營造物ニ關シ必要アル場合ニ於テハ沖繩縣知事ハ區會ノ意見ヲ徵シ區條例ヲ設定シ部會又ハ部總會ヲ設ケテ該事件ニ關シ區會ノ議決スヘキ事項ノ全部又ハ一部ヲ議決セシムルコトヲ得

部會議員ハ區ノ名譽職トス其ノ定員任期及選舉權被選舉權ニ關スル事項ハ前項ノ區條例中ニ之ヲ規定スヘシ

前項ノ外部會議員部會及部總會ニ關シテハ區會議員及區會ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ區内一部ノ行政ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第六章 區行政ノ監督

第二百十二條 區行政ハ第一次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ區行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得
內務大臣ハ沖繩縣知事ノ區行政ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ
得

第二百二十三條 本令ニ規定スル異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書ノ交付ヲ受ケ
タル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本令中別ニ
期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付
ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ
本令ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本令ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ
依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第二百二十四條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ區會ノ停會ヲ命スルコトヲ得
第二百二十五條 內務大臣ハ區會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
區會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第二百二十六條 區ニ於テ法令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル費用ヲ豫算ニ載セサ
ルトキハ沖繩縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得
區又ハ區長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ沖繩縣知事又ハ其ノ委任ヲ
受ケタル官吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ區ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル區又ハ區長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百二十七條 區長助役收入役副收入役故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏
ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ區費
ヲ以テ辨償セシムヘシ臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第二百二十八條 區條例ノ設定及改廢ハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二百二十九條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 區債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第百八條第三
項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第二百三十條 左ニ掲クル事件ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
一 區規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事
三 使用料手数料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

四 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
五 特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

六 第八十八條ノ處分ヲ爲ス事
七 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
八 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

九 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅又ハ縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
 十 第百條ニ依リ數個人又ハ區内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
 十一 區稅納稅義務者ノ一部ニ對シ又ハ第百二條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事
 但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 十二 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
 十三 特別會計ヲ設クル事
 第百三十一條 區ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣
 旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得
 第百三十二條 區ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ其ノ許可ノ
 職權ヲ沖繩縣知事ニ委任スルコトヲ得
 第百三十三條 沖繩縣知事ハ區長助役收入役副收入役委員部長部長代理者其ノ他區吏員ニ對シ懲
 戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ區長助役收入役及
 副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經區長ニ付テハ仍勅裁ヲ經ルコトヲ要ス
 懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル沖繩縣高等官二人以上ヲ以テ組織シ沖繩縣知事ヲ以テ會長ト
 ス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ
 沖繩縣知事ハ區長助役收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ
 給料ヲ支給セシメサルコトヲ得
 懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市區町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セララルコトヲ得
 ス

第百二十四條

第七章 雜則

區吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム
 第百二十五條 從來區ノ公用ニ供シタル國有ノ土地物件ハ無償ニテ之ヲ區ニ讓與スルコトヲ得
 第百二十六條 本令ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣大藏大臣之ヲ告示ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ區會議員ノ職ニ在ル者ハ本令施行後舊規定ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失
 フ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望
 陸軍大臣 子爵寺內正毅
 海軍大臣 男爵齋藤 實
 內務大臣 原 敬

勅令第四十四號(官報 三月二十三日)
 臺灣總督府官制中左ノ通改正ス